

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第13集

西 別 府 遺 跡 I
西 別 府 廃 寺 III

—西別府遺跡群確認調査報告書II—

2 0 1 2

埼玉県熊谷市教育委員会

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第13集

にし べっ ぶ い せき
西 別 府 遺 跡 I

にし べっ ぶ はい じ
西 別 府 廃 寺 III

—西別府遺跡群確認調査報告書II—

2 0 1 2

埼玉県熊谷市教育委員会



A区全景



B区全景

序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と地形が変化に富んでいる上、我が国及び関東を代表する2大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、熊谷市西部の西別府地区は、西別府遺跡、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺をはじめとして、隣接する深谷市域にかけて多くの遺跡が所在する地域であります。特に、古代においては、当時の幡羅^{はら}郡の郡役所が置かれた郡の中心的地区であり、近年、深谷市幡羅遺跡の調査により正倉を始め郡役所の主要施設が発見され注目を浴びているところであります。熊谷市といたしましては、埼玉県、深谷市とともに幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会を設置し、当該遺跡の学術的な評価、将来的な保存・活用策を調査、検討しております。

本書は、平成16年度、平成20年度、平成21年度、平成22年度に実施された西別府遺跡及び西別府廃寺の範囲内容確認調査の成果をまとめたものです。このたびの調査では、古代幡羅郡役所の機能の一部を担っていたと考えられる大小の掘立柱建物跡を擁した区画の発見や、幡羅郡役所が存在していた時期と合致する古墳時代後期から平安時代後期までの多種多様な遺物が確認されるなど、幡羅郡役所の変遷と実態の把握、さらに、その復元の一助ともなる成果がありました。

本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました西別府地区土地所有者並びに地元関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

熊谷市教育委員会
教育長 野原 晃

例 言

- 1 本書は、西別府遺跡群を構成する西別府遺跡及び西別府廃寺の確認調査報告書である。
西別府廃寺 埼玉県熊谷市西別府字西方1578番地1、1578番地4所在（埼玉県遺跡番号59-002）
西別府遺跡 埼玉県熊谷市西別府字西方1578番地1、1578番地4所在（埼玉県遺跡番号59-110）
- 2 本調査は、西別府遺跡及び西別府廃寺の保存目的のための範囲内容確認調査であり、市内遺跡発掘調査等事業国庫補助金、県費補助金の交付を受け、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、I章のとおりである。
- 4 確認調査期間は、西別府遺跡第1次調査が平成16年12月6日～12月22日、西別府遺跡第2次調査が平成21年2月9日～3月6日、西別府遺跡第3次調査・西別府廃寺第3次調査が平成21年5月27日～6月30日、西別府遺跡第4次調査・西別府廃寺第4次調査が平成22年6月9日～7月13日である。
整理・報告書作成期間は、平成23年4月1日～平成24年3月30日である。
- 5 確認調査の担当は、西別府遺跡第1次調査は熊谷市教育委員会寺社下 博（故人）が、西別府遺跡第2次調査、西別府遺跡第3次調査・西別府廃寺第3次調査、西別府遺跡第4次調査・西別府廃寺第4次調査及び整理・報告書作成事業は、熊谷市教育委員会吉野 健が担当した。
- 6 本書の執筆は、吉野が担当した。
- 7 写真撮影は、確認調査を各々の担当者が、遺物を吉野が行った。
- 8 出土土器の一部の実測・トレース作業は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 9 出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。

（敬称略）

須田 勉、山中敏史、佐藤 信、大橋 泰夫（以上、埼玉県発掘調査・評価指導委員会 幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会）、岩田明広、書上元博、坂井秀弥、佐藤康二、澤出晃越、菅谷浩之、杉崎茂樹、知久裕昭、瀧口 睦、鳥羽政之、禰宜田佳男、村松 篤、湯澤哲郎、文化庁、埼玉県教育局生涯学習文化財課、深谷市教育委員会

凡 例

- 1 本文中、遺構の略記号は、次のとおりである。

S A…掘立柱列 S B…掘立柱建物跡 S D…溝跡 S I…竪穴建物跡 S K…土坑 P…ピット

- 2 土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。

S…川原石 P…土器 T…瓦 F…鉄製品

- 3 遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

掘立柱建物跡・溝跡平面図…1/80 竪穴建物跡・土坑…1/60 溝跡土層断面図…1/60

- 4 遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。

- 5 遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。また、原則として、同一図版の標高は統一し、Aポイントに表記した。

- 6 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

土師器・須恵器・須恵系土師質土器・ロクロ土師器・黒色土器・施釉陶器・瓦・埴輪…1/4

土錘・土製品・鉄製品…1/2

- 7 遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、表現方法は、以下のとおりである。

須恵器のうち還元焰焼成の断面：黒塗り、酸化焰焼成の断面：白抜き

灰釉陶器・緑釉陶器断面： 瓦断面：

上記以外の土師器等土器、埴輪等の遺物断面：白抜き

釉薬： 黒色処理： 赤彩： 朱墨： ヘラ磨き箇所：

酸化鉄付着箇所： 還元化箇所： 炭化箇所(煤・タール付着)： 墨書：黒塗り

底部調整 回転糸切り ㊦

回転ヘラ削り \

- 8 遺物拓影は、原則として、左右あるものは向かって左に外面、右に内面、左のみのものは外面を示した。また、瓦については、平瓦が左に凹面、右に凸面、丸瓦が左に凸面、右に凹面を示した。

- 9 遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、cm、gである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。

A…白色粒子 B…黒色粒子 C…赤色粒子 D…褐色粒子 E…赤褐色粒子 F…白色針状物質

G…長石 H…石英 I…白雲母 J…黒雲母 K…角閃石 L…片岩 M…砂粒 N…礫

焼成は、次のように区分した。

A…良好 B…普通 C…不良

- 10 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。

- 11 土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行）に照らし最も近似した色相を示した。

目 次

口 絵
序
例 言
凡 例
目 次

I 確認調査の概要	1
1 調査に至る経過	1
2 確認調査、報告書作成の経過	1
3 確認調査、整理・報告書刊行の組織	3
II 遺跡の立地と環境	6
III 遺跡の概要	14
1 調査の方法	14
2 検出された遺構と遺物	14
IV 遺構と遺物	17
1 A区の調査	17
(1) 竪穴建物跡	19
(2) 掘立柱建物跡	26
(3) 土坑	33
(4) 溝跡	42
(5) 掘立柱列	51
(6) 土塁跡	51
(7) 遺構外出土遺物	52
2 B区の調査	62
(1) 竪穴建物跡	63
(2) 掘立柱建物跡	83
(3) 土坑・ピット	84
(4) 溝跡	88
(5) 遺構外出土遺物	94
V 調査のまとめ	99

插图目次

第1図	埼玉県の地形図	6
第2図	周辺遺跡分布図	8
第3図	西別府遺跡・西別府廃寺調査地点位置図	13
第4図	グリッド分割図	14
第5図	A区・B区全測図	16
第6図	A区全測図	18
第7図	第1・2号竪穴建物跡、第17号土坑、第1号溝跡	20
第8図	第1・2号竪穴建物跡出土遺物	21
第9図	第3号竪穴建物跡、第3号溝跡、第1号土坑	22
第10図	第4号竪穴建物跡、第1・3号溝跡	23
第11図	第5号竪穴建物跡	24
第12図	第3～5号竪穴建物跡出土遺物	25
第13図	第1～3号掘立柱建物跡、第8号土坑、第1・4～6・8・11号溝跡	27
第14図	第1～3号掘立柱建物跡、第4・6・11号溝跡土層断面	28
第15図	第1～3号掘立柱建物跡出土遺物	29
第16図	第4～7号掘立柱建物跡、第15～18号土坑、第1・4・6・7号溝跡	31
第17図	第4～7号掘立柱建物跡、第4号溝跡、第16号土坑土層断面	32
第18図	第1号土坑出土遺物(1)	34
第19図	第1号土坑出土遺物(2)	35
第20図	第1号土坑出土遺物(3)	36
第21図	第2・4～7号土坑、第1・3号溝跡	38
第22図	第3号土坑	39
第23図	第9～11号土坑	39
第24図	第2・3・9・10・17号土坑出土遺物	41
第25図	第1～3号溝跡、第1号掘立柱列	43
第26図	第2・3・9・10号溝跡、第9～11・13・14号土坑、第1号掘立柱列、第1号土塁跡	44
第27図	第1～3・9号溝跡、第1号土塁跡、第14号土坑土層断面	45
第28図	第1～3号溝跡出土遺物	47
第29図	第3・4・10号溝跡出土遺物	48
第30図	A区遺構外出土遺物(1)	53
第31図	A区遺構外出土遺物(2)	54
第32図	A区遺構外出土遺物(3)	55
第33図	A区遺構外出土遺物(4)	56
第34図	A区遺構外出土遺物(5)	57

第35図	B区全測図	63
第36図	第6号竪穴建物跡、遺物出土状況	64
第37図	第6号竪穴建物跡出土遺物	65
第38図	第6～8号竪穴建物跡出土遺物	66
第39図	第7・8号竪穴建物跡、第13号溝跡	69
第40図	第9～17号竪穴建物跡、第22号土坑	71
第41図	第9～11・17号竪穴建物跡、第22号土坑土層断面	72
第42図	第13・15・16号竪穴建物跡土層断面	73
第43図	第9号竪穴建物跡出土遺物	74
第44図	第10号竪穴建物跡出土遺物(1)	77
第45図	第10号竪穴建物跡出土遺物(2)	78
第46図	第11～17号竪穴建物跡出土遺物	81
第47図	第8号掘立柱建物跡出土遺物	84
第48図	第19号土坑、第12・15号溝跡	85
第49図	第20・21号土坑、第16～19号溝跡	86
第50図	第21・22号土坑出土遺物	87
第51図	第1・2号ピット出土遺物	89
第52図	第8号掘立柱建物跡、第13・14号溝跡、第1～3号ピット	90
第53図	第8号掘立柱建物跡、第13・14号溝跡、第1～3号ピット土層断面	91
第54図	第12～14号溝跡出土遺物	92
第55図	B区遺構外出土遺物(1)	95
第56図	B区遺構外出土遺物(2)	96
第57図	B区遺構外出土遺物(3)	97
第58図	A区方形区画変遷図(1) 9世紀後半	101
第59図	A区方形区画変遷図(2) 9世紀末～10世紀初頭	102
第60図	A区方形区画変遷図(3) 10世紀後半	103

表 目 次

第1表	遺構番号新旧対照表	15
第2表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表	22
第3表	第2号竪穴建物跡出土遺物観察表	22
第4表	第3号竪穴建物跡出土遺物観察表	25
第5表	第4号竪穴建物跡出土遺物観察表	25
第6表	第5号竪穴建物跡出土遺物観察表	26
第7表	第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表	29

第 8 表	第 2 号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	30
第 9 表	第 3 号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	30
第10表	第 1 号土坑出土遺物觀察表	37
第11表	第 2 号土坑出土遺物觀察表	40
第12表	第 3 号土坑出土遺物觀察表	42
第13表	第 9 号土坑出土遺物觀察表	42
第14表	第10号土坑出土遺物觀察表	42
第15表	第17号土坑出土遺物觀察表	42
第16表	第 1 号溝跡出土遺物觀察表	49
第17表	第 2 号溝跡出土遺物觀察表	49
第18表	第 3 号溝跡出土遺物觀察表	49
第19表	第 4 号溝跡出土遺物觀察表	50
第20表	第10号溝跡出土遺物觀察表	50
第21表	A区遺構外出土遺物觀察表	52
第22表	第 6 号竪穴建物跡出土遺物觀察表	67
第23表	第 7 号竪穴建物跡出土遺物觀察表	68
第24表	第 8 号竪穴建物跡出土遺物觀察表	68
第25表	第 9 号竪穴建物跡出土遺物觀察表	75
第26表	第10号竪穴建物跡出土遺物觀察表	78
第27表	第11号竪穴建物跡出土遺物觀察表	82
第28表	第12号竪穴建物跡出土遺物觀察表	82
第29表	第13号竪穴建物跡出土遺物觀察表	82
第30表	第14号竪穴建物跡出土遺物觀察表	82
第31表	第15号竪穴建物跡出土遺物觀察表	82
第32表	第16号竪穴建物跡出土遺物觀察表	83
第33表	第17号竪穴建物跡出土遺物觀察表	83
第34表	第 8 号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	84
第35表	第21号土坑出土遺物觀察表	86
第36表	第22号土坑出土遺物觀察表	88
第37表	第 1 号ピット出土遺物觀察表	89
第38表	第 2 号ピット出土遺物觀察表	89
第39表	第12号溝跡出土遺物觀察表	93
第40表	第13号溝跡出土遺物觀察表	93
第41表	第14号溝跡出土遺物觀察表	93
第42表	B区遺構外出土遺物觀察表	94

図版目次

- 図版1 A区・B区全景（上が北）
- 図版2 第1・2号竪穴建物跡（西から）
第2号竪穴建物跡遺物出土状況
第3号竪穴建物跡（西から）
- 図版3 第5号竪穴建物跡（南から）
第1～3号掘立柱建物跡
- 図版4 第1・2号掘立柱建物跡柱穴（P4）
第1・2号掘立柱建物跡柱穴（P5）
第3号掘立柱建物跡柱穴（P1）
- 図版5 第3号掘立柱建物跡柱穴（P2）
第3号掘立柱建物跡柱穴（P4）
第4～7号掘立柱建物跡（北から）
- 図版6 第4・5号掘立柱建物跡柱穴（P2）
第2・3号溝跡〔区画溝〕、第1号掘立柱列（北辺西部）（西から）
- 図版7 第2号溝跡〔区画溝〕（北東隅部）（西から）
第2・3・9・10号溝跡〔区画溝〕、第1号掘立柱列（東辺部）、第9～11・13・14号土坑（南から）
- 図版8 第2号溝跡〔区画溝〕土層断面（北辺部）
第2号溝跡〔区画溝〕土層断面（北東隅部）
第2・9号溝跡〔区画溝〕土層断面（東辺部）
- 図版9 第3号溝跡〔区画溝〕土層断面（東辺部）
第1号土罌跡（右が第2号溝跡、左が第3号溝跡）
第6号竪穴建物跡（東から）
- 図版10 第6号竪穴建物跡遺物出土状況
第9～17号竪穴建物跡、第20～22号土坑、第16～19号溝跡
第8号掘立柱建物跡（左がP1、右がP2）（北から）
- 図版11 第8号掘立柱建物跡柱穴（P1）、第14号溝跡土層断面
第7～11・16・17号竪穴建物跡、第13・14号溝跡（右から下が第13号溝跡〔区画溝〕）
第22号土坑（礫検出状況）（西から）
- 図版12 第2号竪穴建物跡出土遺物 第8図1・2 第3号竪穴建物跡出土遺物 第12図1・6
第5号竪穴建物跡出土遺物 第12図1 第1号掘立柱建物跡出土遺物 第15図1
第1号土坑出土遺物 第18図4～7
- 図版13 第1号土坑出土遺物 第18図11・13・17・18・20 第2号土坑出土遺物 第24図9・17
第9号土坑出土遺物 第24図1

- 図版14 第10号土坑出土遺物 第24図1 第2号溝跡出土遺物 第28図6
第3号溝跡出土遺物 第28図12~14・16・17・19・22・23 第29図26・28
- 図版15 第3号溝跡出土遺物 第29図31 第10号溝跡出土遺物 第29図1
A区遺構外出土遺物 第30図21・23~25・35・42 第31図49 第32図64
- 図版16 A区遺構外出土遺物 第32図66・68・69・72・79~82・85・86・91・92
- 図版17 A区遺構外出土遺物 第32図93・94 第33図102・103・106・109・115
第6号竪穴建物跡出土遺物 第37図2
- 図版18 第6号竪穴建物跡出土遺物 第37図4・5・12~15
- 図版19 第6号竪穴建物跡出土遺物 第37図11・16・17・19・30~32 第38図35
- 図版20 第9号竪穴建物跡出土遺物 第43図3・4・8・17・25
第10号竪穴建物跡出土遺物 第44図7・13・14・16 第21号土坑出土遺物 第50図1
- 図版21 第10号竪穴建物跡出土遺物 第44図20・21 第12号竪穴建物跡出土遺物 第46図3
第15号竪穴建物跡出土遺物 第46図1・2・5 第16号竪穴建物跡出土遺物 第46図1
第22号土坑出土遺物 第50図6 第13号溝跡出土遺物 第54図9
B区遺構外出土遺物 第55図1
- 図版22 B区遺構外出土遺物 第55図25 第56図40
朱墨転用硯：第1号竪穴建物跡 第8図1 A区遺構外 第30図39
墨書土器：第1号掘立柱建物跡 第15図2 第2号土坑 第24図3・14・15
第1号溝跡 第28図1 第3号溝跡 第28図1・2・6・7・10・11
A区遺構外 第30図3・5~17・19・24・43・44 第32図75・76
- 図版23 第1号土坑出土遺物 第18図22・23・25~31
A区遺構外出土遺物 第31図50・52・53 第33図107・108・111~114
土製品：A区遺構外 第33図116 B区遺構外 第57図57
土錘：第3号掘立柱建物跡 第15図1 第10号竪穴建物跡 第45図27~41
第11号竪穴建物跡 第46図10 第13号溝跡 第54図14・15
B区遺構外 第57図53~56
- 図版24 瓦：第2号溝跡 第28図8 第4号溝跡 第29図1
A区遺構外 第33図119~121 第34図122~125 第10号竪穴建物跡 第44図26
第1号ピット 第51図2 第13号溝跡 第54図13 B区遺構外 第56図49~51
鉄製品：第2号竪穴建物跡 第8図3 第4号竪穴建物跡 第12図10
第3号溝跡 第29図35 第4号溝跡 第29図6・7
第9号竪穴建物跡 第43図34 第13号溝跡 第54図16~18
B区遺構外 第57図58

I 確認調査の概要

1 調査に至る経過

平成14年度以降、隣接する深谷市幡羅遺跡において、保存目的の範囲内容確認調査が実施されている。この遺跡は、幡羅郡家として認識され、これに隣接する西別府遺跡、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺についても、郡家を構成する一要素であり、重要かつ不可欠なものとしての認識がなされた。これにより、埼玉県・熊谷市・深谷市は、幡羅遺跡・西別府祭祀遺跡・西別府廃寺検討委員会（現在、幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会）を設置し、これらの遺跡の学術的な評価を行うとともに、将来的な保存・活用策を調査、検討することとなり、現在も継続的に活動を行っている。

熊谷市では、平成15年度から、この検討委員会の指導の下、西別府遺跡群（西別府遺跡、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺）の詳細な状況を把握し、遺跡の保存を目的とする確認調査を実施している。それは、平成15年度の西別府遺跡における予備調査に始まり、平成16年度は西別府遺跡確認調査（第1次調査）、平成17年度は西別府祭祀遺跡確認調査（第3次調査）、平成19年度は西別府祭祀遺跡確認調査（第4次調査）、平成20年度は西別府遺跡確認調査（第2次調査）、平成21年度は西別府遺跡・西別府廃寺確認調査（第3次調査）、平成22年度は西別府遺跡・西別府廃寺確認調査（第4次調査）と行った。平成17・19年度の西別府祭祀遺跡の調査については、既に『埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第5集 西別府祭祀遺跡Ⅱ』を刊行した。本報告では、平成16年度から22年度までに調査した西別府遺跡・西別府廃寺の調査について報告する。

西別府遺跡・西別府廃寺の調査は、調査に先立ち、文化財保護法第58条の2第1項及び同法第99条第1項（平成17年4月法改正により同条）の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、熊谷市教育委員会が実施した。

調査に関わる熊谷市教育委員会の通知は、以下のとおりである。

平成16年度

平成17年2月21日付け熊教社発第870号

平成20年度

平成21年2月5日付け熊教社発第1583号

平成21年度

平成21年5月26日付け熊教社発第1102号

平成22年度

平成22年6月8日付け熊教社発第1178号及び平成22年6月30日付け熊教社発第1261号

2 確認調査、報告書作成の経過

(1) 西別府遺跡確認調査（第1次調査）

第1次調査は、平成16年12月6日から12月22日にかけて行われた。調査面積は、300㎡である。

調査は、平成16年2月23日から2月27にかけて行った3m×4mのトレンチ4本による予備調査に基づき、ほぼ同地点に東西長34.2m、南北長8.2～9.2mの調査区を設定し行った。まず、重機による表土

除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行った。なお、調査による発生土を調査区内で処理する都合で、東西2回に分けて行った。

東地点においては、予備調査トレンチの土層断面観察による遺構確認面を基本とし遺構確認調査を行った。一方、西地点においては、遺構確認が困難だったため、さらに10～20cm掘削し、いわゆる関東ローム層面での遺構確認調査を行った。検出した遺構のうちいくつかについては、詳細な調査を行うためその一部を掘削して調査を行った。また、遺構が重複して確認された箇所を中心に、トレンチ10本を設定しその詳細な調査を行い、土層断面図を作成した。

さらに、遺構の分布状況を平面図に作成し、全体及び一部掘削を行った遺構について写真撮影を行った。また、遺構確認面直上で確認した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。

(2) 西別府遺跡確認調査(第2次調査)

第2次調査は、平成21年2月9日から3月6日にかけて行われた。調査面積は、450㎡である。

調査は、第1次調査の西半の北側を中心に、東西長18.5m、南北長26.0mの南東部が欠けるL字状の調査区を設定し行った。まず、重機による表土除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行った。なお、一部第1次調査区と重複するが、第1次調査の際に遺構確認面までの掘削が不十分であったので再調査を行った。

調査は、遺構確認を主体とする調査であり、検出された遺構については、数cm掘削するに止めたが、一部の遺構については、遺構の重複関係、土層堆積の状況、遺構の時期判断を目的に、その一部を掘削して調査を行った。なお、第1次調査の際にトレンチ掘削を行った箇所についても、再掘削を行い、改めて土層観察作業等を行った。

遺構については、その分布状況を平面図に作成し、遺構確認及び掘削の際に出土した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。また、一部を掘削した遺構については、土層断面図を作成した。

写真撮影については、主要な遺構を中心に近接撮影を行い、全体については空中写真撮影を行った。

(3) 西別府遺跡・西別府廃寺確認調査(第3次調査)

両遺跡の第3次調査は、平成21年5月27日から6月30日にかけて行われた。調査面積は、540㎡である。なお、西別府遺跡第2次調査の一部を再度開けて調査したため、面積については、一部重複しており、西別府遺跡第1次調査、西別府遺跡第2次調査及び本調査面積を合計すると、全体で計890㎡になる。

調査は、第1次調査の中央部及び第2次調査の東側に、東西長27.5m、南北長27.0mの南東部及び北西部が欠ける形状の調査区を設定し行った。まず、重機による表土除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行った。なお、第2次調査と同様に、第1次調査の際に遺構確認面までの掘削が不十分であった箇所について、重複して再調査を行った。また、前述のとおり、第2次調査で確認され遺構の全体が不明であった箇所については、その遺構の全体像を把握するために一部再調査を行った。

調査は、第2次調査と同様に、遺構確認を主体とする調査であり、検出された遺構については、数cm掘削するに止めたが、一部の遺構については、遺構の重複関係、土層堆積の状況、遺構の時期判断を目的に、その一部を掘削して調査を行い、第1次調査の際にトレンチ掘削を行った箇所についても、再掘削を行い、改めて土層観察作業等を行った。

遺構については、その分布状況を平面図に作成し、遺構確認及び掘削の際に出土した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。また、一部を掘削した遺構については、土層断面図を作成した。なお、平面では把握できなかった遺構を、排出土置場として未掘削だった箇所ので壁で土層観察確認した。

写真撮影については、主要な遺構を中心に近接撮影を行い、全体については空中写真撮影を行い、第2次調査写真と合成し、全体写真を作成した。

(4) 西別府遺跡・西別府廃寺確認調査（第4次調査）

両遺跡の第4次調査は、平成22年6月9日から7月13日にかけて行われた。調査面積は、255㎡である。

調査は、第1次～第3次調査区のやや南西約70mの距離の箇所に、まず東西長60.0m、南北長12.5mの東西に長い長方形の調査を設定し調査し、途中調査区の西部北側に東西長24.0m、南北長12.0mの調査区を拡張し、全体では、L字状の調査区で調査を行った。

調査は、他の調査と同様に、遺構確認を主体とする調査であり、検出された遺構については、数cm掘削するに止めたが、一部の遺構については、遺構の重複関係、土層堆積の状況、遺構の時期判断を目的に、その一部を掘削して調査を行った。

遺構については、その分布状況を平面図に作成し、遺構確認及び掘削の際に出土した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。また、一部を掘削した遺構については、土層断面図を作成した。

写真撮影については、主要な遺構を中心に近接撮影を行い、全体については空中写真撮影を行った。

(5) 整理・報告書作成作業

本書の整理作業は、平成23年4月から平成24年3月にかけて実施した。

まず、遺物の洗浄、注記、接合、復元作業を行った。その後、遺物の分類を行い、実測作業を開始した。また、これらと並行して遺構の図面整理を行った。

次に、土器等の遺物のトレース・拓本を採り図版を作成し、併せて遺構等のトレース・図版の作成を行った。そして、遺構の写真整理・遺物写真撮影を行い、写真図版の割付をした。また、これと並行して原稿執筆を行った。

最後に、印刷業者の選定を行い、校正を経て本報告書を刊行した。

3 確認調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

(1) 確認調査

平成16年度

教育長	飯塚誠一郎
教育次長	増田 和己
社会教育課長	平井 隆
社会教育課文化財保護担当副参事	岩本 克昌
社会教育課長補佐	並木 博雄
社会教育課文化財保護係主幹兼係長	金子 正之

主査	寺社下 博
主査	吉野 健
主任	松田 哲
主事	松村 聡

平成20年度

教育長	野原 晃
教育次長	大山 整治
社会教育課長	関口 和佳
社会教育課文化財保護担当副参事	吉田 高一
社会教育課副課長	新井 端
副課長	出縄 康行
社会教育課文化財保護係主幹兼係長	金子 正之

主査	寺社下 博
主査	吉野 健
主任	鯨井 敬浩
主任	松田 哲
主任	蔵持 俊輔
主事	山下 祐樹
発掘調査員	長谷川一郎
発掘調査員	原野 真祐

平成21年度

教育長	野原 晃
教育次長	柴崎 久
社会教育課長	斉木 千春
社会教育課文化財保護担当副参事	小林 英夫
社会教育課副課長兼文化財保護係長	新井 端
副課長	出縄 康行

社会教育課文化財保護係主査	寺社下 博
主査	吉野 健
主査	鯨井 敬浩
主任	松田 哲
主任	蔵持 俊輔
主事	山下 祐樹
発掘調査員	長谷川一郎

発掘調査員 原野 真祐

平成22年度

教育長	野原 晃
教育次長	藤原 清
社会教育課長	斉木 千春
社会教育課文化財保護担当副参事	小林 英夫
社会教育課副課長兼文化財保護係長	新井 端
副課長	出縄 康行
社会教育課文化財保護係主幹	吉野 健
主査	寺社下 博
主査	鯨井 敬浩
主任	松田 哲
主任	蔵持 俊輔
主事	山下 祐樹

(2) 整理・報告書作成

平成23年度

教育長	野原 晃
教育次長	藤原 清
社会教育課長	斉木 千春
社会教育課文化財保護・市史編さん担当副参事	根岸 敏彦
社会教育課副課長兼文化財保護係長	森田 安彦
副課長	出縄 康行
副課長	石井 茂
社会教育課文化財保護係主幹	吉野 健
主査	鯨井 敬浩 (～H23. 6. 30)
主査	松田 哲
主査	杉浦 朗子
主任	蔵持 俊輔
主事	山下 祐樹

Ⅱ 遺跡の立地と環境

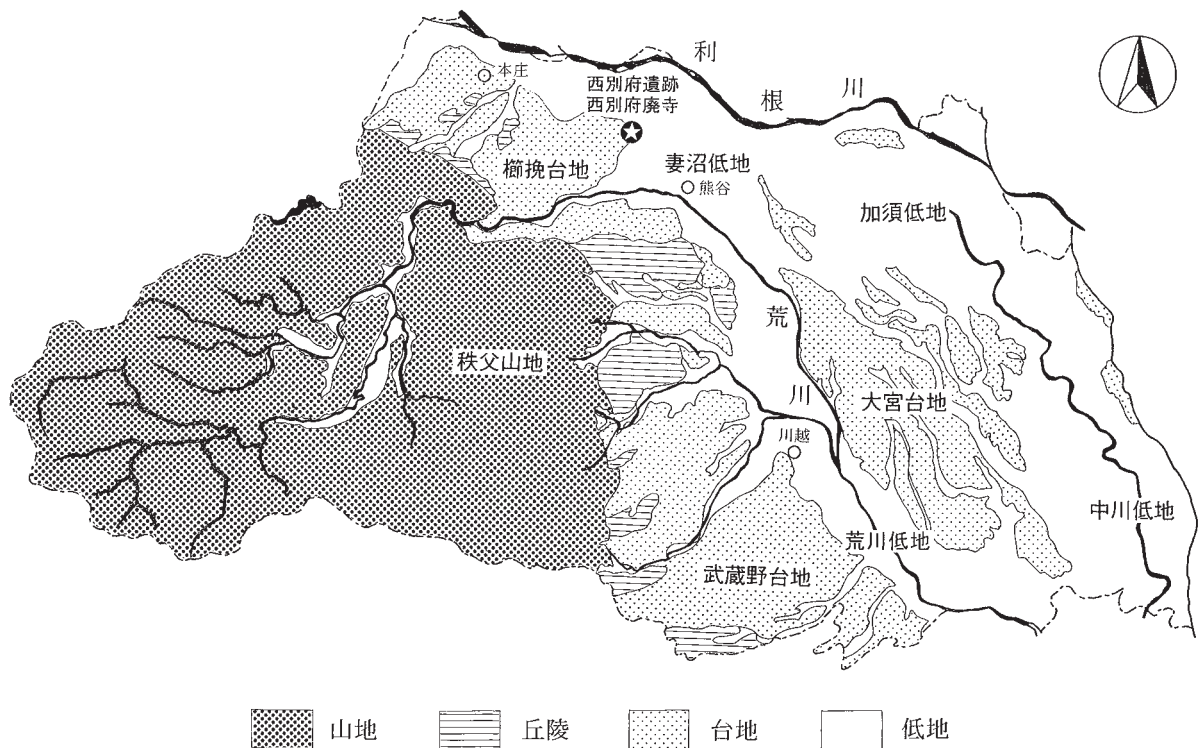
熊谷市は、埼玉県の北部、東京都心から50～70km圏に位置し、その区域は南北に約20km、東西に約14kmの規模を有する。

市の南には荒川が、北には利根川がそれぞれ西から南東方向に流れ、両河川が最も近接する地域にある。地形的には、市の西側に櫛挽台地、荒川を挟んで南側には江南台地及び比企丘陵、北側及び東側には妻沼低地が広がり、市の大半はこの妻沼低地上にある（第1図）。

櫛挽台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町末野付近を扇頂として東は市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へは本報告である西別府遺跡群が所在する西別府付近まで延びている。標高は約36～54mを測り、妻沼低地に向かって緩やかに下る。また、扇状地扇端である三ヶ尻や西別府地区の台地裾部においては、扇央部で伏流水となっていた水が湧水となって現れ、かつては多数確認されていた。

櫛挽台地の東側には、洪積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。この新荒川扇状地は、熊谷市の南西に位置する深谷市（旧川本町）菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。

本報告の西別府遺跡及び西別府廃寺は、櫛挽台地北東端縁辺部付近の標高33m前後を測る台地上に所在する。また、遺跡は、JR高崎線籠原駅の北西約2.0km、荒川から北へ約6.0km、利根川から南へ約5.0kmの距離にある。



第1図 埼玉県の地形図

次に、本報告遺跡を中心に歴史的環境について概観する（第2図）。

まず、旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、近くでは平安時代の住居跡の覆土中から出土した櫛挽台地東端にある籠原裏遺跡（3）の黒耀石製尖頭器の事例がある。また、江南台地の鹿嶋遺跡、向原遺跡、塩西遺跡（いずれも地図未掲載）等では黒耀石製ナイフ形石器が出土している。

縄文時代になると、草創期では江南台地の船川遺跡（地図未掲載）等から多縄文系土器が採集されている。次の早期段階では、櫛挽台地北端にある深谷市東方城跡（4）において尖頭器が検出されている。一方、江南台地では際立って多くの遺跡が発見されており、住居跡が検出された集落遺跡には、南方遺跡、萩山遺跡、鹿嶋遺跡、野原宮脇遺跡（いずれも地図未掲載）等がある。

前期になると台地のみならず低地上にも出現しはじめ、寺東遺跡（5）等の集落跡が確認されている。

中期は、特に後半段階の加曾利E式期の遺跡が爆発的に出現するが、依然として櫛挽台地及び台地直下の低地上に集中している。

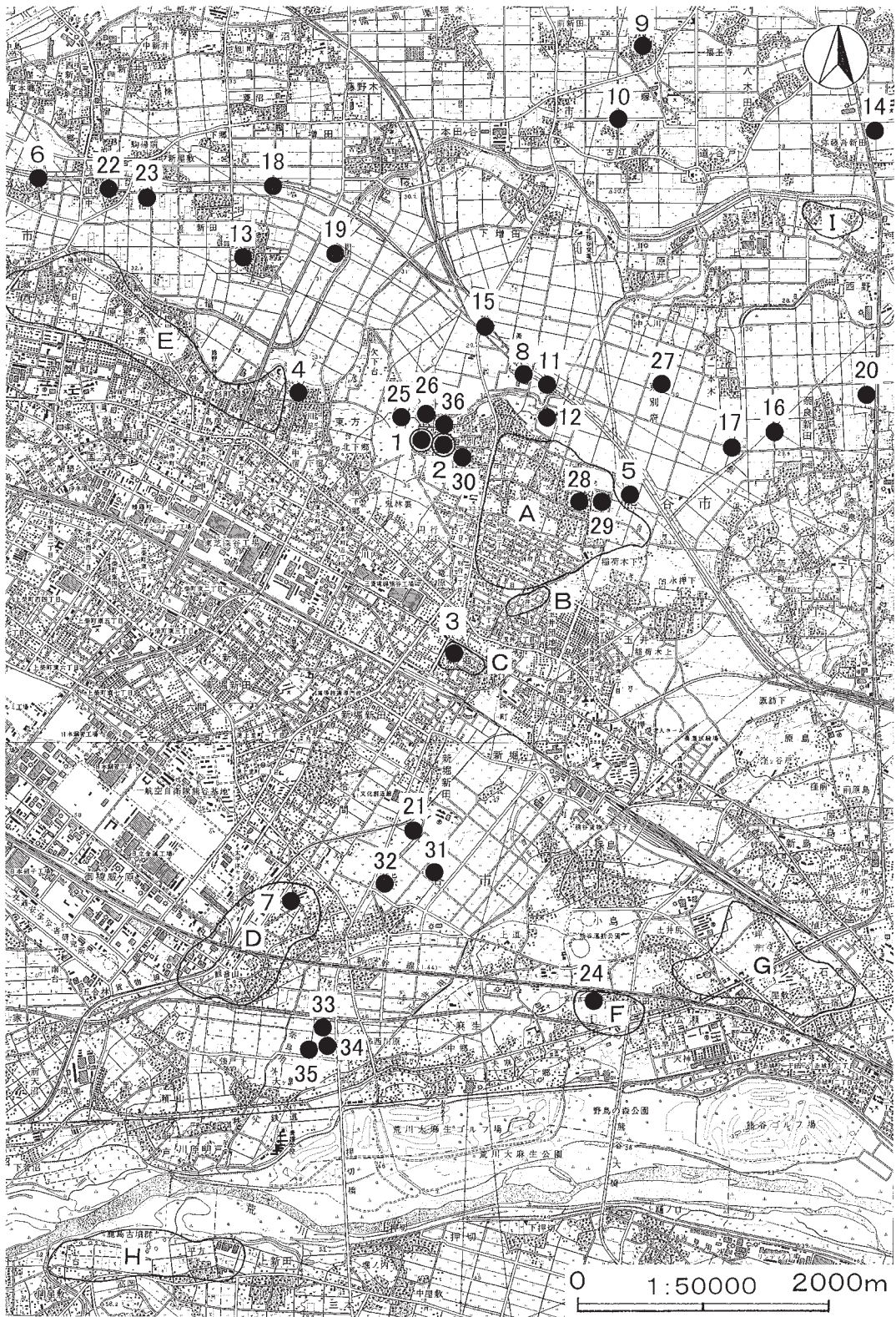
後期になると遺跡数は減少傾向ではあるが、徐々に低地へと進出をはじめ、本遺跡周辺では中期と同様に集中して所在し、深谷市内においても、台地縁辺部及び台地下の低地上で遺跡が確認されている。

晩期になると、さらに遺跡数が減少し、市内においては非常に少ないが、低地の自然堤防上に進出した遺跡が目立つようになる。市東部の妻沼低地に位置する上之地区で安行式土器が検出されている程度である。深谷市では、低地においていくつかの遺跡が確認されているが、上敷免遺跡（6）では晩期終末の浮線文土器片が多数検出されており、また、市東部妻沼低地の前中西遺跡（地図未掲載）の包含層中及び他時期の遺構からも浮線文土器が検出されている。これは、次の弥生時代が始まる以前に人々が低地に進出してきた証であり、次代へのつながりが看取できる。

弥生時代については、深谷市において妻沼低地の上敷免遺跡の包含層から県内初の前期遠賀川式土器の胴部上半破片が出土している。その後、中期に至ると多くの遺跡の存在が確認されるようになる。中期以降の集落は、櫛挽台地上及び台地下の自然堤防上に営まれている。市内では三ヶ尻遺跡（7）に含まれる三ヶ尻上古遺跡、平戸遺跡（地図未掲載）、横間栗遺跡（8）、飯塚遺跡（9）、飯塚南遺跡（10）、飯塚北遺跡（地図未掲載）、深谷市では上敷免遺跡等であり、飯塚遺跡を除きいずれも再葬墓が検出された遺跡である。横間栗遺跡は、前期末から中期中頃の再葬墓が16基発見され、この一括資料は1999年3月に埼玉県指定文化財となっている。この横間栗遺跡に近接する関下遺跡（11）では中期中頃の住居跡が確認され、隣接する石田遺跡（12）とともに集落域の広がりを想起させる遺跡である。

一方、市内東部の低地上では、水稻耕作を基盤とした本格的な集落が営まれ、池上遺跡（地図未掲載）は環濠集落として知られている。また、小敷田遺跡（地図未掲載）では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が確認されている。

中期後半には、市内では妻沼低地の北島遺跡（地図未掲載）や前中西遺跡で集落が確認されており、深谷市のやはり妻沼低地では、宮ヶ谷戸遺跡（13）や上敷免遺跡で集落が確認されている。北島遺跡では中期後半で集落が途絶えてしまうが、前中西遺跡では後期にかけて継続的に集落が営まれる。また、北島遺跡においては住居跡内から土器棺墓が確認されるものの他の墓制は不明であるが、前中西遺跡においては、土器棺墓・方形周溝墓・木棺墓と3タイプの墓制が確認されている。



第2図 周辺遺跡分布図

後期中頃から終末にかけては、少ないものの低地上各地に遺跡が見られる。市内弥藤吾新田遺跡(14)、中条条里遺跡(地図未掲載)に含まれる東沢遺跡、行田市池守遺跡(地図未掲載)が存在する。東沢遺跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代になると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地のみならず低地の自然堤防上にも活発に営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期の遺跡は特に低地における確認例が増え、本遺跡周辺では、市内は横間栗遺跡、根絡遺跡(15)、中耕地遺跡(16)、一本木前遺跡(17)、深谷市は明戸東遺跡(18)、東川端遺跡(19)、宮ヶ谷戸遺跡、上敷免遺跡等がある。北部や東部まで広く見てみると、市内では池上遺跡、中条条里遺跡に含まれる東沢遺跡、北島遺跡、前中西遺跡、藤之宮遺跡(地図未掲載)、弥藤吾新田遺跡が知られるほか、行田市池守遺跡、小敷田遺跡等が知られる。集落では、北島遺跡においては弥生時代に続いて大規模な集落が営まれており、東沢遺跡とあわせて河川跡から鋤・鍬をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られる。さらに、北島遺跡では東海地方にその系譜が求められるパレス壺や高坏が多く見られ、近接する小敷田遺跡においても畿内や東海地方などの外来系の土器が多数出土している。一方、台地や丘陵上の集落は、江南台地の姥ヶ沢遺跡、行人塚遺跡(いずれも地図未掲載)、比企丘陵の釜場遺跡(地図未掲載)等で住居跡が検出されており、姥ヶ沢遺跡の住居跡からはミニチュア土器が数多く集中して検出されるなどの特徴がある。墓域の存在としては、一本木前遺跡、上敷免遺跡、東川端遺跡等で方形周溝墓群が確認されている。一本木前遺跡では、住居跡とともに一辺が11.72~17.40mを測る巨大な方形周溝墓が4基検出されており、第2号方形周溝墓の主体部からは、緑色凝灰岩製管玉とともに翡翠製の勾玉が出土している。また、東川端遺跡においても巨大な方形周溝墓が検出されており、特に第2号方形周溝墓からはパレス壺が出土している。また、妻沼低地の前中西遺跡に隣接する箱田氏館跡(地図未掲載)で、最近、古墳時代前期初頭の確認長15mの前方後方形周溝墓の新知見があった。これら方形周溝墓も古墳の出現とともにその影響を受け、江南台地では埼玉県指定史跡である塩古墳群I支群(地図未掲載)の前方後方墳や方墳などのように古墳が定着する過渡期の墳墓が出現する。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。市内の北島遺跡、中条遺跡(地図未掲載)、藤之宮遺跡、前中西遺跡等、深谷市の森下遺跡(地図未掲載)等で遺構・遺物が検出されている。藤之宮遺跡では溝跡から水辺の祭祀に使用

第2図掲載遺跡一覧表

- | | | | | | |
|-----------|------------|----------|------------|-----------|----------|
| 1 西別府遺跡 | 2 西別府廃寺 | 3 籠原裏遺跡 | 4 東方城跡 | 5 寺東遺跡 | 6 上敷免遺跡 |
| 7 三ヶ尻遺跡 | 8 横間栗遺跡 | 9 飯塚遺跡 | 10 飯塚南遺跡 | 11 関下遺跡 | 12 石田遺跡 |
| 13 宮ヶ谷戸遺跡 | 14 弥藤吾新田遺跡 | 15 根絡遺跡 | 16 中耕地遺跡 | 17 一本木前遺跡 | |
| 18 明戸東遺跡 | 19 東川端遺跡 | 20 横塚山古墳 | 21 樋の上遺跡 | 22 本郷前東遺跡 | |
| 23 新屋敷東遺跡 | 24 宮塚古墳 | 25 幡羅遺跡 | 26 西別府祭祀遺跡 | 27 別府条里遺跡 | |
| 28 別府城跡 | 29 別府氏館跡 | 30 西別府館跡 | 31 黒沢館跡 | 32 若松遺跡 | 33 社裏北遺跡 |
| 34 社裏遺跡 | 35 社裏南遺跡 | 36 西方遺跡 | | | |
| A 別府古墳群 | B 在家古墳群 | C 籠原裏古墳群 | D 三ヶ尻古墳群 | E 木の本古墳群 | |
| F 広瀬古墳群 | G 石原古墳群 | H 鹿島古墳群 | I 上江袋古墳群 | | |

されたと考えられる高坏・甕を中心とする土器群がほぼ完形に近い状態でまとまって検出されている。隣接する前中西遺跡では、住居跡が5軒ほど検出され、土師器高坏を主体とする土器がまとまって出土している。また、森下遺跡では住居跡が8軒検出されており、大型住居跡を中心に配置されている。

一方、古墳に目を転じてみると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防上に市指定史跡・横塚山古墳(20)が存在する。これは、B種横刷毛の埴輪をもつ前方後円墳(後円部は一部欠損)である。

後期になると遺跡数は爆発的な増加をみる。集落は台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようであり、奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが多く見受けられる。市内では江南台地の本田東台遺跡(地図未掲載)、櫛挽台地の三ヶ尻遺跡、新荒川扇状地の樋の上遺跡(21)、妻沼低地の本郷前東遺跡(22)、新屋敷東遺跡(23)、一本木前遺跡、飯塚南遺跡等をはじめ数多くの遺跡が確認されている。本田東台遺跡では奈良時代までの住居跡が70軒以上検出されている上に、古墳時代後期の製鉄関連の住居跡の存在から当該期における鉄器の生産と消費との関係を示すものとして注目される。樋の上遺跡では平安時代までの住居跡が150軒以上検出されている。一本木前遺跡では古墳時代後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が450軒以上も検出されており、河川の氾濫にもかかわらず同じところに累々と集落が営まれている状況が確認されている。また、同じく後期の祭祀跡も発見されている。

一方、古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。比企丘陵の塩古墳群、江南台地の瀬戸山古墳群、野原古墳群、立野古墳群(いずれも地図未掲載)、櫛挽台地の別府古墳群(A)、在家古墳群(B)、籠原裏古墳群(C)、三ヶ尻古墳群(D)、深谷市木の本古墳群(E)、新荒川扇状地の広瀬古墳群(F)、石原古墳群(G)、肥塚古墳群(地図未掲載)、荒川右岸の段丘堆積層上の村岡古墳群(地図未掲載)、埼玉県指定史跡の深谷市鹿島古墳群(H)、妻沼低地の中条古墳群(地図未掲載)、上之古墳群(地図未掲載)、上江袋古墳群(I)等数多くが分布する。これらは概ね6世紀から7世紀ないしは8世紀初頭にかけて形成された古墳群である。市内において特筆すべき古墳を挙げると、籠原裏古墳群は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有する古墳群であるが、7世紀末の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており、終末期の古墳の様相、さらには幡羅郡の郡寺的な機能を有するとも考えられている8世紀初頭創建の西別府廃寺という初期寺院との関係においても見逃すことのできない発見である。広瀬古墳群中の宮塚古墳(24)は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。肥塚古墳群では、川原石乱石積と角閃石安山岩切組積の2種類の胴張型横穴式石室をもつ古墳が確認されており、前者は荒川水系の石材、後者は利根川水系の石材と判断され非常に興味深い様相を呈している。中条古墳群中の鎧塚古墳(地図未掲載)は全長43.8mの帆立貝式前方後円墳で、須恵器高坏型器台等(県指定文化財)を伴う墓前祭祀跡2か所が確認されており、築造年代は、5世紀末～6世紀初頭に比定されている。同古墳群の大塚古墳(地図未掲載)は大型の胴張型横穴式石室をもち、側壁に角閃石安山岩、奥壁・天井石に緑泥片岩を使用しており、7世紀前半に比定されている。野原古墳群中の野原古墳(地図未掲載)は凝灰岩切石積の横穴式石室2基をもつ前方後円墳で、全国的にも著名な踊る男女の埴輪等多くの埴輪が出土しており、6世紀後半から末に比定されている。同じく江南台地の東端に所在する古墳として、全長75mの前方後円墳とうかん山古墳、直径90mの円墳甲山古墳(いずれも地図未掲載)が知られる。いずれも首長墓の系譜をたどることができる

可能性を持つ古墳であり、甲山古墳は埼玉県下第2位の規模を誇る大型円墳である。

生産遺跡については、江南台地の権現坂埴輪窯跡群、姥ヶ沢埴輪窯跡群（いずれも地図未掲載）が存在する。両遺跡とも多数の窯跡、工房跡、粘土採掘坑が検出されている。

奈良・平安時代には、この地域も律令制体制に組み込まれていき、市内には幡羅郡、男衾郡、大里郡、埼玉郡の4郡が存在していたとされる。本遺跡周辺一帯はそのうち幡羅郡に属し、現在の市内西部及び北部、深谷市東部の一帯が該当すると考えられている。なお、幡羅郡は、上秦、下秦、広沢、荏原、幡羅、那珂、霜見、余部の八郷からなる中郡である。

前述したとおり、古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていき、また規模の大きいものが多い。このころの中心的集落遺跡は妻沼低地の北島遺跡にみられる。300軒以上もの住居跡が検出されている大規模集落である。7世紀から9世紀を中心に12世紀さらには中世にまで及ぶ集落であり、大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等様々な遺構と遺物が検出されている。また、9世紀前半には二重の溝で区画され、区画内に大型の掘立柱建物跡と少数の竪穴住居跡で構成される地区が登場している。この区画施設は、10世紀前半には位置を変え、11世紀前半には消滅する。つまり、北島遺跡は地域の中核となる典型的律令制集落である。さらには、7世紀末から8世紀初頭頃の出拳木簡を出土した小敷田遺跡、整然と配された9世紀代の掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡も存在する。また、諏訪木遺跡（地図未掲載）では、古墳時代後期から平安時代にかけての祭祀が行われた河川跡が検出され、玉類、被熱した銅鏡、さらには斎申・人形等の木製祭祀具を使った水辺の祭祀が行われていたことが確認されたほか、平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡群、多数の灰釉陶器や緑釉陶器が検出されるなど官衙の様相が看取でき、西別府祭祀遺跡と同様に注目すべき遺跡である。

そして、集落以外の遺跡では、櫛挽台地北東端には本遺跡に隣接して深谷市幡羅遺跡（25）が存在する。この幡羅遺跡は東西500m、南北400mの範囲をもつ幡羅郡家跡であり、これまでに郡庁を除く正倉院、館、厨家、曹司、道路等の施設が検出され、7世紀後半に小規模な倉庫などの掘立柱建物が建てられ、7世紀末には主要な施設が整えられていったようである。そして、8世紀末には正倉の掘立柱建物から礎石建物への建て替えや敷地の拡張などが行われ、9世紀前半～中葉には二重溝と土塁による区画施設が造られ郡家の様相も大きく変化する。この施設は、10世紀前半または中頃の正倉院の廃絶後の11世紀前半まで存続していたとされ、これが郡家の終焉と考えられている。また、この幡羅遺跡の周辺には、本報告の西別府遺跡（1）及び西別府廃寺（2）、そして、西別府祭祀遺跡（26）が存在し、郡家との関連で注目されている。西別府遺跡は、幡羅遺跡と一体の遺跡と捉えることができ、幡羅遺跡と同様な9世紀後半から11世紀前半まで存在していたと考えられる二重溝と土塁による区画施設が確認され、幡羅郡家の機能の一部を担っていたと考えられている。西別府廃寺は、郡司が創建に関わったとされる県内でも古い8世紀初頭創建の寺院であり、基壇建物跡、寺域を区画する溝跡、瓦溜り状遺構などが検出され、多数出土している軒丸瓦や軒平瓦などから9世紀後半まで存続していたと考えられている。西別府祭祀遺跡は、7世紀中頃から11世紀頃まで湧泉で行われた水辺の祭祀跡であり、馬形・横櫛形・有孔円板形・有線円板形等の石製模造品をはじめ、墨書土器等の土器が多数検出されており、祭祀具や場所を時代とともに変えて祭祀が継続的に行われていたと考えられる。また、この西別府祭祀遺跡北西の

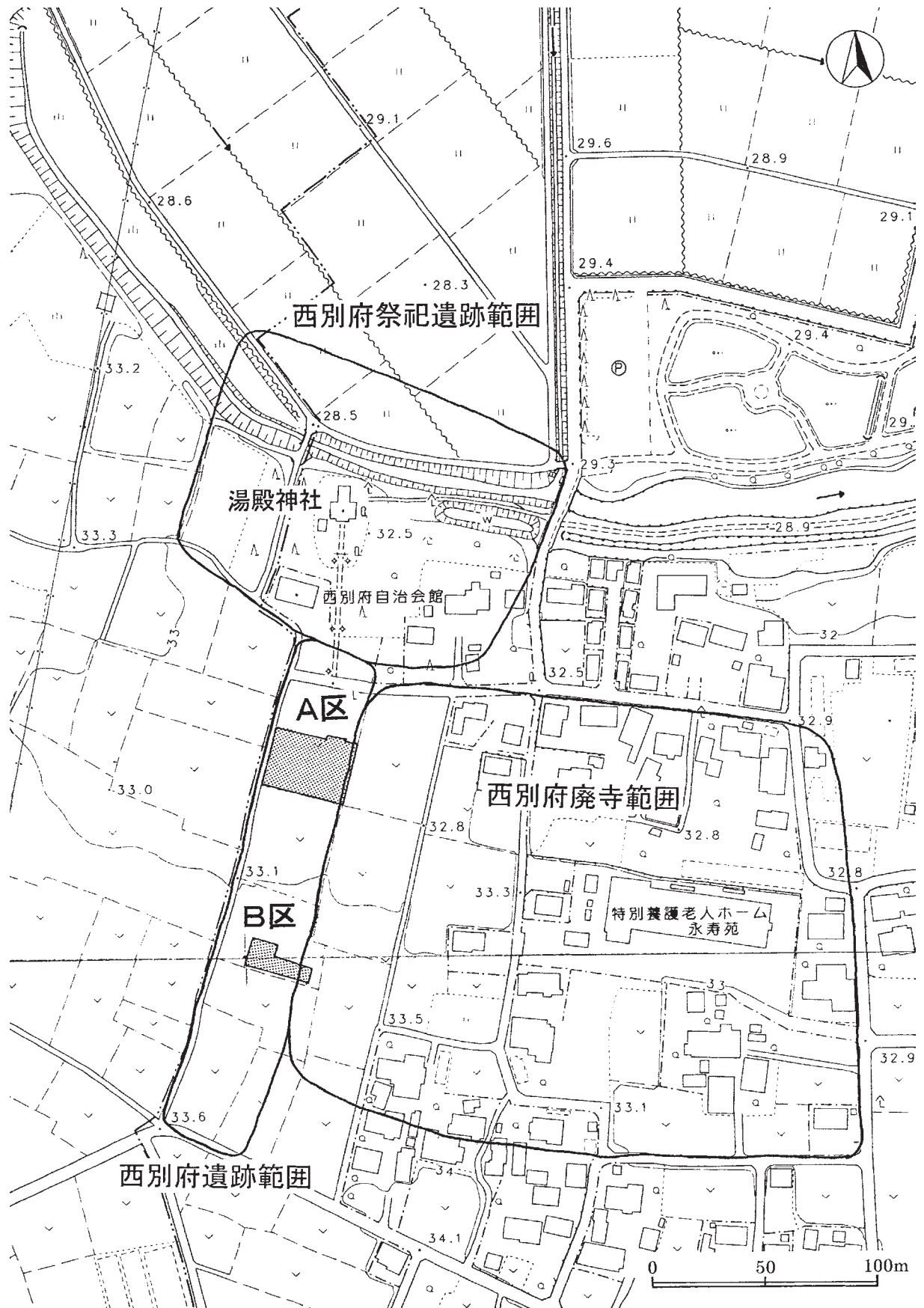
妻沼低地上の本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡では、河川跡の縁辺部で7世紀前半の土器と共伴する櫛形・剣形・有孔円板形・有線円板形石製模造品が出土し、集落内の祭祀跡においても、櫛形・有線円板形・有孔円板形・勾玉形・剣形の石製模造品が出土しており、水利にかかわる再生を祈願した水の祭祀と理解され、西別府祭祀遺跡へと続く祭祀の前段階の時期のものとして注目される。なお、西別府遺跡は、幡羅遺跡、西別府廃寺、西別府祭祀遺跡に挟まれる空間地の遺跡であり、最近この空間地に郡家の郡庁が存在するのではないかと注目されている。

さらに、これらの遺跡が所在する台地下の低地には、同郡に属する別府条里遺跡（27）が所在し、条里制に関わる遺構の痕跡をとどめている。条里跡の存在については、同じく幡羅郡に属する市内東部の中条条里遺跡（地図未掲載）、埼玉郡に属する行田市小敷田条里遺跡、南河原条里遺跡（いずれも地図未掲載）、大里郡に属する市内南東部の大里条里遺跡（地図未掲載）等が所在する。

一方、男衾郡に属する江南台地には8世紀前半に創建された寺内廃寺（地図未掲載）が所在する。本格的伽藍配置が確認され、瓦のほか、「花寺」「石井寺」「東院」等の寺の名称や施設に関連する墨書土器、塑像破片、鉄釘等の金属製品が出土し、最盛期は9世紀後半と考えられている。同じく江南台地の東端には、生産遺跡として目白坂瓦窯跡（地図未掲載）が所在する。瀬戸山古墳群（地図未掲載）の盟主墳と考えられる前方後円墳伊勢山古墳の調査時に発見されたが、現在のところ本窯製瓦の供給先は不明である。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになるが、実態については不明なものが多い。本遺跡の近辺の櫛挽台地には別府城跡（28）、別府氏館跡（29）、西別府館跡（30）、市内東部の妻沼低地には中条氏館跡、成田氏館跡、熊谷氏館跡、市田氏館跡、久下氏館跡（いずれも地図未掲載）等がある。別府城跡は別府氏の居館で、現在でも土塁と空堀が良く残っている。西別府館跡は、以前は土塁を一部残す状態であったが、現在は石標が存在を示すのみである。また、新荒川扇状地にある三ヶ尻地区には、黒沢館跡（31）や、樋の上遺跡、若松遺跡（32）、社裏北遺跡（33）、社裏遺跡（34）、社裏南遺跡（35）といった土坑墓が多数検出された遺跡等、多くの中世遺跡や遺物が確認されている。特筆すべきは黒沢館跡で、発掘調査により出隅をもち全周する堀と土塁、虎口などが検出され、渡辺華山が記した文献である『訪甕録（ほうへいろく）』にある「黒沢屋敷」と調査成果が一致するという大変貴重な例である。ところで、中世に関しては依然として資料がまだまだ不足している状態で、今後の資料の蓄積に期待されるといった状況である中で、江南地区には鎌倉時代初期から信仰心の厚い有力な武士が居住していたことが分かる重要な資料が残っていることが注目される。それは、板石塔婆の存在であり、最も古い年号をもつ嘉禄三年（1227）銘の陽刻阿弥陀三尊像板石塔婆（県指定文化財）をはじめ、安貞二年（1228）銘阿弥陀一尊種子板石塔婆、寛喜二年（1230）銘陽刻阿弥陀三尊等多数の板石塔婆の存在が確認されている特異な地区である。

最後に、近世については、本遺跡の東に隣接し櫛挽台地北東端に所在する西方遺跡（36）では、土坑墓群が検出されているほか、西別府廃寺内に検出された土坑群や竪穴遺構からは近世の陶磁器、瓦質土器、瓦、古銭等が出土している。近世についても中世と同様に、市内において調査例がみられるものの、不明な点が多いといった実態である。



第3図 西別府遺跡・西別府廃寺調査地点位置図

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

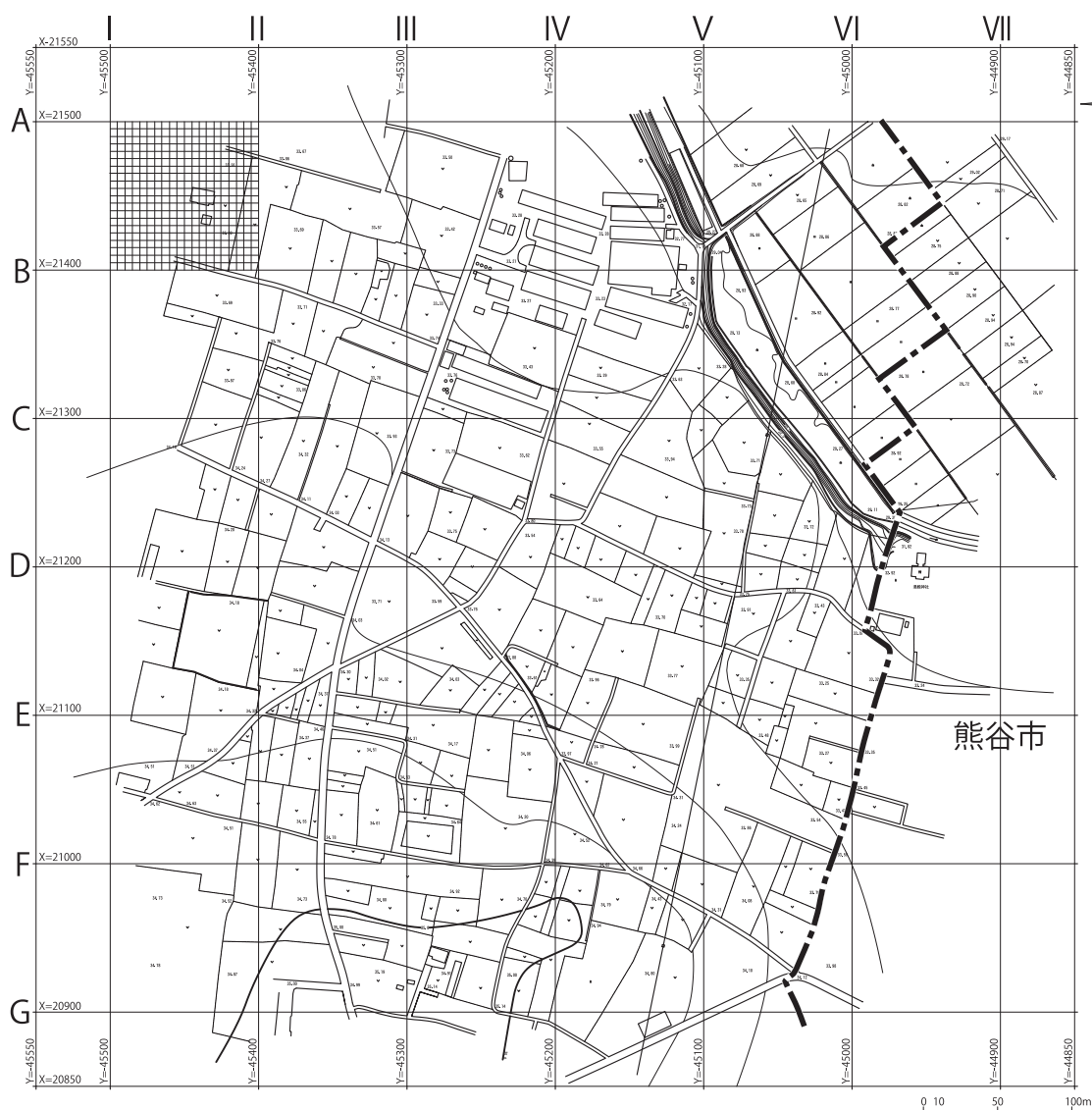
確認調査の方法は、一辺5mのグリッドを用いて行い、幡羅遺跡・西別府遺跡群の全体を把握できるように幡羅遺跡の調査に用いた国家方眼座標（国土標準平面直角座標第Ⅸ系）に合わせた（第4図）。

実測作業にあたっては、交点を基準に水糸で1m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で行った。

2 検出された遺構と遺物

調査地点は、ほとんどが西別府遺跡範囲内にあり、その北部及び中央部の2地点である。なお、本報告では、北部の第1次～第3次調査地点をA区、中央部の第4次調査地点をB区と呼称した。

検出された主な遺構・遺物は、A区では、奈良時代の竪穴建物跡1棟、平安時代の竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡7棟、土坑8基、溝跡11条（うち区画溝2条含む）、掘立柱列1列、土塁跡1か所等である。出土した遺物は、古墳時代後期の土師器、奈良時代から平安時代までの土師器、須恵器、須恵系土



第4図 グリッド分割図

深谷市教育委員会提供

師質土器、ロクロ土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、土錘、羽口、鉄釘、砥石のほか、古墳時代後期の円筒埴輪・形象埴輪、中世以降の陶器等が出土した。

一方、B区では、古墳時代後期の竪穴建物跡4棟、奈良時代の竪穴建物跡1棟、平安時代の竪穴建物跡7棟、土坑4基、奈良時代から平安時代までの溝跡8条等が検出された。出土した遺物は、古墳時代後期の土師器、奈良時代から平安時代までの土師器、須恵器、須恵系土師質土器、ロクロ土師器、黒色土器、灰釉陶器、瓦、土錘、鉄釘、刀子等が出土した。

特記事項として、遺構については、A区では、9世紀後半から10世紀後半までの大型掘立柱建物跡及び小型掘立柱建物跡を擁した、11世紀前半まで存続したと推定される二重区画溝に囲まれた方形区画が確認され、その前後の時期の竪穴建物跡が確認された。なお、二重区画溝に囲まれた方形区画の廃絶は、幡羅郡家の終焉と符合する。B区では、7世紀後半から8世紀初頭まで竪穴建物跡が所在した集落域、8世紀前半から10世紀初頭までの竪穴建物跡を擁した区画溝に囲まれた区画、そして、10世紀前半以降の竪穴建物跡群が確認された。

一方、出土遺物については、A区では、主に方形区画と同時期の遺物であり、灰釉陶器・緑釉陶器といった施釉陶器、「万」、「門」、「毛」などの墨書土器のほか、朱墨の転用硯が見られた。また、近接する西別府廃寺に用いられた軒丸瓦・軒平瓦、周辺の古墳群のものが混入したと考えられる円筒埴輪・形象埴輪も見られた。B区では、放射状の暗文が施された土師器坏が多数出土したほか、鍛冶関連の竪穴建物跡から鉄滓、羽口と共に、被熱によりひしゃげた土師器暗文坏が出土した。また、一竪穴建物跡から土錘が15点まとまって出土した例も確認できた。

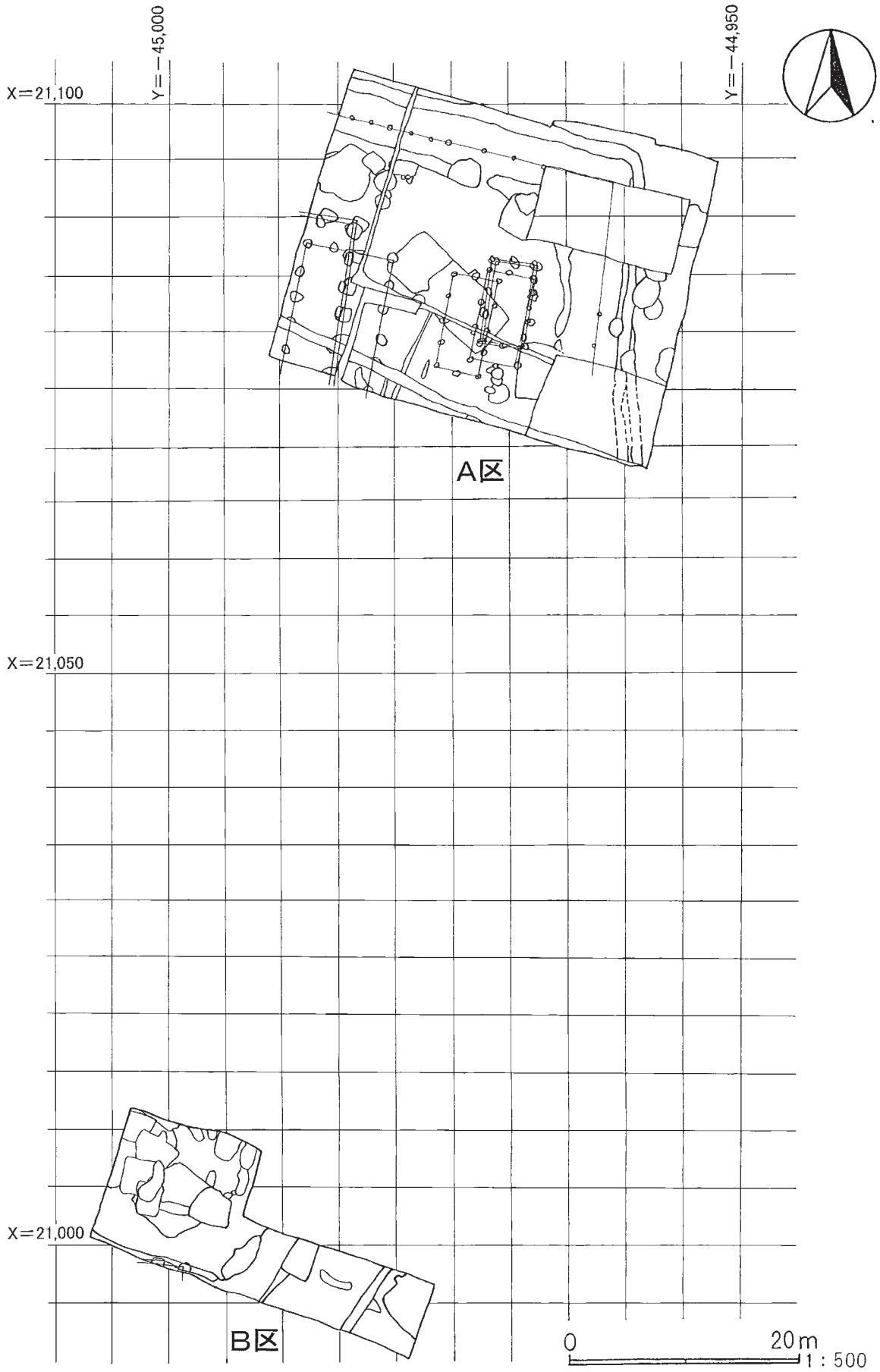
第1表 遺構番号新旧対照表（左：新番号 右：現場時番号）

1 A区 (H16、H20、H21調査)

竪穴建物跡 (S I)		2	2	18	18
1	1	3	3	溝 跡 (S D)	
2	2	4	4	1	1
3	3	5	5	2	2・10
4	4	6	6	3	3・11
5	5	7	7	4	4
掘立柱建物跡 (S B)		8	8 (H20調査)	5	—
1	1	9	8 (H21調査)	6	6
2	2	10	9	7	7
3	3、10	11	10	8	5
4	5、8	12	11	9	9
5	6	13	12	10	—
6	7	14	—	11	12
7	4	15	14		
土 坑 (S K)		16	16		
1	1	17	17		

2 B区 (H22調査)

竪穴建物跡 (S I)		15	11	溝 跡 (S D)	
6	1	16	13	12	1
7	2	17	14	13	2
8	3、4	掘立柱建物跡 (S B)		14	5
9	5、7	8	P4、P5	15	4
10	6	土 坑 (S K)		16	6
11	8	19	1	17	7
12	12	20	2	18	8
13	9	21	3	19	5
14	10	22	4		



第5図 A区・B区全測図

Ⅳ 遺構と遺物

1 A区の調査

調査区は、西別府遺跡遺跡範囲の北部で、東側の一部は西別府廃寺遺跡範囲に含まれる。調査対象面積は、890㎡であった。調査区の座標は、X=21,065~21,105、Y=-44,950~-44,995内にあり、幡羅遺跡大グリッドのD・E-VIグリッド内にある。

調査区周辺の標高は約33mで、遺構確認面までの深さは、西でやや深く約90cm、東で約70~80cmであった。

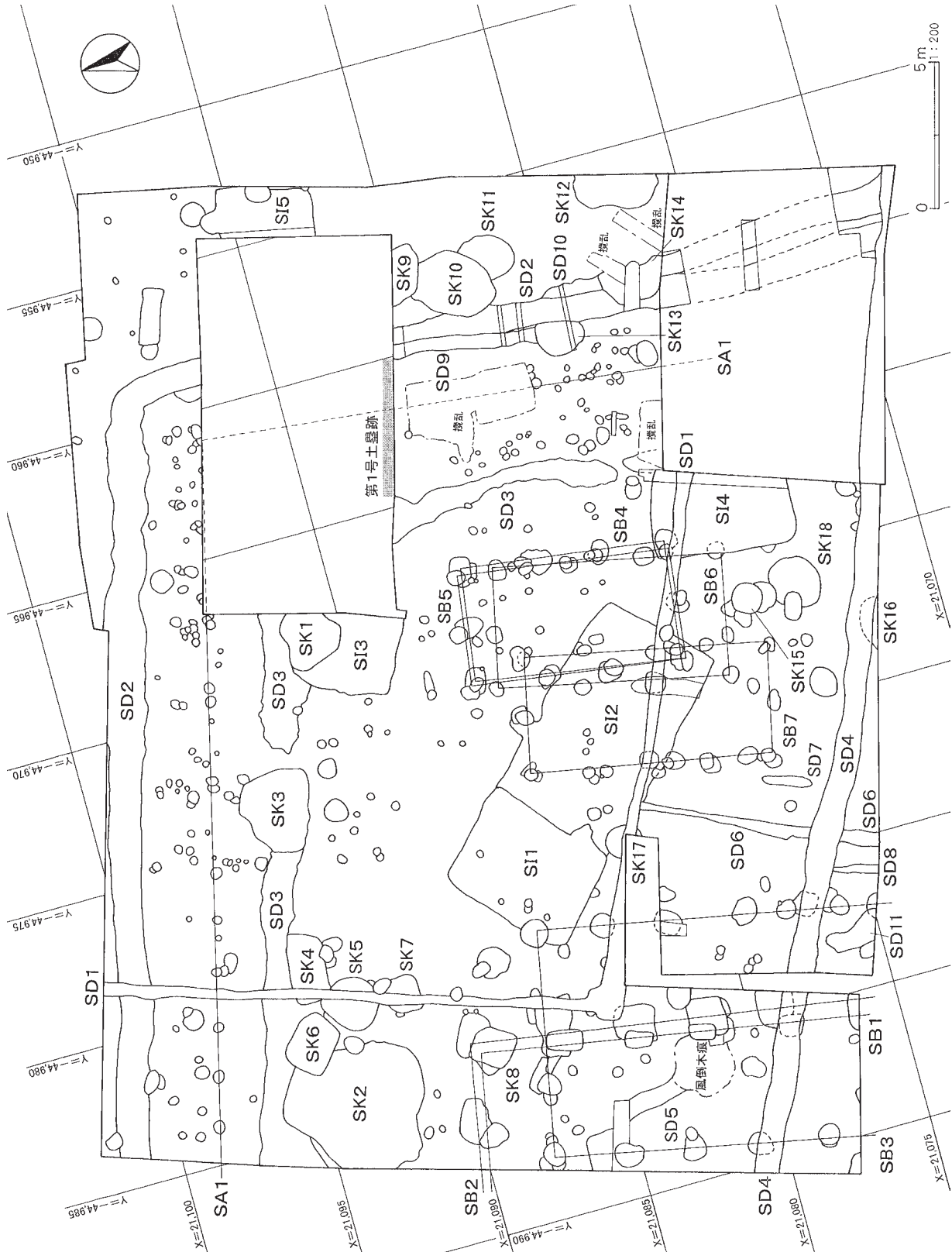
確認された遺構は、竪穴建物跡5棟（第1~5号竪穴建物跡）、掘立柱建物跡7棟（第1~7号掘立柱建物跡）、土坑18基、溝跡11条（内2条は二重区画溝）、掘立柱列1列、土塁跡1か所、ピット多数であった。遺構の総体としての分布は、調査区の南西部に集中して検出され、北辺から東進し、東端で南下する二重区画溝跡の区画内にほとんどの遺構が存在する。

竪穴建物跡は、二重溝と土塁による方形区画内に4棟（第1~4号竪穴建物跡）、外に1棟（第5号竪穴建物跡）が確認された。また、第1号、2号竪穴建物跡が互いに切りあっていて、前者が後者を切っており、第3号、第4号、第5号竪穴建物跡は、単独で確認された。各々の竪穴建物跡は、8世紀後半に第2号竪穴建物跡、9世紀前半に第1号竪穴建物跡、10世紀後半~11世紀前半に第3・4・5号竪穴建物跡の順に造られたと考えられる。

掘立柱建物跡は、前述の方形区画内に7棟（第1~7号掘立柱建物跡）が確認された。第1~3号掘立柱建物跡柱がほぼ同じ位置に建替えの關係に、第4~7号掘立柱建物跡も同じくほぼ同じ位置に建替えの關係にあった。いずれの掘立柱建物跡も9世紀後半から10世紀後半にかけて少なくとも3回の建替えを存在したと考えられる。第1~3号掘立柱建物跡は、3間×5間以上の柱穴も大規模な大型掘立柱建物跡と推定され、第4~7号掘立柱建物跡は、いずれもほぼ同規模の、2間×3間ないしは2間×4間の掘立柱建物跡で、第1~3号掘立柱建物跡と比較すると小型の掘立柱建物跡であった。

土坑は、主に、第3号溝跡付近に、第3号溝跡や第3号竪穴建物跡を切るように確認され、互いに切り合いの關係にあった。また、第2号溝跡が南下する箇所付近にも集中して確認された。いずれの土坑も、9世紀後半~11世紀前半の遺物が出土した。

溝跡については、前述の方形区画を形成する二重区画溝跡（第2・3号溝跡）が確認され、2条の溝跡間にほぼ並行して第1号掘立柱列が確認され、第1号土塁跡についても2条の溝跡間に造られていたことが調査区壁の土層観察により確認された。なお、二重区画溝跡は、外側に第2号溝跡、内側に第3号溝跡が配されていた。いずれの溝跡も主として9世紀後半~11世紀前半の遺物が出土しており、同時期に存在したと、前述の掘立柱建物跡と同時期に存在したことが考えられる。



第6図 A区全測図

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡 (第7・8図、第2表)

調査区の中央部やや西寄りに位置する。座標 $X=21,080\sim 21,090$ 、 $Y=-44,975\sim -44,985$ 内にある。第2号竪穴建物跡、第3号掘立柱建物跡柱穴P6と重複関係にあり、本遺構が第3号掘立柱建物跡に切られ、第2号竪穴建物跡を切っている。

規模は、長軸4.65m、短軸3.78mを測り、平面プランは、長方形を呈する。主軸方位は、 $N-136^{\circ}-E$ を示す。

確認面から床までの深さは最大17cmを測り、覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、ほぼ平坦であるが、長軸である北西壁方向に向かってやや傾斜が見られた。また、短軸である北東部及び南西部の床面に貼り床が確認された。

壁溝は、短軸の北東壁を除いてほぼ途切れなく確認された。また、柱穴と考えられるピットが北東壁寄り及び北西壁寄りに2基確認された。

カマドは、短軸の北東壁の南寄りに確認された。長さ0.7m、焚口幅0.7m、煙道部は削平されて確認できなかった。袖は焚口両側に造られていたと考えられるが、右袖のみハードローム土を貼り付けた袖が確認された。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏・甕、灰釉陶器碗等が出土し、カマド前、南東隅及び南西隅から検出された。

時期は、9世紀前半と考えられる。

第2号竪穴建物跡 (第7・8図、第3表)

調査区の中央部に位置する。座標 $X=21,075\sim 21,090$ 、 $Y=-44,970\sim -44,980$ 内にある。第1号竪穴建物跡、第4～7号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構にも切られている。

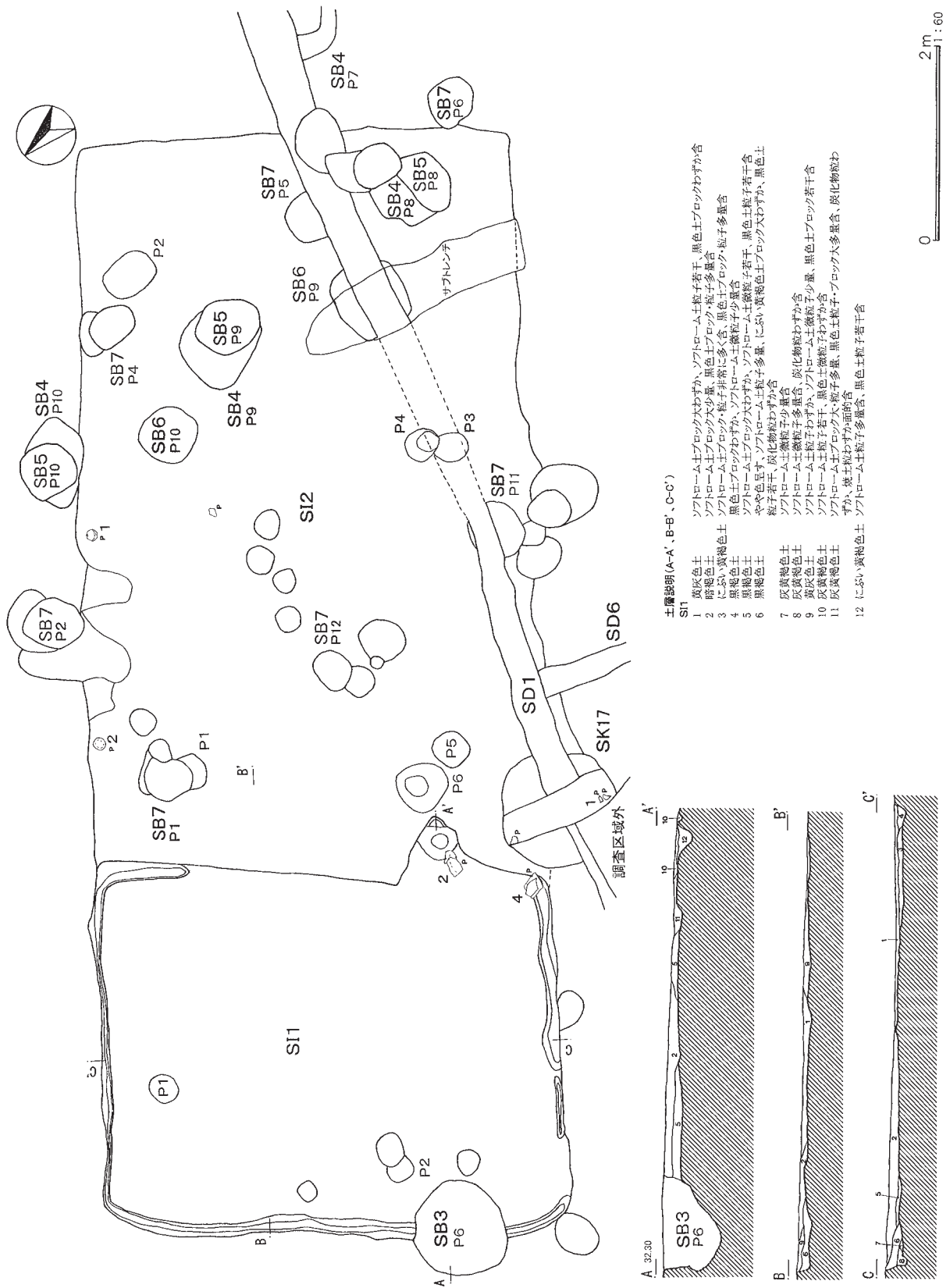
規模は、長軸7.66m、短軸4.90mを測り、平面プランは、長方形を呈する。主軸方位は、 $N-43^{\circ}-E$ を示す。

床面は、ほぼ平坦である。壁溝は確認されなかった。床面にはピットが6基確認され、P1・P2が北東壁寄りに、P4～P6が南西壁寄りに確認された。P3とP4は重複関係にあり、P1は第7号掘立柱建物跡柱穴P1と重複関係にあり、切られていた。なお、柱穴と考えられるピットは、P1、P2、P4、P5、P6の5基であるが、第1次調査の際に入れたサブトレンチにより柱穴のピットが失われている可能性がある。また、P5とP6は、いずれかのピットが柱穴の可能性はある。

カマドは、長軸の北東壁の西寄りに確認された。長さ0.7m、焚口幅0.7m、煙道部は削平されて確認できなかった。袖は焚口両側に造られていたと考えられ、左右袖相当箇所ハードローム土が貼り付けてあることが確認された。

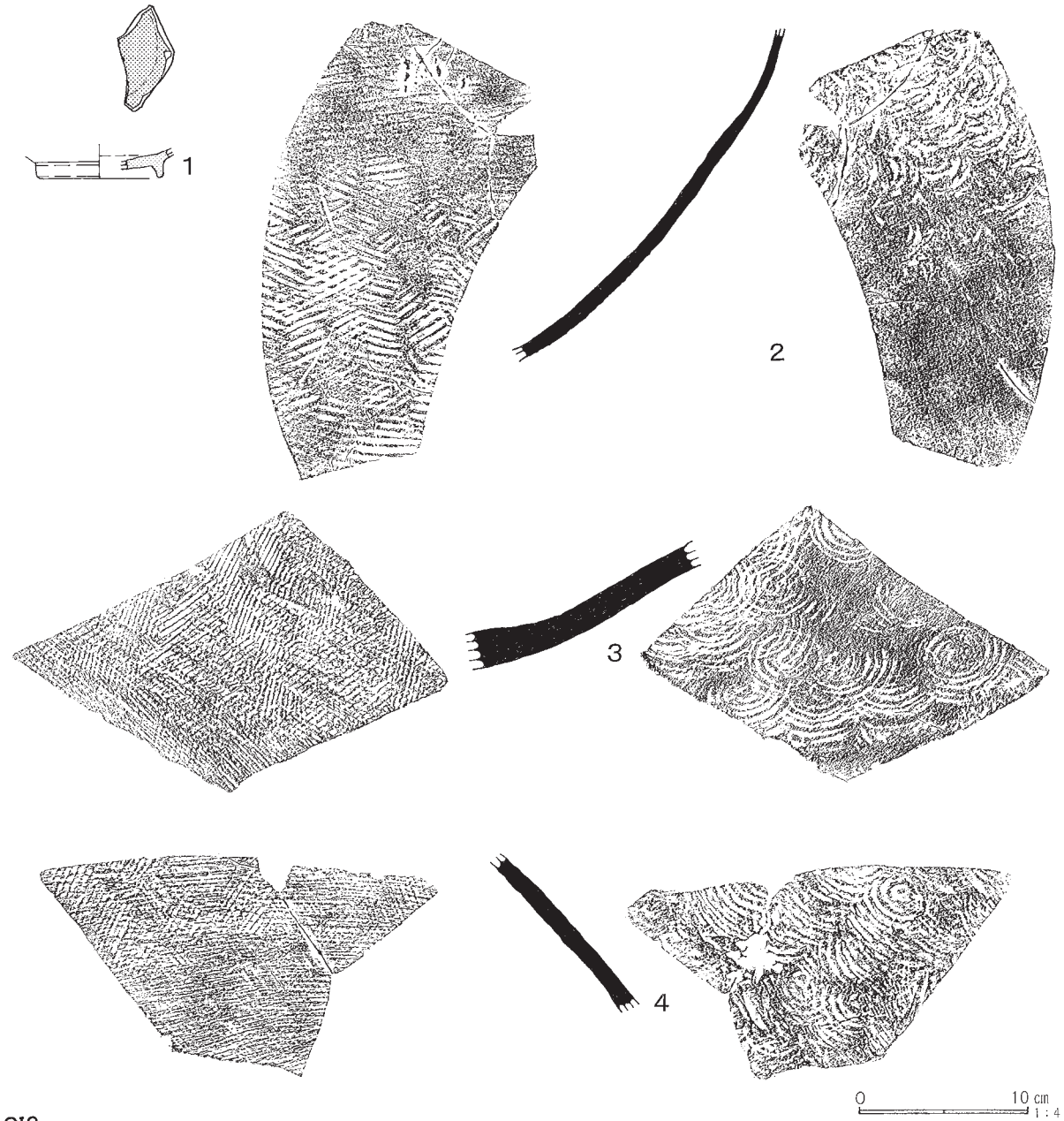
出土遺物は、土師器坏、鉄釘が出土し、土師器坏2点は、カマド左右袖の外側の北東壁際に検出され、いずれも口縁部に煤が付着することから灯明皿用途と考えられる。

時期は、8世紀後半と考えられる。

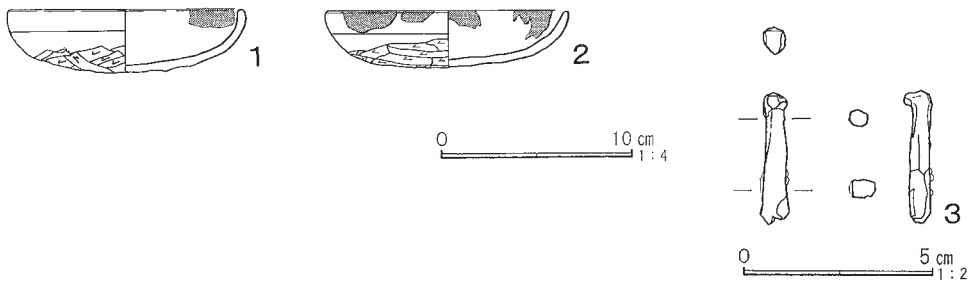


第7図 第1・2号竪穴建物跡、第17号土坑、第1号溝跡

SI1



SI2



第8図 第1・2号竪穴建物跡出土遺物

第2表 第1号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第8図)

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
8	SI1 1	灰釉陶器 碗	—	1.3	(7.5)	AD	A	灰白色	底部25%	猿投窯黒笹9号窯式か。 内面に朱墨かつ平滑→転用碗。
8	SI1 2	須恵器 甕	厚さ0.4~0.9			AEGL	A	外面：赤灰色 内面：青灰色	胴部下半破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕、ナデ消し。 未野産。
8	SI1 3	須恵器 甕	厚さ1.4~2.2			ABDGLM	A	外面：緑灰色 内面：にぶい橙色	底部付近破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。 未野産。
8	SI1 4	須恵器 甕	厚さ0.8~1.1			ABGN	A	外面：褐灰色 内面：にぶい褐色	胴部破片	外面：平行・格子叩き。 内面：青海波文あて具痕

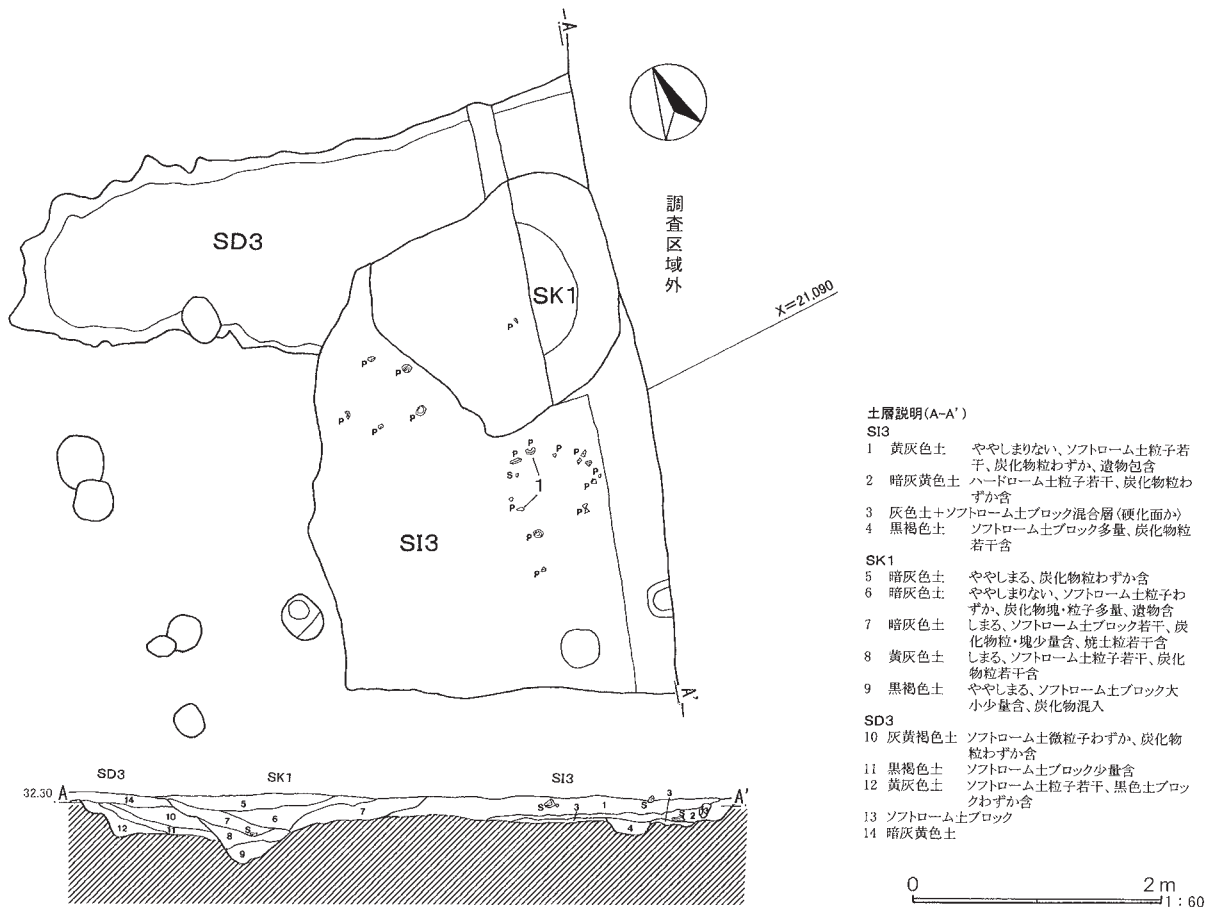
第3表 第2号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第8図)

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
8	SI2 1	土師器 環	12.6	3.4	—	ABDHIN	A	外面：褐灰色、橙色 内面：灰黄褐色	100%	内外面とも口縁部から底部にかけて煤(タール)が付着、灯明皿用途。
8	SI2 2	土師器 環	12.9	3.0	—	ABGHIK	A	にぶい橙色、橙色	100%	口縁部内外面に煤(タール)付着、灯明皿用途。
8	SI2 3	鉄釘	残存長3.5 最大幅0.7						先端欠損	断面長方形の角釘。 頭部は端を折り曲げて平らに鍛き出す。

第3号竖穴建物跡 (第9・12図、第4表)

調査区の中央部やや北寄りに位置する。座標 X=21,085~21,095、Y=-44,965~-44,975内にある。第1号土坑、第3号溝跡と重複関係にあり、本遺構は、第1号土坑に切られ、第3号溝跡を切っている。規模は、南北軸約3.40mを測り、東西軸は東側が調査区域外となり不明である。平面プランは、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、南北軸方向がN-26°-Eを示す。

床面は、土層断面観察を行った箇所ではほぼ平坦である。掘り下げは行わなかったため、壁溝、柱穴は



第9図 第3号竖穴建物跡、第3号溝跡、第1号土坑

不明である。

カマドは短軸の北壁に設置されていた推定されるが、第1号土坑により壊された可能性がある。

出土遺物は、須恵系土師質土器杯・碗、ロクロ土師器杯等が検出されたが、図示できたものは少なかった。

時期は、10世紀後半～11世紀前半と考えられる。

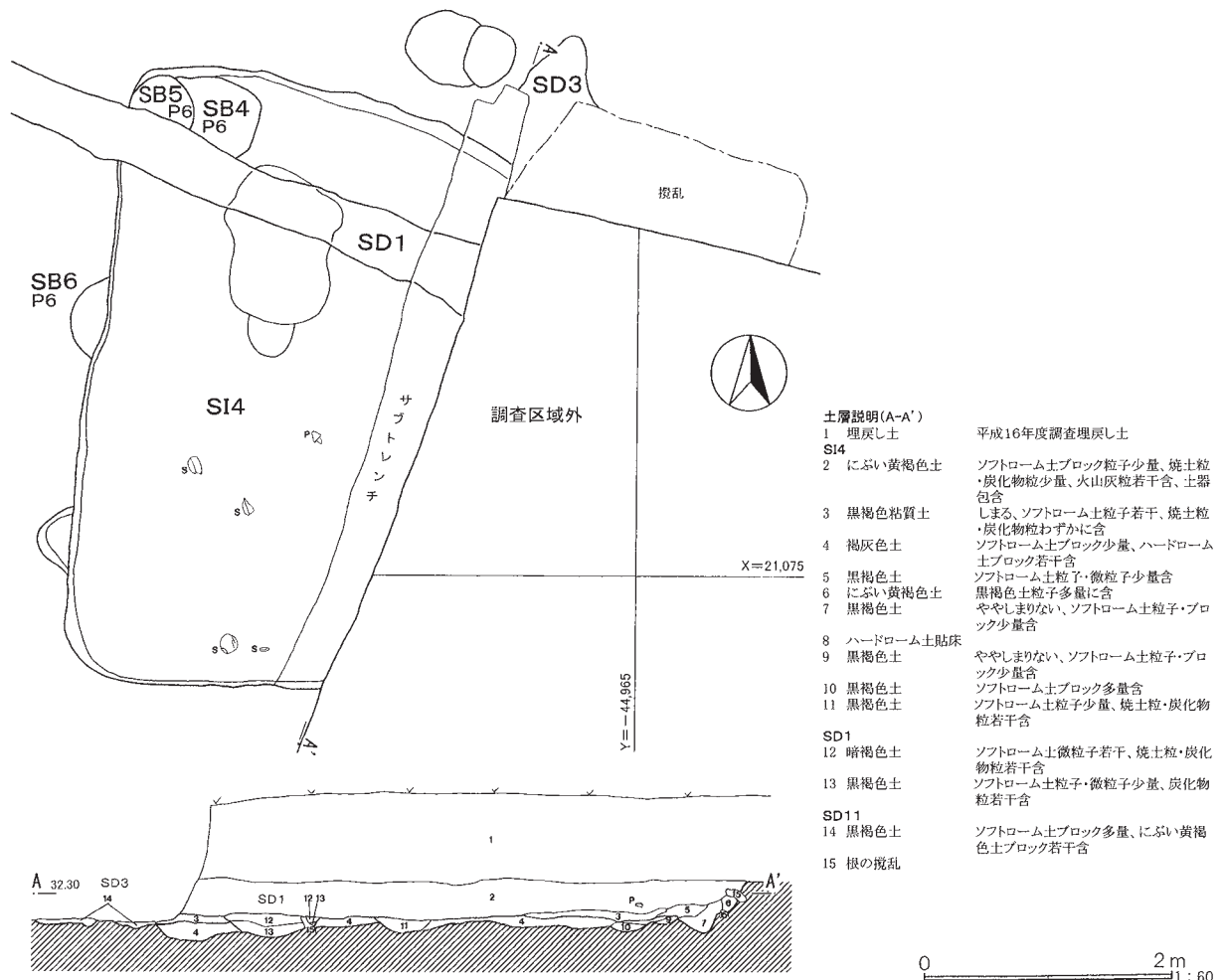
第4号竪穴建物跡（第10・12図、第5表）

調査区の中央部やや南東寄りに位置する。座標X=21,070～21,080、Y=-44,965～-44,970内にある。第4～6号掘立柱建物跡柱穴、第1・3号溝跡と重複関係にあり、本遺構は、第1号溝跡に切られ、第4～6号掘立柱建物跡及び第3号溝跡を切っている。

規模は、南北軸4.90mを測り、東西軸は東側が調査区域外となり不明である。平面プランは、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、南北軸方向がN-7°-Eを示す。

床面は、土層断面観察を行った箇所では、貼り床面上ではほぼ平坦であるが、掘り方は凹凸があった。貼り床は、主としてソフトローム・ハードローム土ブロックが含まれる褐灰色土で埋められていた。やや北壁寄りの床面には、建物内土坑と考えられる掘り込みの平面が確認された。また、掘り下げは行わなかったため、柱穴は不明であるが、土層断面観察により壁溝が確認された。なお、カマドは不明である。

出土遺物は、土師器甕、須恵器甕、須恵系土師質土器碗、ロクロ土師器杯、鉄釘等が検出された。



第10図 第4号竪穴建物跡、第1・3号溝跡

時期は、10世紀後半～11世紀前半と考えられる。

第5号竪穴建物跡（第11・12図、第6表）

調査区の北東部に位置する。座標 X = 21,085 ~ 21,095、Y = -44,950 ~ -44,960 内にある。3基のピットと重複関係にあり、本遺構は、うち2基のピットに切られ、他の1基を切っている。

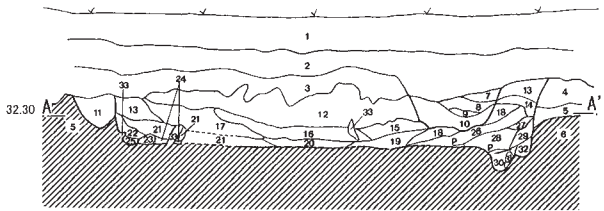
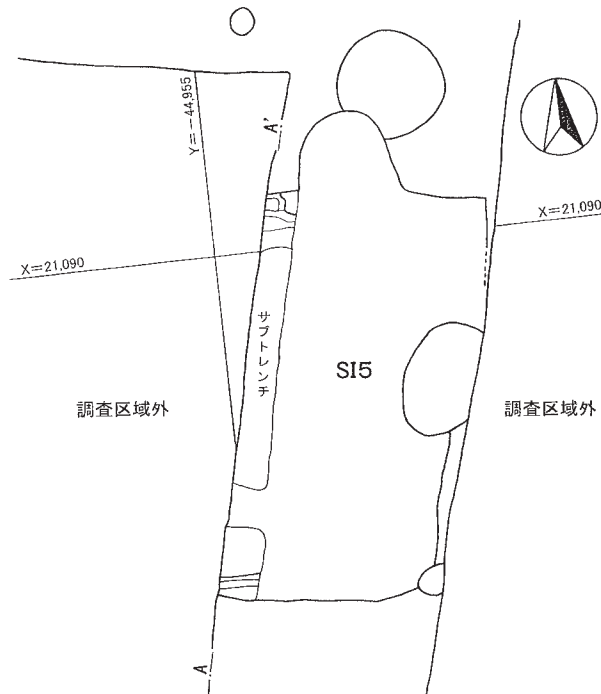
規模は、南北軸3.24mを測り、東西軸は西側が調査区域外となり不明である。平面プランは、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-5°-Eを示す。

床面は、土層断面観察を行った箇所で、貼り床面上でほぼ平坦である。貼り床面は、しっかり硬化していた。掘り下げは行わなかったため、柱穴は不明であるが、土層断面観察により壁溝が確認された。

カマドは、北壁の東寄りに確認された。長さ0.6m、焚口幅0.8m、煙道部は削平されて確認できなかった。袖は、左袖が土層断面観察のために入れたサブトレンチで確認された。

出土遺物は、カマド前及びカマド左袖付近で、土師器甕、須恵器甕等が検出された。

時期は、10世紀後半～11世紀前半と考えられる。



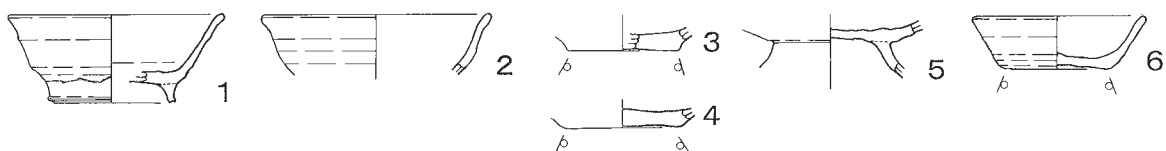
土層説明(A-A')

- | | | |
|----|--------------|---|
| 1 | 耕作土 | |
| 2 | 灰黄褐色土 | かたくしまる、火山灰粒少量、焼土粒・炭化物粒若干、礫若干、土器片含 |
| 3 | 黒褐色土 | かたくしまる、ソフトローム土ブロック大若干、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒 若干、小礫少量、土器片含 |
| 4 | 灰黄褐色土 | 比較的さらさらした感じ、ソフトローム土粒子ごくわずか含 |
| 5 | にぶい黄褐色土 | 灰黄褐色土とソフトローム土ブロック混じり |
| 6 | ソフトローム土層 | |
| 7 | 暗灰黄色土 | かたくしまる、黒褐色土+ソフトローム土粒子混合ブロック多量混じる、炭化物粒わずか含 |
| 8 | オリーブ褐色土 | しまる、ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒若干含 |
| 9 | 黒褐色土 | ソフトローム土粒子・微粒子少量含 |
| 10 | 暗灰黄色土 | ややしまりない、ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土微粒子多量、オリーブ黒色土ブロック少量含 |
| 11 | 暗灰黄色土 | ソフトローム土粒子若干、黒褐色土ブロック少量、炭化物粒わずか含 |
| 12 | 灰黄褐色土 | ややしまりない、ソフトローム土粒子・微粒子非常に多く含、ハードローム土粒子若干、黒褐色土ブロック粒子少量含 |
| 13 | 黒褐色土 | しまりない、ソフトローム土粒子・微粒子若干、焼土粒ごくわずか含 |
| 14 | オリーブ黒色土 | しまりない、ソフトローム土粒子・微粒子ごくわずか、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含 |
| 15 | オリーブ黒色土 | ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子多量、黒褐色土粒子若干、炭化物粒わずか含 |
| 16 | 黒褐色土 | ソフトローム土粒子・微粒子、ブロック多量、黒褐色土粒子少量含 |
| 17 | 暗灰黄色土 | ややしまりない、ソフトローム土粒子・微粒子多量、黒褐色土粒子多量に含 |
| 18 | 黒褐色土 | ソフトローム土粒子・微粒子少量、焼土粒・炭化物粒わずか含 |
| 19 | 黄灰色土 | 黒褐色土ブロック大、ソフトローム土ブロック大、ソフトローム土粒子少量含 |
| 20 | 灰色土 | しまる、ソフトローム土粒子・微粒子若干、黒褐色土粒子若干 |
| 21 | 暗灰黄色土 | ややしまる、ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土粒子若干、ソフトローム土微粒子多量、黒褐色土ブロックわずか含 |
| 22 | 黄褐色土 | ソフトローム土微粒子多量、黒褐色土粒子わずか含 |
| 23 | ソフトローム土ブロック | 黄褐色土わずか混入 |
| 24 | オリーブ黒色土 | しまる、ソフトローム土粒子若干、黒褐色土ブロックわずか含 |
| 25 | ソフトローム土ブロック+ | 黄褐色土混合層 黒褐色土粒子若干含 |
| 26 | 黒褐色土 | しまる、ソフトローム土微粒子多量、ハードローム土粒子若干、炭化物粒ごくわずか含 |
| 27 | 黒褐色土 | ソフトローム土粒子・微粒子少量含 |
| 28 | オリーブ黒色土 | しまりない、ハードローム土粒子若干、焼土粒多量、炭化物粒若干含 |
| 29 | 黒褐色土 | 黒褐色土ブロック、ソフトローム土ブロック含、土器包含 |
| 30 | 黒色土 | ややしまりない、ソフトローム土粒子・微粒子多量にまだら状含、焼土・炭化物少量 |
| 31 | 炭化物層 | ソフトローム土微粒子若干、焼土わずか含 |
| 32 | 暗灰黄色土 | ややしまりない、ソフトローム土粒子少量、黒褐色土ブロック少量含 |
| 33 | 根の擾乱 | |

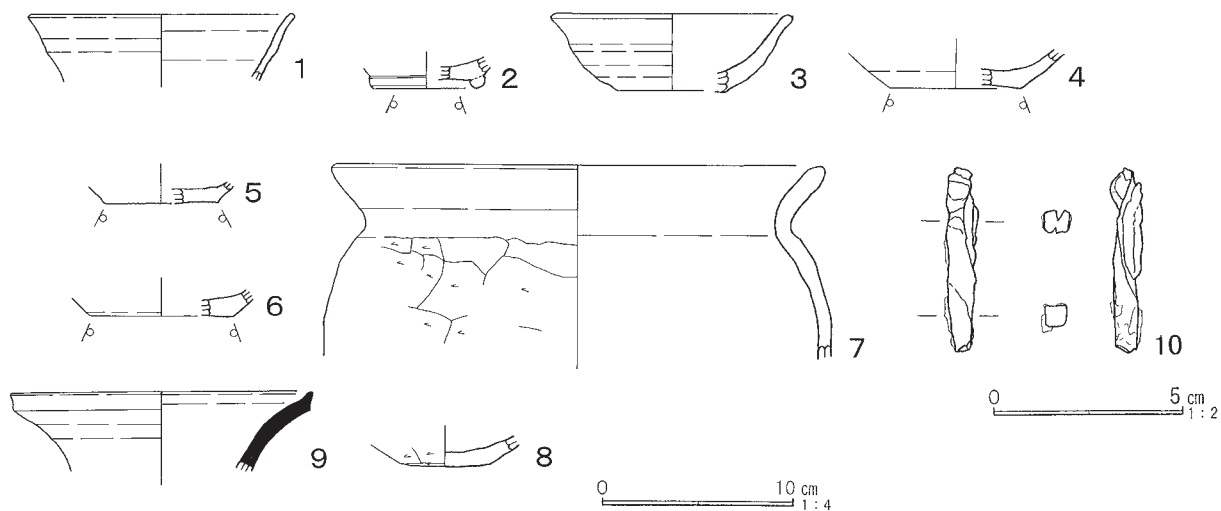


第11図 第5号竪穴建物跡

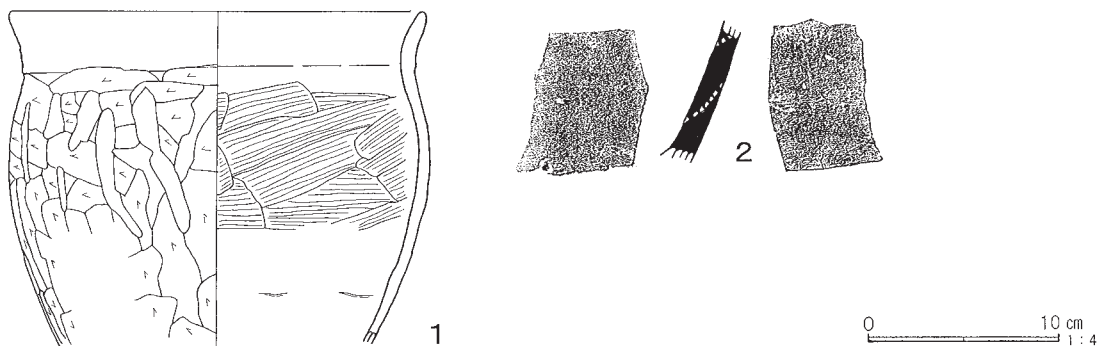
SI3



SI4



SI5



第12図 第3～5号竪穴建物跡出土遺物

第4表 第3号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第12図)

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
12	SI3 1	須恵系土師質土器 碗	(11.5)	4.7	6.8	ABEN	A	浅黄橙色、橙色	45%	
12	SI3 2	須恵系土師質土器 坏(碗)	(12.1)	3.2	—	AEKN	A	にぶい黄橙色	口縁部20%	
12	SI3 3	須恵系土師質土器 坏	—	(0.8)	(5.8)	ACJK	A	にぶい黄橙色、黄灰色	底部40%	
12	SI3 4	須恵系土師質土器 坏	—	0.6	(6.5)	ABHJK	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	底部60%	
12	SI3 5	須恵系土師質土器 碗	—	3.1	—	BEM	B	橙色	底部付近破片	
12	SI3 6	ロクロ土師器 坏	(9.2)	2.8	5.5	AND	A	明黄褐色	55%	

第5表 第4号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第12図)

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
12	SI4 1	須恵系土師質土器 碗	(14.1)	13.6	—	ADIJK	B	浅黄橙色	口縁部15%	
12	SI4 2	須恵系土師質土器 碗	—	1.1	(5.5)	A	B	黒色	底部20%	
12	SI4 3	ロクロ土師器 坏	(12.8)	4.1	(5.7)	CHN	C	橙色	口縁部15%	

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
12	SI4 4	ロクロ土師器 坏	—	1.8	(7.0)	EH	C	にぶい黄橙色	底部付近25%		
12	SI4 5	ロクロ土師器 坏	—	0.9	(6.1)	ABEO	B	にぶい黄橙色	底部15%		
12	SI4 6	ロクロ土師器 坏	—	0.9	(17.5)	EG	C	橙色	底部20%		
12	SI4 7	土師器 甕	(26.1)	10.2	—	ABEJK	B	外面：黒褐色、灰黄褐色 内面：灰黄褐色	口縁部～胴部 上半30%		
12	SI4 8	土師器 甕	—	1.1	(4.8)	ABEIK	B	外面：橙色 内面：にぶい橙色	底部50%		
12	SI4 9	須恵器 壺	(16.0)	4.2	—	AE	A	灰色	口縁部15%		
12	SI4 10	鉄釘	残存長4.9 最大幅 (0.6)							頭部、先端と も欠損	

第6表 第5号竪穴建物跡出土遺物観察表（第12図）

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
12	SI5 1	土師器 甕	21.9	17.6	—	ABHK	A	にぶい橙色、にぶい黄橙色	40%	
12	SI5 2	須恵器 壺	厚さ1.0～1.2			ABDN	A	外面：灰色 内面：黄灰色	底部付近破片	末野産。

（2）掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第13～15図、第7表）

調査区の南西部に位置する。座標X=21,075～21,095、Y=-44,980～-44,990内にある。第2・3号掘立柱建物跡、第8号土坑、第4号溝跡と重複関係にあり、本遺構は、第8号土坑、第4号溝跡に切られ、第2号掘立柱建物跡を切っている。なお、第3号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

3間×5間以上と推定される側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行13.0m以上、梁行4.0m以上、調査区域内での面積は約61.3㎡を測る。柱間は、桁行が北から3.0m-2.1m-2.4m-2.7m-2.7m、梁行が約3mを測る。主軸方位は、N-10°-Eを指す。

柱穴は基本的に隅丸長方形の掘方で、長軸0.90～1.26m、短軸0.60～0.76mである。桁行側の掘方は南北に長く、梁行側の掘方はやや楕円形で、梁行の軸方向とは斜めに交差する形である。掘方の深さは、P4・P5・P6で確認面から22～29cmを測る。

確認できた柱はまちまちで、掘方の中央部付近のものと南側に寄っているものがあった。柱痕跡は、いずれの柱穴でも確認できなかったが、平面確認の柱痕跡から推定すると、柱の直径は約30cmと推定される。

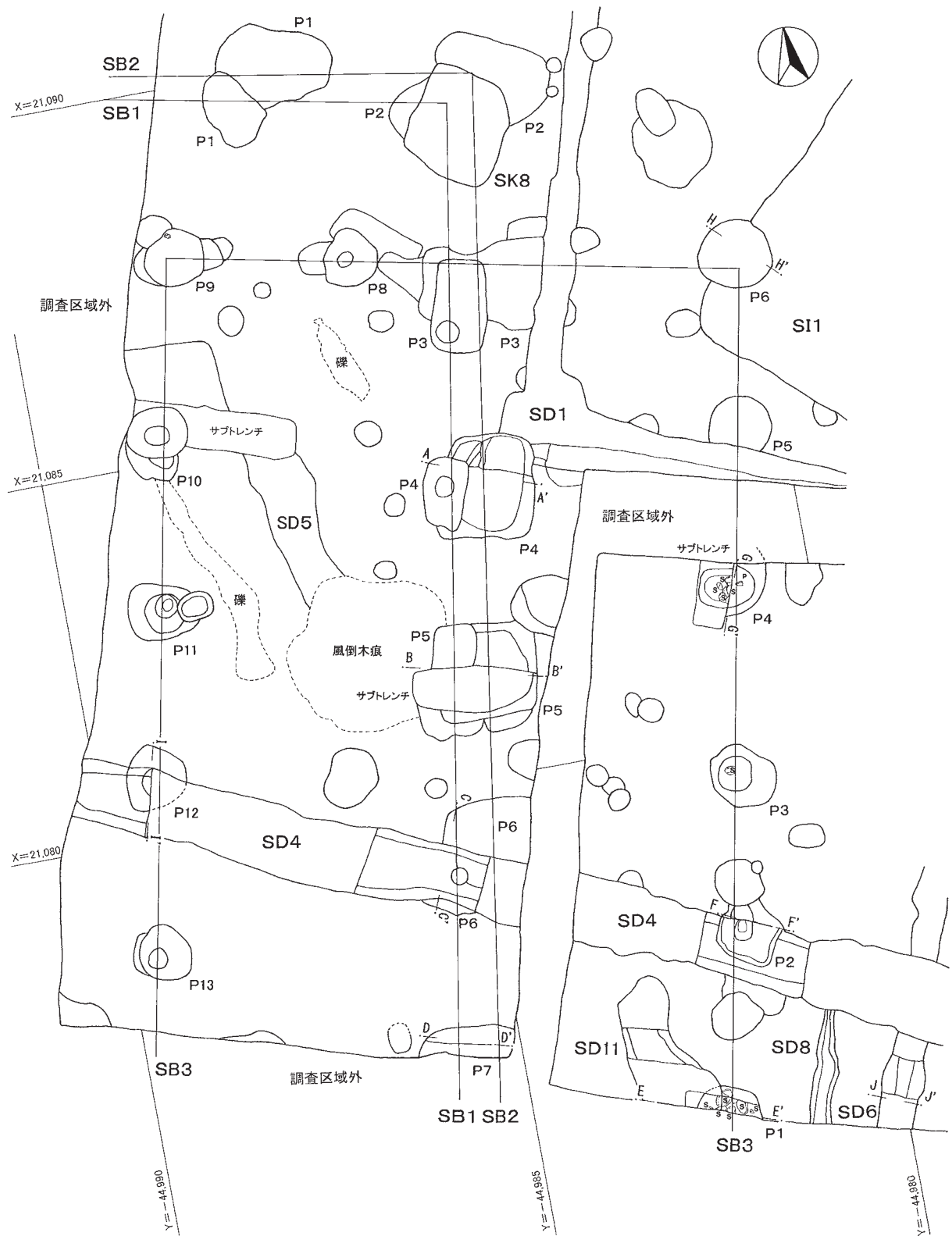
出土遺物は、P3で須恵器坏、土師器甕、P4で土師器坏が検出された。

時期は、9世紀末～10世紀初頭と考えられる。第15図1は、第2号掘立柱建物跡からの混入の可能性が考えられる。

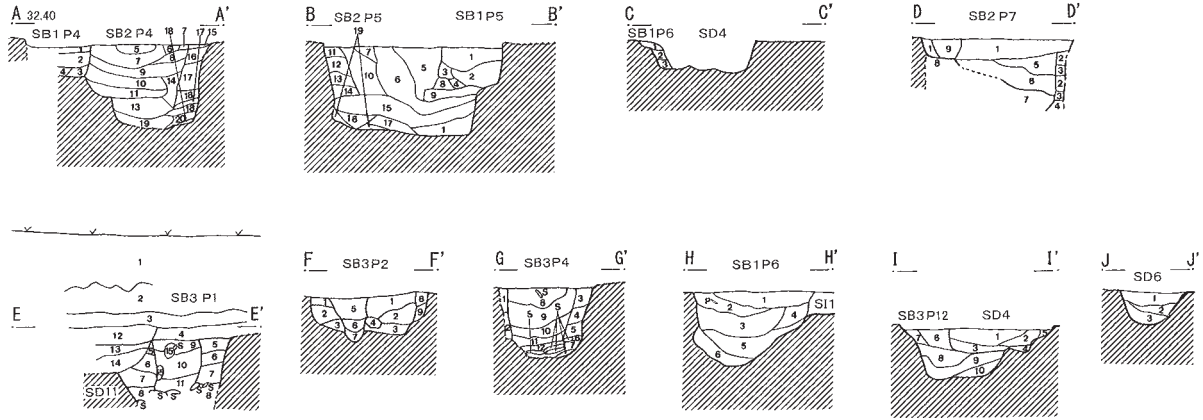
第2号掘立柱建物跡（第13～15図、第8表）

調査区の南西部に位置する。座標X=21,075～21,095、Y=-44,980～-44,990内にある。第1・3号掘立柱建物跡、第8号土坑、第1・4号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第1号掘立柱建物跡、第8号土坑、第1・4号溝跡に切られている。なお、第3号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

3間×5間以上と推定される側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行13.4m以上、梁行4.3m以上、調査区域内での面積は約68.7㎡を測る。柱間は、桁行が北から3.0m-2.5m-2.5m-2.5m-2.7m、梁行が約



第13図 第1～3号掘立柱建物跡、第8号土坑、第1・4～6・8・11号溝跡



土層説明(A-A')

SB1P4

- 1 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土微粒子多量、焼土粒わずか含
 - 2 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土ブロック大・粒子多量、炭化物粒若干含
 - 3 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量、黒色土粒子若干含
 - 4 灰黄褐色土 しまる
- SB2P4**
- 5 黒褐色土 かたくしまる、ソフトローム土ブロック粒子多量、黒色土ブロック大若干含
 - 6 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干含
 - 7 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量、黒色土粒子少量含
 - 8 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子わずか含、土器包含
 - 9 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子少量、黒色土粒子わずか含
 - 10 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子多量、黒色土粒子少量、にぶい黄褐色ブロック若干含
- SB3P1**
- 11 黒色土 しまる、ソフトローム土粒子若干、黒色土粒子若干含
 - 12 にぶい黄黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子ごくわずか含
 - 13 灰黄褐色土 ややしりない、ソフトローム土ブロック多量と黒色土粒子少量まだら状含
 - 14 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子若干、ソフトローム土粒子わずか含
 - 15 暗褐色土 しまる、黒色土ブロック、焼土粒多量含
 - 16 にぶい黄黒褐色土 しまる、黒褐色土多量に混入、ソフトローム土粒子若干、黒色土粒子わずか含
 - 17 黒色土 しまる、ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土粒子少量含
 - 18 黒色土 しまる
 - 19 黒褐色土 ややしめる、黒色土ブロック多量含、ハードローム土粒子少量含
 - 20 ハードローム土 しまる、黒色土混じり、礫若干含

土層説明(B-B')

SB1P5

- 1 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土粒子・ブロック少量、黒色土粒子少量、焼土粒含
 - 2 暗褐色土 ややしりない、ソフトローム土ブロック・粒子少量、ハードローム土ブロック大若干含
 - 3 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子若干含
 - 4 黒褐色土 しりない、ソフトローム土微粒子少量
- SB2P5**
- 5 黒褐色土 しりない、ソフトローム土微粒子わずか含、黒色土微粒子わずか含
 - 6 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子・粒子少量、礫少量含
 - 7 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量、黒色土粒子若干含
 - 8 黒褐色土 しまる、ソフトローム土ブロック多量に含み70%程占める
 - 9 黒褐色土 黒色土多量にブロック状に混入、ソフトローム土粒子少量含
 - 10 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子・微粒子若干、黒色土ブロック大若干、礫若干含
 - 11 暗褐色土 ややしりない、ソフトローム土粒子わずか、黒色土粒子わずか含
 - 12 暗褐色土 しまる、ソフトローム土ブロック大わずか、ソフトローム土微粒子少量含
 - 13 黒褐色土 かなかくしまる、黒色土ブロック大非常に多く含み80%程占める、ソフトローム土粒子わずか含
 - 14 黒色土 ややしめる、礫わずか含
 - 15 灰黄褐色土 かなかくしまる、ソフトローム土粒子多量、黒色土粒子少量がまだら状に含、礫少量含
 - 16 にぶい黄褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子混じり、礫少量含
 - 17 オリーブ黒色土 ややしりない、大礫わずか含
 - 18 にぶい黄褐色土 比較的しまる、礫多量含、ソフトローム土粒子わずか、ハードローム土混入
 - 19 黒色土 ややしめる

土層説明(C-C')

SB1P6

- 1 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土微粒子少量含
- 2 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土微粒子若干含
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム土多量に混入し、にぶい黄色呈する

土層説明(D-D')

SB2P7

- 1 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子多量にまだら状に含、炭化物粒わずか、小礫少量含
- 2 黄灰色土 ややしめる、ソフトローム土微粒子若干含
- 3 灰色土 しまる、ソフトローム土微粒子わずか含
- 4 黒褐色土 しまる
- 5 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子若干、ハードローム土粒子若干含
- 6 黒褐色土 ややしめる、ハードローム土粒子わずか、小礫少量含
- 7 オリーブ黒色土 ハードローム土粒子ごくわずか、小礫少量含
- 8 黒色土 ややしめる、ソフトローム土粒子ごくわずか含
- 9 攪乱

土層説明(E-E')

SB3P1

- 1 耕作土
- 2 黄灰色土 小礫・礫多量に含
- 3 褐灰色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか、小礫少量含
- 4 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、炭化物若干、黒色土ブロック若干含む
- 5 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック若干含
- 6 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子少量、炭化物粒わずかに含
- 7 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子少量、黒色土粒子若干、炭化物粒わずか含
- 8 黒色土 ソフトローム土粒子・ブロック多量、黒色土ブロック大含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干、礫、黒色土ブロックわずか含
- 10 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量、黒色土わずか、炭化物粒わずか含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒わずか含
- 12 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒わずか、小礫若干含
- 13 オリーブ黒色土 炭化物粒多量含
- 14 暗オリーブ褐色土 ソフトローム土微粒子少量、礫、炭化物粒わずか含
- 15 攪乱

土層説明(F-F')

SB3P2

- 1 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック若干含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子少量、炭化物粒わずか含
- 3 黒色土 ソフトローム土粒子・ブロック多量、黒色土ブロック大含
- 4 黒色土ブロック
- 5 暗オリーブ褐色土 ソフトローム土粒子・ブロック多量、焼土粒含
- 6 黒褐色土 ソフトローム土粒子ごくわずか、炭化物粒わずか含
- 7 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量含
- 8 黒褐色土 ソフトローム土粒子多量、炭化物粒わずか含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土粒子多量含

土層説明(G-G')

SB3P4

- 1 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
- 3 黒褐色土 ソフトローム土微粒子多量に含みにぶい黄色土帯びる、ソフトローム土粒子若干、黒色土ブロック少量含
- 4 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量含みにぶい黄色土若干帯びる
- 5 ソフトローム土ブロックと黒色土ブロック混合層
- 6 黒褐色土 焼土粒わずか含
- 7 ソフトローム土ブロックと黒色土ブロック混合層
- 8 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干、礫、黒色土ブロックわずか含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土微粒子・粒子少量含
- 10 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量、黒色土わずか、炭化物粒わずか含
- 11 黒褐色土 トローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック少量含
- 12 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒含、礫礫含

土層説明(H-H')

SB3P6

- 1 黒褐色土 ソフトローム土粒子多量にまだらに含、炭化物粒少量含
- 2 黄灰色土 ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒わずか含、土器包含
- 3 暗オリーブ褐色土 ソフトローム土粒子少量、炭化物粒わずか含
- 4 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子若干含、炭化物粒わずか含
- 5 黒褐色土 ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土粒子わずかに含
- 6 暗灰色土 ソフトローム土粒子若干含

土層説明(I-I')

SD4

- 1 オリーブ黒色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒・焼土粒わずか含
 - 2 灰色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子わずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
 - 3 灰色土 ややしりない、ソフトローム土ブロック・粒子若干、焼土粒ごくわずか含
 - 4 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子非常に多く含
 - 5 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子多量含
- SB3P12**
- 6 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土粒子若干、小礫含
 - 7 オリーブ黒色土 ソフトローム土粒子多量含
 - 8 黄灰色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 - 9 暗灰色土 ソフトローム土ブロック・粒子・微粒子多量、オリーブ黒色土ブロック・粒子少量含
 - 10 黒褐色土 ややしりない、ソフトローム土粒子若干含

土層説明(J-J')

SD6

- 1 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、黄灰色土粒子わずか含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか、ハードローム土粒子若干含
- 3 オリーブ黒色土 ソフトローム土粒子・ブロック多量、黄灰色土粒子わずか含



第14図 第1～3号掘立柱建物跡、第4・6・11号溝跡土層断面

2.7～3.0mを測る。主軸方位は、N-9°-Eを指す。

柱穴は基本的に隅丸正方形の掘方で、長軸1.3～1.6m、短軸1.1～1.3mである。桁行側の掘方は正方形ないしは桁行軸に直交する東西に長い長方形であるのに対し、梁行側の掘方は楕円形ないしは不整形な楕円形で、梁行の軸方向に沿って長いものであるが、隅柱の掘方は長軸が隅行方向から90°外に向くものである。掘方の深さは、P4・P5で確認面から68cmを測る。

柱は、柱痕跡と考えられる痕跡を残すもの（P7）と、抜き取られているもの（P4・P5）がある。出土遺物は、P1で須恵器甕、P4で土師器坏が検出された。

時期は、9世紀後半と考えられる。

第3号掘立柱建物跡（第13～15図、第9表）

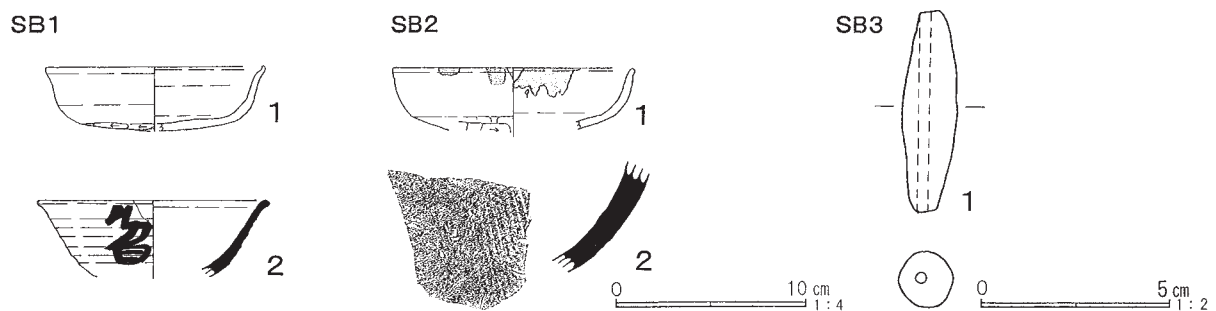
調査区の南西部に位置する。座標X=21,070～21,090、Y=-44,975～-44,990内にある。第1・2号掘立柱建物跡、第1号竪穴建物跡、第1・4・11号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第1号竪穴建物跡を切り、第1・4・11号溝跡に切られている。なお、第1号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。また、第2号掘立柱建物跡とは、本遺構が切っていると推定されるが平面確認ができなかった。

3間×5間以上と推定される側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行11.4m以上、梁行7.76m、調査区域内での面積は約84.8㎡を測る。柱間は、桁行が北から全て2.4m、梁行が約2.4～2.7mを測る。主軸方位は、N-10°-Eを指す。

柱穴は基本的に円形ないしは楕円形の掘方で、長軸0.8～1.0m、短軸0.7～1.0mである。掘方の深さは、P2で確認面から30cm、P4で54cm、P6で58cm、P12で42cmを測る。なお、P7については平面確認ができなかった。P1、P4、P10では、柱の沈下を防ぐ礎板が確認され、P1・P4は扁平な河原石を使用し、P10では緑泥片岩の板石を使用していた。

柱は、柱痕跡を残すものが、P1、P2、P4で確認された。また、P3、P8、P12では、平面確認で柱痕跡が確認できた。柱痕跡から、柱の直径は20～40cmと推定される。

出土遺物は、P10で土錘が、図示できなかったがP1で須恵系土師質土器坏が検出された。



第15図 第1～3号掘立柱建物跡出土遺物

第7表 第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第15図）

掘出番号	図版番号	出土位置	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
15	SB1 1	P4	土師器 坏	(11.6)	3.4	(8.4)	BGIN	B	明赤褐色	50%	
15	SB1 2	P3	須恵器 坏(瓿)	(12.3)	4.1	—	ABGL	A	灰色	20%	末野産。 墨書「公白」か。

第8表 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第15図）

編年番号	図版番号	出土位置	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
15	SB2 1	P4	土師器 環	(12.8)	3.3	—	BIN	B	明赤褐色	10%	口縁部にタール付着、灯明皿用途。
15	SB2 2	P1	須恵器 甕	厚さ1.0~1.2		—	ABLM	A	外面：黄灰色 内面：灰色	胴部破片	外面：格子叩き。 内面：ナデ。 未野産。

第9表 第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第15図）

編年番号	図版番号	出土位置	器種	法量	色調	残存率	備考
15	SB3 1	P10	土錘	最大長5.2 最大幅0.9 孔径0.3 重量9.9	にぶい黄色、にぶい橙色	98%	

時期は、10世紀後半と考えられる。

第4号掘立柱建物跡（第16・17図）

調査区の中央部やや南寄りに位置する。座標 X = 21,075 ~ 21,090、Y = -44,965 ~ -44,975 内にある。第5 ~ 7号掘立柱建物跡、第2・4号竪穴建物跡、第1号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第2号竪穴建物跡を切り、第5号掘立柱建物跡、第4号竪穴建物跡、第1号溝跡に切られている。なお、第6・7号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

2間×3間の側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行7.1m、梁行4.2m、面積は約29.8㎡を測る。柱間は、桁行が北から2.4m-2.4m-2.3m、梁行が北側で西から1.9m-2.3mを測る。主軸方位は、N-8°-Eを指す。

柱穴は基本的に隅丸形状の楕円形の掘方で、長軸0.76~1.00m、短軸0.60~0.92mである。掘方の深さは、P2で確認面から46cmを測る。また、P2の掘方は、階段状の断面を呈している。

柱は、柱痕跡を残すもの（P2）がある。柱痕跡から、柱の直径は約25cmと推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

時期は、第2号掘立柱建物跡とほぼ主軸方位が合うことと、梁行の北側のラインが並行することから同時期の可能性が考えられる。

第5号掘立柱建物跡（第16・17図）

調査区の中央部やや南寄りに位置する。座標 X = 21,075 ~ 21,090、Y = -44,965 ~ -44,975 内にある。第4・6・7号掘立柱建物跡、第2・4号竪穴建物跡、第1号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第2号竪穴建物跡、第4号掘立柱建物跡を切り、第4号竪穴建物跡、第1号溝跡に切られている。なお、第6・7号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

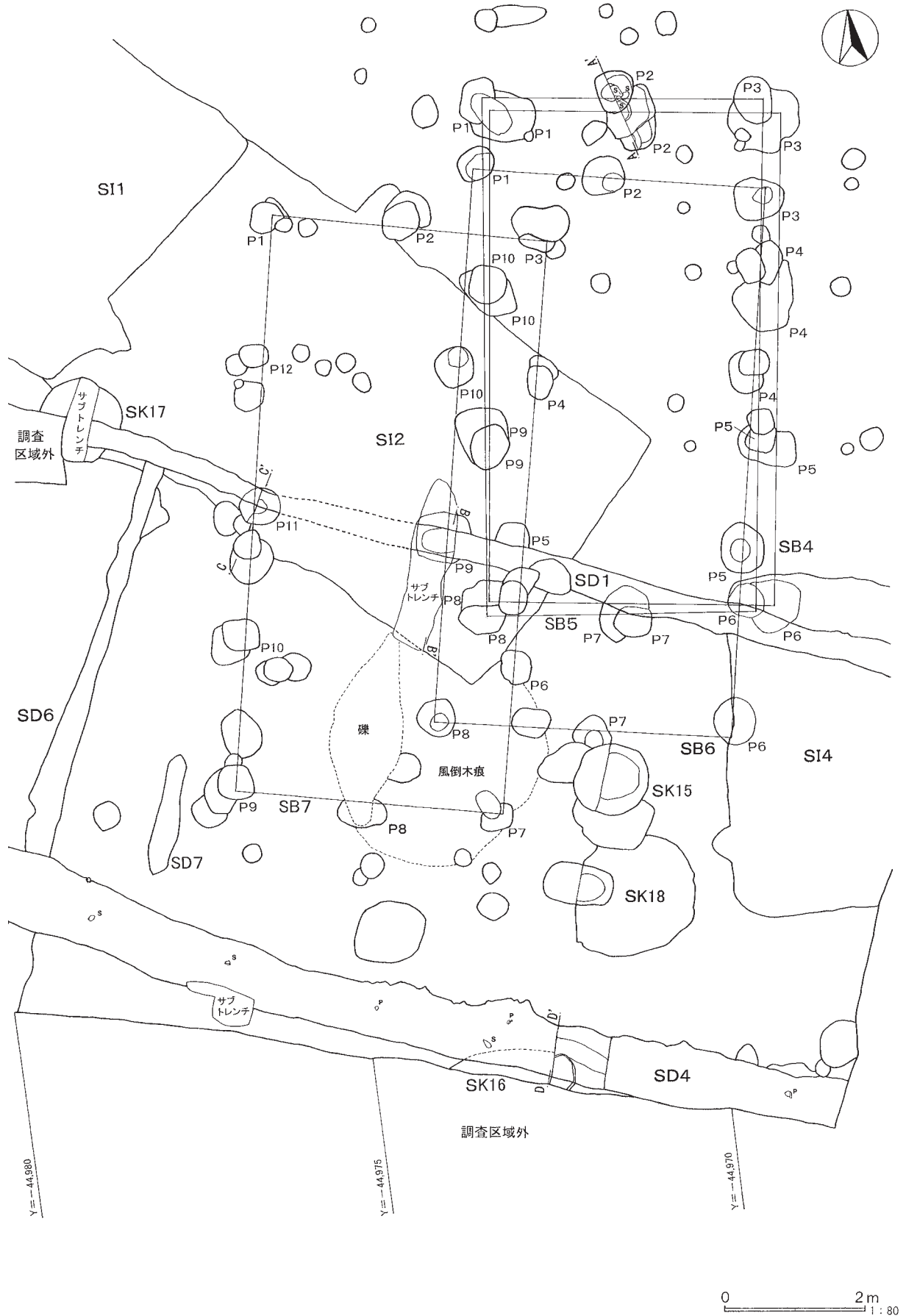
2間×3間の側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行7.3m、梁行4.2m、面積は約30.7㎡を測る。柱間は、桁行が北から2.4m-2.4m-2.5m、梁行が北側で西から1.9m-2.3mを測る。主軸方位は、N-8°-Eを指す。

柱穴は基本的に楕円形の掘方で、長軸0.52~0.68m、短軸0.40~0.54mである。掘方の深さは、P2で確認面から34cmを測る。P2では、柱の沈下を防ぐ礎板が確認され、扁平な河原石を使用していた。

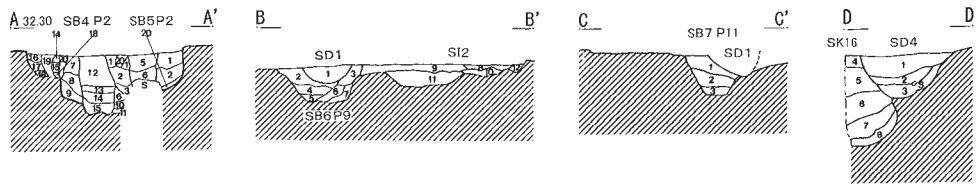
柱は、柱痕跡を残すもの（P2）と、抜き取りと考えられるもの（P1）がある。柱痕跡から、柱の直径は約24cmと推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

時期は、第2号掘立柱建物跡とほぼ主軸方位が合うことと、梁行の北側のラインが並行することから



第16図 第4～7号掘立柱建物跡、第15～18号土坑、第1・4・6・7号溝跡



土層説明(A-A')

SB5P2

- 1 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子・微粒子少量、暗灰色土粒子ごくわずか含
- 2 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子・微粒子多量、暗灰色土粒子若干含
- 3 オリーブ黒色土 かたくしまる、ソフトローム土粒子若干含
- 4 暗灰色土 かたくしまる、ソフトローム土粒子わずか含
- 5 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量含
- 6 黒色土 しまる、ソフトローム土粒子少量含

SB4P2

- 7 オリーブ黒色土 しまる、ソフトローム土粒子若干、暗灰色土粒子若干含
- 8 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子少量、暗灰色土粒子若干含
- 9 黒色土 かたくしまる、ソフトローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック多量含
- 10 ソフトローム土 黒色土
- 11 黒色土 かたくしまる、ソフトローム土粒子少量、暗灰色土粒子少量、炭化物粒若干含
- 12 黒褐色土 かたくしまる
- 13 オリーブ黒色土 しまる、ソフトローム土粒子多量含
- 14 オリーブ黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック若干含
- 15 オリーブ黒色土 しまる、若干粘性有、ソフトローム土粒子若干含
- 16 黒褐色土 黒色土混じり、ソフトローム土微粒子ごくわずか、ソフトローム土ブロックごくわずか含
- 17 黒色土 黒色土若干混じる
- 18 にぶい黄褐色土 黒色土若干混じる
- 19 ソフトローム土 黒褐色土若干混じる
- 20 根の攪乱

土層説明(B-B')

SB6P9

- 1 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、焼土粒・炭化物粒若干、小礫含
- 2 黒褐色土 黒色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子ごくわずか、ソフトローム土粒子若干、炭化物粒含
- 3 黒褐色土 若干しまる、黒色土粒子わずか、ソフトローム土粒子少量含
- 4 黒褐色土 かたくしまる、ソフトローム土粒子少量含
- 5 黒色土 ややしまる、ソフトローム土粒子少量含
- 6 黒色土 ややしまる
- 7 黒褐色土 ややしまらない、ソフトローム土粒子多量、小礫わずか含

SI2

- 8 黒褐色土 ソフトローム土ブロック若干含
- 9 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子少量、黒色土粒子若干含
- 10 にぶい黄色土 灰黄褐色土混じり
- 11 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量、黒色土粒子若干、小礫含
- 12 にぶい黄褐色土 黒褐色土粒子多量含

土層説明(C-C')

SB7P11

- 1 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒わずか含
- 2 黒褐色土 ややしまる、ソフトローム土粒子若干、小礫含
- 3 オリーブ黒色土 しまる、ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(D-D')

SD4

- 1 黒褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物若干、礫や小礫少量含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、小礫含
- 3 黒色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量含

SK16

- 4 オリーブ黒色土 焼土粒・炭化物粒わずか含
- 5 暗オリーブ褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒・焼土粒若干含
- 6 黒色土 ソフトローム土粒子若干含
- 7 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子わずか、炭化物粒若干含
- 8 黒褐色粘質土 ややしまる、ソフトローム土粒子わずか含



第17図 第4～7号掘立柱建物跡、第4号溝跡、第16号土坑土層断面

同時期の可能性が考えられ、さらに、第4号掘立柱建物跡とも同様の状況から、さほど時期を違えず第4号掘立柱建物跡とは建替えの関係にあると推定される。

第6号掘立柱建物跡 (第16・17図)

調査区の中央部やや南寄りに位置する。座標 X = 21,075 ~ 21,090、Y = -44,965 ~ -44,975 内にある。第4・5・7号掘立柱建物跡、第2・4号竪穴建物跡、第1号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第2号竪穴建物跡を切り、第4号竪穴建物跡、第1号溝跡に切られている。なお、第5・7号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

2間×3間の側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行7.9m、梁行4.2m、面積は約33.2㎡を測る。柱間は、桁行が北から2.6m-2.6m-2.7m、梁行が北側で西から2.0m-2.1mを測る。主軸方位は、N-10°-Eを指す。

柱穴は基本的に楕円形の掘方で、長軸0.54~0.78m、短軸0.46~0.70mである。掘方の深さは、P9で確認面から30cmを測る。

柱は、平面確認により7柱穴 (P1~P3・P5・P7・P8・P10) で柱痕跡が確認された。その柱痕跡から、柱の直径は約24~30cmと推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

時期は、第1号掘立柱建物跡と主軸方位が合うことと、第4・5号掘立柱建物跡と第7号掘立柱建物跡との関係から第1号掘立柱建物跡と同時期の可能性が推定される。

第7号掘立柱建物跡 (第16・17図)

調査区の中央部やや南寄りに位置する。座標 X = 21,075 ~ 21,090、Y = -44,970 ~ -44,980 内にある。第4・5・6号掘立柱建物跡、第2号竪穴建物跡、第1号溝跡等と重複関係にあり、本遺構は、第2号

竪穴建物跡を切り、第1号溝跡に切られている。なお、第4～6号掘立柱建物跡とは直接切り合いの関係にはない。

2間×4間の側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行8.3m、梁行4.0m、面積は約33.2㎡を測る。柱間は、桁行が北から2.0m－2.3m－1.9m－2.1m、梁行が北側で西から1.9m－2.1mを測る。主軸方位は、N－11°－Eを指す。

柱穴は基本的に円形ないしは隅丸方形の掘方で、長軸0.42～0.60m、短軸0.32～0.50mである。掘方の深さは、P11で確認面から33cmを測る。

柱は、柱痕跡を残すものではなく、P7で抜き取りと考えられる痕跡を平面確認した。

出土遺物は、検出できなかった。

時期は、第3号掘立柱建物跡とほぼ主軸方位が合うことと、梁行の北側のラインがほぼ並行することから同時期の可能性が考えられる。

(3) 土坑

土坑は18基確認された。このうち、一部掘り下げを行ったものや出土遺物が図示できたもの等について記述する。

第1号土坑（第9・18～20図、第10表）

調査区の中央部北寄りに位置する。座標X=21,085～21,095、Y=-44,965～-44,970内にある。

第3号竪穴建物跡、第3号溝跡と重複関係にあり、本遺構が、第3号竪穴建物跡及び第3号溝跡を切っている。

規模は、東部の一部が調査区域外となり不明であるが、検出長軸1.94m、短軸1.62mを測る。平面プランは、不整形な楕円形を呈すると推定される。深さは、土層断面観察から53cmを測る。

出土遺物は、多数出土しており、土師器坏・羽釜、須恵器壺・甕、須恵系土師質土器碗、ロクロ土師器坏、黒色土器碗等が検出された。

時期は、第3号竪穴建物跡との切り合いも考慮に入れると、11世紀前半と考えられる。

第2号土坑（第21・24図、第11表）

調査区の西部北寄りに位置する。座標X=21,090～21,100、Y=-44,980～-44,990内にある。

第6号土坑、第3号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、第3号溝跡を切り、第6号土坑に切られている。

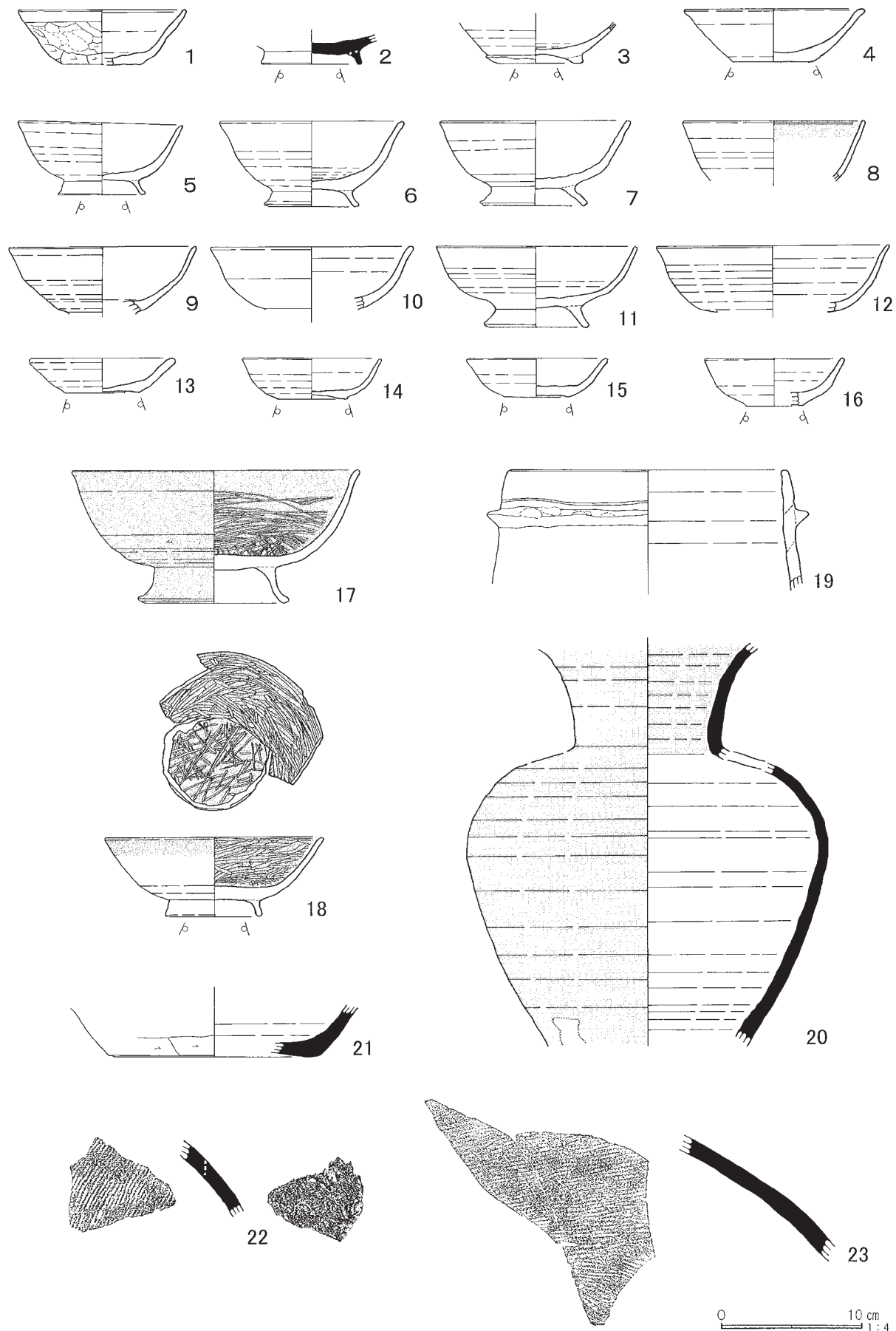
規模は、西部の一部が調査区域外となっているが、長軸4.50m、短軸4.36mを測る。平面プランは、やや不整形な隅丸方形を呈する。深さは、土層断面観察から80cmを測る。

出土遺物は、土師器坏・鉢・甕・壺、須恵器碗、須恵系土師質土器碗等が検出され、「万」等の墨書が見られる土器や、底部内面に墨が付着する転用硯も見られた。なお、土師器壺は混入品と考えられる。

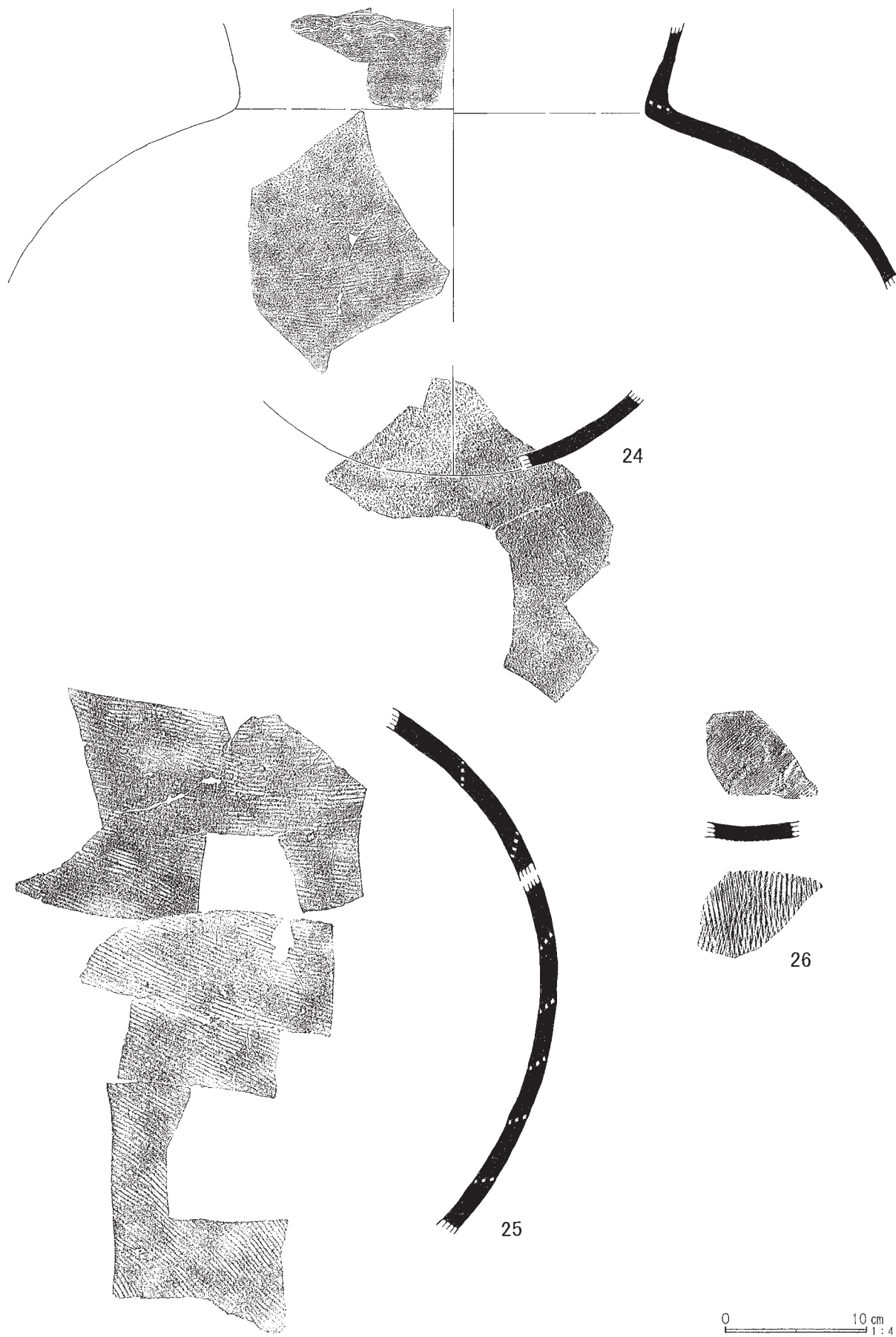
時期については、出土土器を見ると9世紀末～10世紀後半と考えられることから、第3号溝跡を切っているが、共存していた可能性も考えられる。

第3号土坑（第22・24図、第12表）

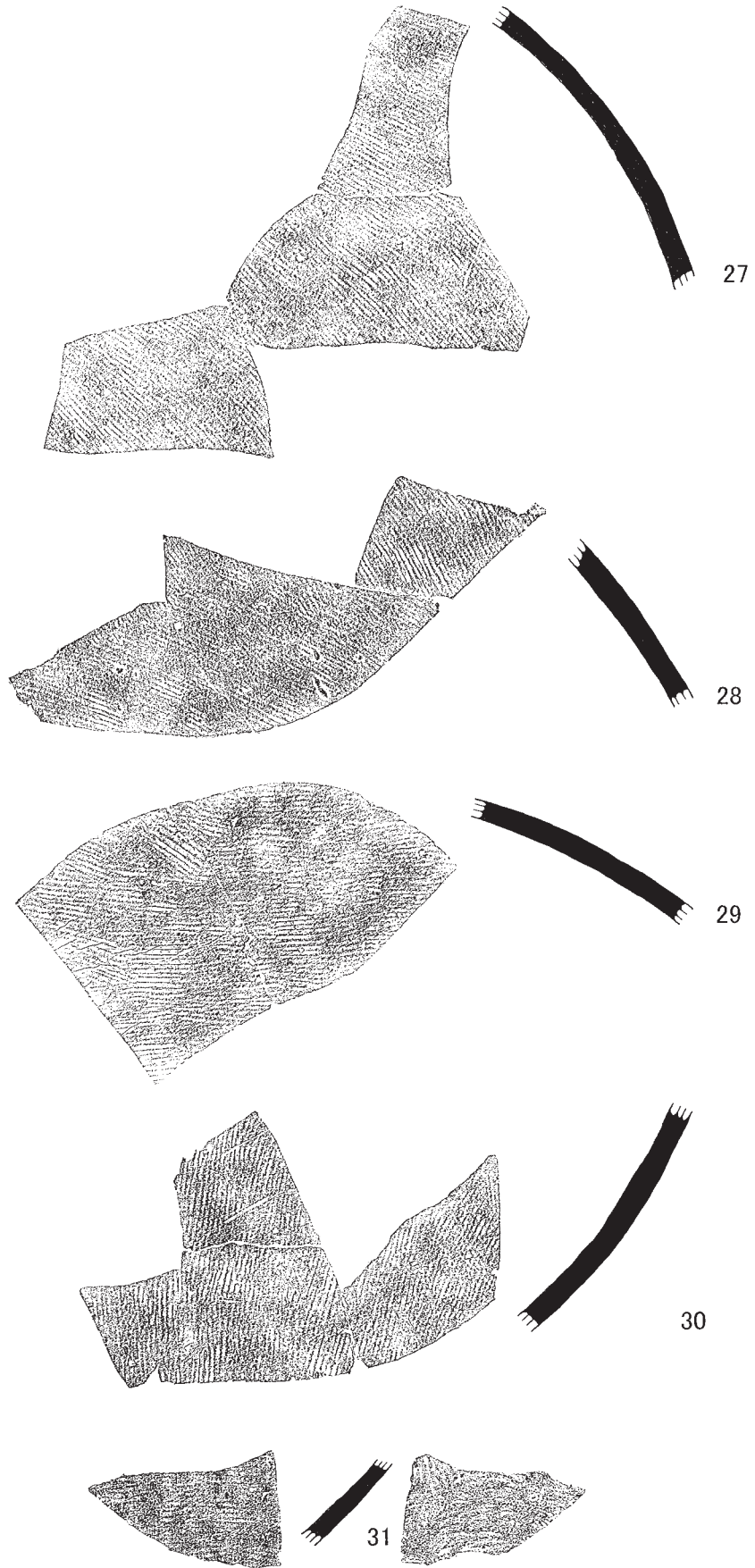
調査区の中央部北寄りに位置する。座標X=21,090～21,100、Y=-44,970～-44,980内にある。



第18图 第1号土坑出土遺物(1)



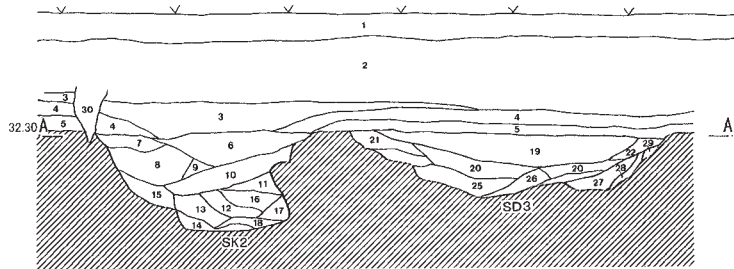
第19图 第1号土坑出土遺物（2）



第20图 第1号土坑出土遺物（3）

第10表 第1号土坑出土遺物観察表(第18~20区)

標本番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
18	1	ロクロ土師器 環	(12.0)	3.9	(5.6)	AEHJN	A	にぶい橙色	25%	
18	2	須恵器 壺	—	2.1	7.2	ABEGHL	B	灰色、黄灰色	底部80%	末野産。
18	3	須恵系土師質土器 壺	—	(2.7)	6.9	ABDIN	B	外面：灰黄色 内面：灰色	底部70%	
18	4	ロクロ土師器 環	(12.8)	3.8	5.9	BEI	B	橙色、灰黄褐色	50%	
18	5	ロクロ土師器 壺	11.7	5.4	6.2	ABEHN	A	外面：にぶい橙色 内面：橙色	90%	
18	6	須恵系土師質土器 壺	(13.1)	6.1	6.7	ABDEHKN	A	橙色	55%	
18	7	ロクロ土師器 壺	13.6	6.1	7.6	ABDEIN	A	にぶい橙色、明黄褐色	70%	歪みあり。
18	8	ロクロ土師器 壺	(13.0)	4.3	—	ABDGK	A	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	20%	内面ヘラミガキ後口縁部付近のみ 黒色処理。
18	9	ロクロ土師器 壺	(13.4)	4.8	—	ADHKM	A	橙色	25%	
18	10	ロクロ土師器 壺	(24.5)	(4.6)	—	ABDE	A	外面：にぶい橙色 内面：橙色	25%	
18	11	ロクロ土師器 壺	(14.3)	5.8	7.4	ABHJO	B	にぶい褐色、橙色	60%	
18	12	ロクロ土師器 壺	(16.7)	4.7	—	ABCG	B	暗灰黄色	30%	外面にスラグ付着。 内外面炭化して黒色化。
18	13	ロクロ土師器 環	(10.4)	2.4	(5.2)	AM	A	橙色	50%	底部内面が黒色化(炭化物付着か)。
18	14	ロクロ土師器 環	(9.9)	2.9	5.0	ABDI	B	外面：灰黄褐色 内面：褐灰色	50%	
18	15	ロクロ土師器 環	(10.0)	2.7	4.7	ABEHN	B	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	40%	体部まで底部糸切痕が及ぶ。
18	16	ロクロ土師器 環	(10.0)	3.4	(4.0)	ADEH	B	外面：黒褐色 内面：褐灰色	45%	外面の一部に煤付着。
18	17	黒色土器 壺	(20.5)	9.5	10.7	ABDEHIKN	A	灰白色	底部25%	外面口縁部付近黒色処理。内面黒 色処理、ヘラミガキ。
18	18	黒色土器 壺	(15.6)	5.7	6.8	ABEIJ	A	外面：にぶい黄橙色 内面：黒色	45%	内面黒色処理、ヘラミガキ。 外面の口縁部のみ黒色処理。
18	19	土師器 羽釜	(20.0)	8.2	—	AEKN	C	橙色、明黄褐色	口縁部10% 以下	
18	20	灰釉陶器 長頸瓶	頸部径(10.5) 胴部最大径(25.8)			AB	A	灰色	頸部10%以下	内外面とも施釉(灰釉)。
18	21	須恵器 壺	—	(3.5)	(15.2)	ABDKLN	B	灰色	底部破片	末野産。
18	22	須恵器 甗	厚さ0.9~1.0			AEH	A	外面：暗青灰色 内面：青灰色	胴部破片	外面：平行叩き、カキ目。 内面：青海波文あて具痕。
18	23	須恵器 甗	厚さ1.0~1.2			AFGLN	A	外面：暗赤灰色 内面：暗紫灰色	胴部上半(肩 部付近)破片	外面：平行叩き、自然釉。 内面：あて具痕。 南比企産。
19	24	須恵器 甗	頸部径(38.4) 器高(23.0)			ALN	A	外面：暗灰色、暗青灰色 内面：暗紫灰色	口縁部、肩部、 底部破片	外面：平行叩き、肩部・底部に自 然釉。 内面：あて具痕。
19	25	須恵器 甗	厚さ1.1~1.3			ADFN	A	外面：暗青灰色、暗赤灰色 内面：暗赤灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：あて具痕。 南比企産。
19	26	須恵器 甗	厚さ1.0~1.1			ABN	A	灰色	破片	外面：平行叩き。 内面：平滑になっていて、転用硯 用途か。 端部：丁寧に平滑に加工されてい る面が一面残る。
20	27	須恵器 甗	厚さ1.0~1.2			AFGN	A	外面：暗灰色 内面：暗赤灰色	胴部上半破片	外面：平行叩き、一部に自然釉。 内面：あて具痕。 南比企産。
20	28	須恵器 甗	厚さ1.2~1.3			AFGN	A	外面：暗灰色 内面：暗紫灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：あて具痕。 南比企産。
20	29	須恵器 甗	厚さ1.1~1.2			AEFGN	A	外面：暗灰色 内面：青灰色、暗赤灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：あて具痕。 南比企産。
20	30	須恵器 甗	厚さ1.2~1.4			AFGN	A	外面：暗灰色 内面：暗赤色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：あて具痕。 南比企産。
20	31	須恵器 甗	厚さ0.8~1.0			ABN	A	暗青灰色	胴部破片	外面：格子叩き後、ナデ消し。 内面：青海波文あて具痕。



土層説明(A-A')

- 1 耕作土
- 2 灰黄色土
- 3 暗灰黄色土
- 4 暗灰黄色土
- 5 灰黄褐色土
- SK2
- 6 黒褐色土
- 7 黒褐色土
- 8 黒褐色土
- 9 黒褐色土
- 10 黒褐色土
- 11 黒褐色土
- 12 黄灰色土
- 13 オリーブ黒色土
- 14 オリーブ黒色土
- 15 黒褐色土
- 16 灰黄褐色土
- 17 黒褐色土
- 18 ハードローム土粒子層

- 黒褐色土ブロック若干、包含層
- 黒褐色土ブロック・粒子多量含
- 比較的しまる、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- ソフトローム土粒子・微粒子ごくわずか含
- ソフトローム土ブロック・ハードローム土ブロック多量、黒色土ブロック若干、炭化物粒わずか含
- ソフトローム土粒子若干、黒色土ブロック若干含
- オリーブ黒色土ブロック若干、黄灰色土多量混入、ソフトローム土粒子多量混入
- ソフトローム土粒子若干、微粒子多量含
- ソフトローム土ブロック若干、黒色土ブロック多量含
- ソフトローム土ブロック・粒子少量含、黒色土ブロック少量含
- オリーブ黒色土ブロック若干、ソフトローム土粒子多量混入
- ややしまる、ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
- ややしまらない、ハードローム土ブロック・粒子少量、黒色土粒子若干含
- ややしまる、黄灰色土若干混入

SD3

- 19 灰黄褐色土
- 20 暗灰黄色土
- 21 黒褐色土
- 22 黄灰色土
- 23 黄褐色土
- 24 黒褐色土
- 25 黒褐色土
- 26 暗オリーブ褐色土
- 27 黒褐色土
- 28 黒褐色土
- 29 にぶい黄褐色土
- 30 擾乱
- ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒わずか含
- ソフトローム土ブロック粒子若干含
- ソフトローム土ブロック若干、黒色土粒子若干含
- ソフトローム土ブロックわずか、黒褐色土ブロックわずか含
- ソフトローム土粒子若干、黒色土粒子若干含
- ソフトローム土ブロック若干、黒色土ブロック若干含
- ソフトローム土ブロック多量、黒色土粒子若干含
- ソフトローム土微粒子若干、黒色土ブロック若干含
- ソフトローム土ブロック多量、黒色土ブロック多量含
- ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子少量、黒色土ブロック少量含
- 黒褐色土ブロック少量、焼土粒わずか含



第21図 第2・4～7号土坑、第1・3号溝跡

第3号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、第3号溝跡を切っている。

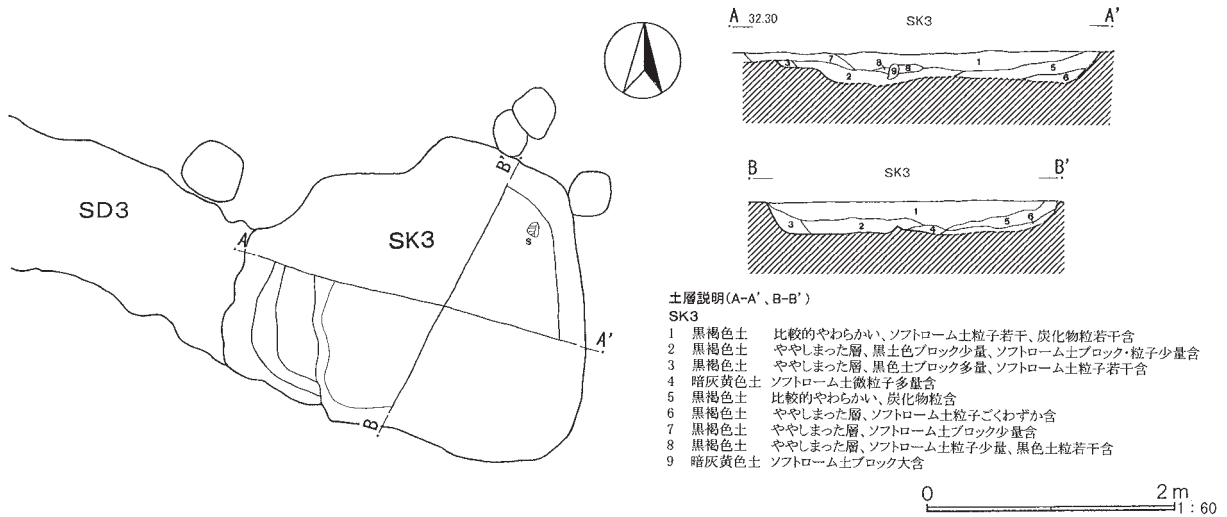
規模は、長軸2.85m、短軸2.35mを測る。平面プランは、不整形を呈する。深さは、確認面から27cmを測る。

出土遺物は、土師器坏、ロクロ土師器坏、黒色土器碗等が検出された。

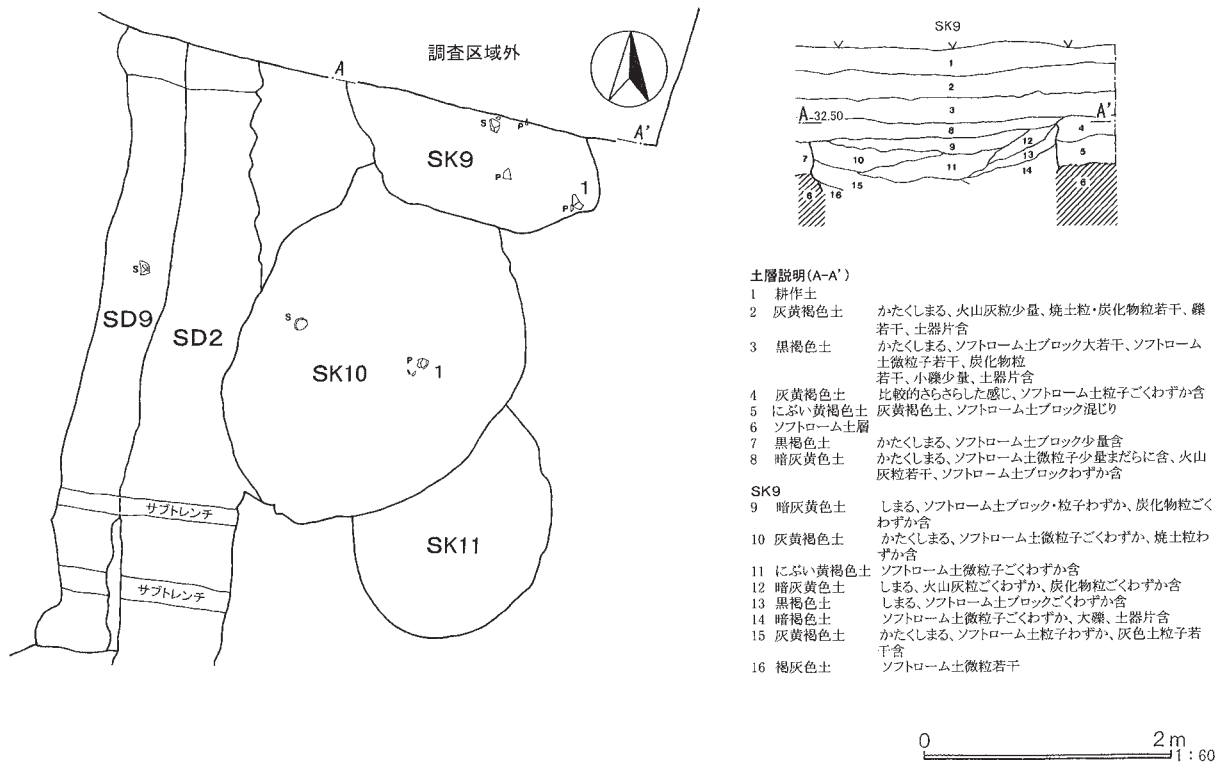
時期は、10世紀後半が中心と考えられる。ただし、第3号溝跡との関係を考慮に入れると、第3号溝跡を切っているが、共存していた可能性も考えられる。

第9号土坑（第23・24・26図、第13表）

調査区の東部に位置する。座標X=21,080~21,090、Y=-44,955~-44,960内にある。



第22図 第3号土坑



第23図 第9～11号土坑

第10号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第10号土坑を切っている。

規模は、北側が調査区域外となり不明であるが、検出長軸1.68mを測る。平面プランは、楕円形状を呈する。深さは、掘り下げを行わなかったため不明である。

出土遺物は、黒色土器碗等が検出された。

時期は、11世紀前半と考えられる。

第10号土坑（第23・24・26図、第14表）

調査区の東部に位置する。座標X=21,080~21,085、Y=-44,955~-44,960内にある。

第9・11号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第9号土坑に切られ、第11号土坑を切っている。

規模は、北部の一部が第9号土坑によって切られ不明であるが、検出長軸2.90m、短軸2.16mを測る。平面プランは、楕円形状を呈する。深さは、掘り下げを行わなかったため不明である。

出土遺物は、須恵系土師質土器坏等が検出された。なお、図示した須恵系土師質土器坏には、判読不明だが体部外面に墨書が見られた。

時期は、10世紀後半と考えられる。

第17号土坑（第7・16・24図、第15表）

調査区の中央部に位置する。座標X=21,080~21,085、Y=-44,975~-44,980内にある。

第2号竪穴建物跡、第1号溝跡と重複関係にあり、本遺構が、第1号溝跡に切られ、第2号竪穴建物

第11表 第2号土坑出土遺物観察表（第24図）

欄番	図番	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
24	SK2 1	土師器 壺	—	1.7	6.8	BHIN	C	橙色、にぶい橙色	底部破片	
24	SK2 2	須恵器 碗	—	0.7	6.3	ABF	A	灰オリーブ色	底部90%	南比企産。
24	SK2 3	須恵器 碗	—	1.9	6.8	HIL	A	灰色	底部破片	底部外面に「万」。
24	SK2 4	須恵器 碗	—	1.7	7.6	AND	A	外面：灰黄色 内面：灰色	底部95%	底部内面に墨付着、転用硯。 未野産。
24	SK2 5	須恵系土師質土器 碗	(14.0)	5.2	7.1	ABEJK	A	にぶい黄橙色	30%	
24	SK2 6	須恵系土師質土器 碗	(14.1)	5.9	7.2	ABDHJL	B	黄灰色、灰黄色	45%	
24	SK2 7	須恵系土師質土器 碗	(13.2)	5.4	(6.6)	ABD	B	灰黄色	50%	
24	SK2 8	土師器 坏	(12.9)	3.1	—	ADI	A	橙色	20%	
24	SK2 9	土師器 坏	(12.8)	4.1	(6.0)	ABDEGJK	B	橙色、浅黄色	40%	
24	SK2 10	土師器 坏	(12.4)	4.2	5.9	ABEIK	A	浅黄色、にぶい橙色	50%	
24	SK2 11	土師器 坏	(12.2)	3.5	5.4	ABEHK	B	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、橙色	40%	
24	SK2 12	土師器 坏	(12.2)	4.1	5.0	ABEHN	A	橙色	40%	
24	SK2 13	土師器 坏	12.0	4.0	4.0	ABEJK	A	橙色、浅黄橙色	45%	
24	SK2 14	土師器 坏	厚さ0.3~0.4			BCJ	A	橙色	口縁部破片	口縁部外面及び内面に煤(タール) 付着、灯明皿用途。 墨書「公」。
24	SK2 15	土師器 坏	厚さ0.4~0.5			BD	B	にぶい黄橙色	体部破片	体部外面に墨書。
24	SK2 16	土師器 鉢	(26.8)	3.8	—	ABEHM	A	橙色、にぶい黄橙色	口縁部15%	
24	SK2 17	土師器 台付甕	(13.0)	15.4	—	ABE	A	外面：黒褐色 内面：黒褐色、淡黄色、灰色	口縁部30%	外面に煤付着。

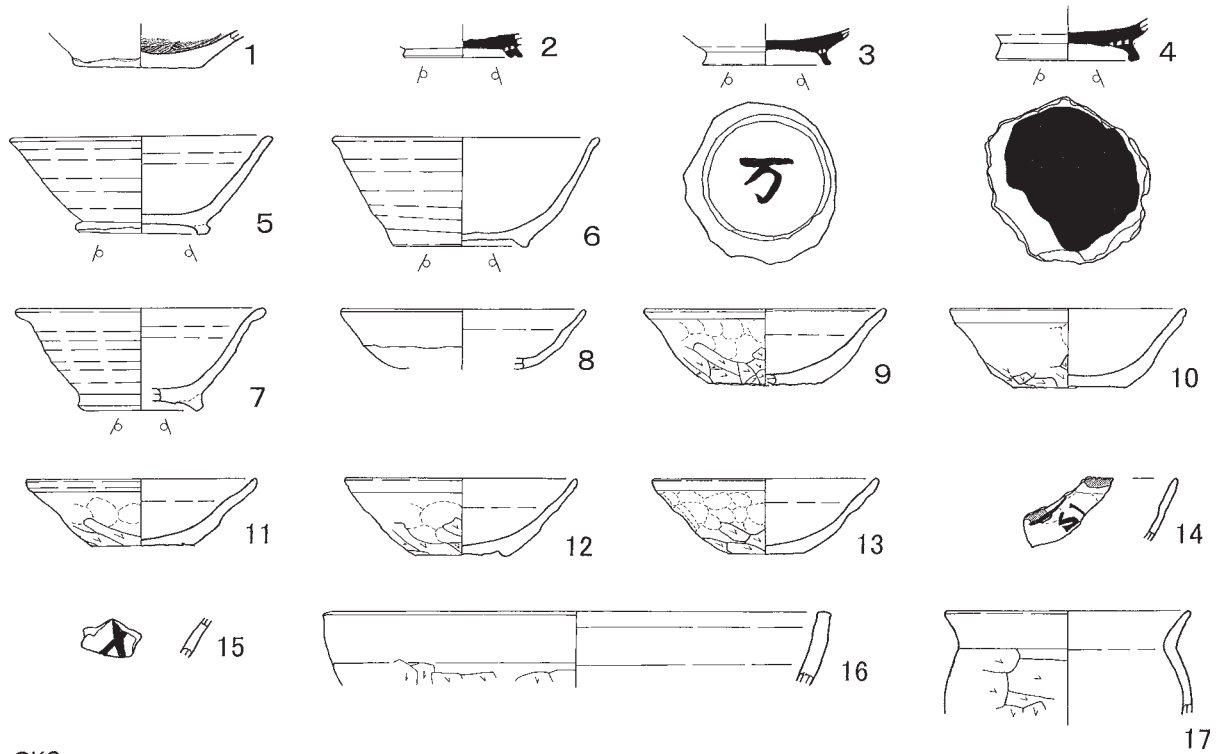
跡を切っている。

規模は、中央部を東西に第1号溝跡が横断し、さらに南西部が調査区域外となっているため不明であるが、検出長軸1.20m、短軸1.18mを測る。平面プランは、ほぼ円形を呈する。

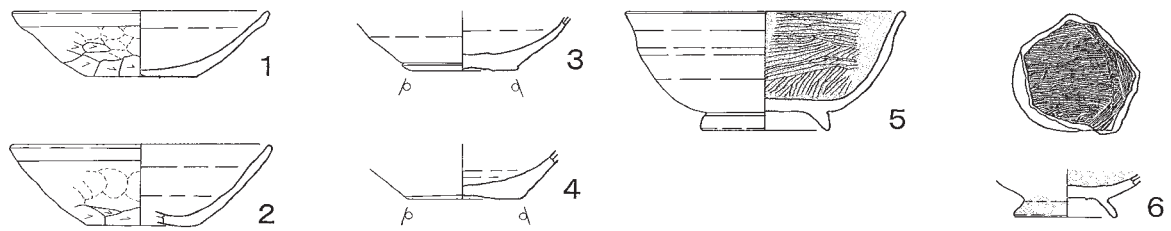
出土遺物は、土師器甕等が検出された。

時期は、9世紀後半と考えられる。

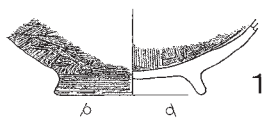
SK2



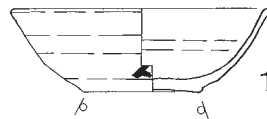
SK3



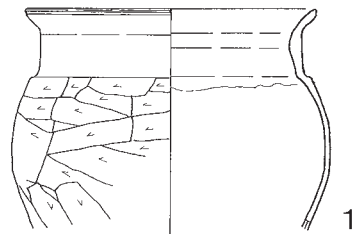
SK9



SK10



SK17



0 10 cm
1:4

第24図 第2・3・9・10・17号土坑出土遺物

第12表 第3号土坑出土遺物観察表（第24図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
24	SK3 1	土師器 環	(13.6)	3.4	(5.8)	ADEIK	B	外面：にぶい黄褐色、明赤褐色 内面：明青褐色、浅黄色	20%	
24	SK3 2	土師器 環	(13.8)	14.3	(5.9)	ACHJ	A	外面：橙色、浅黄色 内面：橙色	15%	
24	SK3 3	ロクロ土師器 環	—	2.7	5.6	BE	B	にぶい橙色	30%	
24	SK3 4	ロクロ土師器 環	—	2.1	5.9	BE	B	にぶい橙色	20%	
24	SK3 5	黒色土器 碗	(14.8)	6.4	6.8	ABEKMO	A	外面：橙色 内面：黒色	30%	内面黒色処理、ヘラミガキ。
24	SK3 6	黒色土器 碗	—	1.9	5.5	ABE	A	外面：明青褐色 内面：黒色	底部100%	

第13表 第9号土坑出土遺物観察表（第24図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
24	SK9 1	黒色土器 碗	—	3.4	7.9	AG	B	黒色	40%	内外面黒色処理、ヘラミガキ。

第14表 第10号土坑出土遺物観察表（第24図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
24	SK10 1	須恵系土師質土器 環	(13.7)	14.4	6.2	ABCK	B	橙色	45%	体部外面に墨書。

第15表 第17号土坑出土遺物観察表（第24図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
24	SK17 1	土師器 台付甕	(15.3)	11.6	—	AE	A	外面：橙色、にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色、橙色	口縁部～胴部 上半30%	外面煤ける。

（4） 溝跡

溝跡は11条確認された。このうち、一部掘り下げを行ったものや出土遺物が図示できたもの等について記述する。第2・3号溝跡は、並行する方形区画溝である。

第1号溝跡（第7・10・13・16・25・27・28図、第16表）

調査区の西部北から南下し、屈曲し向きを東に変えて調査区中央部やや南寄りを東走する。座標 X = 21,075～21,105、Y = -44,965～-44,985内にある。

第2・4号竪穴建物跡、第2・3・4～7号掘立柱建物跡、第4・5・7・17号土坑、第2・3・6号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある全ての遺構を切っている。

規模は、北部、東部及び中間の一部が調査区域外となっているが、検出長約36m、幅0.28～0.50mを測る。走行軸の方位は、N-17°-EからN-112°-Eに変化する。

断面形は丸底で、深さは、土層断面観察から13～24cmを測る。

出土遺物は、土師器環、須恵器甕、須恵系土師質土器碗等が検出された。

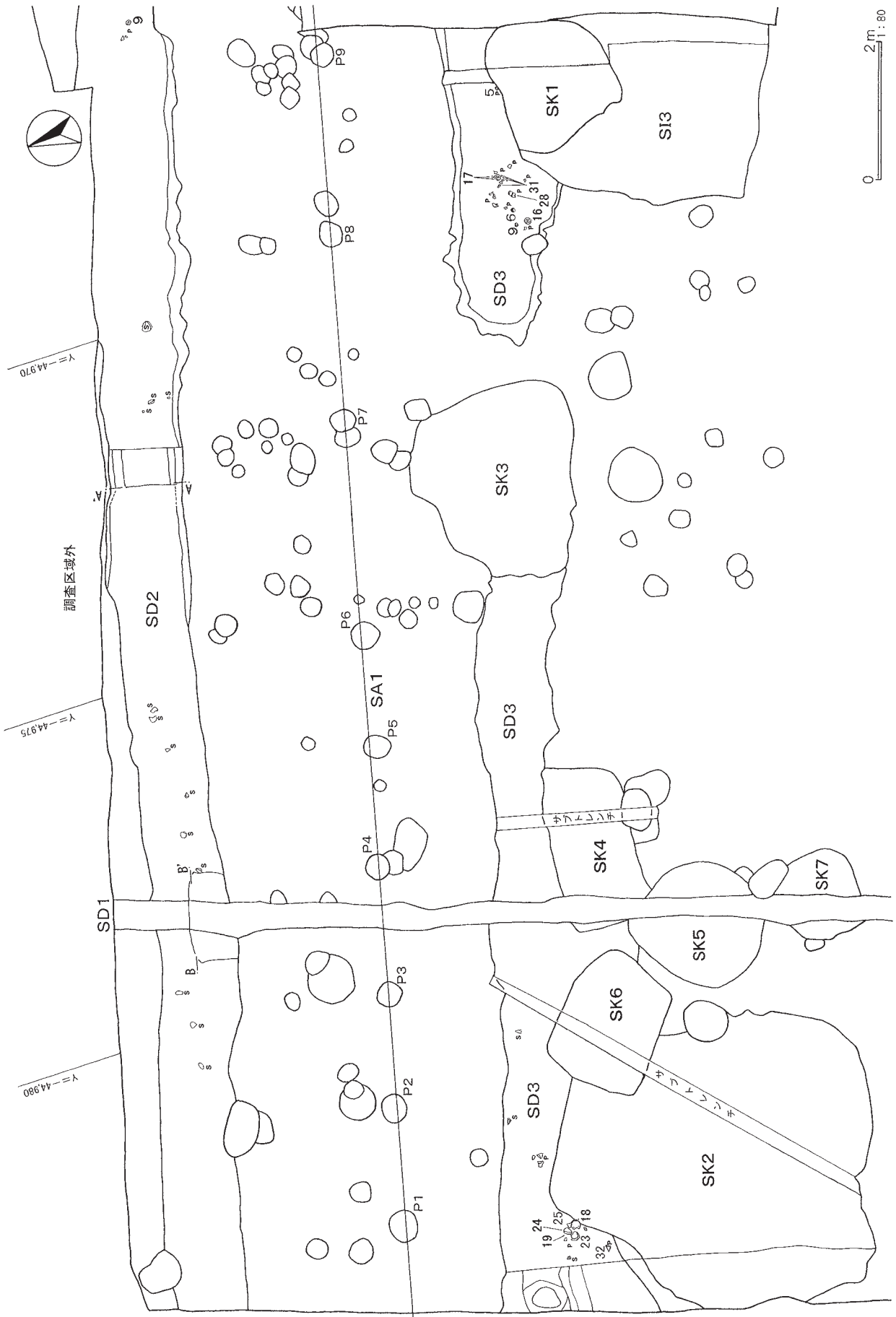
時期は、11世紀前半と考えられ、第2・3号溝跡の埋没後と考えられる。

第2号溝跡（第25～28図、第17表）

調査区の北西部から東走し、屈曲し向きを南に変えて調査区南東部隅に至る。座標 X = 21,065～21,105、Y = -44,955～-44,985内にある。

二重区画溝と土塁による方形区画の北辺及び東辺区画外溝で、第10・13・14号土坑、第1・4・9・10号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、第14号土坑、第1・4号溝跡に切られ、第13号土坑、第9・10号溝跡を切っている。なお、第9号溝跡との関係は、掘り直しの可能性も考えられる。

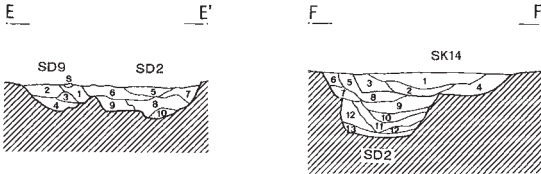
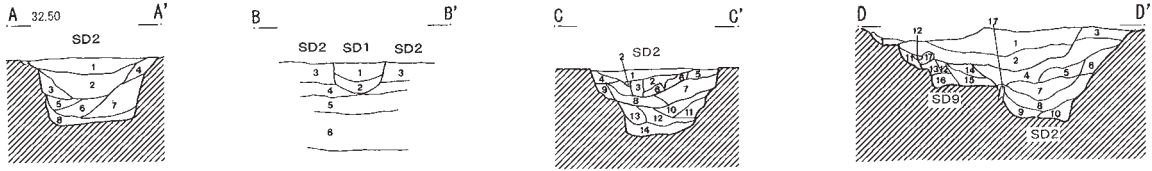
規模は、西部、東部の一部及び南端が調査区域外となっているが、検出推定長約53m、幅0.88～1.43



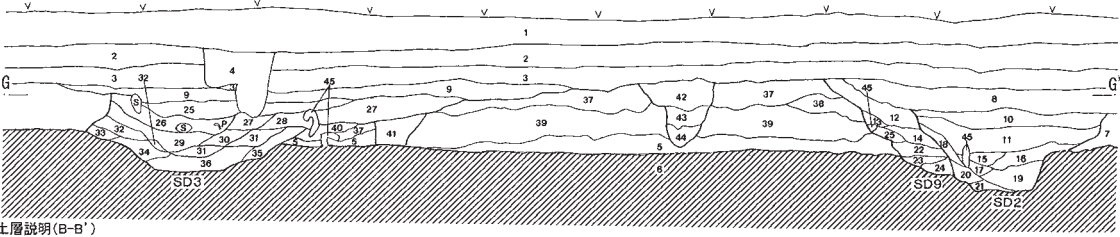
第25図 第1～3号溝跡、第1号掘立柱列



第26図 第2・3・9・10号溝跡、第9～11・13・14号土坑、第1号掘立柱列、第1号土塁跡



- 土層説明(A-A')**
- SD2**
- 1 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土微粒子わずか含
 - 2 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子若干、ソフトローム土粒子ごくわずか、黒色土ブロックごくわずか含
 - 3 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子若干、黒色土ブロック・粒子少量含
 - 4 黒褐色土 しめる、ソフトローム土ブロック大わずか、ソフトローム土粒子少量含
 - 5 褐灰色土 しめる、ソフトローム土粒子少量、黒色土ブロック多量含
 - 6 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 7 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子多量、黒色土ブロック多量含
 - 8 黒色土 しめる、ソフトローム土ブロック・粒子少量含



- 土層説明(B-B')**
- SD1**
- 1 黒褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子若干含
 - 2 灰黄褐色土 しめる、ソフトローム土粒子若干含
- SD2**
- 3 暗褐色土 ややしめる、ソフトローム土粒子多量含
 - 4 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子ごくわずか含
 - 5 黒褐色土 かたくしめる、黒色土ブロック少量、にぶい黄褐色土ブロック少量含
 - 6 灰黄褐色土 非常にかたくしめる、ハードローム土ブロック・粒子多量に含みかたくしめる、黒色土ブロック若干含

- SD2**
- 5 黒褐色土 非常にかたくしめる、ソフトローム土粒子多量、炭化物粒ごくわずか含
 - 6 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック大、ソフトローム土粒子多量含
 - 7 暗灰黄色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量含
 - 8 暗灰黄色土 ややしめる、オリブ黒色土粒子若干、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 - 9 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子若干含
 - 10 オリブ黒色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子わずか含、黒褐色土混入
 - 11 オリブ黒色土 かたくしめる、ソフトローム土微粒子わずか含
 - 12 暗オリブ褐色土 しめる、ソフトローム土ブロック・粒子多量、オリブ黒色土ブロック少量含
 - 13 黒色土 かたくしめる、ハードローム土微粒子若干、若干粘性有

- 土層説明(C-C')**
- SD2**
- 1 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒ごくわずか含
 - 2 暗オリブ褐色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子少量、黒褐色土粒子ごくわずか含
 - 3 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子若干含、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒ごくわずか含
 - 4 褐灰色土 ソフトローム土粒子若干含
 - 5 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子少量含
 - 6 黒褐色土 非常にかたくしめる、ソフトローム土ブロック含、ソフトローム土微粒子若干含
 - 7 暗灰黄色土 黒褐色土粒子若干、ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子多量、黒褐色土粒子ごくわずか含
 - 8 黒褐色土 ソフトローム土ブロックわずか、ソフトローム土微粒子少量含
 - 9 黒褐色土 ハードローム土ブロック大含、ソフトローム土微粒子多量含
 - 10 黒褐色土 黒褐色土粒子若干、ソフトローム土粒子若干含
 - 11 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子若干含
 - 12 黒褐色土 ややしりない、炭化物粒ごくわずか含
 - 13 黒色土 かたくしめる、ソフトローム土ブロック多量含
 - 14 オリブ黒色土 ややしりない、ソフトローム土粒子若干含

- 土層説明(G-G')**
- 1 耕作土
 - 2 灰黄褐色土 かたくしめる、火山灰粒少量、焼土粒・炭化物粒若干、礫若干、土器片含
 - 3 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土ブロック大若干、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒若干、小礫少量、土器片含
 - 4 攪乱
 - 5 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土とソフトローム土ブロック混じり
 - 6 ソフトローム土層
 - 7 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土ブロック少量含
 - 8 暗灰黄色土 かたくしめる、ソフトローム土微粒子少量均一的にまだらに含、火山灰粒若干、ソフトローム土ブロックわずか含

- 土層説明(D-D')**
- 1 暗灰黄色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 2 灰色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- SD2**
- 3 黒褐色土 ソフトローム土粒子ごくわずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
 - 4 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 5 黒褐色土 非常にかたくしめる、ソフトローム土ブロック含、ソフトローム土微粒子若干含
 - 6 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子少量含
 - 7 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土微粒子わずか、ソフトローム土粒子ごくわずか含
 - 8 オリブ黒色土 しめる、ソフトローム土粒子若干、ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒ごくわずか含
 - 9 黒色土 かたくしめる、ソフトローム土ブロック多量に含
 - 10 灰黄褐色土 しめる、黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- SD9**
- 11 暗灰黄色土 にぶい黄褐色土混入
 - 12 灰色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 - 13 黄灰色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 - 14 灰色土 かたくしめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 15 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子非常に多く含
 - 16 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子若干含
 - 17 根の攪乱

- SD2, SD9**
- 9 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか、火山灰粒若干、ソフトローム土粒子若干含
 - 10 暗灰黄色土 暗灰黄色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒・焼土粒ごくわずか、土器片含
 - 11 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干、オリブ黒色土ブロックわずか、焼土粒わずか含
 - 12 灰黄褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒ごくわずか、焼土粒わずか含
 - 13 暗灰黄色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子少量含
 - 14 灰黄褐色土 しりない、ソフトローム土微粒子若干含
 - 15 にぶい黄褐色土 かたくしめる、ソフトローム土ブロック多量、黒褐色土ブロック多量含
 - 16 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干、ハードローム土ブロック若干含
 - 17 灰黄褐色土 かたくしめる、オリブ黒色土ブロックわずか含
 - 18 暗灰黄色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子若干含
 - 19 黒色土 ソフトローム土ブロック大わずか、ソフトローム土微粒子わずか含
 - 20 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量含
 - 21 黒色土 ソフトローム土粒子ごくわずか含
 - 22 暗灰黄色土 ソフトローム土粒子・ブロック少量、炭化物粒ごくわずか含
 - 23 黒褐色土 しめる、ソフトローム土粒子少量含
 - 24 黒褐色土 ソフトローム土粒子・ブロック非常に多く含

- 土層説明(E-E')**
- SD9**
- 1 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 - 2 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、ハードローム土ブロック大、炭化物粒ごくわずか含
 - 3 黒褐色土ブロック かたくしめる
 - 4 黒褐色土 ハードローム土ブロック、ソフトローム土粒子若干含
- SD2**
- 5 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干含
 - 6 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
 - 7 ソフトローム土ブロック+黒褐色土ブロック若干混合層
 - 8 黒色土 ソフトローム土ブロック若干、黒褐色土混入
 - 9 黒色土 ソフトローム土粒子若干含
 - 10 ハードローム土ブロック+黒色土ブロック若干混合層

- SD3**
- 25 灰黄褐色土 火山灰粒若干、炭化物粒・焼土粒若干、土器片含
 - 26 黄灰色土 火山灰粒若干、焼土粒・炭化物粒若干、礫、土器片含
 - 27 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量含
 - 28 黒褐色土 ややしりない、火山灰粒わずか、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒・焼土粒若干含
 - 29 褐灰色土 しめる、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒ごくわずか含
 - 30 黒褐色土 やや暗黄色帯びる、ソフトローム土粒子少量含
 - 31 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子少量含
 - 32 褐灰色土 しめる、ソフトローム土粒子わずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
 - 33 黄灰色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
 - 34 黒褐色土 ソフトローム土ブロック非常に多く含
 - 35 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干まだらに含、炭化物粒わずか含
 - 36 黒色土 ソフトローム土ブロック多量、黒色土ブロック少量含み混合層の心状態

- 土層説明(F-F')**
- SK14**
- 1 オリブ黒色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子・微粒子わずか含、火山灰わずか、炭化物粒わずかに含
 - 2 黒褐色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子多量、炭化物粒わずか含
 - 3 黄灰色土 かたくしめる、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含
 - 4 黄灰色土 かたくしめる、ソフトローム土粒子・微粒子多量含、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含

- 第1号土塁跡**
- 37 灰黄色土 しめる、ソフトローム土ブロック・粒子若干、炭化物粒・焼土粒ごくわずか、火山灰粒わずか含
 - 38 褐色土 ややしりない、灰黄褐色土帯びる
 - 39 にぶい黄褐色土 しめる、褐灰色土ブロック、ソフトローム土ブロック混じり
 - 40 黒褐色土 しめる、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒若干含
 - 41 黒褐色土 しめる、ソフトローム土ブロック、にぶい黄褐色土、褐灰色土ブロック混じり
 - 42 暗灰黄色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子少量まだらに含、炭化物粒若干含
 - 43 灰黄褐色土 ややしりない、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含
 - 44 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大、にぶい黄褐色土ブロック含
 - 45 根の攪乱



第27図 第1～3・9号溝跡、第1号土塁跡、第14号土坑土層断面

mを測る。走行軸の方位は、 $N-105^{\circ}-E$ から $N-3^{\circ}-E$ に変化する。

断面形は掘り下げを行った箇所、箱形または逆台形で、深さは、土層断面観察及び遺構確認面から26～70cmを測り、浅い箇所の断面形は、やや船底状を呈する。

出土遺物は、須恵器蓋・坏・椀・皿・甕、須恵系土師質土器坏、平瓦、羽口等が検出された。

溝の埋没時期は、11世紀前半と推定される。なお、7世紀後半の土師器坏破片の混入が認められた。

第3号溝跡（第25～28図、第18表）

第2号溝跡と同様に、調査区の北西部から東走し、屈曲し向きを南に変えて調査区南東部に至る。座標 $X=21,075\sim 21,100$ 、 $Y=-44,960\sim -44,990$ 内にある。

やはり第2号溝跡と同様に、二重区画溝と土塁による方形区画の北辺及び東辺区画内溝で、第3・4号竪穴建物跡、第1～6号土坑、第1号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある全ての遺構に切られている。

規模は、西部、東部の一部及び南東端が調査区域外となっているが、検出推定長約35mと推定され、幅0.40～2.34mを測る。走行軸の方位は、 $N-104^{\circ}-E$ から $N-6^{\circ}-E$ に変化する。

断面形は掘り下げを行った箇所、逆台形または船底状で、深さは、土層断面観察から34～56cmを測り、第2号溝跡と比較すると浅い溝である。また、連続する溝ではなく、途中少なくとも2か所が途切れ、平面形も幅の広いところと狭いところがある不定形な溝である。

出土遺物は、比較的多く検出され、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・椀・皿・壺、須恵系土師質土器坏、ロクロ土師器坏・椀、黒色土器椀、鉄釘等が検出された。土師器坏、須恵器坏には、「万」その他の墨書の見られるものがあった。

溝の埋没時期は、第2号溝跡と同時期の11世紀前半と推定される。

第4号溝跡（第13・14・16・17・29図、第19表）

調査区の南端部を東西に走る。座標 $X=21,065\sim 21,085$ 、 $Y=-44,955\sim -44,995$ 内にある。

第1～3号掘立柱建物跡、第16号土坑、第6・8号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある全ての遺構を切っている。

規模は、東部及び西部が調査区域外となっているが、検出長約34.6m、幅0.70～1.07mを測る。走行軸の方位は、およそ $N-114^{\circ}-E$ を指す。

断面形はやや崩れた逆台形ないしはV字状に近い丸底で、深さは、土層断面観察から16～34cmを測る。

出土遺物は、須恵系土師質土器椀、平瓦、丸瓦、鉄釘等が検出された。

時期は、11世紀前半以降と考えられる。

第9号溝跡（第26・27図）

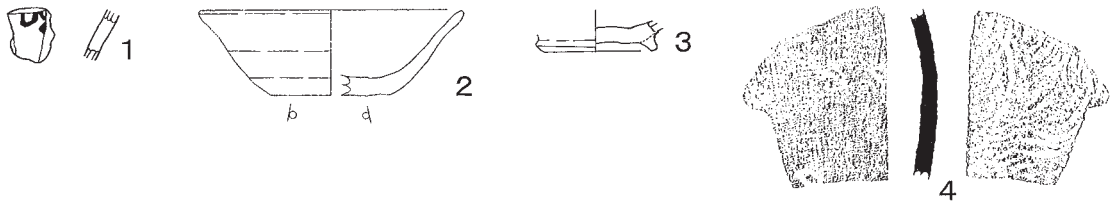
調査区の東部に位置し、南北に走る。座標 $X=21,080\sim 21,095$ 、 $Y=-44,955\sim -44,965$ 内にある。

二重区画溝と土塁による方形区画の区画外溝である第2号溝跡、第13号土坑と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある2遺構に切られている。

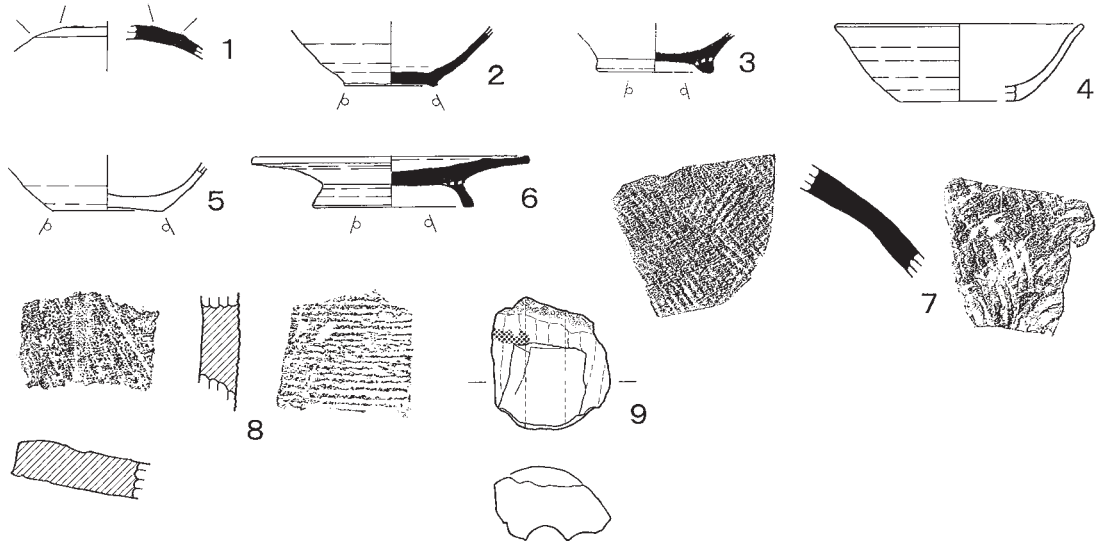
規模は、南端が第13号土坑に切られているが、検出推定長約12.5m、幅0.38～0.59mを測る。走行軸の方位は、およそ $N-5^{\circ}-E$ を指す。

断面形は掘り下げを行った箇所、逆台形ないしはV字状の丸底で、深さは、土層断面観察から22～

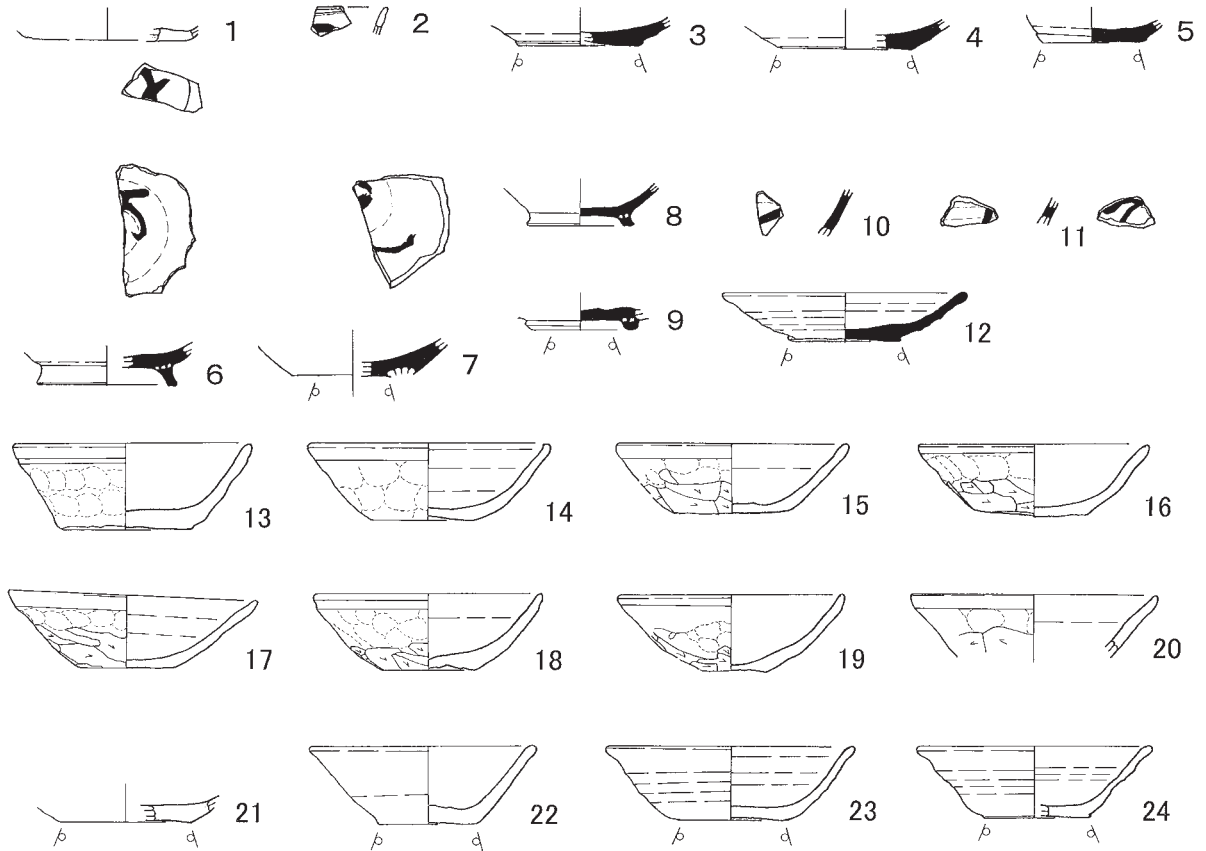
SD1



SD2



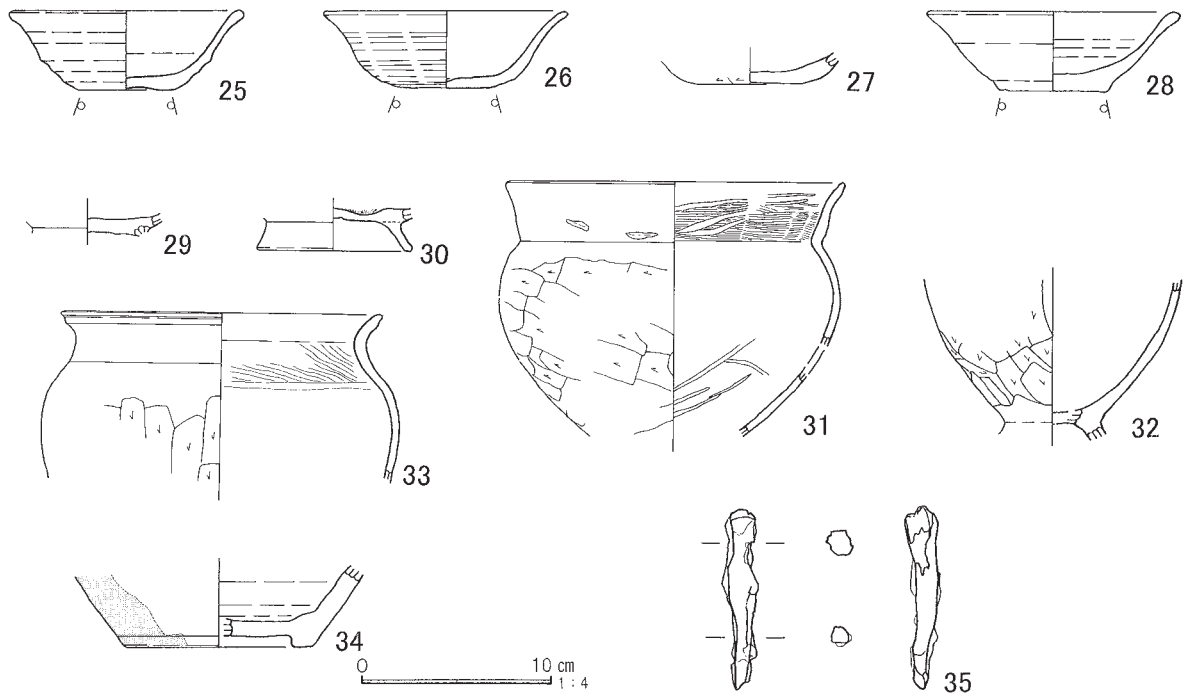
SD3



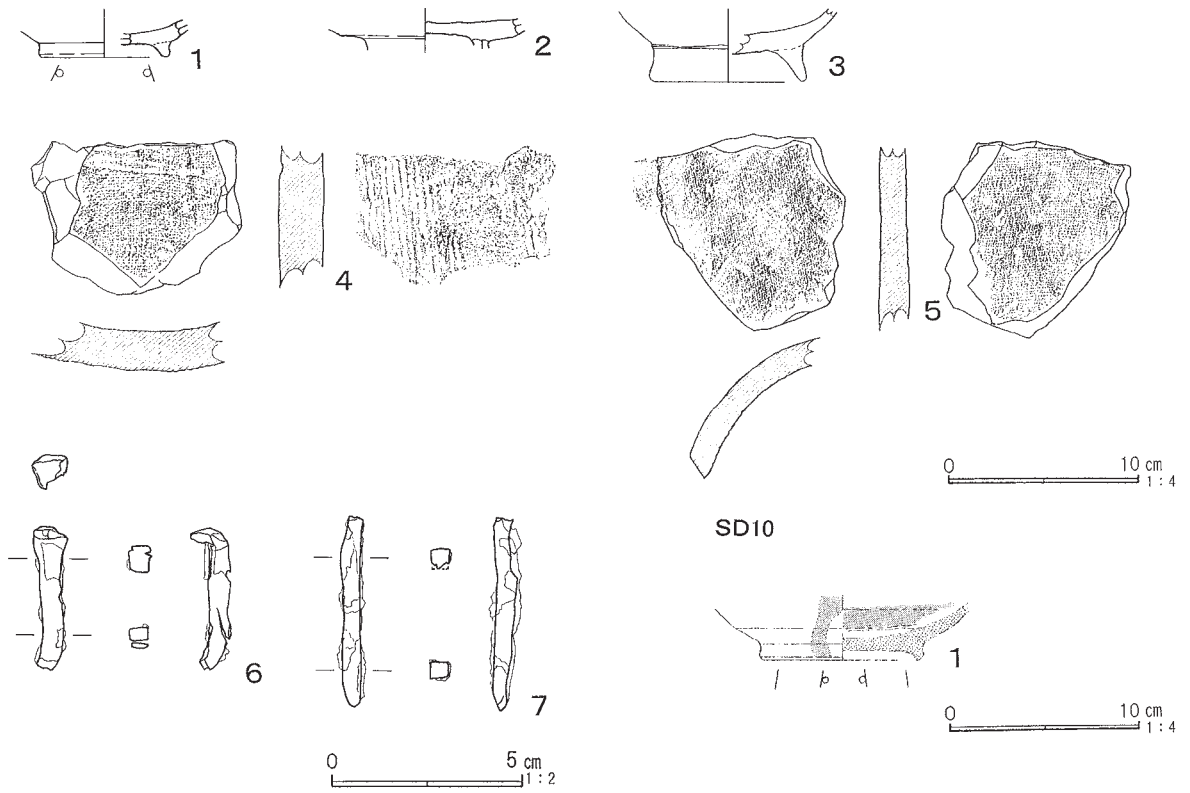
0 10 cm
1:4

第28图 第1~3号沟迹出土遗物

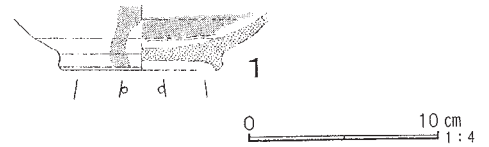
SD3



SD4



SD10



第29图 第3・4・10号溝跡出土遺物

第16表 第1号溝跡出土遺物観察表(第28区)

欄番号	図番	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
28	SD1 1	土師器 坏	—	—	—	BI	A	橙色	体部破片	体部外面に墨書。
28	SD1 2	須恵系土師質土器 碗	(14.3)	4.5	(6.3)	BE	C	橙色	25%	高台脱落。
28	SD1 3	須恵系土師質土器 碗	—	1.1	6.4	AK	B	黒色	底部70%	
28	SD1 4	須恵器 甗	厚さ0.6~0.8			AIN	B	外面：浅黄色 内面：暗青灰色	胴部破片	外面：格子叩き、自然釉。 内面：青海波文あて具痕。

第17表 第2号溝跡出土遺物観察表(第28区)

欄番号	図番	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
28	SD2 1	須恵器 蓋	—	1.7	—	ABGL	A	灰色	体部上半破片	未野産。
28	SD2 2	須恵器 坏	—	2.9	4.9	ABL	A	灰色	20%	未野産。
28	SD2 3	須恵器 碗	—	2.2	(6.2)	ABM	C	黄灰色	底部75%	未野産。
28	SD2 4	須恵系土師質土器 坏	(13.1)	4.1	(6.3)	AEGN	B	外面：にぶい黄色 内面：灰黄色	15%	
28	SD2 5	須恵系土師質土器 坏	—	2.3	(5.7)	AEGN	A	外面：浅黄色 内面：灰黄色	20%	
28	SD2 6	須恵器 皿	24.4	12.7	(8.5)	ABHLN	A	灰色、暗青灰色	70%	未野産。
28	SD2 7	須恵器 甗	厚さ1.0~1.3			ABDGN	A	灰色	胴部破片	外面：格子叩き。 内面：青海波文あて具痕。
28	SD2 8	平瓦	厚さ2.0~2.1			AGN	B	暗青灰色	側端部破片	凹面：布目痕(7×7本/cm) 凸面：縄叩き。
28	SD2 9	羽口	残存長7.0、残存幅6.1、孔径2.0						口部付近破片	表面縦方向にナデ。口部発泡化・ ガラス化する。

第18表 第3号溝跡出土遺物観察表(第28・29区)

欄番号	図番	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
28	SD3 1	土師器 坏	—	0.4	(8.3)	AEHJK	A	橙色	底部破片	底部外面に墨書。
28	SD3 2	土師器 坏	—	—	—	CE	A	橙色	口縁部破片	外面に墨書。
28	SD3 3	須恵器 坏	—	1.0	(6.6)	ADELN	A	外面：暗灰黄色、にぶい褐色 内面：灰色	底部付近25%	未野産。
28	SD3 4	須恵器 坏	—	1.2	(7.2)	ABLN	A	灰色、暗赤灰色	10%以下	
28	SD3 5	須恵器 坏	—	1.4	5.5	ABFK	C	外面：灰白色 内面：灰白色、灰色	底部60%	南比企産。
28	SD3 6	須恵器 碗	—	1.6	(7.4)	ABDGHK	B	外面：灰色、灰白色 内面：灰白色、灰色	底部45%	底部内面に墨書「万」か。
28	SD3 7	須恵器 碗	—	1.7	—	ADI	A	灰色	底部付近25%	内面に墨書。
28	SD3 8	須恵器 碗	—	2.0	(5.6)	ABD	A	灰色	底部50%	未野産。
28	SD3 9	須恵器 碗	—	0.6	5.9	ADGN	C	外面：灰色 内面：灰黄色	底部破片	
28	SD3 10	須恵器 坏	—	—	—	ABN	B	外面：灰白色 内面：灰色	体部破片	外面に墨書。
28	SD3 11	須恵器 坏(碗)	—	—	—	AD	B	黄灰色	体部破片	体部内外面に墨書。
28	SD3 12	須恵器 皿	12.9	2.6	5.9	ABDHJN	B	灰白色、黄灰色	85%	
28	SD3 13	土師器 坏	12.6	4.6	6.9	AD	C	にぶい橙色、明黄褐色	60%	
28	SD3 14	土師器 坏	(12.8)	4.1	5.5	ABEHJK	B	明黄褐色、橙色	60%	
28	SD3 15	土師器 坏	12.3	3.7	6.1	ABCHK	B	橙色、灰黄色	65%	
28	SD3 16	土師器 坏	12.1	3.8	5.9	ABEI	A	橙色	100%	
28	SD3 17	土師器 坏	(13.2)	(4.1)	5.1	ABDEJ	A	橙色、にぶい褐色	60%	
28	SD3 18	土師器 坏	(11.9)	4.0	(4.8)	ABEHK	B	明黄褐色、灰黄褐色	35%	

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
28	SD3 19	土師器 環	12.0	4.1	4.5	ABEK	B	浅黄色、黄灰色	70%	
28	SD3 20	土師器 環	(13.0)	3.3	—	AE	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	口縁部15%	
28	SD3 21	須恵系土師質土器 環	—	0.8	(6.9)	ABDHK	A	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄色 内面：浅黄橙色	底部20%	
28	SD3 22	須恵系土師質土器 環	11.9	4.1	5.7	ABCEIJK	A	にぶい黄橙色、浅黄色、褐灰色	60%	
28	SD3 23	須恵系土師質土器 環	13.1	3.9	5.7	ABDHI	A	浅黄色、灰白色	98%	
28	SD3 24	須恵系土師質土器 環	(12.4)	3.8	(5.6)	ABDJK	B	灰黄色、灰色	30%	
29	SD3 25	須恵系土師質土器 環	(12.4)	4.2	(5.0)	DGHK	B	浅黄橙色	30%	
29	SD3 26	須恵系土師質土器 環	12.9	4.1	5.3	ABDGL	B	灰黄色、にぶい橙色	100%	
29	SD3 27	須恵系土師質土器 環	—	1.2	(5.8)	ABEJK	A	外面：明赤褐色 内面：浅黄橙色	底部15%	
29	SD3 28	ロクロ土師器 環	(13.3)	4.2	5.7	ABE	B	にぶい橙色、橙色	60%	
29	SD3 29	ロクロ土師器 塊	—	0.6	—	BEGK	C	にぶい橙色	底部55%	
29	SD3 30	黒色土器 塊	—	1.8	8.2	AEJ	A	外面：灰黄色、灰色 内面：黒色	底部60%	底部内面黒色処理、ヘラミガキ。
29	SD3 31	土師器 台付甕	17.9	(13.4)	—	AIMO	A	外面：黒褐色、浅黄色、にぶい橙色 内面：黒色	60~70%	
29	SD3 32	土師器 台付甕	—	(8.5)	—	AB	A	外面：黒褐色、灰黄褐色 内面：黒色	10%	
29	SD3 33	土師器 甕	(16.9)	9.0	—	ABEJN	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：黄灰色	口縁部付近 25%	
29	SD3 34	須恵器 壺	—	4.7	(10.1)	ABDN	A	灰色	底部破片	外面に自然釉。
29	SD3 35	鉄釘	残存長4.8 最大幅0.7						頭部欠損	おそらく断面方形の角釘。

第19表 第4号溝跡出土遺物観察表（第29図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
29	SD4 1	須恵系土師質土器 塊	—	1.4	(6.8)	ADK	C	浅黄色、にぶい橙色	底部20%	
29	SD4 2	須恵系土師質土器 塊	—	1.5	—	AHK	B	浅黄橙色、灰黄色	底部40%	
29	SD4 3	須恵系土師質土器 塊	—	3.9	(8.0)	ABCIJ	B	にぶい橙色	底部30%	
29	SD4 4	平瓦	厚さ1.9~2.4			ABDIN	B	にぶい黄色	破片	凹面：布目痕（7×6/cm ² ）。 凸面：縄叩き。
29	SD4 5	丸瓦	厚さ1.3~1.4			ACDIN	B	オリーブ褐色	端部破片	凸面：ナデ 凹面：布目痕（7×6/cm ² ）。
29	SD4 6	鉄釘	残存長3.8 最大幅0.6						頭部・先端の一部欠損	断面長方形の角釘。頭部は端を折り曲げて平らに鍛き出す。
29	SD4 7	鉄釘	残存長5.1 最大幅0.5						頭部欠損	断面長方形の角釘。

第20表 第10号溝跡出土遺物観察表（第29図）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
29	SD10 1	灰釉陶器 塊	—	—	8.8	AI	A	灰白色	底部25%	内外面に釉薬、ハケヌリ。猿投窯黒笹14号窯式か。底部内面の見込みが平滑、転用硯用途か。

47cmを測る。

図示できた出土遺物はなかった。

時期は、第2号溝跡が造られる以前であるが、土塁との関係を考えて、第9号溝跡を掘り直して第2号溝跡を造ったとも考えられる。また、第9号溝跡当時は、東辺の区画外溝はやや蛇行していたと推定される。

第10号溝跡（第26・29図、第20表）

調査区の東部に位置し、南北に走る。座標 $X=21,065\sim 21,085$ 、 $Y=-44,955\sim -44,960$ 内にある。

二重区画溝と土塁による方形区画の区画外溝である第2号溝跡、第4号溝跡、第14号土坑と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある3遺構に切られている。

規模は、北端が第2号溝跡に切られ、南部が調査区域外となっているが、検出推定長約12m、幅0.70～1.20mを測る。走行軸の方位は、 $N-2^{\circ}-W$ を指す。

深さは、掘り下げを行った箇所、確認面から30cmを測る。

出土遺物は、灰釉陶器碗が検出された。

時期は、第2号溝跡が造られる以前であり、灰釉陶器碗の時期から9世紀前半と考えられる。第2号溝跡との関係を考えて、第10号溝跡を掘り直して第2号溝跡を造ったとも考えられ、区画外溝の東辺は、第10号溝跡、第9号溝跡、第2号溝跡と整備されていったことが示唆される。

（5） 掘立柱列

第1号掘立柱列（第25・26図）

調査区の北西部から東走し、屈曲し向きを南に変えて調査区東部を南下する。座標 $X=21,075\sim 21,100$ 、 $Y=-44,960\sim -44,985$ 内にある。

方形区画内外溝の第2・3号溝跡間のほぼ中央に位置し、数基のピットと重複関係にある。なお、第1号土塁跡とも重複関係にあり、第1号土塁跡は本遺構の後に造られたと推定される。

規模は、西部、中間部の一部及び南部が調査区域外となっているが、検出推定長約40mを測る。走行軸の方位は、 $N-104^{\circ}-E$ から $N-6^{\circ}-E$ に変化する。各柱穴は、平面形が円形ないしは楕円形で、規模は径2.3～3.0cmを測る。また、柱穴間の間隔は、北辺で西から1.8m-1.7m-1.9m-1.7m-1.7m-3.1m-2.8m-2.6mであり、東辺の南下する2柱穴間は2.7mである。なお、方形区画内溝・第3号溝跡の北辺が途切れる箇所の間隔が広くなり、2.6～3.1mを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

時期は詳細不明であるが、方形区画溝と同時期に存在し、第1号土塁跡が造られる以前と推定される。

（6） 土塁跡

第1号土塁跡（第26・27図）

土層断面観察ができた調査区の東部、方形区画内外溝の第2・3号溝跡間に位置する。土層観察をした箇所は、座標 $X=21,085\sim 21,090$ 、 $Y=-44,960\sim -44,965$ 内にある。

第1号掘立柱列と重複関係にあり、本遺構は、第1号掘立柱列の後に造られたと推定される。

規模は、土層断面観察から、下辺幅が、ソフトローム土面で5.0m、第2・3号溝跡上面で4.8m、上辺幅1.5～2.0mを測る。また、高さは、ソフトローム土面で0.58m、第2・3号溝跡上面で0.28mを測る。

断面形は、台形状を呈し、上辺平坦部のやや内溝寄りでは上幅0.6m、深さ0.5mのピットが土層断面観察で確認された。このピットが、本遺構に何らかの形で伴うものかは不明である。

出土遺物は、検出できなかった。

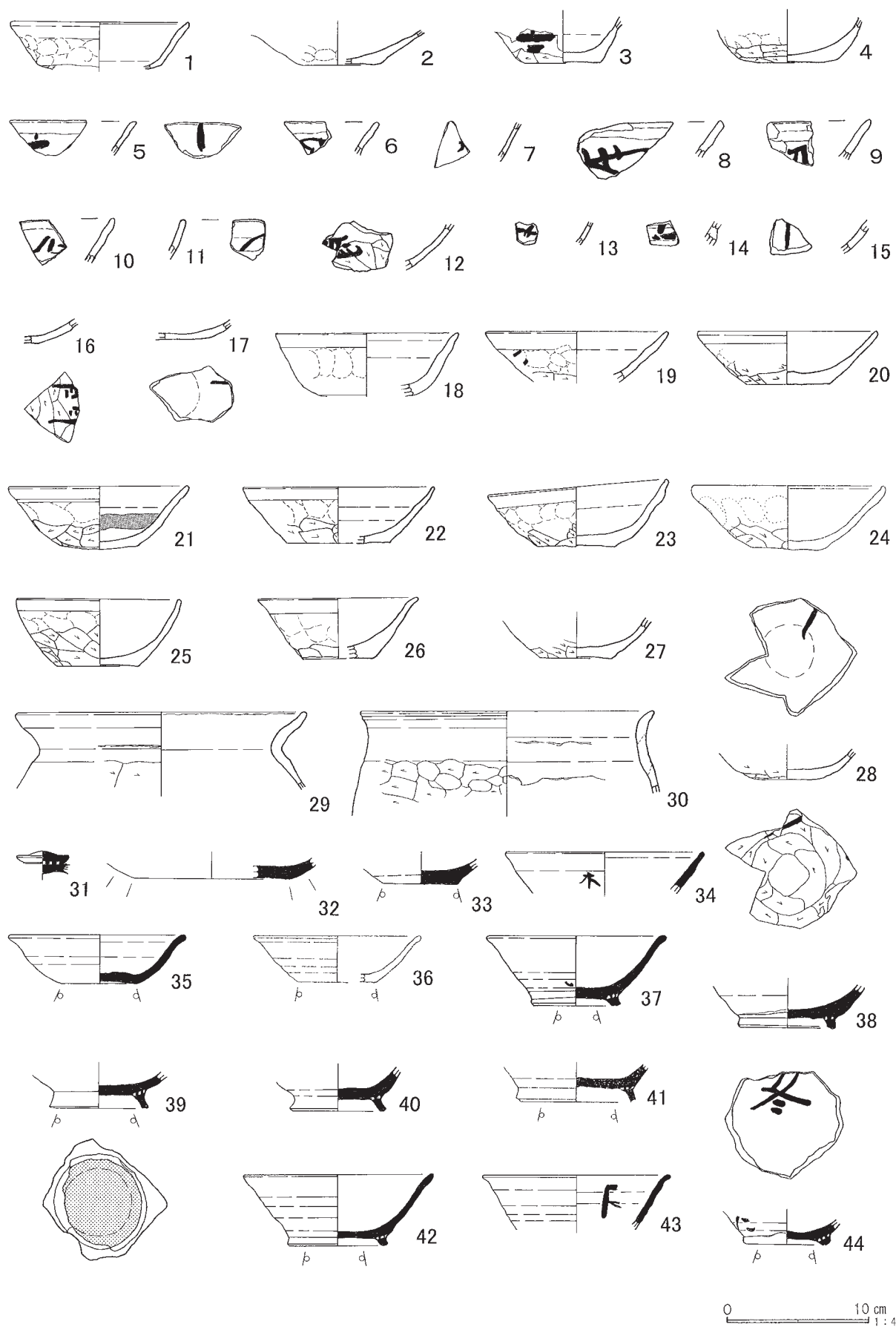
時期は詳細不明であるが、方形区画溝と同時期に存在し、第1号掘立柱列の後に造られたと推定される。

(7) 遺構外出土遺物

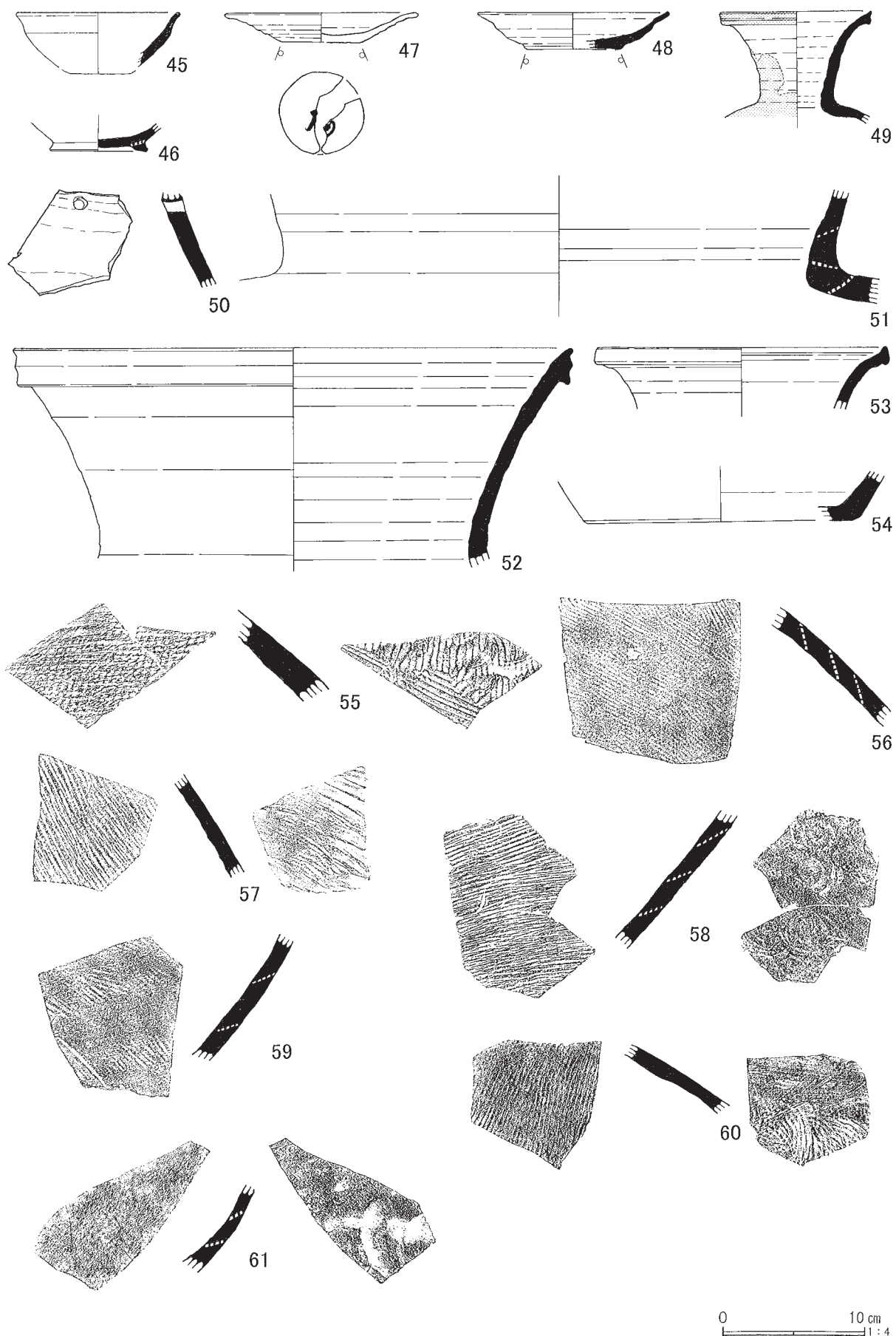
表土除去の際に出土した遺物及び遺構に伴わないと判断した出土遺物を掲載する（第30～34図、第21表）。古墳時代後期から平安時代後期までの、土器、瓦、埴輪、石製品が出土した。

第21表 A区遺構外出土遺物観察表（第30～34図）

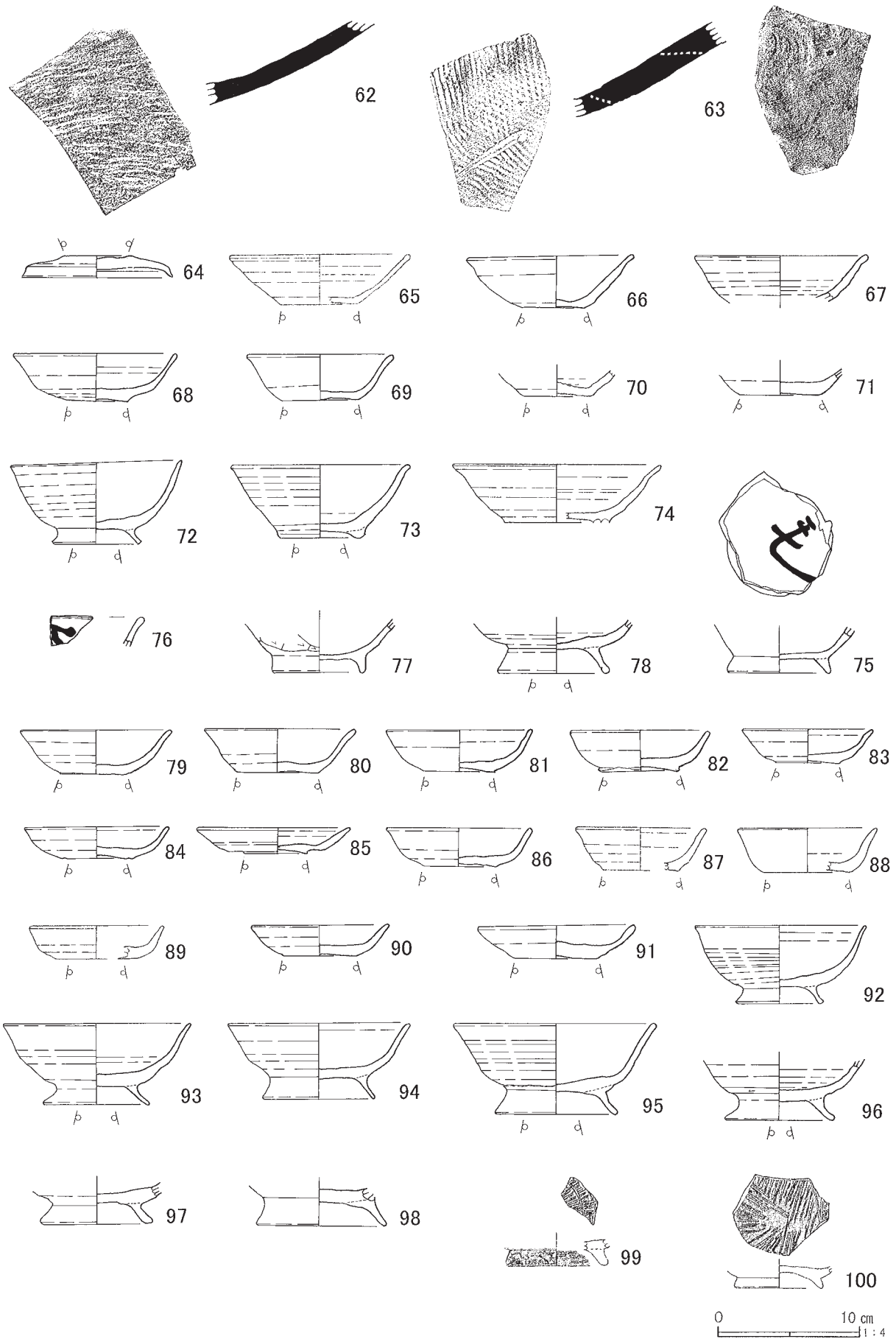
欄外番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
30	1	土師器 環	(12.5)	3.4	(8.7)	ADG	A	橙色	35%	
30	2	土師器 環	—	2.2	(5.0)	AEIJK	A	外面：浅黄色 内面：明黄褐色、橙色	底部付近破片	
30	3	土師器 環	—	2.7	5.4	AEGIJKM	A	外面：橙色、明黄褐色 内面：橙色	底部100%	体部外面に墨書。
30	4	土師器 環	—	2.9	7.1	ABEM	A	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色、橙色	40%	
30	5	土師器 環	—	—	—	ABEHJ	A	にぶい黄褐色	口縁部破片	墨書外面「一」、内面「 」。
30	6	土師器 環	—	—	—	ABE	A	にぶい橙色	口縁部破片	体部外面に墨書。
30	7	土師器 環	—	—	—	ADHJ	A	橙色	体部破片	体部外面に墨書。
30	8	土師器 環	—	—	—	ABEJ	A	にぶい黄褐色	口縁部破片	外面に墨書。
30	9	土師器 環	—	—	—	AEI	A	外面：橙色 内面：にぶい橙色	口縁部破片	体部外面に墨書「刀」か。
30	10	土師器 環	—	—	—	BCHJ	A	橙色	口縁部破片	体部内面に墨書。
30	11	土師器 環	—	—	—	ADMN	B	にぶい黄褐色	口縁部破片	体部内面に墨書。
30	12	土師器 環	—	—	—	AEHJK	B	浅黄色	体部破片	体部外面に墨書「門」か。
30	13	土師器 環	—	—	—	AHJ	A	にぶい橙色	体部破片	体部内面に墨書。
30	14	土師器 環	—	—	—	BCK	B	にぶい橙色	体部破片	体部外面に墨書。
30	15	土師器 環	—	—	—	AEM	A	橙色	体部破片	内面に墨書。
30	16	土師器 環	—	—	—	ABE	A	にぶい黄褐色	底部～ 体部破片	体部外面に墨書「門」。
30	17	土師器 環	—	1.0	—	ABDHM	A	外面：橙色 内面：灰色	底部破片	内面に墨書。
30	18	土師器 環	(13.0)	4.5	—	DK	B	にぶい黄褐色	20%	
30	19	土師器 環	(13.0)	3.6	—	ADJK	A	橙色	口縁部20%	外面に墨書。
30	20	土師器 環	(12.7)	3.9	5.8	ABEHMN	A	にぶい褐色	30%	
30	21	土師器 環	(12.8)	4.5	5.4	ABEJK	A	にぶい黄褐色	30%	内面に帯状に煤付着、灯明皿用途か。
30	22	土師器 環	(13.6)	4.0	(17.4)	AEJK	B	浅黄褐色	30%	



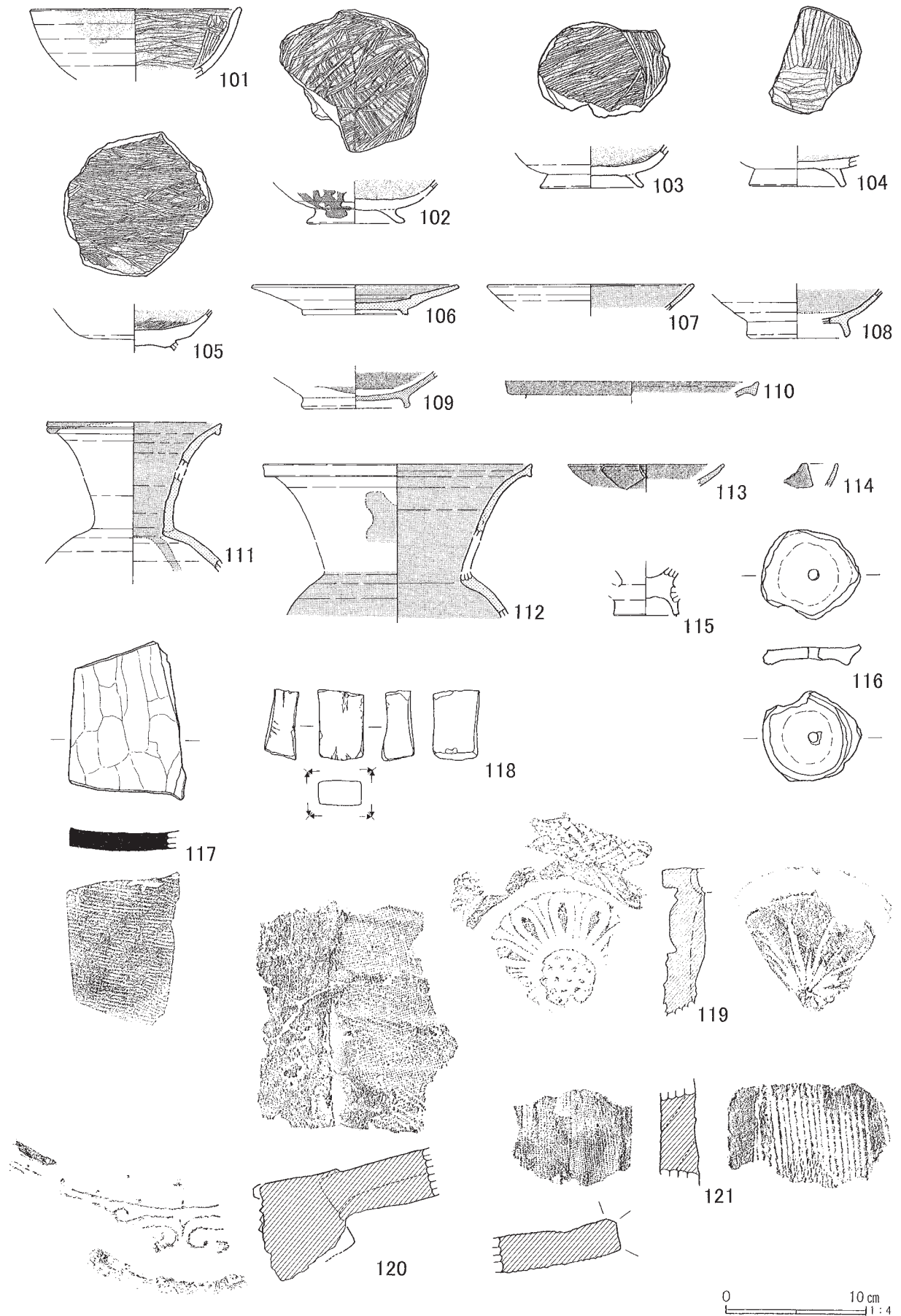
第30图 A区遺構外出土遺物(1)



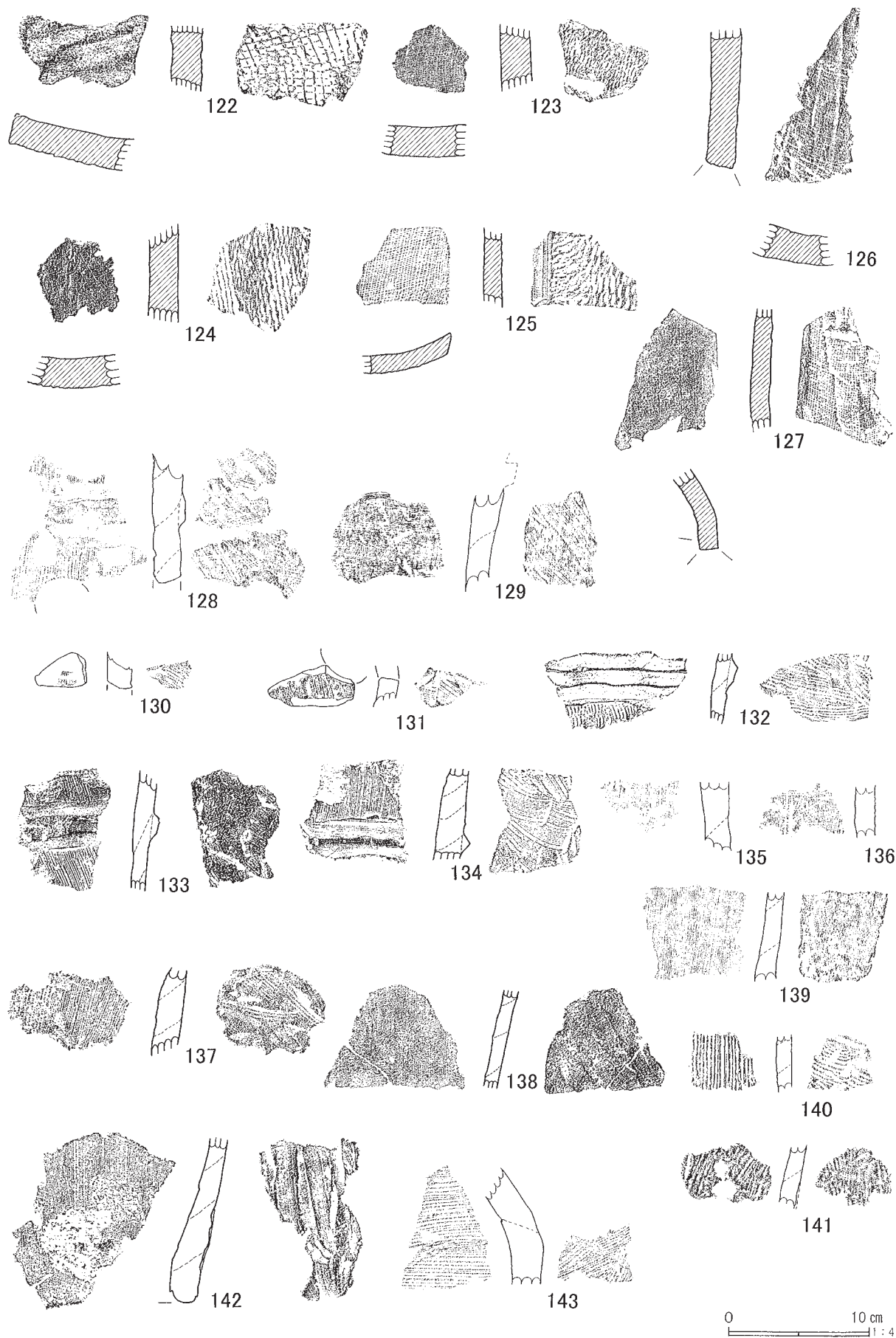
第31图 A区遺構外出土遺物(2)



第32图 A区遺構外出土遺物(3)



第33图 A区遺構外出土遺物(4)



第34图 A区遺構外出土遺物（5）

編目番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
30	23	土師器 杯	12.9	4.8	5.6	ADEKN	A	にぶい橙色	100%	
30	24	土師器 杯	14.0	4.6	5.1	ABDIJ	B	橙色	98%	
30	25	土師器 杯	(11.7)	4.7	5.8	ABEHKN	A	にぶい黄橙色	40%	
30	26	土師器 杯	(11.4)	4.4	(4.9)	ABEH	B	にぶい黄橙色	30%	
30	27	土師器 杯	—	2.7	5.0	ABCJM	A	にぶい黄橙色	35%	
30	28	土師器 杯	—	1.9	5.3	ABEM	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：橙色	底部破片	内外面に墨書。
30	29	土師器 甕	(20.7)	(5.4)	—	ABHJM	A	橙色	口縁部破片	外面が煤ける。
30	30	土師器 甕	(20.9)	(7.5)	—	AEGJ	A	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色	10%以下	
30	31	須恵器 蓋	つまみ径3.7			ABGHN	A	灰色	つまみのみ	末野産。
30	32	須恵器 杯	—	1.6	(11.2)	ABFN	B	灰色	底部25%	南比企産。
30	33	須恵器 杯	—	1.3	5.3	ABGHN	A	灰色	底部100%	
30	34	須恵器 杯	(14.1)	3.0	—	ABGH	A	灰色	口縁15%	体部外面に墨書「木」。末野産。
30	35	須恵器 杯	(12.6)	3.5	5.4	ABELN	B	灰色	80%	
30	36	須恵器 杯	(12.1)	3.3	(5.6)	FN	C	にぶい黄色	25%	酸化焰焼成。南比企産。
30	37	須恵器 碗	(12.8)	5.0	6.3	AGM	A	灰白色	40%	
30	38	須恵器 碗	—	2.9	6.9	ABDN	B	外面：灰白色、オリーブ黒 色 内面：灰白色	40%	末野産。
30	39	須恵器 碗	—	2.4	(7.0)	ABMN	A	外面：灰色、赤色 内面：灰色	底部付近のみ	底部外面高台内に朱墨痕。 転用祝用途。
30	40	須恵器 碗	—	2.8	6.8	ABJM	B	外面：灰黄色 内面：灰白色	底部破片	
30	41	須恵器 碗	—	2.8	(7.9)	AL	B	黄灰色	底部75%	底部外面：静止ヘラ削り。末野産。
30	42	須恵器 碗	(13.4)	5.1	7.1	ABLN	A	灰色	50%	末野産。
30	43	須恵器 杯	(13.3)	4.0	—	ADHLMN	B	灰黄色	口縁部破片	体部両面に墨書「門」か。 末野産。
30	44	須恵器 碗	—	2.3	6.2	ABGM	B	灰色	底部100%	内外面に墨書「冬」か。
31	45	須恵器 杯	(11.9)	4.0	—	ABIJN	B	灰黄色	20%	末野産。
31	46	須恵器 碗	—	1.6	7.0	AG	A	外面：灰色 内面：灰黄褐色	底部100%	
31	47	須恵器 皿	(13.8)	6.0	2.2	ACL	B	明赤褐色	40%	底部外面に墨書。
31	48	須恵器 皿	(23.7)	2.7	(6.7)	AHLN	A	外面：暗青灰色 内面：灰色	25%	底部内面に酸化鉄?付着。 末野産。
31	49	須恵器 長頸壺	(10.8)	(7.6)	—	ABH	A	灰色	口縁部～頸部 65%	外面の一部及び内面に灰釉。
31	50	須恵器 甕	—	—	—	ABHLN	A	灰色	胴部破片	穿孔方法は双方からか。
31	51	須恵器 甕	—	6.1	—	ABFN	A	暗灰色	頸部破片	
31	52	須恵器 甕	(40.0)	25.0	—	ABLN	A	青灰色	口縁部15%	末野産。
31	53	須恵器 甕	(20.8)	4.4	—	ABH	A	灰色	口縁部10% 以下	内外面に自然釉。
31	54	須恵器 壺	—	3.0	(29.0)	BDHJM	B	外面：灰白色 内面：灰色	底部破片	
31	55	須恵器 甕	厚さ1.4～2.0			ABDGLN	A	灰色	胴部破片	外面：格子叩き。 内面：平行あて具痕。

標本番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
31	56	須恵器 甗	厚み1.2~1.4			ABFN	A	外面：黒色 内面：褐灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：ナデ。 南比企産。
31	57	須恵器 甗	厚さ0.9~1.0			ABGN	A	灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。
31	58	須恵器 甗	厚さ1.1~1.2			ABLN	A	外面：暗灰色 内面：灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕をナデ消し。
31	59	須恵器 甗	厚さ1.0~1.2			ABDN	A	外面：灰色 内面：灰白色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：ヨコナデ。
31	60	須恵器 甗	厚さ0.8~1.0			AEMN	A	外面：灰色 内面：青灰色	胴部上半破片	外面：平行叩き、一部に自然釉。 内面：青海波文あて具痕、ヨコナデ。
31	61	須恵器 甗	厚さ0.7~1.2			ABEG	A	外面：黒色 内面：灰色	胴部下半破片	
32	62	須恵器 甗	厚さ1.1~1.5			ABLN	A	灰色	底部付近破片か	外面：平行叩き。 内面：無文のあて具痕か。
32	63	須恵器 甗	厚さ1.2~1.8			ABLN	A	外面：青灰色 内面：灰色	底部付近破片か	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕（摩滅）。 未野産。
32	64	須恵系土師質土器 蓋	10.8	1.6	—	ABEIKO	C	橙色	70%	
32	65	須恵系土師質土器 坏	(13.2)	3.6	(5.7)	BO	B	橙色	20%	
32	66	須恵系土師質土器 坏	12.0	3.9	4.7	ABHKN	A	灰白色	50%	
32	67	須恵系土師質土器 坏(碗)	(12.5)	3.4	—	AEM	B	にぶい橙色	40%	
32	68	須恵系土師質土器 坏	11.7	3.5	4.3	AHK	A	にぶい黄褐色	100%	
32	69	須恵系土師質土器 坏	10.5	3.4	5.4	ABEMNO	B	にぶい黄色	60%	
32	70	須恵系土師質土器 坏	—	1.9	5.0	ABE	B	にぶい橙色	底部破片	
32	71	須恵系土師質土器 坏	—	1.4	5.8	ABEJK	A	にぶい黄橙色、橙色	底部100%	
32	72	須恵系土師質土器 碗	10.3	6.1	6.4	ABHM	A	橙色	80%	口縁部内外面の一部に煤付着。
32	73	須恵系土師質土器 碗	(12.9)	5.3	6.3	ABHLMO	B	にぶい黄褐色	45%	
32	74	須恵系土師質土器 碗	(15.0)	4.2	—	ABCN	B	にぶい黄橙色	10%	
32	75	須恵系土師質土器 碗	—	(3.0)	7.4	ABDEHJ	A	浅黄橙色	底部100%	底部内面に墨書「毛」か。
32	76	須恵系土師質土器 坏(碗)	—	—	—	ABEK	B	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	口縁部破片	体部外面に墨書。
32	77	須恵系土師質土器 碗	—	3.3	6.7	ABEK	A	外面：浅黄橙色、明褐色 内面：浅黄橙色	30%	
32	78	須恵系土師質土器 碗	—	3.5	8.0	ABEGJK	A	浅黄橙色	底部付近70%	
32	79	ロクロ土師器 坏	11.0	3.2	5.0	AEGHN	A	にぶい橙色	90%	
32	80	ロクロ土師器 坏	10.9	3.2	5.8	ADHKM	B	橙色	65%	
32	81	ロクロ土師器 坏	10.5	3.1	4.9	AEGN	A	にぶい橙色	100%	
32	82	ロクロ土師器 坏	10.1	3.0	5.7	ADLM	A	にぶい橙色	70%	
32	83	ロクロ土師器 坏	(9.4)	2.4	(4.5)	BEIK	C	にぶい橙色	30%	
32	84	ロクロ土師器 坏	(10.4)	2.2	(4.2)	ABEGIKO	B	橙色	25%	
32	85	ロクロ土師器 坏	10.9	1.9	4.5	ACIJKN	A	黄橙色	100%	
32	86	ロクロ土師器 皿	10.5	2.8	5.1	ABDEHM	A	橙色	100%	内面に煤付着。
32	87	ロクロ土師器 坏	(9.4)	—	(5.6)	ABIK	C	橙色	25%	

編目番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
32	88	ロクロ土師器 坏	(10.1)	3.2	(6.4)	ABE	C	にぶい黄橙色	50%	
32	89	ロクロ土師器 坏	(9.8)	2.4	(6.0)	ABEGIK	C	明黄褐色	20%	
32	90	ロクロ土師器 皿	(9.9)	2.2	5.3	AGKM	A	橙色	60%	
32	91	ロクロ土師器 皿	11.2	2.4	5.9	ABEGL	A	浅黄橙	98%	
32	92	ロクロ土師器 碗	12.3	5.6	6.3	AEMN	A	にぶい橙色	70%	
32	93	ロクロ土師器 碗	(13.4)	6.8	17.6	ADJO	A	オリーブ黒色	60%	内外面とも煤を吸着させているか (体部外面の一部に煤(タール)付着)。
32	94	ロクロ土師器 碗	(13.1)	5.4	(8.1)	ABEHKN	B	橙色	40%	
32	95	ロクロ土師器 碗	(14.5)	6.5	8.8	ABJKM	A	外面：明赤褐色 内面：橙色	60%	
32	96	ロクロ土師器 碗	—	4.4	(7.9)	ABCJKM	A	にぶい橙色	35%	
32	97	ロクロ土師器 碗	—	2.2	8.0	BEK	C	にぶい橙色	底部60%	
32	98	ロクロ土師器 碗	—	2.8	9.4	BEGMNO	A	橙色	高台部破片	
32	99	黒色土器 碗	—	1.9	(7.5)	AJ	B	黒色	高台部25%	
32	100	黒色土器 碗	—	1.6	6.2	AEJN	B	外面：浅黄橙色 内面：黒色	高台部100%	
33	101	黒色土器 碗	(15.3)	5.1	—	ADEHJM	A	外面：にぶい黄橙色 内面：黒色	20%	内面黒色処理、ヘラミガキ。 外面の一部煤ける。
33	102	黒色土器 碗	—	(2.8)	7.1	ABJM	A	外面：橙色 内面：黒色	40%	内面黒色処理、ヘラミガキ。 外面にタール(煤)付着。
33	103	黒色土器 碗	—	2.6	7.5	ABEHJM	A	橙色	35%	内面黒色処理、ヘラミガキ。
33	104	黒色土器 碗	—	1.6	(7.0)	ABDJK	A	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：黒色	底部45%	内面黒色処理、ヘラミガキ。
33	105	黒色土器 碗	—	(3.0)	—	AEJKM	A	外面：橙色 内面：黒色	30%	内面黒色処理、ヘラミガキ。
33	106	灰釉陶器 段皿	(15.0)	2.2	(7.6)	AD	A	灰白色	35%	内面に釉薬、ハケ塗りか。 猿投窯黒笹14号窯式か。
33	107	灰釉陶器 皿	(14.9)	2.0	—	AB	A	灰色	口縁部20%	内外面に釉薬、ハケ塗り。 猿投窯黒笹90号窯式か。
33	108	灰釉陶器 碗	—	3.3	(6.3)	AB	A	灰白色	底部20%	釉薬ハケ塗り。 猿投窯黒笹90号窯式か。
33	109	灰釉陶器 碗	—	2.7	8.0	ABC	A	灰白色	底部50%	内外面に釉薬、ツケガケ。 猿投窯折戸53号窯式か。
33	110	灰釉陶器 壺	(18.7)	1.0	—	—	A	灰オリーブ色	口縁の一部 破片	内外面に釉薬。
33	111	灰釉陶器 長頸壺	(12.5)	(10.2)	頸部径 (6.0)	ABN	A	灰白色	口縁部15%、 頸部～肩部 30%	外面全体灰釉、頸部内面全体灰釉、 胴部に灰釉たれる。
33	112	灰釉陶器 長頸壺	(19.4)	(10.8)	—	ABM	A	灰白色	口縁部15%、 胴部上半破片	外面の一部及び内面全体に灰釉。
33	113	緑釉陶器 碗	(11.5)	1.6	—	AB	A	オリーブ灰色	口縁の一部 破片	内外面に釉薬。
33	114	緑釉陶器 碗	—	—	—	AB	A	オリーブ灰色	口縁の一部 破片	内外面に釉薬。
33	115	仏具(土師質)	—	3.1	4.7	BHJM	A	にぶい橙色	台部破片	灯明台か。
33	116	転用紡錘車	最大幅7.1、最大厚1.2、 孔径0.8			ADGJLM	A	橙色	100% (土器として は底部破片)	須恵系土師質土器碗を転用した紡 錘車のはずみ車。
33	117	須恵器 甕	厚さ1.2～1.3			ABM	A	外面：灰色 内面：灰白色	胴部破片	四方の端部のうち2面が平滑に成 形されている。内面も平滑になっ ていて転用碗の磨面として使用し たか。

標本番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
33	118	砥石	最大長5.2 最大幅3.4 最大厚3.2 重量61.3							一部破片	全面使用。凝灰岩製。
33	119	単弁12葉蓮華文軒丸瓦	瓦当厚さ2.7			ABDEIN	B	黄褐色	瓦当面30%	瓦当面/中房直径4.4cm、蓮子17個(1+6+10)、周縁直立縁で、端面は平坦でナデ。瓦当裏面/布紋り痕。瓦当外周/斜格子(小)叩き。一本造り。	
33	120	均正唐草文軒平瓦	瓦当厚さ7.1 平瓦部厚さ3.2~3.5			EGLMN	B	橙色、にぶい黄橙色	瓦当面35%、平瓦の一部	瓦当面/文様の隆線と界線は断面三角形。頸/斜め段頸。平瓦部/凹面：横方向のヘラ削り、ナデ、布目痕(6×7本/cm ²)、糸切痕。凸面：縦方向のヘラ削り。粘土板貼り合わせ成形。	
33	121	平瓦	厚さ2.2~2.7			AEGJMN	B	暗灰黄色	一方端の一部	凹面：布目痕7×7本/cm ² 、模骨痕。凸面：縄叩き。粘土紐桶巻き造り。	
34	122	平瓦	厚さ2.0~2.2			ADMN	B	灰黄色	側端部破片	凹面：横方向指ナデ。凸面：格子叩き。粘土紐桶巻き造り。	
34	123	平瓦	厚さ2.1~2.2			ADMN	A	凹面：明青灰色 凸面：橙色	一部破片	凹面：布目痕10×9本/cm ² 。凸面：縄叩き。	
34	124	平瓦	厚さ2.0~2.2			AEIMN	A	凹面：にぶい黄褐色 凸面：灰色	一部	凹面：布目痕ナデ消し。凸面：縄叩き。粘土板一枚造りか。	
34	125	平瓦	厚さ1.2			AEHIM	A	凹面：にぶい黄褐色 凸面：にぶい黄色	一方端付近破片	凹面：布目痕5×7本/cm ² 、糸切り痕。凸面：縄叩き。粘土板一枚造り。	
34	126	丸瓦	厚さ2.0~2.4			ADHMN	A	凸面：にぶい赤褐色、黄灰色 凹面：灰色	端部破片	凸面：ナデ。凹面：布目痕8×10本/cm ² 。粘土紐桶巻き造り。	
34	127	丸瓦	厚さ1.0~1.4			AFM	A	青灰色	側端部破片	凸面：ナデ。凹面：布目痕8×10本/cm ² 、一部横方向ナデ。南比企産。	
34	128	円筒埴輪	厚さ1.8~2.2			ACEJKN	B	赤褐色	胴部破片(スカシ孔部)	外面：縦ハケ11本/2cm 内面：右傾斜ハケ11本/2cm	
34	129	円筒埴輪	厚さ1.7~2.0			ABEMN	B	にぶい橙色	胴部下部破片	外面：縦ハケ12本/2cm 内面：右傾斜ハケ17本/2cm	
34	130	円筒埴輪	厚さ1.8			ABCK	B	明赤褐色	脚部破片(スカシ孔部)	外面：縦ハケ12本/2cm 内面：右傾斜ハケ12本/2cm	
34	131	円筒埴輪	厚さ1.4			ABJM	B	橙色	胴部破片(スカシ孔部)	外面：縦ハケ14本/2cm 内面：右傾斜ハケ14本/2cm	
34	132	円筒埴輪	厚さ0.9~1.1			ADMN	A	橙色	凸帯部の一部破片	外面：縦ハケ9本/2cm 内面：右斜めハケ9本/2cm	
34	133	円筒埴輪	厚さ1.0~1.3			AGN	B	外面：橙色 内面：褐色	突帯部破片	外面：縦ハケ13本/2cm 内面：右傾斜ハケ8本/1cmの後、縦方向指ナデ。	
34	134	円筒埴輪	厚さ1.3~1.9			AMN	A	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色	突帯部破片	外面：縦ハケ23本/2cm 内面：横・右傾斜ハケ18本/2cm	
34	135	円筒埴輪	厚さ1.6~2.0			ABCN	B	橙色	胴部破片	外面：縦ハケ20本/2cm 内面：右傾斜ハケ後指ナデ	
34	136	円筒埴輪	厚さ1.4~1.5			ABCJN	B	明赤褐色	胴部破片	外面：縦ハケ17本/2cm 内面：縦指ナデ	
34	137	円筒埴輪	厚さ1.1~1.8			ABJLMN	B	外面：橙色 内面：にぶい褐色	胴部破片	外面：縦ハケ7本/cm 内面：横・右斜めハケ4本/cm	
34	138	円筒埴輪	厚さ0.9~1.0			ABGLMN	B	橙色	胴部破片	外面：縦ハケ23本/2cm 内面：右傾斜指ナデ	
34	139	円筒埴輪	厚さ1.2~1.4			ABDEIJN	B	にぶい赤褐色	胴部破片	外面：縦ハケ19本/2cm 内面：指ナデ	
34	140	円筒埴輪	厚さ1.0~1.1			ABDEIJN	B	明赤褐色	胴部破片	外面：縦ハケ8本/2cm 内面：右傾斜及び横ハケ9本/2cm	
34	141	円筒埴輪	厚さ1.1~1.2			ABDEIJN	B	明赤褐色	胴部破片	外面：縦ハケ6本/2cm 内面：右傾斜ハケ6本/2cm後一部指ナデ	
34	142	円筒埴輪	厚さ1.2~2.1			ABDEHJN	B	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	基部付近破片	外面：縦ハケ18本/2cm 内面：縦ハケ10本/cm	
34	143	形象埴輪	厚さ2.1~2.4			ABDEIJN	B	明赤褐色	胴部破片	外面：縦ハケ8本/2cm、斜めハケ。馬か。	

2 B区の調査

調査区は、西別府遺跡遺跡範囲の中央部で、東側の一部は西別府廃寺遺跡範囲に含まれる。調査対象面積は、255㎡であった。調査区の座標は、X=20,990~21,015、Y=-44,975~-45,010内にあり、幡羅遺跡大グリッドのE・F-V・VIグリッド内にある。

調査区周辺の標高は約33mで、遺構確認面までの深さは、西でやや深く約90cm、東で約75cmであった。

確認された遺構は、竪穴建物跡12棟（第6~17号竪穴建物跡）、掘立柱建物跡1棟（第8号掘立柱建物跡）、土坑4基、溝跡8条（内1条は区画溝）、ピット多数であった。遺構の総体としての分布は、調査区の北西部に密集して検出され、中央部及び東部はやや希薄であった。

竪穴建物跡は、東端部に1棟（第6号竪穴建物跡）、中央部に2棟（第7・8号竪穴建物跡）、北西部に9棟（第9~17号竪穴建物跡）が確認された。また、第6号竪穴建物跡のみ単独で確認され、第7・8号竪穴建物跡は互いに切り合った上に、第13号溝跡切られていた。また、第9~17号竪穴建物跡は、まとまって重複しあった状態で確認された。各々の竪穴建物跡は、7世紀後半に第6・8号竪穴建物跡、7世紀後半~8世紀初頭（ないしは8世紀前半）に第7・9号竪穴建物跡、8世紀前半に第13号竪穴建物跡、9世紀後半~10世紀初頭に第10号竪穴建物跡、10世紀前半に第14号竪穴建物跡、10世紀後半~11世紀前半に第11・12・15~17号竪穴建物跡の順に造られたと考えられる。なお、第13号溝跡による方形区画に時期的に関係のある竪穴建物跡は、第9・10・13号竪穴建物跡と推定される。

掘立柱建物跡は、南端のやや西寄りに1棟（第8号掘立柱建物跡）が確認された。区画溝の第13号溝跡及び第14号溝跡と重複関係にある。

土坑は、第16~19号溝跡が所在する箇所にも2基（第20・21号土坑）、西部の竪穴建物跡が9棟重複する箇所に多量の礫を伴う第22号土坑が確認された。遺物が検出された土坑からは、10世紀後半~11世紀前半の遺物が出土した。

ピットは、散在して検出され、特に西部に検出基数が多かった。

溝跡については、方形区画を形成する区画溝跡（第13号溝跡）が確認され、第14号溝跡と重複関係にある。その他の溝跡は、東部に2条（第12・15号溝跡）、西部拡張区に4条（第16~19号溝跡）が比較的まとまって確認された。第13号溝跡からは8世紀前半~10世紀初頭の遺物が検出され、8世紀前半から機能していた可能性が考えられる。

(1) 竪穴建物跡

第6号竪穴建物跡 (第36~38図、第22表)

調査区の東部に位置する。座標 $X = 20,990 \sim 21,000$ 、 $Y = -44,975 \sim -44,985$ 内にある。単独で所在する。

規模は、北部及び東部が調査区域外となっており、検出長軸4.60m、短軸4.55mを測り、平面プランは、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、 $N-43^{\circ}-W$ を示す。

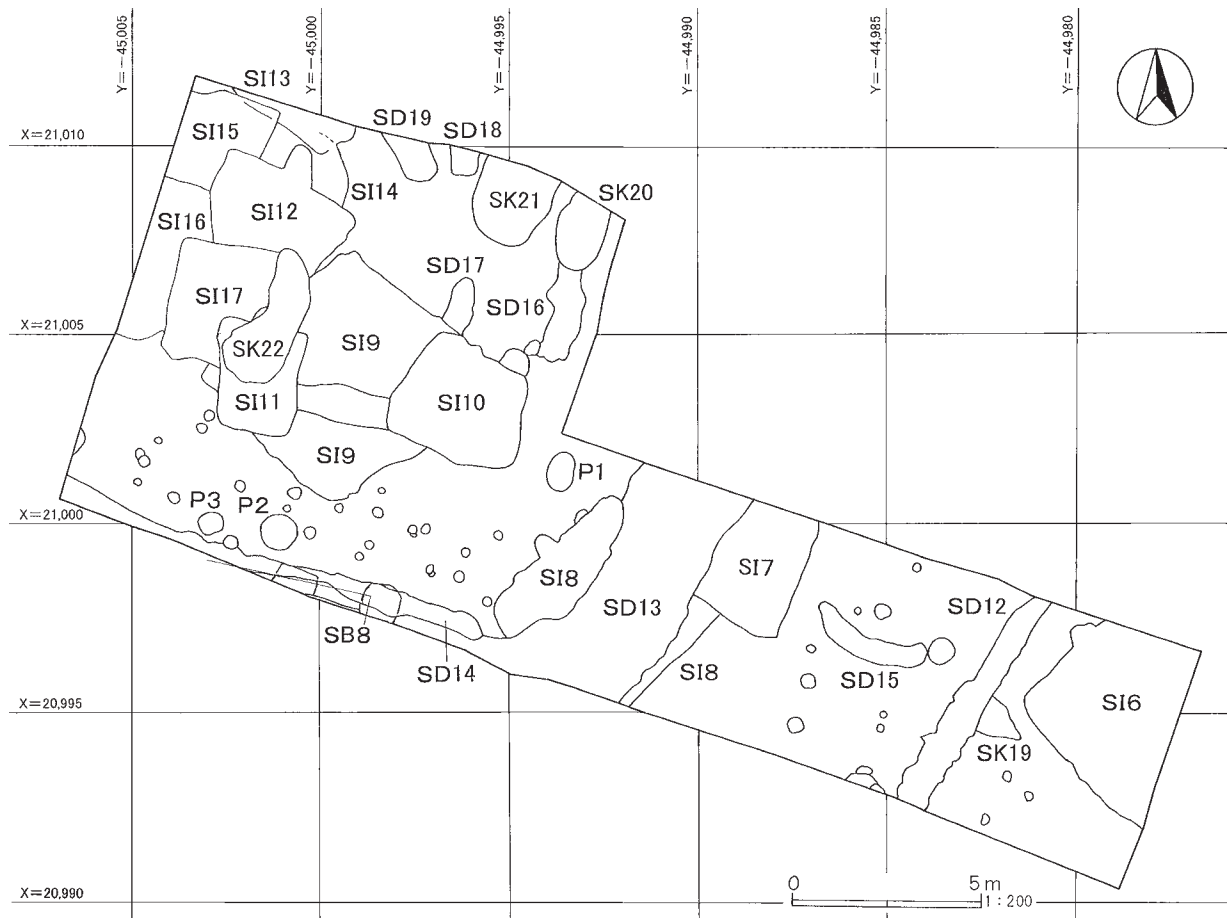
プランのほぼ4分の1を掘り下げたが、土層断面観察から、床までの深さは最大52cmを測り、建物内土坑では最深で90cmを測る。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、ほぼ平坦であるが、北西壁方向に向かってやや傾斜が見られた。

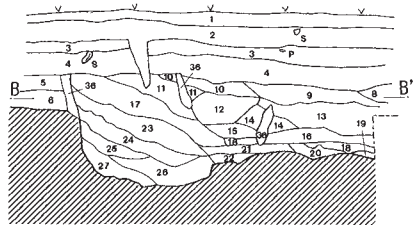
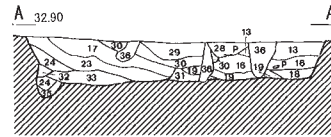
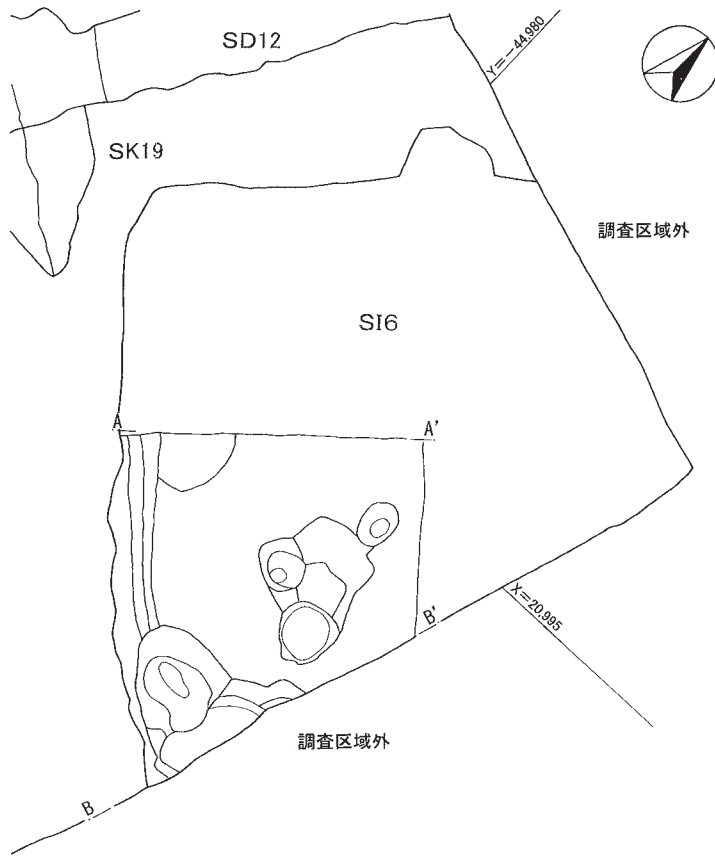
壁溝は、北西壁の一部分で建物内土坑に切られているが、途切れなく確認された。柱穴と考えられるピットが、掘り下げを行った箇所ほぼ中央で1基確認された。なお、この柱穴と考えられるピットの周囲は、建物内土坑ないしは貼床箇所の掘方と考えられる掘り込みが確認された。

カマドは、掘り下げを行っていないため、詳細は不明であるが、おそらく短軸の北西壁と考えられる壁に確認された。平面確認長0.38m、焚口幅0.72m、煙道部は削平されて確認できなかった。

出土遺物は、土師器坏・碗・甕・短頸壺、須恵器蓋・坏・短頸壺等が出土し、掘り下げ箇所だけの所



第35図 B区全測図



土層説明(A-A')(B-B')

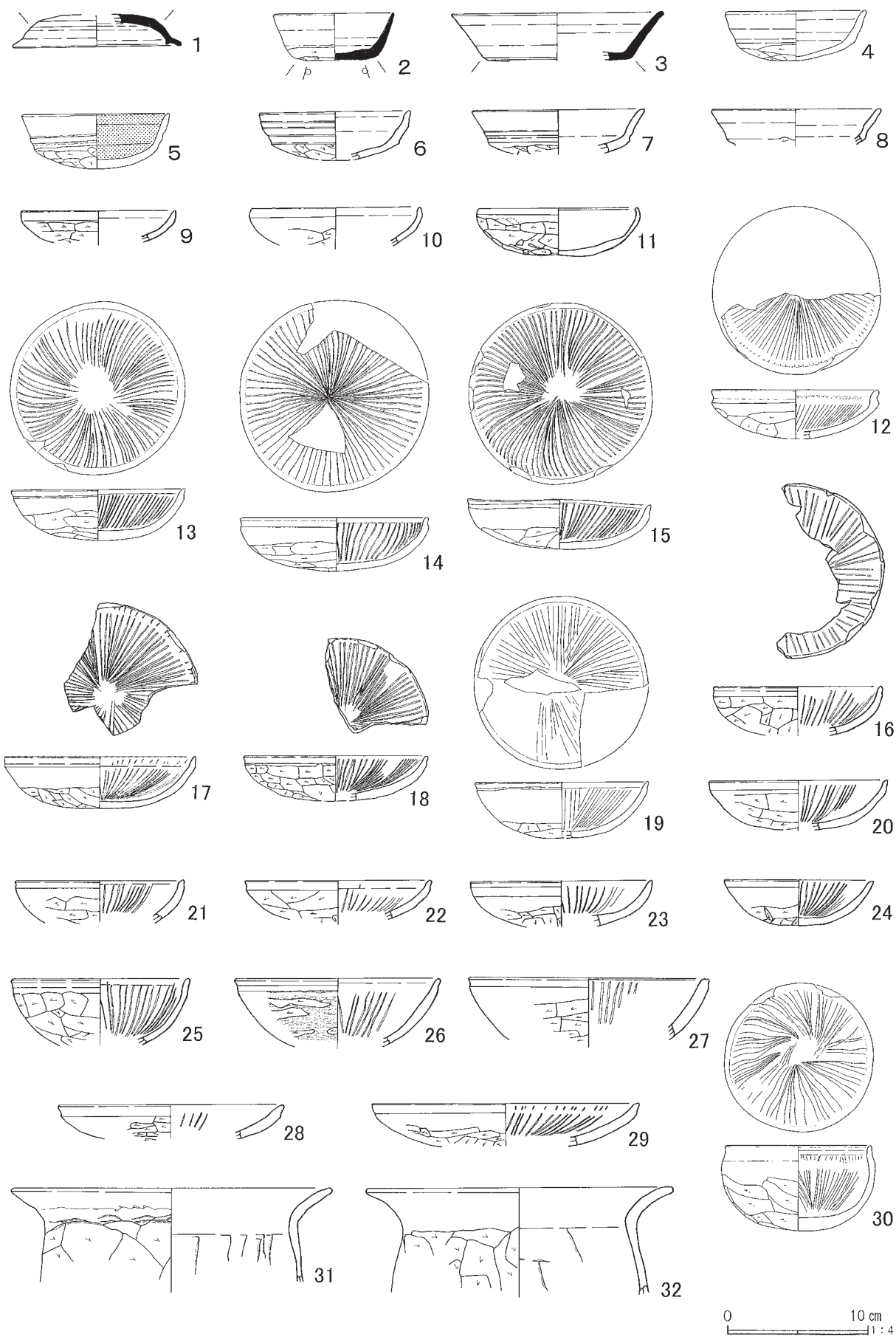
SI06

- 1 耕作土
- 2 灰黄色土
しまった層、焼土粒わずか含、火山灰粒(浅間B)含
- 3 暗灰黄色土
しまった層、火山灰粒(浅間B)若干、灰黄色土ブロック若干含
- 4 灰黄褐色土
ソフトローム土微粒子わずか、焼土粒ごくわずか含
- 5 にぶい黄褐色土
灰黄褐色土ブロック多量含
- 6 にぶい黄褐色土
ハードローム土ブロック少量、黒褐色土ブロック若干含
- 7 ソフトローム土
- 8 灰黄褐色土
ハードローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
- 9 にぶい黄褐色土
灰黄褐色土混入、ハードローム土粒子・微粒子若干、焼土粒・炭化物粒若干含
ハードローム土微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
- 10 灰黄褐色土
ハードローム土微粒子ごくわずか、焼土粒若干、炭化物粒ごくわずか、土器含
- 11 黒褐色土
灰白色粘質土粒子若干、ソフトローム土粒子若干、焼土粒・炭化物粒わずか、土器含
- 12 褐灰色土
ハードローム土粒子若干、ハードローム土微粒子多量、炭化物粒わずか含
- 13 黄褐色土
ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒若干、土器含
- 14 暗灰黄色土
ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
- 15 黒褐色土
ソフトローム土粒子ごくわずか、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒少量含
- 16 黒褐色土
ソフトローム土微粒子多量に含みにぶい黄色帯びる、焼土粒若干、炭化物粒ごくわずか含
- 17 灰黄褐色土
ハードローム土粒子・ブロック若干含
ハードローム土粒子ごくわずか、ソフトローム土微粒子多量含
- 18 黒褐色土
ソフトローム土ブロック若干、黒褐色土ブロック多量含
- 19 褐灰色土
ソフトローム土粒子若干、炭化物粒ごくわずか含
- 20 褐灰色土
ソフトローム土ブロック若干、黒褐色土ブロック多量含
- 21 黒褐色土
ソフトローム土粒子若干、炭化物粒ごくわずか含
- 22 褐灰色土
ソフトローム土ブロック若干、黒褐色土ブロック多量含
- 23 黒褐色土
ソフトローム土粒子若干、ソフトローム土微粒子非常に多く含、黒褐色土ブロックわずか含
- 24 黄褐色土
ハードローム土ブロック・粒子若干含
- 25 黒褐色土
ハードローム土ブロック若干、炭化物粒わずか含
- 26 灰黄褐色土
ハードローム土ブロック大小・粒子非常に多く含、黒褐色土ブロック若干、炭化物粒わずか含
- 27 暗灰黄色土
ハードローム土ブロック多少量含、黒褐色土ブロック若干含
- 28 灰黄褐色粘質土
ハードローム土粒子、焼土粒・炭化物粒わずか、土器含(攪乱層か)
- 29 黒褐色土
暗灰黄色土ブロック若干、焼土粒・炭化物粒少量、土器含(攪乱層か)
- 30 灰黄褐色土
ハードローム土粒子若干、焼土粒少量、炭化物粒わずか含
- 31 ハードローム土ブロック層
灰黄褐色土ブロック若干含
- 32 黒褐色土
ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- 33 灰黄褐色土
ソフトローム土ブロック・粒子少量、ハードローム土粒子若干含
- 34 黒褐色土
黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土粒子・微粒子多量含
- 35 暗灰黄色土
ハードローム土ブロック・粒子多量含
- 36 根の攪乱



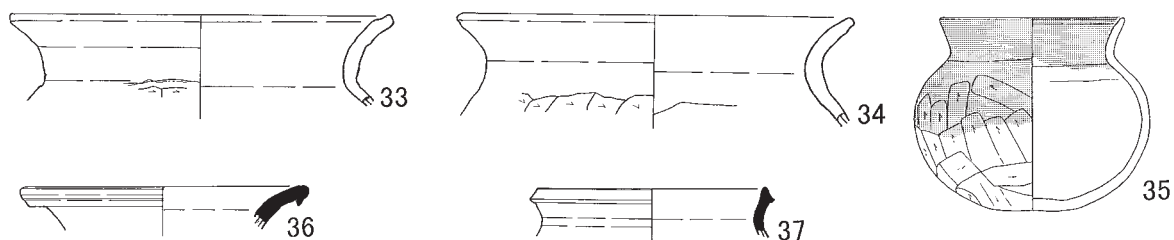
0 2m 1:60

第36図 第6号竪穴建物跡、遺物出土状況



第37图 第6号竖穴建物跡出土遺物

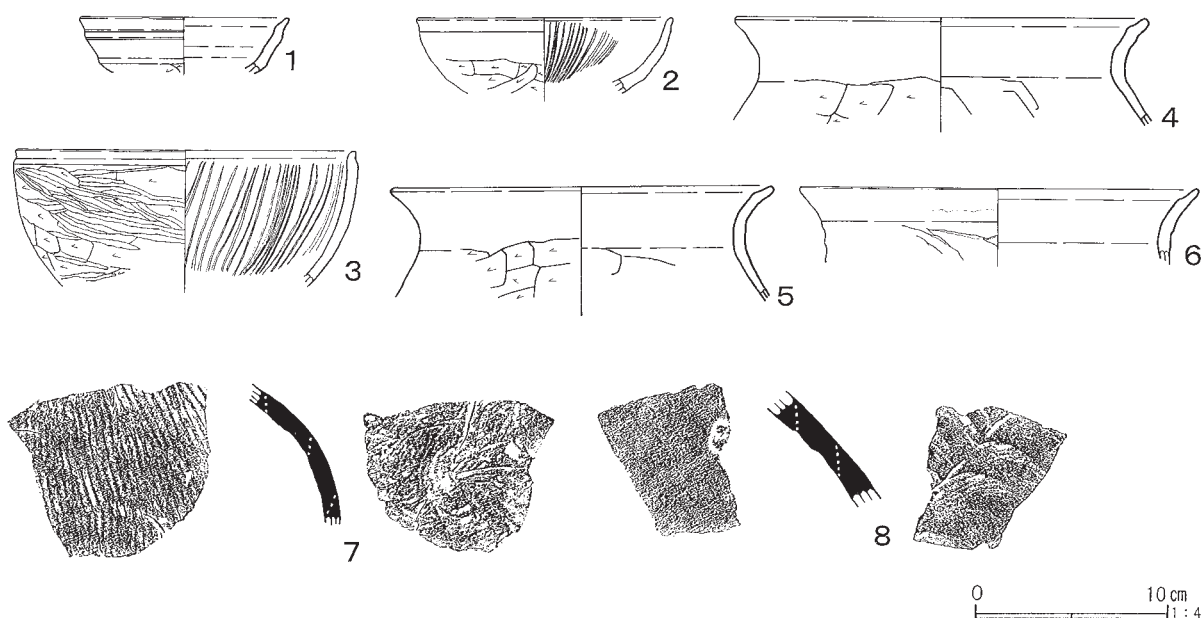
SI6



SI7



SI8



第38図 第6～8号竪穴建物跡出土遺物

見であるが、建物の中央寄りに集中して検出された。なお、土師器杯・碗の大多数は、内面に放射状暗文を施したものであった。

時期は、7世紀後半と考えられる。

第7号竪穴建物跡（第38・39図、第23表）

調査区の中央部やや西寄りに位置する。座標 $X=20,995\sim 21,005$ 、 $Y=-44,985\sim -44,995$ 内にある。第8号竪穴建物跡、第13号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第13号溝跡に切られ、第8号竪穴建物跡を切っている。

規模は、北部が調査区域外となり、西部が第13号溝跡に切られているが、検出長軸3.31m、短軸2.45mを測り、平面プランは、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、 $N-63^{\circ}-W$ を示すと推定される。

全体の掘り下げを行っていないため詳細は不明であるが、土層断面観察から、床までの深さは最大78cmを測る。覆土は、ややレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

第22表 第6号竖穴建物跡出土遺物観察表(第37・38図)

標本番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
37	1	須恵器蓋	(12.0)	2.3	—	AGL	A	灰色	25%	未野産。
37	2	須恵器環	8.6	3.4	4.2	AHL	A	灰色	98%	内面に炭化物付着。未野産。
37	3	須恵器環	(15.2)	3.4	(10.7)	ABL	A	灰色	口縁部10%以下	未野産。
37	4	土師器環	16.1	3.5	—	AEH	B	にぶい橙色、灰黄褐色、黒色	70%	内外面に炭化物付着。
37	5	土師器環	10.5	3.9	—	ADEGJ	A	外面：橙色、黒褐色、黒色 内面：橙色、黒褐色、暗青褐色	70%	内面赤彩。
37	6	土師器環	(10.8)	3.4	—	BHK	A	外面：明黄褐色、橙色、黒色 内面：明黄褐色	20%	
37	7	土師器環	(12.3)	3.1	—	AEHJ	A	外面：黒色 内面：黒褐色、にぶい橙色	20%	
37	8	土師器環	(10.0)	2.5	—	AEH	A	外面：黒色 内面：褐色	口縁部20%	
37	9	土師器環	(11.0)	2.3	—	AEHJK	A	にぶい橙色	口縁部15%	
37	10	土師器環	(12.1)	2.7	—	BHK	A	にぶい褐色	口縁部20%	
37	11	土師器環	(11.2)	3.4	—	AJK	A	橙色、にぶい黄橙色	50%	
37	12	土師器環(暗文)	(11.9)	3.5	—	ABJ	A	明赤褐色、橙色	45%	内面に放射状暗文。
37	13	土師器環(暗文)	12.4	3.6	—	AEHIK	A	橙色	98%	内面に放射状暗文。
37	14	土師器環(暗文)	13.4	3.8	—	AEGK	A	橙色	70%	内面に放射状暗文。
37	15	土師器環(暗文)	13.1	3.5	—	ABDHK	A	明赤褐色	95%	内外面炭化物付着。内面に放射状暗文。
37	16	土師器環(暗文)	(12.1)	3.5	—	ADHJK	A	明赤褐色	45%	内面に放射状暗文。
37	17	土師器環(暗文)	(13.7)	3.7	—	ADJK	A	明赤褐色	30%	内面に放射状暗文。
37	18	土師器環(暗文)	(13.1)	3.1	—	CIJ	A	明赤褐色、褐灰色	25%	内面に放射状暗文。
37	19	土師器環(暗文)	12.7	3.9	—	AEIJ	B	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：明赤褐色、橙色	75%	内面に放射状暗文。
37	20	土師器環(暗文)	(12.7)	3.5	—	ADJK	A	外面：明青褐色、橙色 内面：橙色	15%	内面に放射状暗文。
37	21	土師器環(暗文)	(10.0)	3.0	—	AEJK	A	外面：明赤褐色 内面：橙色	口縁部15%	内面に放射状暗文。
37	22	土師器環(暗文)	(13.3)	2.8	—	ABEHI	A	明赤褐色	20%	内面に放射状暗文。
37	23	土師器環(暗文)	(13.0)	3.2	—	ACEIJK	A	明赤褐色	20%	内面に放射状暗文。
37	24	土師器環(暗文)	(10.1)	3.4	—	AHJ	A	外面：橙色、灰黄褐色 内面：黒褐色	25%	内面に放射状暗文。
37	25	土師器環(暗文)	(12.8)	4.7	—	AHK	A	外面：赤褐色 内面：明赤褐色、にぶい黄褐色	20%	内面に放射状暗文。
37	26	土師器環(暗文)	(14.7)	4.9	—	AEJK	A	外面：褐色、にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色	口縁部10%	外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ。 内面：放射状暗文。
37	27	土師器環(暗文)	(17.1)	4.4	—	BCIJK	A	外面：黒褐色 内面：明赤褐色	口縁部15%	内面に放射状暗文。
37	28	土師器盤(暗文)	(16.1)	2.4	—	ACJK	A	外面：橙色、にぶい褐色 内面：橙色	口縁部10%以下	内面に放射状暗文。
37	29	土師器盤(暗文)	(19.1)	3.1	—	EHJK	B	黄褐色、にぶい黄褐色	20%	内面に放射状暗文。
37	30	土師器環(暗文)	10.4	6.1	—	EHK	A	橙色、黒色	97%	内面に放射状暗文。
37	31	土師器甕	(23.0)	6.7	—	ADHKL	A	外面：橙色、にぶい黄褐色 内面：橙色	口縁部25%破片	
37	32	土師器甕	(22.0)	7.6	—	AJK	A	外面：にぶい黄褐色、にぶい橙色 内面：にぶい黄褐色、灰黄褐色	口縁部50%	

欄位番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
38	33	土師器 甕	(20.2)	4.6	—	EGJK	A	橙色	口縁部20%	
38	34	土師器 甕	(20.9)	5.4	—	AEGK	A	橙色	口縁部15%	
38	35	土師器 短頸壺	9.7	10.1	4.5	AEGKN	A	にぶい橙色	65%	口縁部内面～胴部上半外面に赤彩。
38	36	須恵器 短頸壺	(15.2)	2.3	—	ABDG	A	灰色	口縁部25%	
38	37	須恵器 短頸壺	(12.1)	2.5	—	BHK	A	灰色	口縁部25%	内外面に自然釉。

第23表 第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第38図）

欄位番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
38	SI7 1	土師器 坏	(12.2)	2.7	—	EL	A	外面：橙色、にぶい褐色 内面：明黄褐色	口縁部 15%以下	
38	SI7 2	土師器 坏	(15.1)	2.8	—	AJK	A	外面：にぶい橙色 内面：橙色	口縁部15%	
38	SI7 3	土師器 碗（暗文）	(13.7)	3.3	—	ACJ	A	灰黄褐色	口縁部 10%以下	内面に放射状暗文。

第24表 第8号竪穴建物跡出土遺物観察表（第38図）

欄位番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
38	SI8 1	土師器 坏	(11.0)	3.0	—	BDEJ	A	外面：浅黄色 内面：にぶい黄橙色、橙色	口縁部15%	
38	SI8 2	土師器 碗（暗文）	(13.5)	3.9	—	AEHJK	A	外面：橙色 内面：橙色	15%	内面に放射状暗文。
38	SI8 3	土師器 碗（暗文）	(17.8)	7.1	—	AEJK	A	淡黄色、黄灰色、オリーブ 黒色	25%	外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ。 内面：放射状暗文。
38	SI8 4	土師器 甕	(21.8)	5.4	—	AJK	A	明黄褐色、橙色	口縁部25%	
38	SI8 5	土師器 甕	(20.2)	(5.8)	—	AEJ	A	外面：にぶい黄橙色、にぶ い橙色 内面：橙色	口縁部20%	
38	SI8 6	土師器 甕	(21.0)	4.0	—	AEJ	A	にぶい黄褐色、 にぶい赤褐色	口縁部15%	
38	SI8 7	須恵器 甕	厚さ0.7～0.8			BGN	B	外面：灰色 内面：黄灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。
38	SI8 8	須恵器 甕	厚さ1.0～1.3			GMN	A	外面：暗紫灰色、暗青灰色 内面：暗青灰色	胴部破片	外面：ナデ、自然釉。 内面：青海波文あて具痕。

床面は、ほぼ平坦であるが、北西方向に向かってやや傾斜が見られた。

柱穴、壁溝、カマド等の施設は不明である。

出土遺物は、土師器坏・碗等が検出された。

時期は、第8号竪穴建物跡との切り合いを考慮に入れると、7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

第8号竪穴建物跡（第38・39図、第24表）

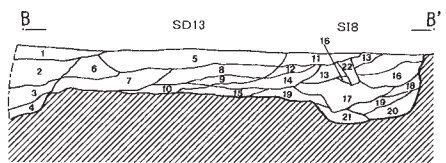
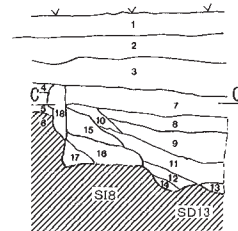
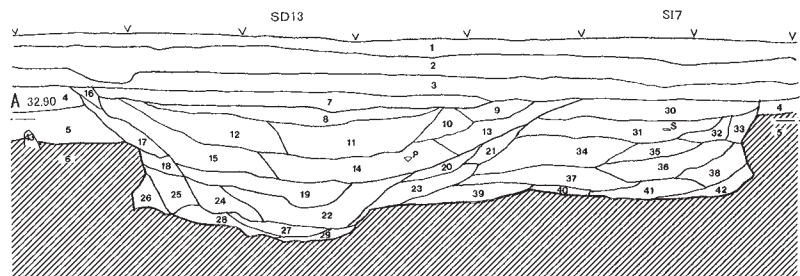
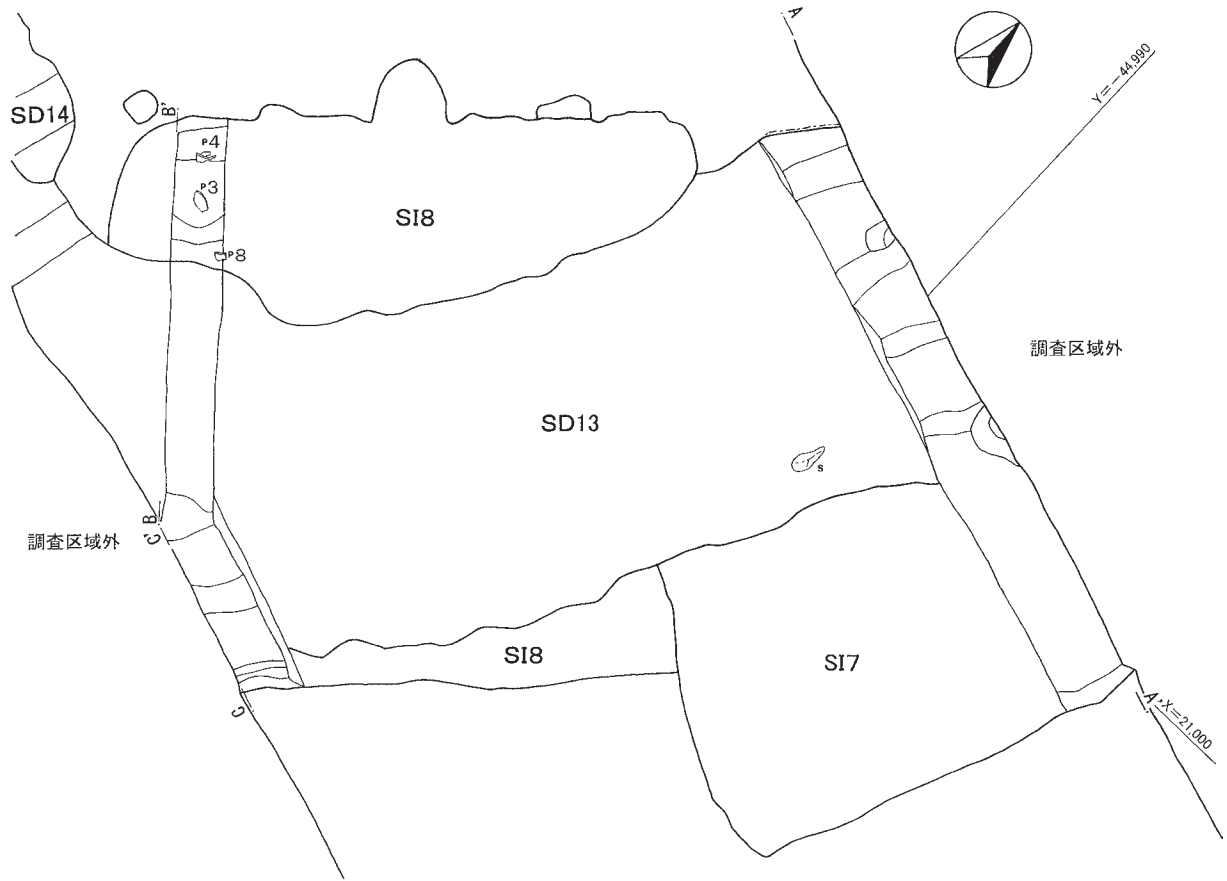
調査区の中央部に位置する。座標X=20,995～21,005、Y=-44,985～-45,000内にある。第7号竪穴建物跡、第13号溝跡と重複関係にあり、本遺構が重複関係にある2遺構に切られている。

規模は、南西隅が調査区域外となり、中央部を縦断するように第13号溝跡が本遺構を切っているが、長軸4.52m、短軸4.50mを測り、平面プランは、ほぼ正方形を呈する。主軸方位は、N-42°-Wを示す。

全体の掘り下げを行っていないため詳細は不明であるが、土層断面観察から、床までの深さは最大43cmを測り、プランの北西隅付近では、最深55cmの土坑状の掘り込みが確認された。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、一部掘り下げを行った箇所では、ほぼ平坦である。

柱穴、カマド等の施設は不明であるが、壁溝については、土層断面観察を行った箇所ですでに確認された。



- 土層説明(A-A')**
- 1 耕作土
 - 2 灰黄色土 しまる、焼土粒ごくわずか、火山灰粒(浅間 B) 含
 - 3 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 4 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土ブロック含
 - 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
 - 6 ソフトローム
- SD13**
- 7 暗灰黄色土 ハードローム土微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
 - 8 暗灰黄色土 ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒わずか、焼土粒ごくわずか含
 - 9 暗灰黄色土 ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒わずか、焼土粒ごくわずか、土器含
 - 10 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒わずか含
 - 11 黒褐色土 しまる、ソフトローム土微粒子若干、炭化物塊及び焼土塊、特に土層中央下位に多量、小礫若干含
 - 12 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
 - 13 暗褐色土 ややしまる、ソフトローム土微粒子わずか、焼土粒、炭化物粒ごくわずか含
 - 14 にぶい黄褐色土 しまる、ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒若干、焼土粒ごくわずか含、土器含
 - 15 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子若干、ソフトローム土粒ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
 - 16 黒褐色土
 - 17 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック多量に含
 - 18 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ハードローム土ブロック若干含
 - 19 灰黄褐色土 ややしまる、ソフトローム土ブロックわずか、ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
 - 20 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含

- 21 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒ごくわずか含
 - 22 暗灰黄色土 しまる、ソフトローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒若干、焼土粒ごくわずか含
 - 23 黒褐色土 かたくしまる、ソフトローム土ブロック・粒子少量、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
 - 24 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
 - 25 黒褐色土 しまりない、にぶい黄褐色土層の半分くらい混入、ソフトローム土粒子若干含
 - 26 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック多量、黒褐色土ブロック若干含
 - 27 黒褐色土 かたくしまる、ソフトローム土粒子・ハードローム土粒子ごくわずか含
 - 28 黒褐色土 にぶい黄褐色土若干混入、ソフトローム土ブロック若干含
 - 29 灰黄褐色土 かたくしまる、ハードローム土粒子少量含
- SI7**
- 30 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
 - 31 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 - 32 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、にぶい黄褐色土ブロック若干含
 - 33 灰黄褐色土 にぶい黄褐色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 - 34 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量、炭化物粒わずか、黒褐色土粒子わずか含
 - 35 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子少量、炭化物粒わずか含
 - 36 暗褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒わずか含
 - 37 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量、黒褐色土ブロック・粒子多量、ハードローム土粒子若干含
 - 38 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック大わずか、ソフトローム土粒子多量、黒褐色土粒子少量含
 - 39 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量、黒褐色土ブロック多量、焼土粒わずか含
 - 40 暗褐色土 ソフトローム土粒子多量、黒褐色土ブロック若干含
 - 41 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量、黒褐色土ブロック多量、小礫含
 - 42 黒褐色土 ソフトローム土ブロックわずか、ソフトローム土粒子少量、黒褐色土ブロック若干含
 - 43 根の擾乱



第39図 第7・8号竪穴建物跡、第13号溝跡

土層説明(B-B')	
SD13	
1	オリーブ黒色土 しまる、焼土粒ごくわずか含、火山灰粒(浅間 B) 含
2	灰黄褐色 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
3	黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
4	黒褐色土 ハードローム土微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
5	灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子・粒子若干、炭化物粒ごくわずか含
6	黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒わずか含
7	黒褐色土 黒色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック大・小、粒子少量含
8	黒褐色土 若干灰黄褐色帯びる、ソフトローム土ブロック・粒子ごくわずか含
9	にぶい黄褐色土 黒褐色土ブロック若干、炭化物粒ごくわずか含
10	灰黄褐色土 黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック大量、ソフトローム土粒子多量含
S18	
11	暗褐色土 ソフトローム土微粒子わずか、黒色土ブロックわずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
12	暗褐色土 黄灰色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
13	黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、黒色土ブロックわずか、炭化物粒ごくわずか含
14	暗褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干、黒色土ブロック多量、炭化物粒わずか含
15	暗褐色土 ソフトローム土ブロック多量に含み60%程占める、焼土粒わずか含
16	黒褐色土 黒色土ブロックわずか含
17	黒褐色土 黒色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック大量、ソフトローム土粒子少量含
18	黒褐色土 ソフトローム土ブロック粒子多量に含
19	ソフトローム土粒子・微粒子層 ややしまらない、黒褐色土若干混入
20	褐灰色土 ややしまらない、ソフトローム土粒子・ブロック非常に多く含、黒色土ブロックわずか含
21	ソフトローム土ブロック層 ややしまらない、黒色土ブロックわずか含、ソフトローム土粒子多量含
22	根の擾乱

土層説明(C-C')	
1 耕作土	
2	灰黄色土 しまる、焼土粒ごくわずか含、火山灰粒(浅間 B) 含
3	灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
4	にぶい黄褐色土 灰黄褐色土ブロック含
5	にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
6	ソフトローム
SD13	
7	黒褐色土 ややしまらない、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
8	オリーブ黒色土 ソフトローム土微粒子若干、黒色土ブロックわずか含
9	灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子・粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
10	黒褐色土 ソフトローム土微粒子少量、黒褐色土粒子わずか、炭化物粒含
11	黒褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子・粒子若干、炭化物粒ごくわずか含
12	黒褐色土 しまる、ソフトローム土ブロック少量、焼土粒含
13	黒褐色土 しまる、ソフトローム土ブロック少量、焼土粒含
14	褐灰色土 ややしまらない、ソフトローム土粒子・ブロック少量含
S18	
15	黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、黒色土ブロックわずか含
16	黒褐色土 ソフトローム土ブロック、ハードローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干、黒褐色土ブロック若干、黒色土ブロック・粒子若干含
17	ソフトローム土ブロック多量+黒褐色土ブロック少量混合層 黒色土ブロックわずか含
18	根の擾乱

出土遺物は、土師器坏・椀・甕、須恵器甕等が検出された。土師器坏・椀には、内面に放射状暗文を施したのが見られた。

時期は、第7号竪穴建物跡との切り合いも加味して、7世紀後半と考えられる。

第9号竪穴建物跡（第40・41・43図、第25表）

調査区の西部中央に位置する。座標 X=21,000~21,010、Y=-44,995~-45,005内にある。第10~12・17号竪穴建物跡、第22号土坑等と重複関係にあり、本遺構が重複関係にある5遺構に切られている。

規模は、長軸5.58m、推定短軸5.50mを測り、平面プランは、ほぼ正方形を呈する。主軸方位は、N—43°—Wを示すと推定される。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、土層断面観察から、床までの深さは最大37cmを測り、プランのやや北東隅寄り、北西隅及び南東隅付近では、深い掘り込みが確認された。その規模は、北東隅寄りで最深63cm、北西隅で最深67cm、南東隅で最深50cmを測る。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、一部掘り下げを行っただけ箇所ではほぼ平坦であるが、掘り下げ箇所での確認ではあるが、一部に土坑状ないしは溝状に深い掘り込みが確認された。

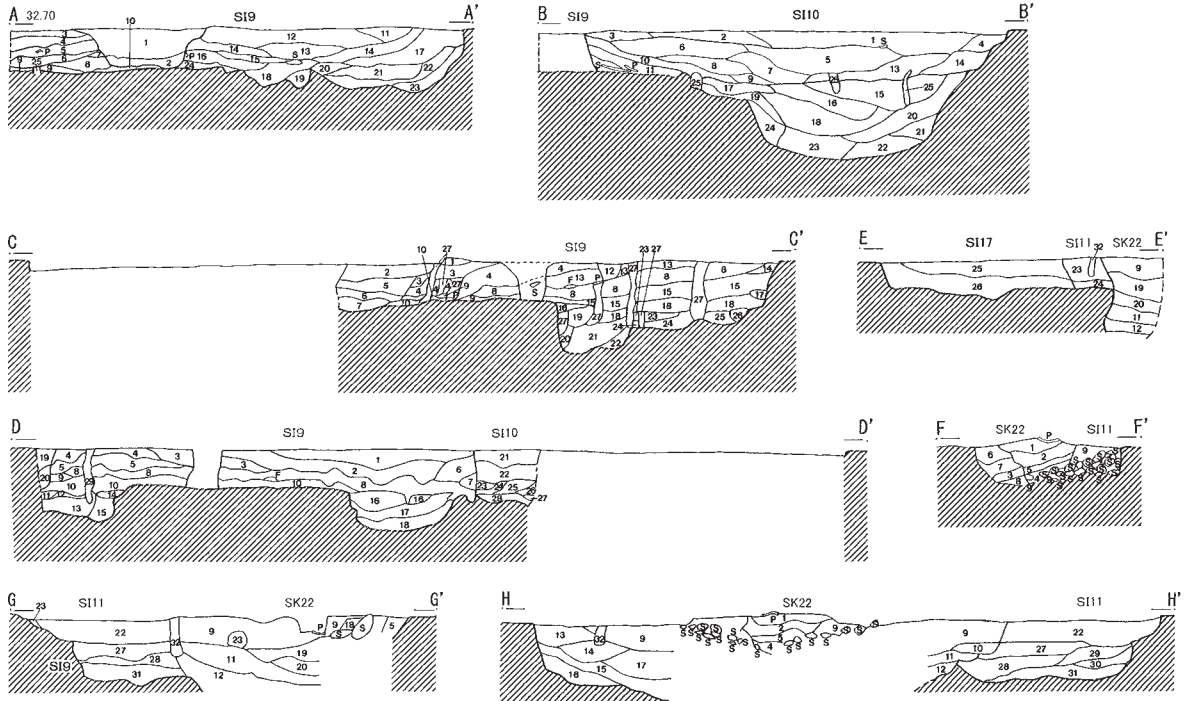
壁溝、カマド等の施設は不明であるが、柱穴と考えられるピットが、一部掘り下げを行っただけ箇所でのプランの南西隅付近に1基確認された。規模は、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ54cmである。

出土遺物は、土師器坏、須恵器蓋・坏・椀・壺、刀子等が検出された。土師器坏には、内面に放射状暗文を施したものが多く見られた。また、二次熱を受けひしゃげ、一部がアメ状に発泡化、還元焰化したものも含まれる。さらに、鉄滓や、図示できなかったが羽口破片が検出され、製鉄関連（小鍛冶か）遺構の可能性が考えられる。

時期は、7世紀後半~8世紀前半と考えられる。

第10号竪穴建物跡（第40・41・44・45図、第26表）

調査区の西部やや中央寄りに位置する。座標 X=21,000~21,010、Y=-44,990~-45,000内にある。第9号竪穴建物跡等と重複関係にあり、本遺構が第9号竪穴建物跡を切っている。



土層説明(A-A')

SI9

- 1 灰黄褐色土 ややしきらない、ソフトローム土粒子・微粒子若干中位以下含、炭化物粒・焼土粒わず
か含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子わずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
- 3 暗褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
- 4 黒褐色土 ややしきらない、ハードローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
- 5 黒褐色土 ややしきらない、黒色土ブロックわずか、ハードローム土微粒子わずか、焼土粒ごく
わずか、土器含
- 6 黒色土 比較的しまる、ハードローム土粒子・微粒子わずか含
- 7 黒褐色土 ややしきらない、黒色土ブロックわずか、ハードローム土微粒子わずか、焼土粒ごく
わずか、土器含
- 8 黒褐色土 ややしきらない、ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか含
- 9 黒色土 しきらない、黒褐色土混入ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか含
- 10 黒褐色土 しまる、ハードローム土ブロック・粒子多量含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干含、炭化物粒わずか含
- 12 灰黄褐色土 ややしきらない、黄褐色帯びる、ソフトローム土ブロック・粒子若干、ソフトローム土微粒子
少量、黒色土ブロック多量含
- 13 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 14 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、黒色土ブロック少量、炭化物粒若干含
- 15 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
- 16 暗褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干含、土器含
- 17 黒褐色土 ややしきらない、ソフトローム土粒子わずか、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含
- 18 黒色土 ソフトローム土ブロック多量含、ハードローム土粒子わずかに含、扁平な礫含
- 19 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
- 20 黒褐色土 ソフトローム土微粒子少量含
- 21 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック多量含 60%程占める
- 22 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量含、黒色土ブロックわずか含
- 23 黒色土 ソフトローム土ブロック多量、ソフトローム土粒子少量含
- 24 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか含
- 25 根の攪乱

土層説明(B-B')

SI10

- 1 黒褐色土 ハードローム土粒子・微粒子わずか、焼土粒ごくわずか含
- 2 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子わずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
- 3 黒褐色土 ハードローム土粒子・微粒子わずか、炭化物粒わずか含
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子若干、焼土粒わずか含
- 5 暗黄褐色土 比較的しきある、ハードローム土ブロック・粒子わずか、炭化物粒少量含
- 6 暗褐色土 ソフトローム土粒子少量、炭化物粒・焼土粒若干含
- 7 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 8 暗褐色土 ソフトローム土ブロック多量に含み 50%程占める、炭化物粒わずか含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか含
- 10 黒褐色土 ソフトローム土粒子・ブロック若干、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、焼土粒・炭化物粒わずか、土器(須器器)片含
- 12 黒褐色土 ソフトローム土ブロック小・微粒子若干、片岩含
- 13 黒褐色土 比較的しきらない、ソフトローム土微粒子ごくわずか、焼土粒ごくわずか含
- 14 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大・粒子わずか含
- 15 灰黄褐色土 比較的しきある、ソフトローム土粒子ごくわずか含
- 16 黒色土 ハードローム土粒子・微粒子わずか、焼土粒・炭化物粒わずか、灰黄褐色土ブロック
少量含
- 17 黒色土 ソフトローム土ブロック小・粒子・微粒子少量、焼土粒わずか含
- 18 黒褐色土 比較的しきらない、ハードローム土ブロック小わずか、ソフトローム土微粒子わずか、
炭化物粒わずか含
- 19 黒褐色土 ソフトローム土ブロック小・微粒子多量含
- 20 黒褐色土 ややしきらない、ソフトローム土ブロック少量含
- 21 褐色土 ややしきらない、ハードローム土ブロック少量、焼土粒わずか含
- 22 褐色土 ややしきらない、灰黄褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子わずか含
- 23 灰黄褐色土 ややしきらない、黒褐色土ブロック多量、ハードローム土ブロックごくわずか含
- 24 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・微粒子多量、黒色土ブロックわずか含
- 25 根の攪乱

土層説明(C-C')

SI9

- 1 暗褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
- 2 黒褐色土 ややしきらない、ハードローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
- 3 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子わずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
- 4 暗褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
- 5 黒褐色土 ややしきらない、黒色土ブロックわずか、ハードローム土微粒子わずか、焼土粒ごく
わずか、土器含
- 6 黒色土 比較的しまる、ハードローム土粒子・微粒子わずか含
- 7 黒色土 しきらない、黒褐色土混入、ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか含
- 8 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子わずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 9 黒褐色土 しまる、ハードローム土ブロック・粒子多量含
- 10 黒褐色土 ソフトローム土粒子多量含、土器含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土ブロック多量に含
- 12 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物塊含
- 13 黒褐色土 ややしきらない、ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか、スラグ含
- 14 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干含
- 15 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 16 黒褐色土 かつしまる、ソフトローム土粒子多量、焼土粒含
- 17 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量含
- 18 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量含
- 19 灰黄褐色土 ボロボロした層、ソフトローム土ブロック・粒子非常に多く含、焼土粒わずか含
- 20 褐色土
- 21 灰黄色土 ボロボロし、ややしきらない、ソフトローム土粒子若干含
- 22 灰黄色土 ソフトローム土粒子若干含
- 23 灰黄色土 ソフトローム土ブロック含
- 24 黒褐色土 ソフトローム土ブロック若干含
- 25 黒褐色土 黒色土ブロック若干含
- 26 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量含
- 27 根の攪乱

土層説明(D-D')

SI9

- 1 黒褐色土 ソフトローム土ブロック多量、黒色土ブロックわずか含
- 2 黒褐色土 ソフトローム土ブロックを極所的に多量に含、黒色土ブロックわずか含
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック多量に混じる、ソフトローム土ブロックは 80%以上占める
- 4 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、黒色土ブロック若干含
- 5 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 6 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干含、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 7 黒色土 炭化物塊少量含
- 8 炭化物層 黒褐色土ブロック混じる、ソフトローム土ブロック若干、焼土塊・焼土粒わずか、
スラグ含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
- 10 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子わずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
- 12 炭化物層 焼土粒わずか含
- 13 暗黄褐色土 ボロボロした層、ソフトローム土粒子若干、焼土粒多量、黒色土粒子若干含
- 14 黒色土 ソフトローム土ブロック少量、焼土粒わずか含
- 15 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干含、焼土粒わずか含
- 16 灰黄褐色土 ボロボロした層、ソフトローム土粒子少量、焼土粒・炭化物粒少量含
- 17 黒褐色土 ややしきらない、ソフトローム土粒子少量、焼土粒若干含
- 18 黒褐色土 ボロボロした層、ソフトローム土ブロック多量、焼土粒若干含
- SK22
- 19 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか含
- 20 黒褐色土
- SI10
- 21 暗褐色土 比較的しまる、ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
- 22 黒褐色土 ややしきらない、ハードローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒・焼土粒極わずか含
- 23 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含、炭化物塊含
- 24 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
- 25 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子わずか含、炭化物塊含
- 26 黒褐色土 焼土粒多量含
- 27 灰黄褐色土
- 28 黒褐色土 ソフトローム土ブロック多量含
- 29 攪乱



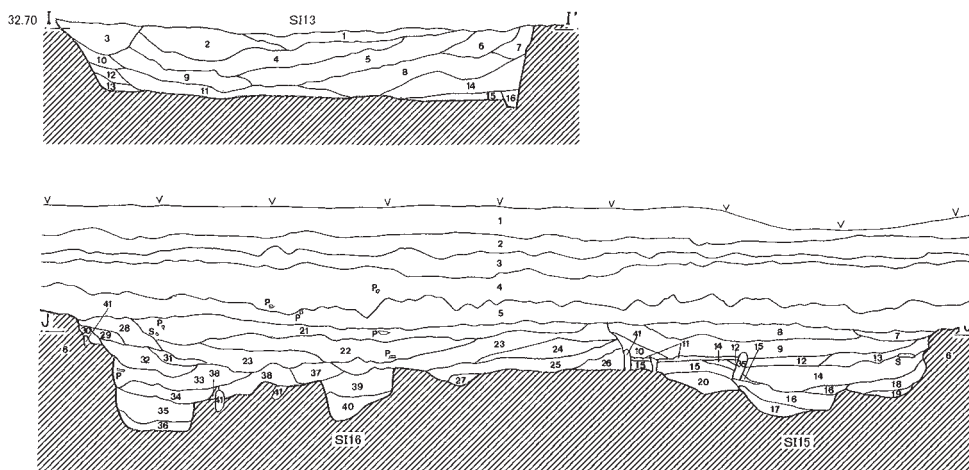
第41図 第9～11・17号堅穴建物跡、第22号土坑土層断面

土層説明(E-E', F-F', G-G', H-H')

SK22

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子少量、焼土粒少量、炭化物粒わずか含
- 2 暗灰黄色土 ハードローム土ブロック・粒子非常に多く含、焼土粒少量、炭化物粒わずか含
- 3 黒褐色土 焼土塊が主体をなす層
- 4 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか、小礫含
- 5 黄灰色土 焼土微粒子わずか含
- 6 暗灰黄色土 ソフトローム土微粒子若干、焼土粒若干、炭化物粒わずか含
- 7 灰黄褐色土 ハードローム土ブロック少量、焼土塊少量、炭化物塊若干、ソフトローム土微粒子少量含
- 8 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量含
- 9 黒褐色土 ハードローム土ブロック少量、炭化物非常に多く含、焼土粒少量含
- 10 黒褐色土 ソフトローム土微粒子若干含、炭化物粒わずか含
- 11 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
- 12 黒色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
- 13 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか、炭化物粒わずか含
- 14 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子非常に多く含、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 15 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子少量含
- 16 黒褐色土 ハードローム土ブロック大小多量含
- 17 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子若干含
- 18 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック焼土塊含
- 19 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物塊・炭化物粒少量、焼土粒少量含
- 20 暗褐色土 ソフトローム土粒子若干含

- 21 黒褐色土 しまる、ブロック状の層でソフトローム土粒子・微粒子多量含
- SI11
- 22 褐色土 比較的しまりない、ソフトローム土微粒子ごくわずか、炭化物粒・焼土粒ごくわずか含
ハードローム土ブロック大わずか含、土器含
- 23 黒褐色土 ソフトローム土ブロック多量含
- 24 黒褐色土 ハードローム土ブロック若干含
- SI17
- 25 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、焼土粒わずか含
- 26 黒褐色土 ソフトローム土ブロック大小、粒子少量、焼土粒若干含
- SI9
- 27 黒褐色土 黒色土ブロックわずか、ソフトローム土ブロック多量、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 28 灰黄褐色土 黒色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子多量含
- 29 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 30 ソフトローム土ブロック多量+黒褐色土ブロック少量混合層
- 31 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子多量、黒色土ブロック若干、焼土粒わずか含
- 32 根の攪乱



土層説明(I-I')

SI13

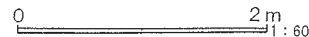
- 1 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干、焼土粒含
- 2 黒褐色土 ハードローム土粒子若干含
- 3 黒褐色土 ハードローム土微粒子若干含
- 4 黒色土 黒褐色土混じり、ソフトローム土ブロック粒子若干含
- 5 黒褐色土 黒色土ブロック多量、ハードローム土ブロック少量含
- 6 黒褐色土 黒色土ブロックわずか、ハードローム土粒子わずか含
- 7 黒褐色土
- 8 灰黄褐色土 黒色土ブロック非常に多く含、ハードローム土ブロック・粒子少量含
- 9 黒褐色土 黒色土ブロック若干、ハードローム土粒子若干、焼土粒わずか含
- 10 黒褐色土
- 11 黒色土 ソフトローム土ブロック、ハードローム土ブロック若干、焼土粒わずか含
- 12 黒褐色土 ハードローム土ブロックわずか含
- 13 黒褐色土 ソフトローム土ブロックわずか含
- 14 黒褐色土 黒色土ブロック少量、ハードローム土ブロック・粒子少量含
- 15 黒色土 ソフトローム土ブロックわずか含
- 16 黒色土

- 13 黒褐色土 ハードローム土ブロック多量、ソフトローム土微粒子少量、焼土粒少量、炭化物粒少量含
- 14 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子・微粒子多量、焼土粒・炭化物粒若干含
- 15 黒褐色土 しまる、ソフトローム土粒子・ブロック若干含
- 16 暗褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒わずか含
- 17 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- 18 黒褐色土 ソフトローム土微粒子多量、焼土粒わずか含
- 19 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- 20 黒褐色土 ハードローム土ブロック多量、ハードローム土粒子少量含むボロボロした層
- 21 黒褐色土 ハードローム土ブロックわずか、焼土粒・炭化物粒わずか、土器含
- 22 暗オリーブ褐色土 ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか、炭化物粒ごくわずか、土器含
- 23 黒褐色土 ハードローム土粒子若干、焼土粒わずか含
- 24 黒褐色土 ややしまりない、ハードローム土粒子・微粒子ごくわずか、焼土粒・炭化物粒わずか含む
- 25 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子少量、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 26 黒褐色土 ソフトローム土ブロック多量、焼土粒わずか含
- 27 暗褐色土 黒褐色土ブロック少量、ハードローム土ブロック・粒子多量含
- 28 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック若干、ハードローム土ブロック若干含
- 29 灰黄褐色土 黒褐色土ブロックわずか、ハードローム土ブロック若干含
- 30 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子若干含
- 31 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干含
- 32 黒褐色土 黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
- 33 黒色土 黒褐色土混入、ハードローム土ブロック・粒子少量含
- 34 黒褐色土 ややしまりない、ソフトローム土ブロック多量含
- 35 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- 36 黒色土 ソフトローム土粒子若干含
- 37 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子多量含
- 38 黒色土 ソフトローム土ブロック・粒子及びハードローム土ブロック多量含
- 39 暗灰黄色土 ややしまりない、ソフトローム土ブロック・粒子非常に多く含み70%程占める
- 40 黒褐色土 ややしまりない、ソフトローム土ブロック・粒子多量含
- 41 根の攪乱

土層説明(J-J')

SI15・16

- 1 耕作土
- 2 灰黄色土 火山灰粒(浅間B)含
- 3 灰黄褐色土 火山灰若干、炭化物粒若干含
- 4 黒褐色土 ややしまりない、暗灰黄色土ブロックわずか、小礫わずか、土器わずか含
- 5 暗灰黄色土 ややしまりない、ソフトローム土微粒子ごくわずか、小礫ごくわずか、土器わずか含
- 6 にぶい黄褐色土
- 7 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
- 8 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、炭化物粒・焼土粒わずか含
- 9 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、焼土粒・炭化物粒わずか含
- 10 暗灰黄色土 ソフトローム土粒子・微粒子わずか、炭化物粒ごくわずか含
- 11 黄灰色土 ソフトローム土粒子少量含
- 12 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量、焼土粒・炭化物粒少量含

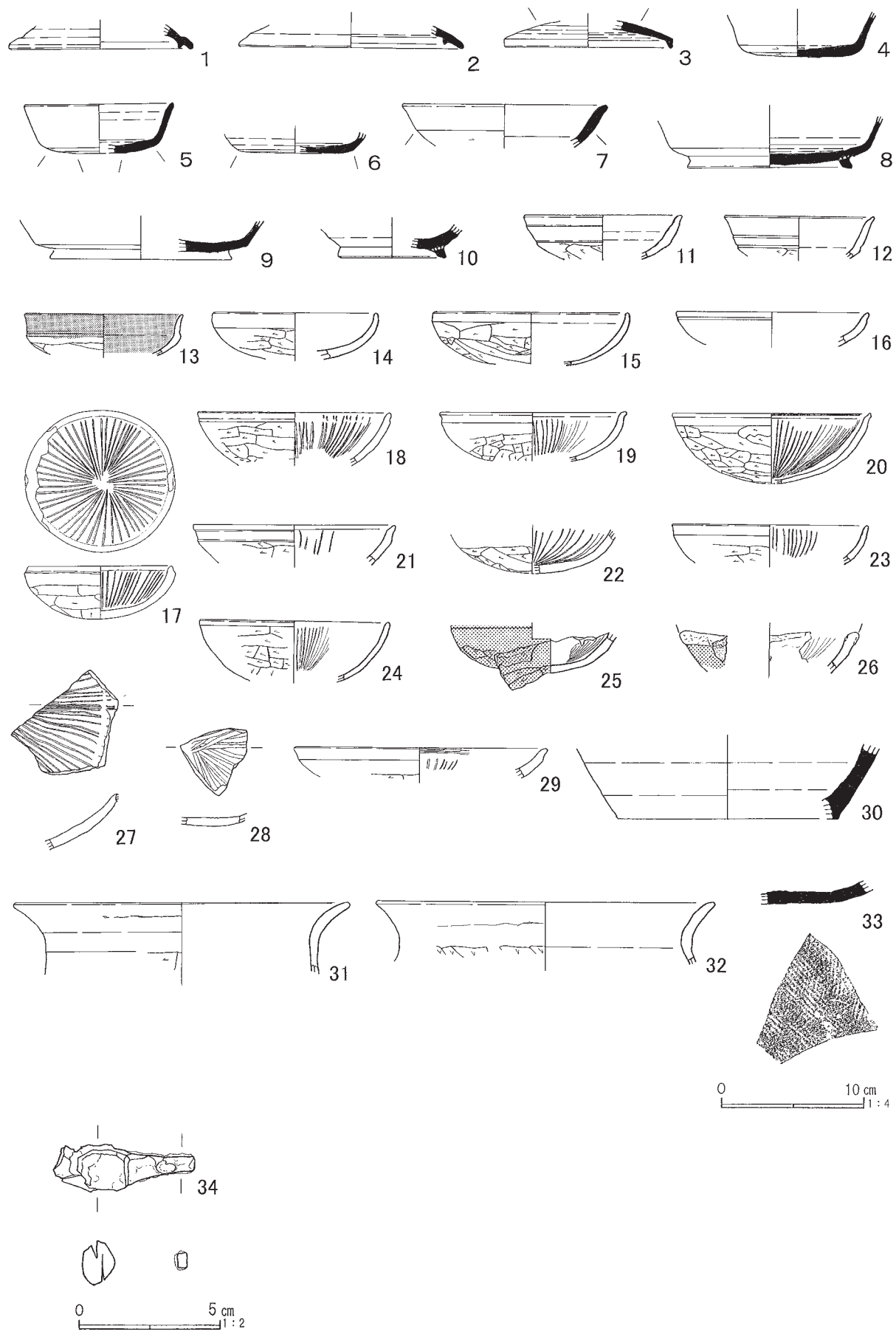


第42図 第13・15・16号竪穴建物跡土層断面

規模は、長軸3.62m、短軸2.87mを測り、平面プランは、ほぼ長方形を呈する。主軸方位は、N-27°-Eを示す。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、確認面から床までの深さは、最大42cmを測る。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、一部掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、プランの中央部がやや深くなる。床面下には、土坑ないしは溝状の掘り込みが確認された。その深さは、最大で62cmである。



第43图 第9号竖穴建物跡出土遺物

第25表 第9号竖穴建物跡出土遺物観察表(第43区)

標本号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
43	1	須恵器蓋	(13.2)	1.6	—	ABL	A	灰色	口縁部10%	未野産。
43	2	須恵器蓋	(16.1)	1.5	—	ABEN	A	灰色	口縁部10%	
43	3	須恵器蓋	(12.0)	1.9	—	ABL	A	外面：灰オリーブ色 内面：にぶい黄橙色	25%	未野産。
43	4	須恵器環	—	3.0	7.7	ABGKL	C	橙色、黒色	40%	未野産。
43	5	須恵器環	(10.7)	3.5	(7.7)	ABGL	B	外面：灰黄色、青灰色 内面：灰黄色	20%	未野産。
43	6	須恵器環	—	1.3	(8.2)	AL	A	青灰色	底部25%	未野産。
43	7	須恵器環	(14.7)	3.0	—	ABGN	A	灰色	口縁部10%	
43	8	須恵器碗	—	3.4	11.7	AGL	A	外面：青灰色、灰色 内面：暗青灰色	60%	スラグ状鉄付着。未野産。
43	9	須恵器碗	—	2.2	—	AEL	A	外面：青灰色、灰色 内面：灰色	底部15%	未野産。
43	10	須恵器碗	—	1.9	(7.6)	ABELN	A	灰色	底部25%	未野産。
43	11	土師器環	(11.3)	3.1	—	ABKN	A	橙色	口縁部10%	
43	12	土師器環	(10.7)	2.9	—	AH	B	黒色	口縁部10%	内外面黒色処理。
43	13	土師器環	(11.3)	3.0	—	BCM	A	外面：にぶい黄橙色、灰色 内面：にぶい黄橙色	20%	口縁部外面～内面に赤彩。
43	14	土師器環	(11.8)	3.3	—	DI	C	橙色、にぶい黄橙色	25%	
43	15	土師器環	(14.0)	3.7	—	BCHJK	A	外面：明赤褐色 内面：橙色	25%	
43	16	土師器環	(13.7)	2.3	—	AEHJ	C	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色、灰色	口縁部15%	被熱しているか。
43	17	土師器環(暗文)	10.1	3.8	—	AEHK	A	外面：橙色 内面：明赤褐色	95%	内面に放射状暗文。
43	18	土師器環(暗文)	(13.7)	3.7	—	AEJN	A	明赤褐色	20%	内面に放射状暗文。
43	19	土師器環(暗文)	(13.3)	3.5	—	AEGK	A	外面：黄灰色、黒色 内面：灰黄褐色	20%	内面に放射状暗文。
43	20	土師器環(暗文)	(14.1)	(5.0)	—	ABJN	A	橙色、にぶい褐色	25%	内面に放射状暗文。
43	21	土師器環	(14.5)	2.7	—	AJK	A	外面：黒色 内面：橙色	口縁部10%	外面：黒色処理 内面：放射状暗文。
43	22	土師器環(暗文)	—	2.7	—	AEHJ	B	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色、にぶい黄橙色	40%	内面に放射状暗文。 一部が被熱し還元焙化。
43	23	土師器環(暗文)	(14.0)	2.8	—	AEGIJ	A	橙色	口縁部10%	内面に放射状暗文。
43	24	土師器環(暗文)	(13.6)	4.3	—	ACGJ	B	橙色	20%	内面に放射状暗文。
43	25	土師器環(暗文)	—	3.3	—	ADEHJ	A	にぶい黄橙色、黄灰色、橙色	70%	内面に放射状暗文。被熱しひしゃげ、一部アメ状に発泡化し、全体が還元焙化。 一部に酸化鉄が付着。
43	26	土師器環(暗文)	—	(2.9)	—	AB	B	外面：明黄褐色 内面：灰黄褐色	15%	内面に放射状暗文。被熱して全体がひしゃげ、器面の一部はアメ状に発泡化、還元焙化。
43	27	土師器環(暗文)	—	—	—	AGHJK	A	明赤褐色	20%	内面に放射状暗文。
43	28	土師器環(暗文)	—	—	—	AHK	B	橙色	底部付近	内面に放射状暗文。
43	29	土師器環(暗文)	(18.0)	2.1	—	ABHK	A	明赤褐色	口縁部10%以下	内面口縁部ヘラミガキ、放射状暗文。
43	30	須恵器壺	—	5.0	(15.8)	ABLN	A	灰色	底部10%破片	未野産。
43	31	土師器甕	(24.1)	5.1	—	ADGH	A	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色	口縁部10%	
43	32	土師器甕	(24.1)	4.2	—	ABDHK	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：にぶい赤褐色	口縁部15%	口縁部内面に煤付着。

調査番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
43	33	須恵器甕	厚さ0.7~0.9		AG	A	外面：灰色 内面：紫灰色	底部破片	外面：カキ目状調整痕。 内面：自然釉。	
43	34	刀子	残存長5.1	刃部最大幅1.6	刃部厚1.2	茎部最大幅0.7	茎部厚0.5	茎部付近のみ	刃部は丸みを帯びている。	

全体の掘り下げを行っていないため、壁溝、柱穴等の施設は確認できなかった。

カマドは、左右の袖石が検出され、長軸の北東壁に確認された。平面確認長0.18m、焚口幅0.46m、煙道部は削平されて確認できなかった。

出土遺物は、土師器坏・台付甕・甕、須恵器坏・椀・甕、須恵系土師質土器坏、土錘等が検出された。須恵器椀・甕、土師器坏には、おそらく重複関係にある第9号竪穴建物跡からの混入と考えられるものが見られた。土錘は、まとめて検出され、大多数が長さ3~4cmの小振りなものであった。

時期は、9世紀後半~10世紀初頭と考えられる。

第11号竪穴建物跡（第40・41・46図、第27表）

調査区の西部中央に位置する。座標X=21,000~21,010、Y=-45,000~-45,005内にある。第9・17号竪穴建物跡、第22号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第22号土坑に切られ、第9・17号竪穴建物跡を切っている。なお、第9号竪穴建物跡とは上下の関係にある。

規模は、長軸2.84m、短軸2.02mを測り、平面プランは、ほぼ長方形を呈する。主軸方位は、N-10°-Eを示すと推定される。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、確認面から床までの深さは、22cmを測る。覆土は、ほぼ水平に堆積し、ソフトローム土ブロックが多量に含まれていることから、人工堆積の可能性が考えられる。

床面は、一部掘り下げを行った箇所では、ほぼ平坦である。

全体の掘り下げを行っていないため、壁溝、柱穴等の施設は確認できなかった。

カマドは、東側の大部分が第22号土坑により切られていたが、短軸の北壁に確認され、煙道部は削平されて確認できなかった。規模の詳細は不明である。

出土遺物は、土師器高坏・坏、須恵器盤・坏・椀、ロクロ土師器椀、土錘等が検出された。須恵器盤・椀、土師器坏には、おそらく重複関係にある第9号竪穴建物跡からの混入と考えられるものが見られた。

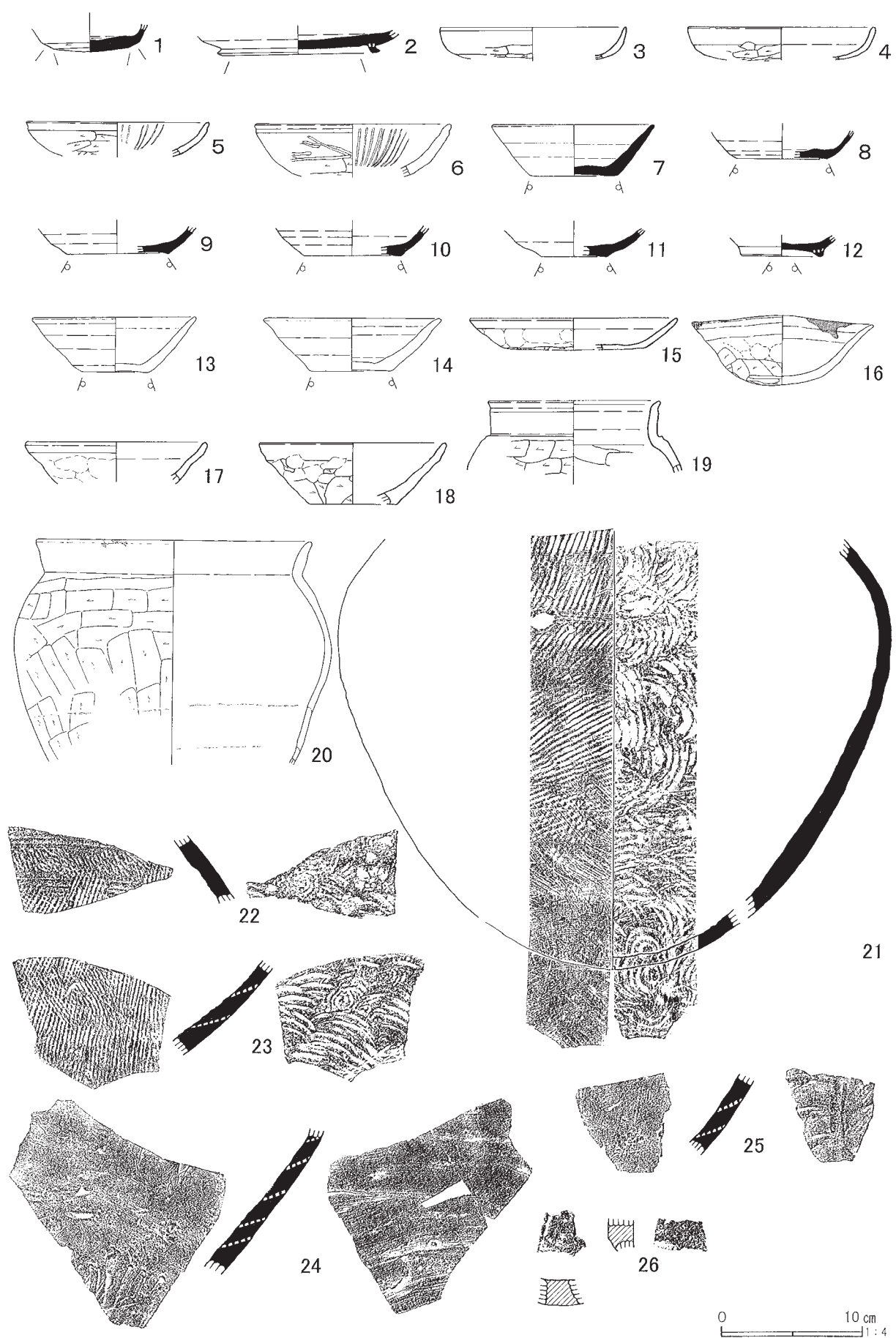
時期は、10世紀後半~11世紀前半と考えられる。

第12号竪穴建物跡（第40・46図、第28表）

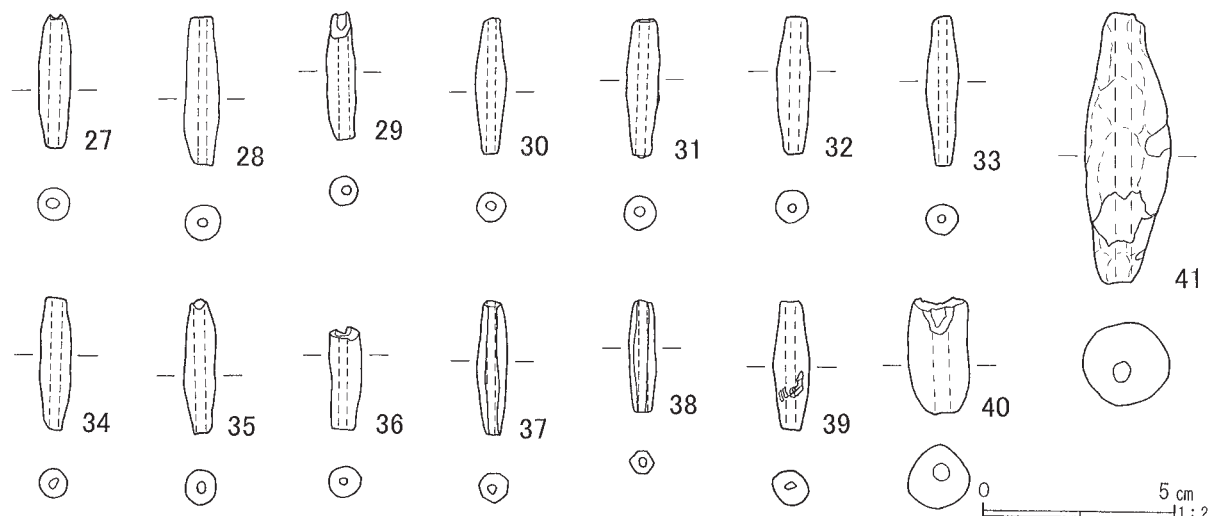
調査区の北西部に位置する。座標X=21,005~21,010、Y=-44,995~-45,005内にある。第9・14~17号竪穴建物跡、第22号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第16・17号竪穴建物跡、第22号土坑に切られ、第9・14・15号竪穴建物跡を切っている。

規模は、検出長軸2.38m、短軸3.84mを測り、平面プランは、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-19°-Eを示す。掘り下げはほとんど行わなかったが、貼床状に硬化した箇所が認められた。

カマドは、短軸と推定される北東壁に確認され、平面確認長0.90m、焚口幅0.82m、煙道部は削平されて確認できなかった。カマド焚口の奥壁には、ハードローム土が貼り付けてあり、その内側から焼土



第44图 第10号竖穴建物跡出土遺物(1)



第45図 第10号竪穴建物跡出土遺物（2）

第26表 第10号竪穴建物跡出土遺物観察表（第44・45図）

欄外番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
44	1	須恵器 環	—	1.9	6.9	BIJK	B	外面：黒色 内面：灰白色	底部100%	未野産。
44	2	須恵器 塊	—	1.4	(11.7)	ABL	A	外面：黄灰色、にぶい橙色 内面：黄灰色	底部25%	未野産。
44	3	土師器 環	(13.4)	2.4	—	AGJ	B	外面：橙色 内面：明赤褐色	口縁部10%	
44	4	土師器 環	(13.6)	2.4	—	BEIJK	A	橙色	口縁部15%	
44	5	土師器 環(暗文)	(13.2)	2.4	—	ABEJ	A	外面：にぶい褐色 内面：黒褐色、黒色	口縁部20%	内面に放射状暗文。
44	6	土師器 環(暗文)	(14.1)	3.7	—	BCEJK	A	橙色	15%	外面：上半ナデ後ヘラミガキ。 内面：放射状暗文。
44	7	須恵器 環	11.7	3.7	6.2	ABGL	A	外面：灰オリーブ色 内面：灰オリーブ色、灰色	95%	未野産。
44	8	須恵器 環	—	1.8	(6.4)	ABGL	A	灰色	20%	未野産。
44	9	須恵器 環	—	1.8	(7.2)	BGJN	B	灰白色	底部25%	未野産。
44	10	須恵器 環	—	1.9	(7.0)	BGHL	A	灰オリーブ色	底部20%	未野産。
44	11	須恵器 環	—	1.8	(4.7)	ADGL	A	暗青灰色	20%	未野産。
44	12	須恵器 塊	—	1.3	(5.9)	ABH	B	灰色	底部40%	
44	13	須恵系土師質土器 環	11.8	3.9	4.7	DGJ	A	浅黄色	97%	
44	14	須恵系土師質土器 環	12.8	3.8	5.7	AEG	A	外面：浅黄色 内面：灰黄色、黄灰色	95%	
44	15	土師器 環	(15.0)	2.2	—	CHJN	A	橙色	35%	
44	16	土師器 環	13.1	5.0	—	EGK	A	外面：橙色、にぶい黄橙色 内面：浅橙色、橙色、灰黄褐色	100%	口唇部外面及び内面に炭化物付着、 灯明皿用途。
44	17	土師器 環	(13.2)	3.0	—	BCJK	A	外面：にぶい赤褐色、にぶい黄橙色 内面：橙色	口縁部20%	
44	18	土師器 環	(13.5)	4.5	(6.3)	BEHJK	A	にぶい黄橙色、にぶい橙色	25%	
44	19	土師器 台付甕	(12.4)	5.0	—	ACIJ	B	外面：橙色、にぶい褐色 内面：黒色	口縁部～ 胴部上半15%	胴部外面に煤付着。
44	20	土師器 甕	(20.0)	(16.0)	—	ABEJ	A	外面：にぶい橙色、灰黄褐色 内面：にぶい橙色、にぶい黄橙色	50%	内外面に炭化物付着。

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
44	21	須恵器甕	胴部 最大径 (40.0)	(31.2)	—	ABGLM	A	外面：灰色、にぶい赤褐色 内面：灰色、にぶい赤褐色、 灰赤色	胴部50%	外面：胴部上半平行叩き後カキ目 (4条)、胴部下半平行叩き後カキ 目と斜方向のカキ目、底部カキ目 状回転ナデ痕。 内面：青海波文あて具痕。 未野産。
44	22	須恵器甕	厚さ0.9~1.1			AGL	A	暗青灰色	胴部破片	外面：カキ目、平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。 未野産。
44	23	須恵器甕	厚さ0.9~1.3			ABL	A	外面：青灰色 内面：暗青灰色	胴部下半破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。 未野産。
44	24	須恵器甕	厚さ0.9~1.4			ABFN	A	外面：暗青灰色、灰色 内面：灰色	胴部下半破片	外面：ナデ、下半一部に縦方向の 棒状工具痕。 内面：ヨコナデ。 南比企産。
44	25	須恵器甕	厚さ1.1~1.2			ABGL	A	外面：暗青灰色 内面：灰色	胴部破片	外面：ナデ。 内面：青海波文あて具痕。 未野産。
44	26	平瓦	厚さ1.3~1.8			ABGN	B	凹面：暗青灰色 凸面：灰色	一部破片	凹面：布目痕、布綴じ目痕。 凸面：ナデ。
45	27	土錘	最大長3.5	最大幅0.9	孔径0.3	重量2.5	灰黄色、橙色		100%	
45	28	土錘	最大長3.9	最大幅0.9	孔径0.25	重量3.1	黒褐色、灰黄褐色		100%	
45	29	土錘	最大長3.3	最大幅0.8	孔径0.3	重量1.7	灰黄色、にぶい橙色		85%	
45	30	土錘	最大長3.6	最大幅0.8	孔径0.25	重量1.9	にぶい黄橙色、橙色		100%	
45	31	土錘	最大長3.6	最大幅0.9	孔径0.25	重量2.3	にぶい黄橙色、橙色		100%	
45	32	土錘	最大長3.6	最大幅0.9	孔径0.2	重量2.4	灰色、にぶい橙色		100%	
45	33	土錘	最大長3.9	最大幅0.8	孔径0.2	重量2.4	橙色、灰色		100%	
45	34	土錘	最大長3.5	最大幅0.8	孔径0.3	重量2.2	にぶい黄橙色、橙色		100%	
45	35	土錘	最大長3.5	最大幅0.8	孔径0.3	重量2.1	にぶい黄橙色、黒色		100%	
45	36	土錘	最大長2.7	最大幅0.8	孔径0.2	重量1.8	にぶい黄橙色、にぶい橙色		70%	
45	37	土錘	最大長3.5	最大幅0.8	孔径0.3	重量2.0	にぶい褐色、にぶい黄橙色		100%	断面7角形を呈する。
45	38	土錘	最大長2.9	最大幅0.7	孔径0.25	重量1.2	灰黄褐色、にぶい褐色		100%	断面6角形を呈する。
45	39	土錘	最大長3.4	最大幅0.9	孔径0.3	重量2.4	橙色、灰黄色		100%	
45	40	土錘	最大長3.0	最大幅1.6	孔径0.4	重量8.2	にぶい赤褐色、灰褐色		60%	
45	41	土錘	最大長7.1	最大幅2.3	孔径0.5	重量30.4	にぶい赤褐色、にぶい橙色		90%	表面に指オサエ痕多数。

粒が多量に検出された。

出土遺物は、図示できたものが須恵器碗1点だけで、カマド前で検出された。この須恵器碗は、底部に故意に開けたと考えられる穿孔が確認された。

時期は、10世後半～11世紀前半と考えられる。

第13号竪穴建物跡（第40・42・46図、第29表）

調査区の北西端に位置する。座標 X = 21,005～21,015、Y = -44,995～-45,005内にある。第14・15号竪穴建物跡と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある2遺構に切られている。

規模は、北側の大部分が調査区域外となっているため、不明である。平面プランは、方形を呈すると推定される。主軸方位は、同時期と考えられる第7号竪穴建物跡とほぼ同じであると推定される。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、確認面から床までの深さは、56cmを

測る。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

床面は、一部掘り下げを行った箇所では、ほぼ平坦である。

カマド、柱穴等の施設は不明であるが、壁溝が一部掘り下げを行った箇所で確認された。

出土遺物は、図示できたものが土師器坏1点だけであった。

時期は、8世紀前半と考えられる。

第14号竪穴建物跡（第40・46図、第30表）

調査区の北西部に位置する。座標 $X=21,005\sim 21,015$ 、 $Y=-44,995\sim -45,005$ 内にある。第12・13・15号竪穴建物跡と重複関係にあり、本遺構が、第12・15号竪穴建物跡に切られ、第13号竪穴建物跡を切っている。

規模・平面プラン・主軸方位とも、他遺構と重複関係にあり、不明である。掘り下げをほとんど行わなかったため、カマド、壁溝、柱穴等の施設も確認できなかった。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏身・坏・碗、須恵系土師質土器碗等が検出された。須恵器坏身は、混入品と考えられる。

時期は、10世紀前半と考えられる。

第15号竪穴建物跡（第40・42・46図、第31表）

調査区の北西部に位置する。座標 $X=21,005\sim 21,015$ 、 $Y=-45,000\sim -45,005$ 内にある。第12～14・16号竪穴建物跡と重複関係にあり、本遺構が、第13・14・16号竪穴建物跡を切り、第12号竪穴建物跡に切られている。

規模は、西側が調査区域外となっていて、プラン南東隅及び南部が他遺構に切られているため、不明であるが、検出東西軸2.30mを測る。平面プランは、方形を呈すると推定される。主軸方位は、 $N-22^{\circ}-E$ を示すと推定される。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、土層断面観察から、床までの深さは約30cmを測る。覆土は、ややレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

一部掘り下げを行った箇所で、非常に硬くしまった黄灰色土が確認され、その下は土坑状の掘り込みが確認されたため、貼床構造の床面と考えられる。その掘方の深さは、最大で47cmである。貼床面での床面は、ほぼ平坦である。

カマド、柱穴、壁溝等の施設は不明である。

出土遺物は、図示できたものが、須恵系土師質土器坏・碗、須恵器甕であった。

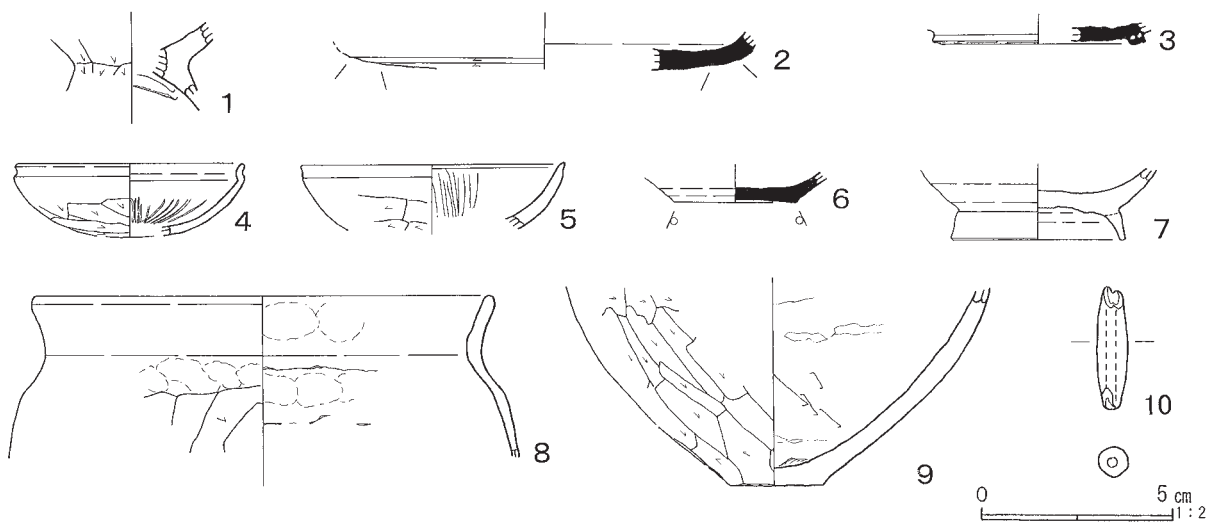
時期は、10世紀後半と考えられる。

第16号竪穴建物跡（第40・42・46図、第32表）

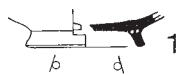
調査区の北西部に位置する。座標 $X=21,000\sim 21,010$ 、 $Y=-45,000\sim -45,010$ 内にある。第12・15・17号竪穴建物跡と重複関係にあり、本遺構が、第12号竪穴建物跡を切り、第15・17号竪穴建物跡に切られている。

規模は、西側が調査区域外となっていて、プラン北部及び南東部が他遺構に切られているため、不明であるが、検出長軸4.40mを測る。平面プランは、方形を呈すると推定される。主軸方位は、 $N-7^{\circ}-E$ を示すと推定される。

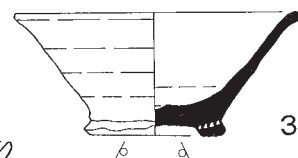
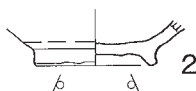
SI11



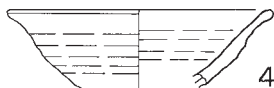
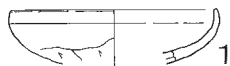
SI12



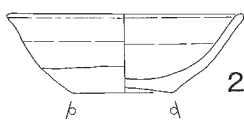
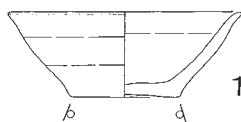
SI14



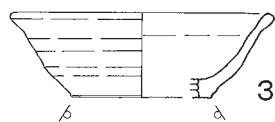
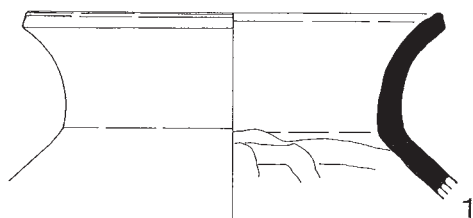
SI13



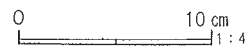
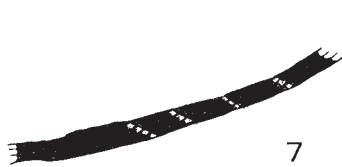
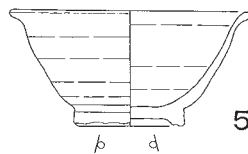
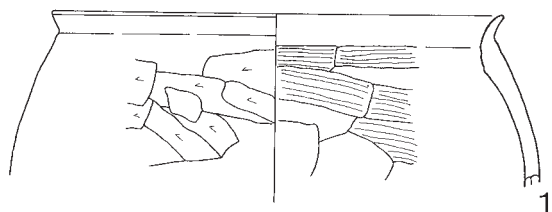
SI15



SI16



SI17



第46図 第11~17号竪穴建物跡出土遺物

第27表 第11号豎穴建物跡出土遺物観察表（第46区）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI11 1	土師器 高坏	—	(2.7)	—	ADEM	B	外面：にぶい赤褐色 内面：暗灰色、褐色	一部破片	
46	SI11 2	須恵器 盤	—	1.2	(18.3)	ABKL	A	灰色	底部10%以下	末野産。
46	SI11 3	須恵器 碗	—	0.7	(11.2)	ABDFG	A	灰色	底部20%	南比企産。
46	SI11 4	土師器 坏(暗文)	(12.0)	3.8	—	AEJK	A	橙色、暗赤褐色	20%	内面に放射状暗文。
46	SI11 5	土師器 坏(暗文)	(13.8)	3.4	—	AJK	B	明赤褐色	口縁部 10%以下	内面に放射状暗文。
46	SI11 6	須恵器 坏	—	1.3	6.4	ADK	B	灰色	底部50%	末野産。
46	SI11 7	ロクロ土師器 碗	—	(3.6)	(9.2)	EIJKM	C	橙色	底部40%	
46	SI11 8	土師器 甕	(24.2)	8.5	—	ABCEJK	B	外面：にぶい黄褐色、にぶ い黄橙色 内面：にぶい橙色、橙色	口縁部 10%以下	
46	SI11 9	土師器 甕	—	10.3	5.0	DEGJK	A	外面：にぶい橙色、浅黄橙 色 内面：浅黄色	胴部下半 40%破片	
46	SI11 10	土錘	最大長3.1	最大幅0.8	孔径0.25	重量1.8		暗灰黄色	80%	

第28表 第12号豎穴建物跡出土遺物観察表（第46区）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI12 1	須恵器 碗	—	1.6	6.3	ABDEL	B	黄灰色、にぶい黄褐色	底部50%	底部中央に穿孔か。末野産。

第29表 第13号豎穴建物跡出土遺物観察表（第46区）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI13 1	土師器 坏	(10.9)	2.9	—	ABJK	A	にぶい橙色	20%	

第30表 第14号豎穴建物跡出土遺物観察表（第46区）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI14 1	須恵器 坏身	(11.0)	2.1	—	BL	A	灰色	口縁部15%	
46	SI14 2	須恵器 碗	—	(1.9)	6.5	ABCHJ	C	外面：橙色 内面：明赤褐色	底部100%	
46	SI14 3	須恵器 碗	(15.0)	6.5	7.4	DJKM	B	外面：灰白色、暗灰色 内面：灰色、灰白色	60%	
46	SI14 4	須恵系土師質土器 碗	(14.0)	4.1	—	ADEJKMN	B	橙色	40%	
46	SI14 5	土師器 坏	(16.4)	4.0	(6.9)	AEJ	A	外面：黒色、灰褐色 内面：灰黄褐色、黒褐色	10%	

第31表 第15号豎穴建物跡出土遺物観察表（第46区）

編年番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI15 1	須恵系土師質土器 坏	12.3	4.5	5.8	AEHIK	A	にぶい黄橙色、浅黄色、橙 色	45%	内外面に煤付着、灯明皿用途。
46	SI15 2	須恵系土師質土器 坏	12.5	4.1	5.3	AEHJK	B	外面：浅黄色、橙色、灰色、 黒色 内面：にぶい橙色、灰色、 黒色	90%	内外面に煤付着、灯明皿用途。
46	SI15 3	須恵系土師質土器 坏	(13.8)	4.5	(7.5)	DJ	B	灰黄色、にぶい黄橙色	20%	
46	SI15 4	須恵系土師質土器 坏	(16.0)	4.3	—	BEJKM	B	橙色、にぶい褐色	20%	
46	SI15 5	須恵系土師質土器 碗	(12.7)	6.1	5.0	AEGN	B	橙色、浅黄色、灰黄色	65%	内外面に煤付着、灯明皿用途。
46	SI15 6	須恵系土師質土器 碗	(15.1)	6.5	6.9	AEGHJ	A	橙色、明黄褐色、にぶい黄 色	70%	
46	SI15 7	須恵器 甕	厚さ0.9~1.3			AGL	A	外面：青灰色、暗青灰色 内面：灰色	胴部下半底 部付近破片	外面：回転ナデ後、平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。

第32表 第16号竪穴建物跡出土遺物観察表（第46図）

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI16 1	須恵器 甕	(21.8)	8.9	—	ABDEGL	B	外面：青灰色 内面：灰色	口縁部30%	未野産。

第33表 第17号竪穴建物跡出土遺物観察表（第46図）

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
46	SI17 1	土師器 甕	(23.8)	8.8	—	ABEHJK	A	外面：橙色、明黄褐色、に ぶい黄褐色、黒褐色 内面：橙色、にぶい黄褐色	口縁部～胴部 上半15%	

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、土層断面観察から、床までの深さは約48cmを測る。覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

一部掘り下げを行っただけの箇所、土坑状の掘り込みが確認されたため、貼床構造の床面と考えられる。その掘方の深さは、最大で48cmである。貼床面での床面は、凹凸がある。

カマド、柱穴、壁溝等の施設は不明である。

出土遺物は、図示できたものが須恵器甕であった。

時期は、他遺構との切り合いを考慮に入れ、11世紀前半でも早い時期が考えられる。

第17号竪穴建物跡（第40・41・46図、第33表）

調査区の北西部に位置する。座標X=21,000～21,010、Y=-45,000～-45,005内にある。第9・11・12・16号竪穴建物跡、第22号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第11号竪穴建物跡、第22号土坑に切られ、第9・12・16号竪穴建物跡を切っている。

規模は、推定長軸3.20mを測り、平面プランは、ほぼ正方形を呈すると推定される。推定長軸方位は、N-11°-Eを示す。

一部トレンチ状に掘り下げを行っただけで詳細は不明であるが、確認面から床までの深さは、最深0.25mを測る。覆土は、ややレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると推定される。

床面は、一部掘り下げを行っただけの箇所ではやや凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

カマド、柱穴、壁溝等の施設は確認できなかった。

出土遺物は、図示できたものが土師器甕であった。

時期は、11世紀前半と考えられる。

（2）掘立柱建物跡

第8号掘立柱建物跡（第47・52・53図、第34表）

調査区の中央部南端やや西寄りに位置する。座標X=20,995～21,000、Y=-44,995～-44,005内にある。第13・14号溝跡と重複関係にあり、本遺構は、第14号溝跡に切られ、第13号溝跡を切っている。

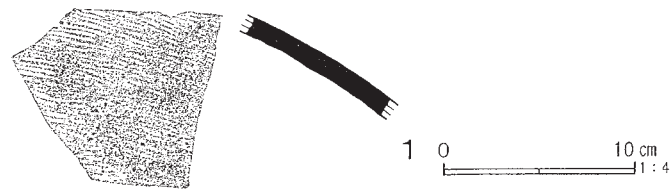
大部分が調査区域外にあると推定され、柱穴が2基検出されているだけのため、建物の詳細は不明である。規模は、2柱穴の柱間が、約2.4mを測る。主軸方位は、不明である。

柱穴は隅丸長方形の掘方で、検出長軸1.18m、検出短軸0.98mである。掘方の深さは、確認面から、P1が48cm、P2が43cmを測る。

柱は、確認できなかった。

出土遺物は、P1で須恵器甕が検出された。

時期は、第13号溝跡が8世紀前半以降の時期と考えると、この時期以降、第13号溝跡が埋没した後であり、第14号溝跡よりも古い時期と考えられる。



第47図 第8号掘立柱建物跡出土遺物

第34表 第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第47図)

検出番号	図版番号	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	残存率	備考
47	1	P1	須恵器 甕	厚さ0.9~1.0	AJN	A	外面：オリブ黒色 内面：灰色	胴部破片	外面：平行叩き、自然釉。 内面：ナデ。

(3) 土坑・ピット

土坑は4基、ピットは多数検出された。このうち、一部掘り下げを行ったものや出土遺物が図示できたもの等について記述する。

第19号土坑 (第48図)

調査区の東部に位置する。座標X=20,990~21,000、Y=-44,980~-44,985内にある。

第12号溝跡と重複関係にあり、本遺構が、第12号溝跡に切られている。

規模は、西部が第12号溝跡に切られ不明であるが、検出長軸1.19m、短軸0.99mを測る。平面プランは、プランが確認できた箇所で三角形状を呈する。深さは、確認面から、最深で43cmを測る。

床面にピット状の掘り込みが確認できた。

出土遺物は、図示できたものはなかった。

時期は、第12号溝跡の後であると考えられるが、具体的には不明である。

第21号土坑 (第49・50図、第35表)

調査区の北部やや西寄りに位置する。座標X=21,005~21,010、Y=-44,990~-45,000内にある。

規模は、北側が調査区域外となっており不明であるが、検出長軸2.19m、短軸2.06mを測る。平面プランは、楕円形状を呈すると推定される。深さは、確認面から、最深で95cmを測る。

床面は、一段深い箇所があり、また、掘方は、一部トレンチ状に掘り下げた箇所では袋状を呈していた。構造の特徴から、土取り土坑の可能性が考えられる。

出土遺物は、須恵器碗・甕、黒色土器坏等が検出された。

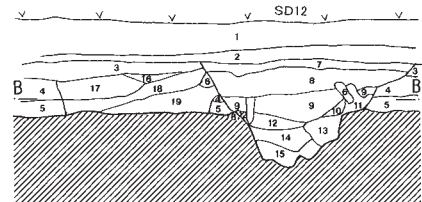
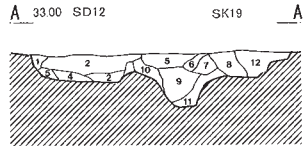
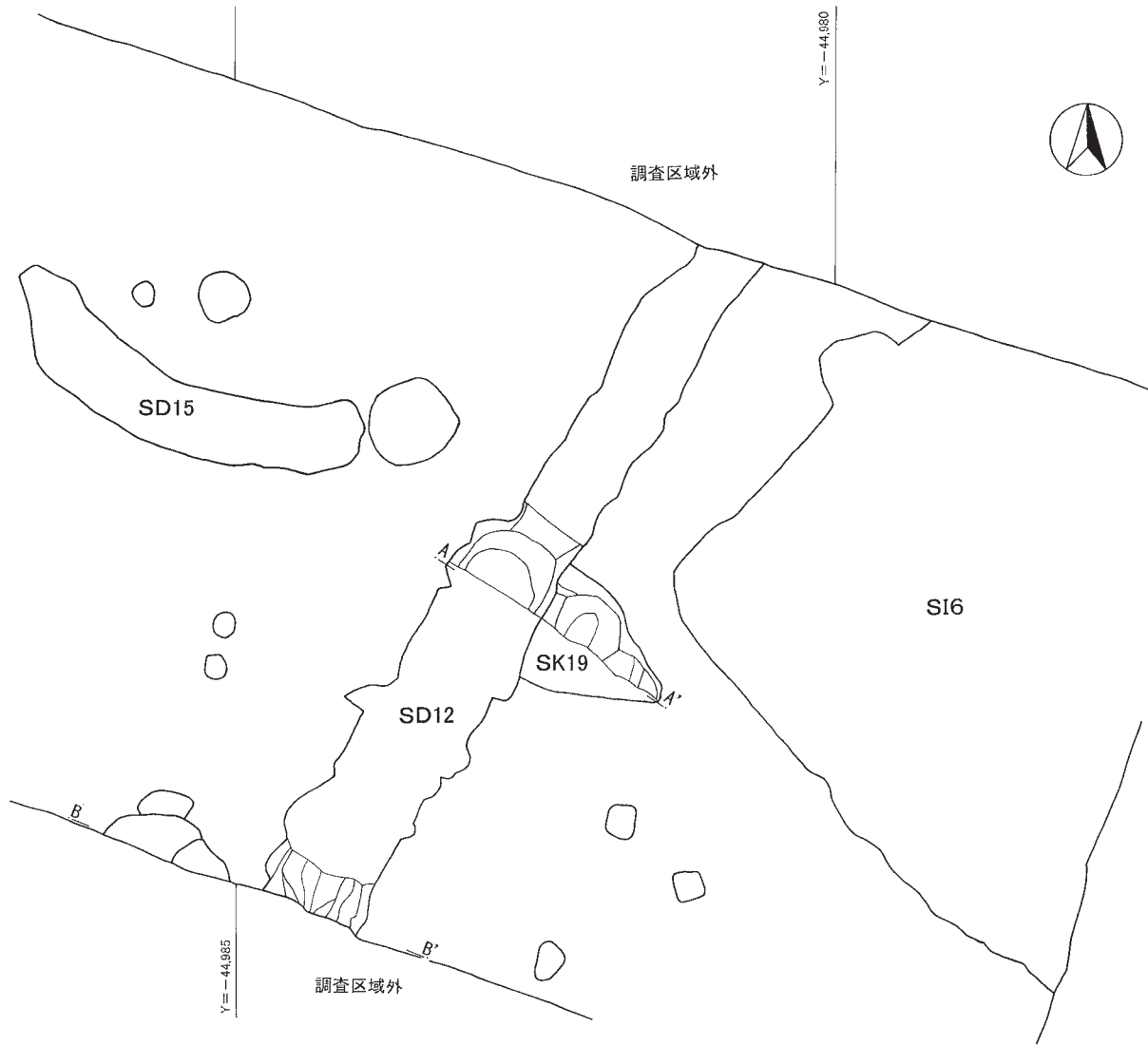
時期は、10世紀後半~11世紀前半には埋没したと考えられる。

第22号土坑 (第40・41・50図、第36表)

調査区の西部に位置する。座標X=21,000~21,010、Y=-45,000~-45,005内にある。

第9・11・12・17号竪穴建物跡と重複関係にあり、本遺構が、重複関係にある4遺構の全てを切っている。

規模は、長軸3.70m、短軸0.99~1.61mを測る。平面プランは、瓢箪形を呈する。深さは、確認面か

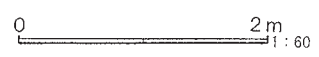


土層説明(A-A')

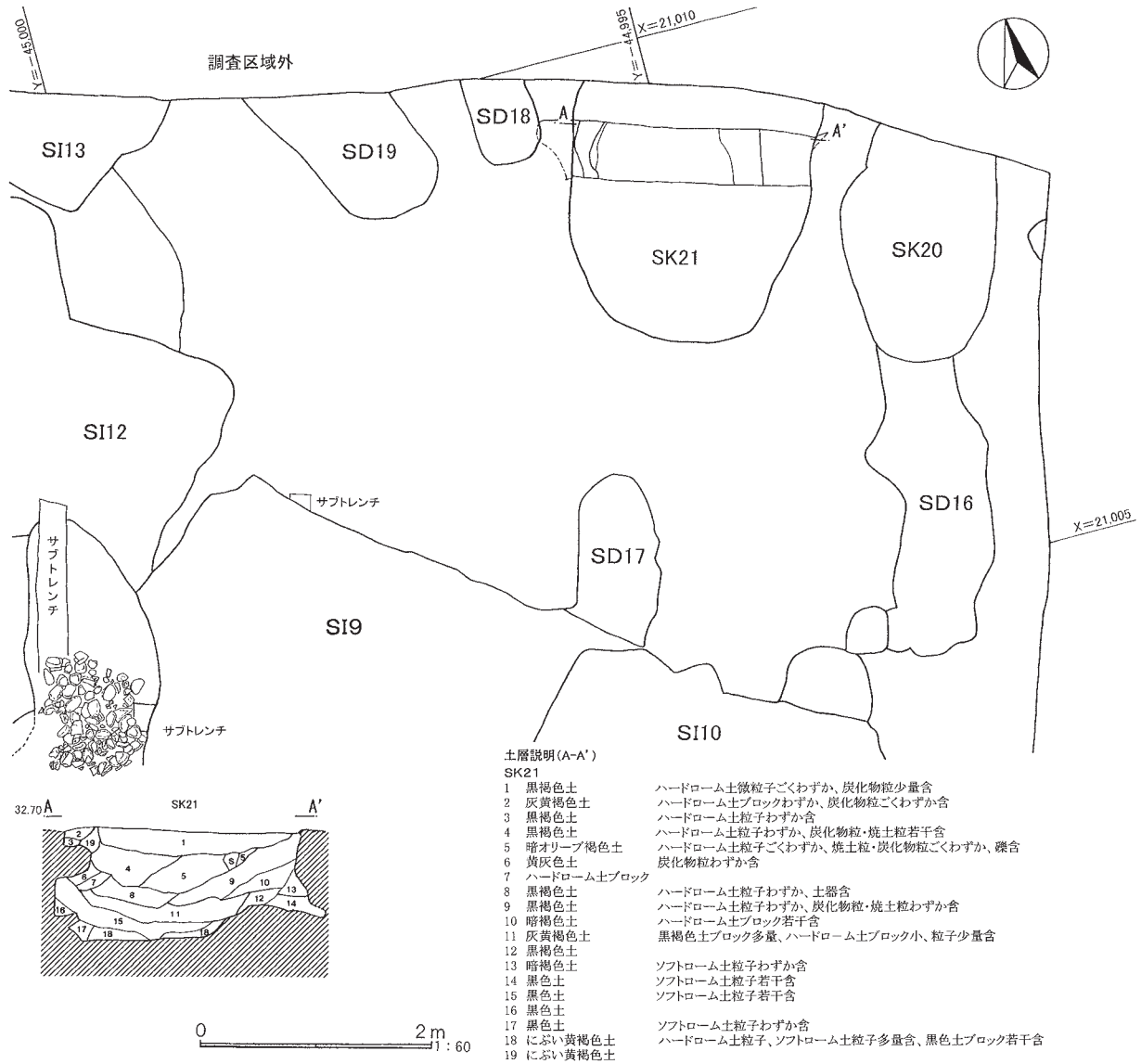
- SD12**
- 1 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子多量含
 - 2 灰黄褐色土 比較的しまりない、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒・炭化物粒ごくわずか含
 - 3 灰黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量、ハードローム土粒子わずか、黒褐色土ブロック若干含
 - 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干、黒褐色土ブロックわずか含
- SK19**
- 5 にぶい黄褐色土 しまりない、黒褐色土ブロック(かたい)若干含
 - 6 灰黄褐色土 黒褐色土(かたい)ブロック多量含
 - 7 にぶい黄褐色土 黒褐色土(かたい)ブロック少量、ハードローム土ブロック若干含
 - 8 にぶい黄褐色土 黒褐色土(かたい)ブロックわずか、ハードローム土ブロック若干含
 - 9 灰黄褐色土 かくしまる、黒褐色土(かたい)ブロック非常に多く含、ハードローム土ブロック若干含
 - 10 にぶい黄褐色土 比較的しまる、黒褐色土(かたい)ブロック少量、ハードローム土ブロック少量含
 - 11 にぶい黄褐色土 黒褐色土(かたい)ブロック多量に含
 - 12 にぶい黄褐色土 ハードローム土ブロック多量、黒褐色土(かたい)ブロック少量含
 - 13 根の攪乱

土層説明(B-B')

- 1 耕作土
 - 2 灰黄色土 しまる、焼土粒ごくわずか含、火山灰粒(浅間B)含
 - 3 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 - 4 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土ブロック含
 - 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック少量含
 - 6 根の攪乱
- SD12**
- 7 灰オリーブ色土 灰黄色土ブロックわずか、ソフトローム土粒子わずか含、土器片含
 - 8 暗灰黄色土 ややしまりない、ソフトローム土微粒子わずか、焼土粒ごくわずか含
 - 9 灰黄褐色土 ややしまりない、ソフトローム土微粒子若干、焼土粒わずか含
 - 10 暗灰黄色土b ややしまりない、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 - 11 黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロック多量含
 - 12 暗灰黄色土 ややしまりない、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 - 13 オリーブ黒色土 ソフトローム土多量に混入、ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 - 14 オリーブ黒色土 ソフトローム土微粒子若干、ソフトローム土ブロック含
 - 15 オリーブ黒色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
 - 16 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子多量含
 - 17 暗灰黄色土 黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子・微粒子多量含
 - 18 オリーブ褐色土 黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土粒子・微粒子非常に多く含
 - 19 暗灰黄色土 黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック・粒子・微粒子非常に多く含



第48図 第19号土坑、第12・15号溝跡

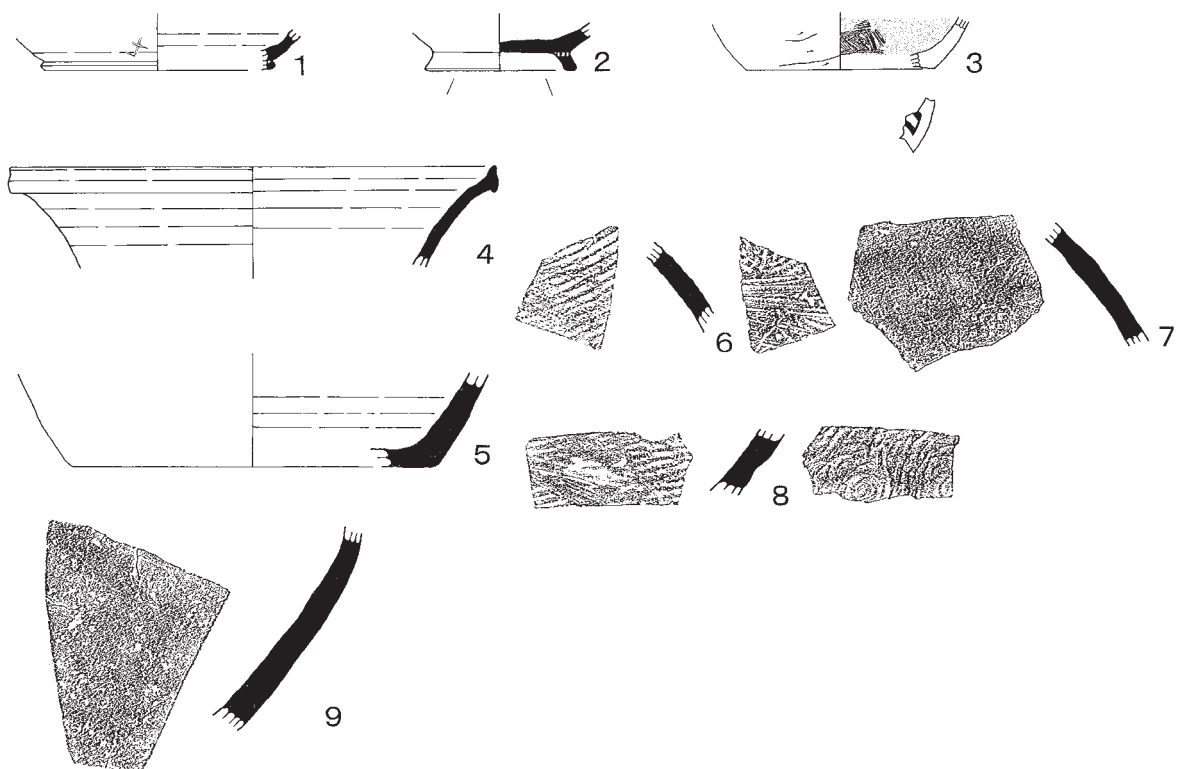


第49図 第20・21号土坑、第16～19号溝跡

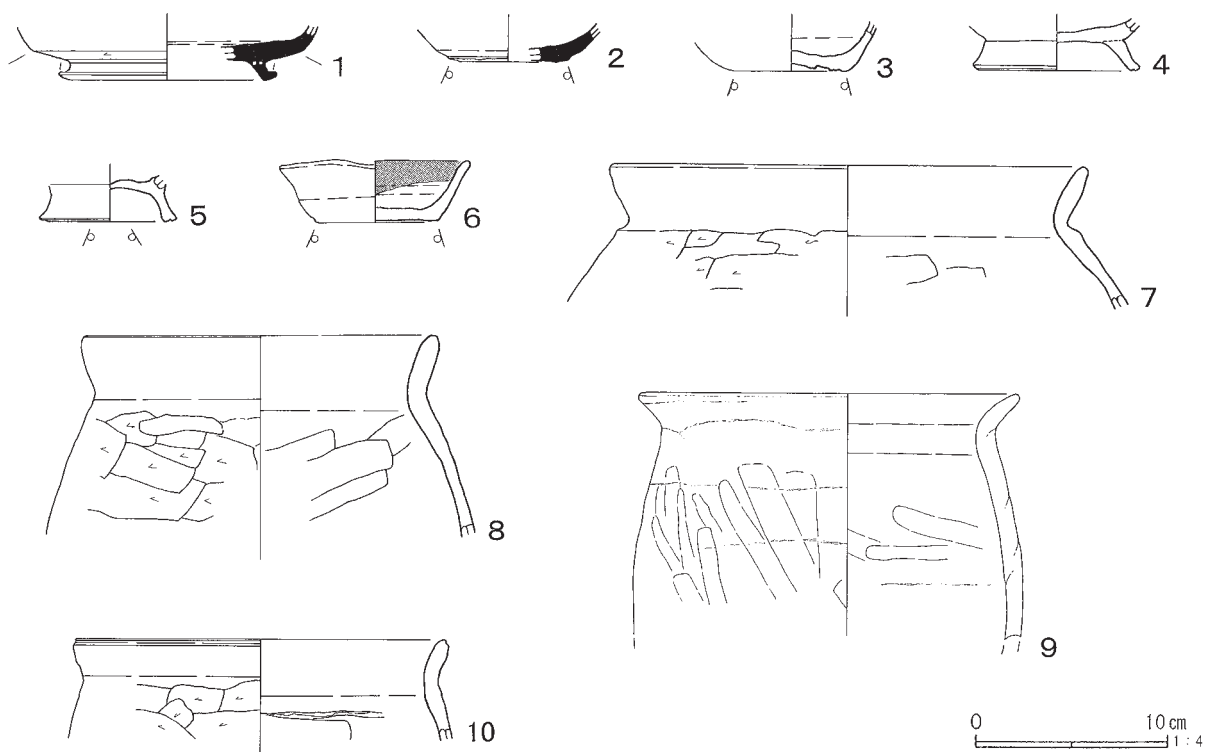
第35表 第21号土坑出土遺物観察表 (第50図)

欄外番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
50	SK21 1	須恵器 埴	—	(1.7)	(12.4)	BDFH	A	灰白色	底部10%以下	体部外面にヘラ工具による交差文。 南比企産。
50	SK21 2	須恵器 埴	—	1.8	(7.9)	ABDL	A	灰色	底部100%	未野産。
50	SK21 3	黒色土器 環	—	2.4	(9.8)	AEM	A	外面：にぶい黄褐色 内面：黒色	底部10%以下	底部外面に墨書か。 内面黒色処理、ヘラミガキ。
50	SK21 4	須恵器 甗	(25.7)	5.3	—	ABLN	A	暗青灰色	口縁部20%	
50	SK21 5	須恵器 甗	—	4.8	(19.0)	AL	A	外面：青灰色、にぶい赤褐色 内面：青灰色	底部15%	
50	SK21 6	須恵器 甗		厚さ0.8~0.9		ABGH	A	灰色	胴部破片	外面：格子叩き。 内面：青海波文あて具痕、カキ目状ナデ。
50	SK21 7	須恵器 甗		厚さ0.9~1.1		ABDL	A	灰色	胴部破片	外面：格子叩き、ナデ。 内面：ナデ。 未野産。
50	SK21 8	須恵器 甗		厚さ1.0~1.2		ABGH	A	青灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。
50	SK21 9	須恵器 甗		厚さ0.9~1.5		ABLN	B	灰色	胴部下半(底部付近)破片	外面：ナデ。 内面：斜め・ヨコナデ。 未野産。

SK21



SK22



第50图 第21·22号土坑出土遺物

第36表 第22号土坑出土遺物観察表（第50図）

綱目	図番	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
50	SK22 1	須恵器 高台付盤	—	2.3	(11.4)	ABHL	A	灰色	底部付近20%	末野産。
50	SK22 2	須恵器 坏	—	1.7	(6.1)	ACDK	A	外面：灰黄色 内面：にぶい橙色	底部付近20%	
50	SK22 3	須恵系土師質土器 坏	—	2.3	5.7	ABEGHJK	B	外面：橙色、明黄褐色 内面：橙色、にぶい黄褐色	底部100%	
50	SK22 4	須恵系土師質土器 碗	—	(2.4)	8.8	AEHJK	B	にぶい黄褐色、灰黄褐色	底部100%	
50	SK22 5	須恵系土師質土器 碗	—	2.0	7.2	AEJ	B	浅黄色	底部100%	
50	SK22 6	ロクロ土師器 坏	10.0	3.2	6.3	AEH	A	外面：橙色 内面：灰黄色	100%	内外面に油煤付着、灯明皿用途か。
50	SK22 7	土師器 甕	(25.2)	7.3	—	AEHJ	A	橙色、浅黄褐色	口縁部～胴部 上半15%	
50	SK22 8	土師器 甕	(18.7)	10.7	—	ABGIJ	A	外面：にぶい黄褐色、灰褐色 内面：浅黄色	口縁部～胴部 上半25%	外面煤付着。
50	SK22 9	土師器 甕	(20.1)	(12.9)	—	AEHJK	A	外面：褐色、にぶい褐色、 黒色 内面：にぶい黄褐色、にぶ い黄褐色、黄灰色	口縁部～胴部 上半30%	外面に煤付着。
50	SK22 10	土師器 甕	(19.5)	5.3	—	AEHJ	A	外面：にぶい橙色、褐灰色 内面：にぶい黄色	口縁部10%	

ら60cm以上と推定される。

プランの中央部付近に礫が集中して検出され、1.80m×1.08mの範囲に広がっていた。また、土層断面観察から、最大厚20cmを測り、最大3段の礫が重なり、すり鉢状に堆積していた。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏・高台坏盤、須恵系土師質土器坏・碗、ロクロ土師器坏等が検出された。

時期は、他遺構との重複関係を考慮にいて、11世紀前半以降と考えられる。

第1号ピット（第51～53図、第37表）

調査区の中央部に位置する。座標 X = 21,000～21,005、Y = -44,990～-44,995内にある。

規模は、長軸1.19m、短軸0.65mを測る。平面プランは、やや形の崩れた楕円形を呈する。深さは、確認面から最深で57cmを測る。

掘立柱建物跡柱穴の掘方状を呈し、平面及び土層断面観察から、柱の抜き取り状の痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器坏、平瓦等が検出された。

時期は、出土土器から考えると、7世紀末～8世紀初頭と考えられるが、出土瓦から考えると、8世紀代と推定される。

第2号ピット（第51～53図、第38表）

調査区の西部南端付近に位置する。座標 X = 20,995～21,000、Y = -45,000～-45,005内にある。

規模は、直径1.00mを測る。平面プランは、円形を呈する。深さは、確認面から最深で9cmを測る。

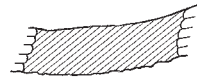
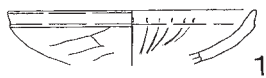
出土遺物は、ロクロ土師器坏等が検出された。

時期は、10世紀後半と考えられる。

（4）溝跡

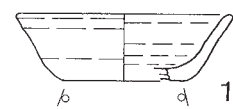
溝跡は8条確認された。このうち、一部掘り下げを行ったものや出土遺物が図示できたもの等について記述する。なお、第13号溝跡は、方形区画溝である。

P1



2

P2



第51図 第1・2号ピット出土遺物

第37表 第1号ピット出土遺物観察表 (第51図)

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
51	P1 1	土師器 坏(暗文)	(13.0)	2.8	—	ACEJK	A	明赤褐色	口縁部15%	内面に放射状暗文。
51	P1 2	平瓦	厚さ2.3~2.5			DEGHLMN	B	浅黄色、灰黄色	破片	凹面：横方向ナデ。 凸面：格子(大小)叩き。 粘土紐造り。

第38表 第2号ピット出土遺物観察表 (第51図)

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
51	P2 1	ロクロ土師器 坏	(11.4)	3.5	(6.3)	ADEHK	C	外面：明赤褐色、にぶい褐色 内面：にぶい橙色、灰黄色	20%	

第12号溝跡 (第48・54図、第39表)

調査区の東部を南北に縦断して走る。座標 X = 20,990~21,000、Y = -44,980~-44,985内にある。

第19号土坑と重複関係にあり、本遺構が、第19号土坑を切っている。

規模は、北部及び南部が調査区域外となっているが、検出長約6.5m、幅0.60~1.18mを測る。走行軸の方位は、およそ N-32°-E を指す。

断面形はやや崩れた箱形ないしは逆台形状を呈し、深さは、確認面及び土層断面観察から21~85cmを測る。底は、南端で最も深く、北に行くほど浅くなり、中央部付近で段差をもって一段浅くなる。

出土遺物は、図示できたものが須恵器甕であった。

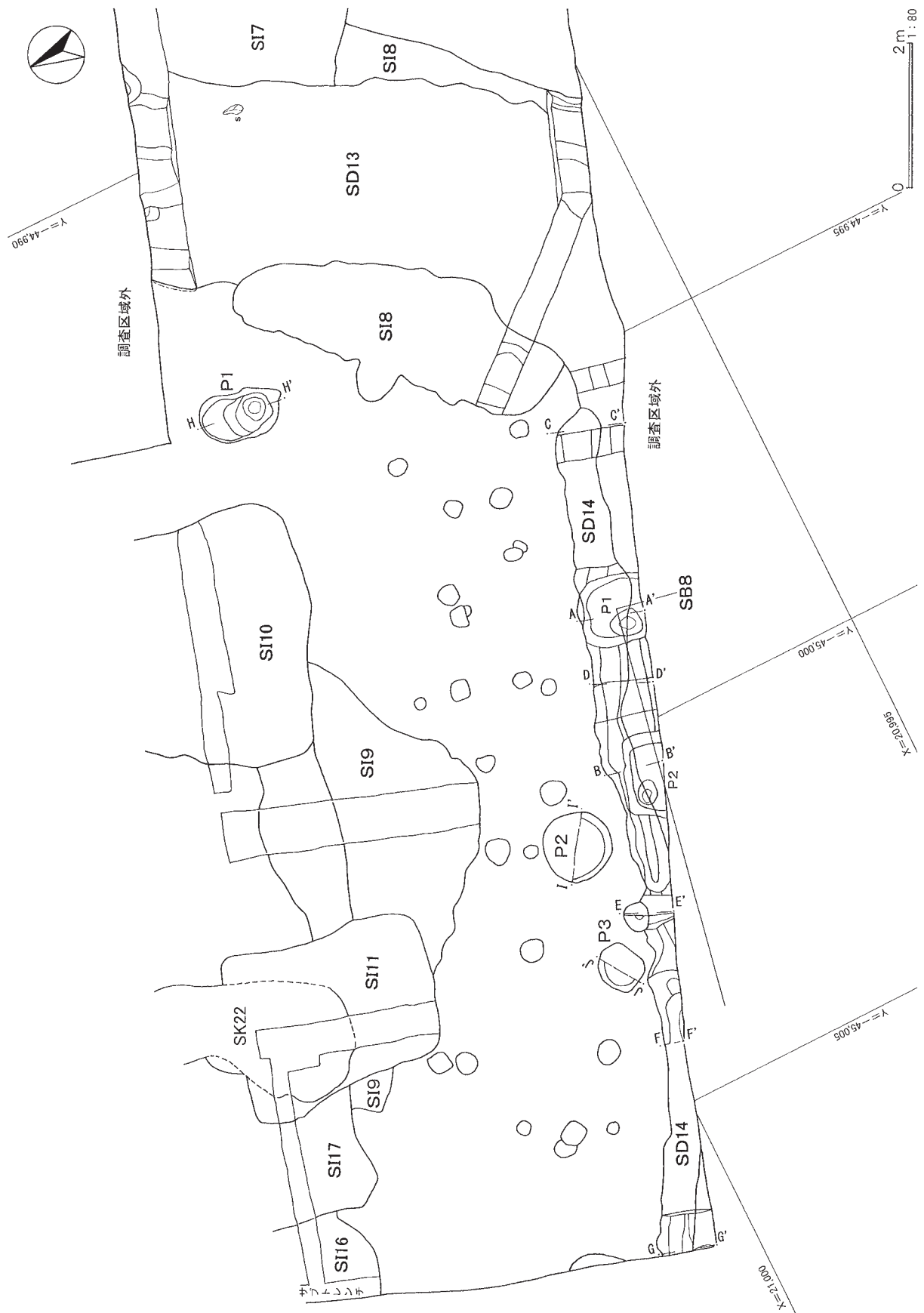
時期は、土層断面観察により、本遺構が第13号溝跡の検出面より1層上層の面から掘り込まれていることから、第13号溝跡より新しい時期であると考えられる。

第13号溝跡 (第39・52~54図、第40表)

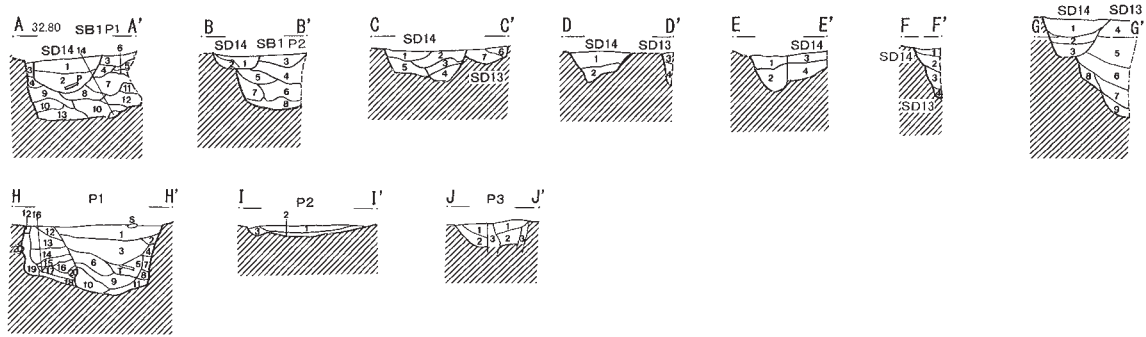
調査区の中央部を南北に縦断し、南端で屈曲し向きを西に変えて調査区南西部隅に至る。座標 X = 20,995~21,005、Y = -44,985~-45,010内にある。

方形区画溝の東辺及び南辺の溝で、第7・8号竪穴建物跡、第8号掘立柱建物跡、第14号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、第8号掘立柱建物跡、第14号溝跡に切られ、第7・8号竪穴建物跡を切っている。

規模は、北部、西部及び南端が調査区域外となっているが、検出推定長約21m、幅が確認できた箇所では2.78mを測る。走行軸の方位は、N-27°-E から N-70°-W に変化する。



第52図 第8号掘立柱建物跡、第13・14号溝跡、第1～3号ピット



土層説明(A-A')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 2 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・微粒子わずか、焼土粒わずか含、土器含
- SB1P1**
 3 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子ごくわずか含
 4 暗褐色土 黒色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック多量含
 5 黄灰色土
 6 黄灰色土 ソフトローム土粒子多量含
 7 黒褐色土 黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック少量含
 8 暗褐色土 黒褐色土粒子少量、ソフトローム土粒子少量含
 9 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 10 黒色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 11 黒褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか含
 12 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 13 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 14 オリーブ黒色土 ソフトローム土粒子多量含

土層説明(B-B')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 ハードローム土ブロック・粒子少量、黒色土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干含
 2 黒褐色土 ソフトローム土微粒子少量、黒褐色土粒子わずか含
- SB1P2**
 3 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 4 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子多量含
 5 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干含
 6 黒色土 ソフトローム土微粒子わずか含
 7 黒褐色土 ソフトローム土粒子わずか含
 8 黒色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干含

土層説明(C-C')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
 2 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子若干含
 3 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量含
 4 黒色土 ソフトローム土粒子・微粒子少量含
 5 黒褐色土 ソフトローム土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
- SD13**
 6 暗褐色土 ソフトローム土粒子若干含
 7 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・微粒子少量含

土層説明(D-D')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒わずか含
 2 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子多量含
- SD13**
 3 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒わずか含
 4 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子多量含

土層説明(E-E')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 黒色土ブロック多量含
 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
- SD13**
 3 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 4 灰黄褐色土 黒色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土粒子少量含

土層説明(F-F')

- SD14**
 1 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒わずか含
 2 黒褐色土 ハードローム土ブロック・粒子多量含
- SD13**
 3 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・粒子少量含
 4 黒色土 ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(G-G')

- SD14**
 1 黒褐色土 ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒ごくわずか含
 2 灰黄褐色土 ハードローム土ブロックわずか、ソフトローム土粒子わずか含
 3 黒褐色土 ハードローム土粒子わずか含
- SD13**
 4 黒褐色土 ハードローム土粒子わずか、炭化物粒わずか含
 5 黒褐色土 ハードローム土ブロック・微粒子若干含
 6 黒色土 ソフトローム土微粒子若干、炭化物粒わずか含
 7 黒色土 ソフトローム土微粒子若干含
 8 黒褐色土 ソフトローム土ブロック・微粒子若干含
 9 黒色土 ソフトローム土微粒子若干含

土層説明(H-H')

- P1**
 1 黒褐色土 ソフトローム土粒子・微粒子若干、礫含
 2 灰黄褐色土 ソフトローム土微粒子多量含
 3 黒褐色土 ソフトローム土粒子若干、ソフトローム土微粒子少量含
 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム土ブロック大含
 5 黒褐色土 ソフトローム土微粒子ごくわずか、瓦含
 6 黒褐色土 ソフトローム土ブロック小、粒子若干含
 7 黒褐色土 ソフトローム土粒子少量含
 8 ソフトローム土粒子層 黒褐色土混じり
 9 黒褐色土 黒色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子若干含
 10 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子若干、黒色土粒子わずか含
 11 黒褐色土 ソフトローム土粒子・ブロック少量含
 12 灰黄褐色土 ソフトローム土粒子少量、黒色土ブロック多量含
 13 黒色土 ソフトローム土粒子ごくわずか含
 14 ソフトローム土ブロック・粒子層 黒色土ブロックわずか含
 15 黒褐色土 ソフトローム土微粒子・粒子多量含
 16 ソフトローム土ブロック・粒子層 黒色土ブロックわずか含
 17 黒褐色土 ソフトローム土微粒子・粒子多量含
 18 ソフトローム土ブロック・粒子層 黒色土ブロックわずか含
 19 灰黄褐色土 黒色土ブロックわずか、ソフトローム土粒子わずか含
 20 根の攪乱

土層説明(I-I')

- P2**
 1 黒褐色土 ソフトローム土粒子ごくわずか、焼土粒・炭化物粒わずか含
 2 黒褐色土 ソフトローム土粒子多量含
 3 にぶい黄褐色土

土層説明(J-J')

- P3**
 1 ハードローム土ブロック層 灰黄褐色土混じり
 2 ソフトローム土層 ハードローム土ブロック多量含
 3 根の攪乱



第53図 第8号掘立柱建物跡、第13・14号溝跡、第1～3号ピット土層断面

断面形は掘り下げを行った箇所、逆台形状を呈し、深さは、土層断面観察から0.54～1.19mを測り、最深部はハードローム土層下に堆積する砂礫層まで掘り込んであった。また、ある時期に掘り直しを行った可能性が考えられる。

出土遺物は、土師器坏、須恵器蓋・坏・椀・甕、平瓦、土錘、鉄釘等が検出された。

溝の埋没時期は、9世紀末～10世紀初頭と推定される。

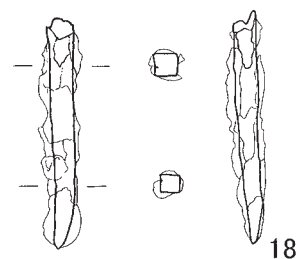
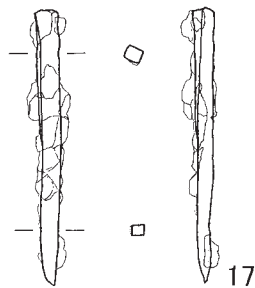
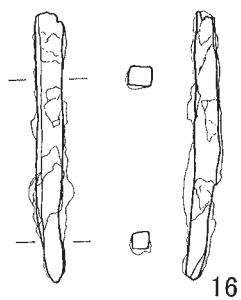
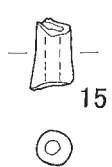
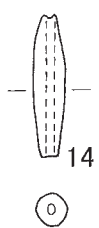
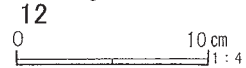
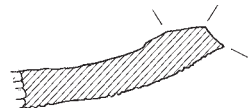
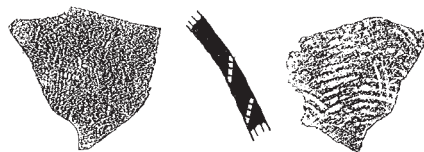
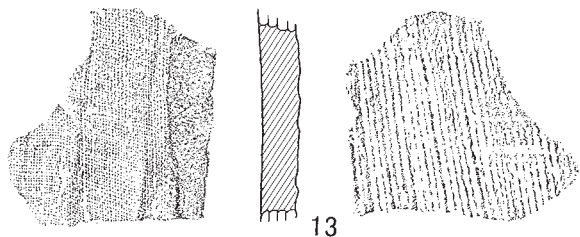
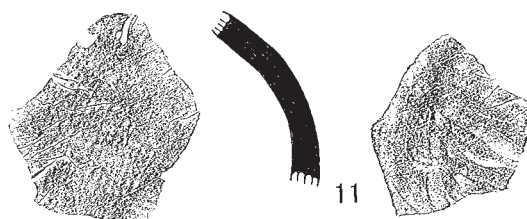
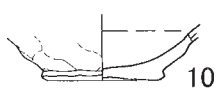
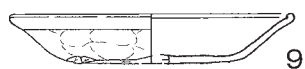
第14号溝跡 (第52～54図、第41表)

調査区の中央部から西部にかけて東西に走り、調査区南西部隅に至る。座標 X = 20,995～21,005、Y = -44,995～-45,010内にある。

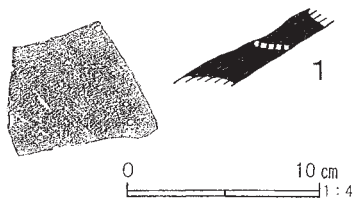
SD12



SD13



SD14



第54図 第12~14号溝跡出土遺物

第39表 第12号溝跡出土遺物観察表（第54図）

掘削番号	図版番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	残存率	備考
54	SD12 1	須恵器 甕	厚さ1.1~1.5	ABGL	A	青灰色	胴部上半破片	外面：平行叩き。 内面：ナデ。 未野産。

第40表 第13号溝跡出土遺物観察表（第54図）

掘削番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
54	SD13 1	須恵器 蓋	(12.0)	1.8	—	ABGL	A	灰色	口縁部10%	未野産。
54	SD13 2	須恵器 蓋	(16.9)	2.3	—	ABGHL	A	灰白色	20%	未野産。
54	SD13 3	須恵器 坏	(13.6)	2.9	—	ABGHJL	B	外面：灰黄色 内面：灰色	口縁部10%	未野産。
54	SD13 4	須恵器 坏	—	1.1	(7.8)	BEL	A	灰色	底部25%	未野産。
54	SD13 5	須恵器 坏	—	1.2	(6.7)	BGIJ	C	外面：橙色、黄灰色 内面：黄灰色	底部30%	
54	SD13 6	須恵器 塊	—	1.5	(6.9)	ABGL	A	灰色	底部40%	未野産。
54	SD13 7	土師器 坏(暗文)	(14.9)	2.3	—	ADEN	A	明赤褐色	口縁部15%	内面に放射状暗文。
54	SD13 8	土師器 坏(暗文)	(12.2)	3.3	—	ABEJ	A	外面：明黄褐色、明赤褐色 内面：暗灰色	口縁部10%	
54	SD13 9	土師器 坏	(15.0)	2.6	(9.7)	EJN	B	外面：橙色、明黄褐色、暗 灰色 内面：橙色	50%	
54	SD13 10	土師器 塊	—	2.3	(6.4)	BEGHJ	A	外面：浅黄色 内面：橙色	底部～体部 下半50%	内面に橙色顔料を塗付したか。
54	SD13 11	須恵器 甕	厚さ1.3~1.4			ABGL	A	外面：灰色 内面：青灰色	胴部破片	外面：平行叩き。 内面：ヨコ・タテナデ。 未野産。
54	SD13 12	須恵器 甕	厚さ0.9~1.0			ABDGL	A	外面：灰色 内面：青灰色	胴部破片	外面：格子叩き、ナデ。 内面：青海波文あて具痕。
54	SD13 13	平瓦	厚さ1.3~2.2			EGKMN	B	灰黄色、浅黄色	側端部破片	凹面：布目痕8×7本/cm ² 、模骨痕。 凸面：縄叩き。 粘土板桶巻造りか。
54	SD13 14	土錘	最大長3.8 最大幅0.9 孔径0.25 重量2.7					灰黄色、にぶい橙色	100%	
54	SD13 15	土錘	最大長1.9 最大幅1.1 孔径0.4 重量1.7					灰黄色、にぶい橙色	一部破片	
54	SD13 16	鉄釘						残存長7.1 最大幅0.6	頭部欠損	断面ほぼ正方形の角釘。
54	SD13 17	鉄釘						残存長7.3 最大幅0.5	頭部欠損	断面長方形の角釘。
54	SD13 18	鉄釘						残存長6.1 最大幅0.6	頭部欠損	断面ほぼ正方形の角釘。

第41表 第14号溝跡出土遺物観察表（第54図）

掘削番号	図版番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	残存率	備考
54	SD14 1	須恵器 甕	厚さ1.2~1.6	ADFGN	A	灰色	底部付近 破片か	外面：平行叩き。 内面：ナデ。 南比企産。

第8号掘立柱建物跡、第13号溝跡等と重複関係にあり、本遺構が、第8号掘立柱建物跡、第13号溝跡を切っている。なお、第13号溝跡と全く上下関係になる箇所が確認された。

規模は、検出された南端の一部及び西部が調査区域外となっているが、検出推定長約11.9m、幅0.35~0.71mを測る。走行軸の方位は、N-73°-Wを指す。

断面形は掘り下げを行った箇所、箱形、逆台形、丸底とさまざまな形状を呈し、深さは、土層断面観察から16~50cmを測る。底は、一部上げ底になる箇所が見られた。

出土遺物は、図示できたものが須恵器甕であった。

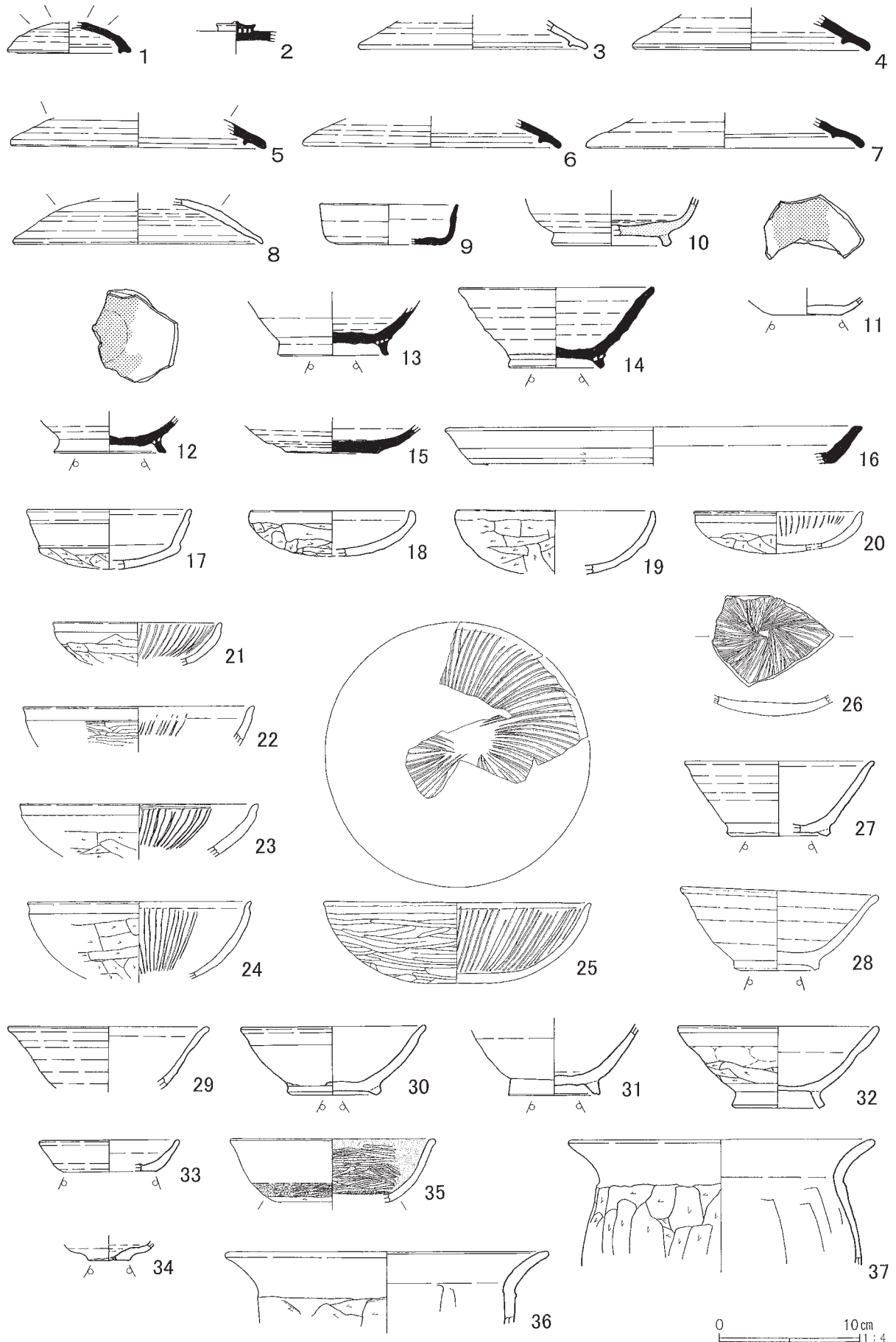
時期は、第8号掘立柱建物跡の時期以降であるが、溝の埋没時期とも不明である。

(5) 遺構外出土遺物

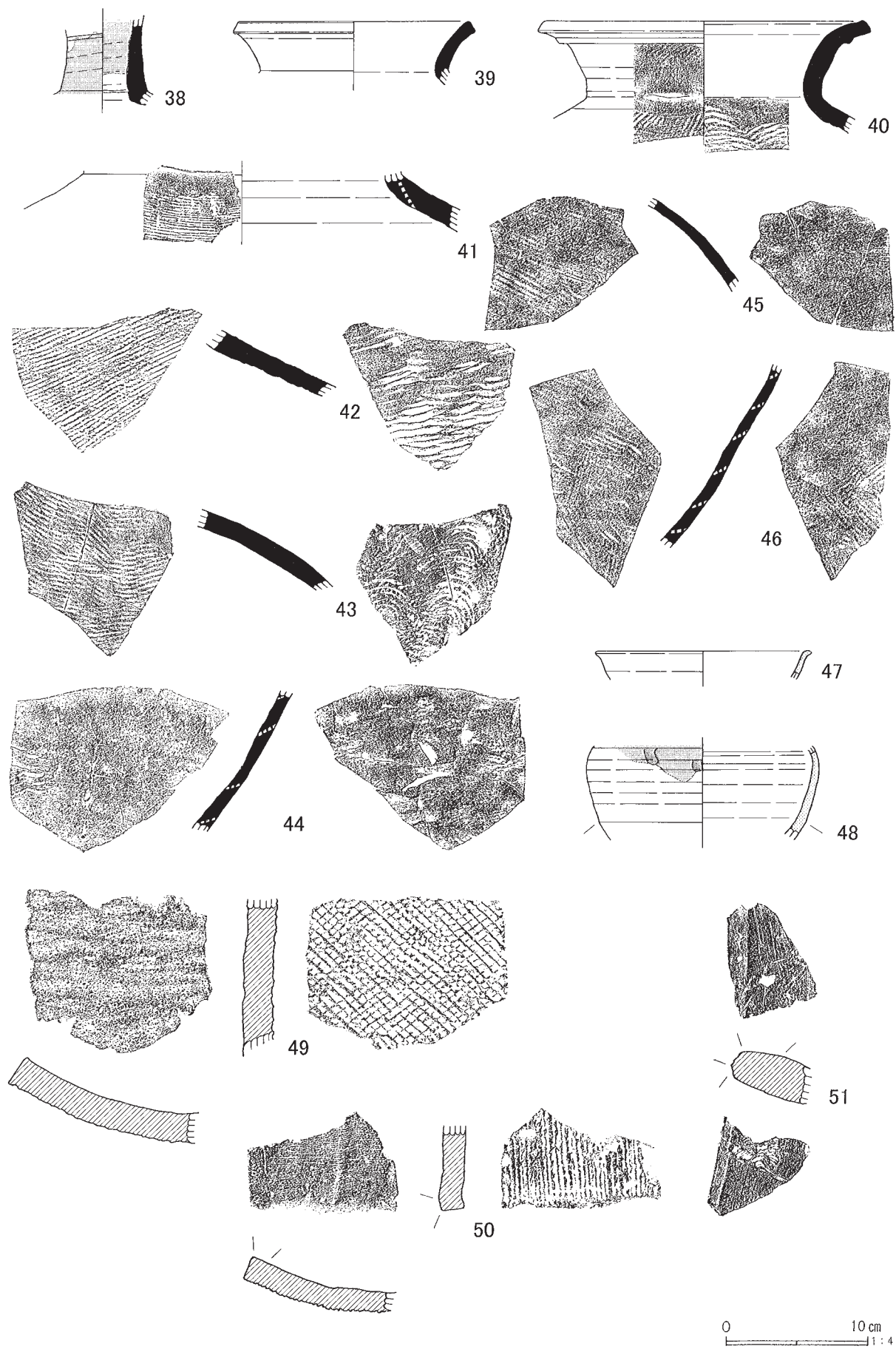
表土除去の際に出土した遺物及び遺構に伴わないと判断した出土遺物を掲載する（第55～57図、第42表）。古墳時代後期から平安時代後期までの、土器、瓦、土錘、土製品、羽口、鉄釘等が出土した。

第42表 B区遺構外出土遺物観察表（第55～57図）

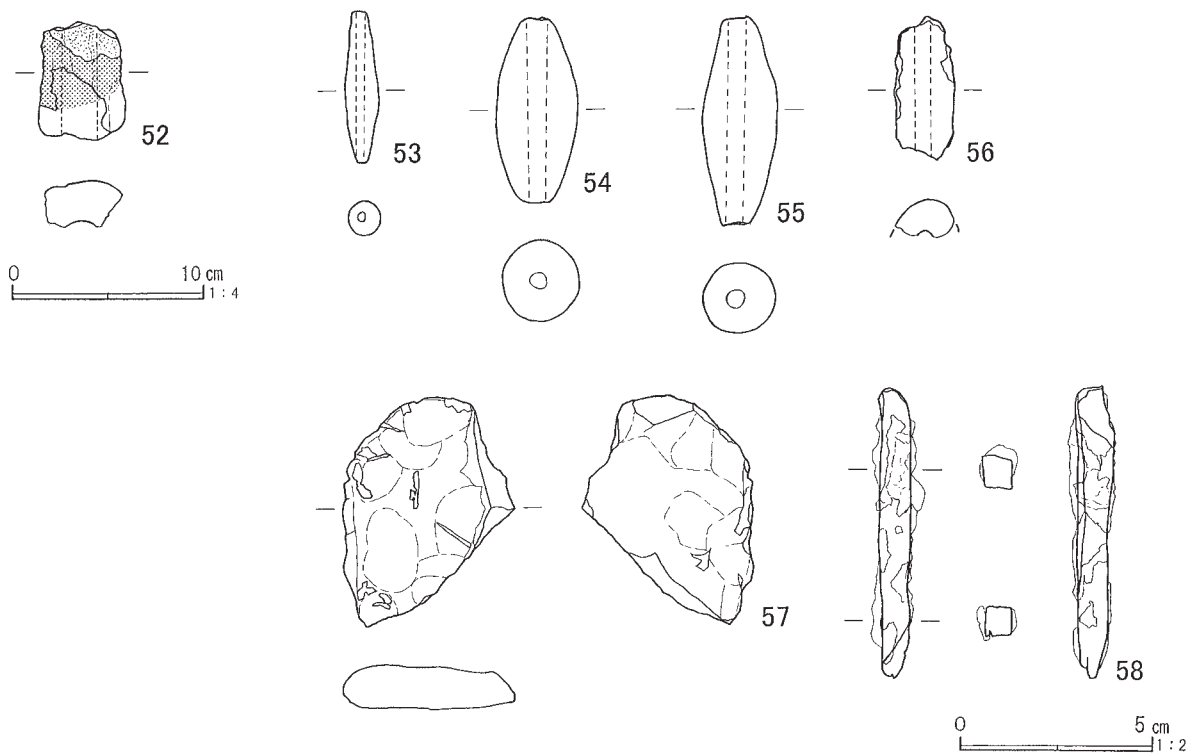
欄外番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
55	1	須恵器蓋	(8.8)	2.2	—	BG	A	灰色	30%	外面に自然釉。
55	2	須恵器蓋	つまみ径2.2	1.4	—	BGL	A	灰色	つまみ部破片	未野産。
55	3	須恵器蓋	(16.4)	2.0	—	AEKL	C	外面：灰白色 内面：にぶい赤橙色、灰白色	口縁部10%	未野産。
55	4	須恵器蓋	(17.0)	2.5	—	ABGHL	B	外面：黄灰色 内面：黄灰色、灰色	口縁部10%以下	
55	5	須恵器蓋	(18.3)	2.0	—	AGL	A	灰色	口縁部10%以下	未野産。
55	6	須恵器蓋	(18.5)	2.0	—	ABLN	A	灰色	口縁部10%以下	未野産。
55	7	須恵器蓋	(19.9)	2.1	—	ABDGH	A	灰色	口縁部10%以下	
55	8	須恵器蓋	—	3.3	(18.0)	AHK	C	赤褐色、明赤褐色	15%	
55	9	須恵器環	(9.9)	2.9	—	ADGL	A	外面：青灰色 内面：灰色	15%	
55	10	灰釉陶器碗	—	3.3	(8.1)	ABG	A	灰色	底部付近25%	猿投窯折戸53号窯式か。
55	11	須恵器環	—	1.1	5.0	ABEFG	A	灰色	底部55%	底部内面に朱墨痕、転用碗用途。南比企産。
55	12	須恵器碗	—	2.4	(8.1)	ALN	A	外面：灰色 内面：黄灰色	底部30%	底部内面に朱墨、転用碗用途か。
55	13	須恵器碗	—	3.8	7.9	BDLMN	A	灰色	底部100%	
55	14	須恵器碗	(14.0)	5.7	(6.8)	BDJ	C	外面：灰色 内面：灰白色、灰色	30%	
55	15	須恵器皿	—	1.7	6.7	DEGIJ	C	灰黄色、にぶい黄橙色	50%	未野産。
55	16	須恵器盤	(29.9)	2.6	—	ACHL	B	外面：灰色 内面：にぶい黄橙色、灰色	口縁部15%	未野産。
55	17	土師器環	11.8	(4.2)	—	AEM	A	明赤褐色、黒褐色、灰褐色	15%	
55	18	土師器環	(11.9)	(3.3)	—	ABK	A	明赤褐色	30%	
55	19	土師器環	(14.1)	4.5	—	AIJ	A	外面：にぶい褐色 内面：橙色	20%	
55	20	土師器環(暗文)	(12.1)	3.0	—	AGJ	B	外面：橙色、黒色 内面：橙色	30%	内面に放射状暗文があるが、器面が荒れていて全体確認困難。
55	21	土師器環	(12.0)	3.0	—	AEIJ	B	橙色	40%	内面に放射状暗文。
55	22	土師器環	(16.5)	2.8	—	ABJ	A	明赤褐色	口縁部10%以下	体部外面へラミガキ。内面に放射状暗文。
55	23	土師器環(暗文)	(17.0)	3.7	—	ACIJK	B	外面：にぶい褐色、にぶい赤褐色 内面：橙色	口縁部15%	
55	24	土師器環(暗文)	(15.9)	5.4	—	ACJK	B	にぶい橙色、灰黄色、灰褐色	口縁部15%	内面に放射状暗文。
55	25	土師器環(暗文)	(19.0)	5.8	6.0	AEHK	A	明赤褐色、にぶい赤褐色	25%	内面に放射状暗文。
55	26	土師器環(碗)	—	—	—	ABDJK	A	明赤褐色	底部付近破片	内面に放射状暗文。
55	27	須恵系土師質土器碗	(13.1)	5.3	(7.4)	BHIJ	B	外面：にぶい橙色、灰褐色、にぶい褐色 内面：にぶい橙色、にぶい黄橙色	40%	外面・口縁部内面の一部に煤付着、灯明皿用途か。
55	28	須恵系土師質土器碗	14.2	5.7	5.4	ADEGHI	B	外面：にぶい黄橙色、浅黄色、橙色 内面：にぶい黄橙色、橙色、暗灰黄色	80%	内外面に煤付着。



第55图 B区遺構外出土遺物(1)



第56图 B区遺構外出土遺物(2)



第57図 B区遺構外出土遺物(3)

掘削層	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
55	29	須恵系土師質土器 環	(14.5)	4.5	—	ABGL	B	灰色、黒色	20%	
55	30	須恵系土師質土器 碗	(13.2)	4.9	6.7	ABEJJK	B	にぶい黄橙色、橙色	40%	内面の一部に煤付着、灯明皿用途か。
55	31	須恵系土師質土器 碗	—	4.6	6.0	ABHL	A	外面：灰黄色、黒色 内面：浅黄色、黒色	60%	
55	32	須恵系土師質土器 碗	(14.5)	5.8	6.6	BEIJK	B	にぶい黄橙色、橙色	50%	
55	33	ロクロ土師器 皿	(10.0)	2.3	(6.6)	BEHK	B	浅黄色	20%	
55	34	ロクロ土師器 環	—	1.1	(3.1)	ABEIK	B	橙色	25%	
55	35	黒色土器 碗	(14.6)	4.5	—	ABEIK	B	外面：褐色、赤褐色、黒褐色 内面：黒色	20%	外面：一部ヘラミガキ。 内面：黒色処理、ヘラミガキ。
55	36	土師器 甗	(23.3)	5.1	—	AEJKM	A	外面：にぶい橙色、にぶい褐色 内面：橙色、灰黄褐色、にぶい黄褐色	口縁部15%	
55	37	土師器 甗	(22.0)	9.0	—	ABEGHK	A	にぶい黄橙色、橙色、灰黄褐色	口縁部～胴部 上半25%	
56	38	須恵器 短頸壺	頸部最大径6.2			DGL	A	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	頸部破片	内外面に釉薬(灰釉)。
56	39	須恵器 短頸壺	(16.6)	(3.7)	—	BDIL	A	外面：黒褐色、褐色 内面：灰褐色、黒褐色	口縁部20%	未野産。
56	40	須恵器 甗	(23.7)	7.0	—	BDGLMN	B	外面：灰白色、橙色 内面：灰白色	口縁部25%	外面：口縁部の一部・胴部に斜め平行叩き。 内面：胴部に青海波文あて具痕。 口縁部外面に赤彩か。 未野産。
56	41	須恵器 甗	頸部径 (22.8)	2.8	—	BGHJL	A	外面：灰色 内面：暗青灰色	頸部付近破片	外面：カキ目、自然釉。 未野産。
56	42	須恵器 甗	厚さ1.0~1.4			AEGL	A	暗青灰色	胴部上半(頸部付近)破片	外面：斜格子叩き。 内面：若干弧を描く平行あて具痕。 未野産。
56	43	須恵器 甗	厚さ1.0~1.2			AEGHL	B	外面：灰色、にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	胴部上半(頸部付近)破片か	外面：平行叩き。 内面：青海波文あて具痕。

編目番号	図版番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
56	44	須恵器甕	厚さ0.6~1.0			AHLN	A	外面：暗灰色 内面：灰色	胴部下半破片	外面：ヨコナデ。 内面：ナデ。 未野産。
56	45	須恵器甕	厚さ0.6~0.7			ABLN	A	外面：暗青灰色 内面：青灰色	胴部上半破片	外面：平行叩き。 内面：ヨコナデ。 未野産。45と46は同一個体。
56	46	須恵器甕	厚さ0.6~0.8			ADGLN	A	外面：暗青灰色 内面：青灰色	胴部下半破片	外面：平行叩き。 内面：ヨコナデ、青海波文あて具痕。 未野産。45と46は同一個体。
56	47	灰釉陶器碗	(15.4)	2.1	—	A	A	オリーブ灰色	口縁部 10%以下	
56	48	灰釉陶器長頸壺	胴部最大径 (16.5)	6.6	—	AB	A	外面：灰白色 内面：黄灰色	胴部破片	外面に灰釉、特に肩部付近は暗オリーブ灰色の灰釉。
56	49	平瓦	厚さ2.0~2.1			ABDGLMN	A	灰色	側端部破片	凹面：横方向ナデ。 凸面：斜格子(小)叩き。 粘土紐造りか。
56	50	平瓦	厚さ1.3~1.7			ABGL	A	凹面：暗青灰色 凸面：暗青灰色	狭端部・ 側部破片	凹面：布目痕8×7本/cm ² 、模骨痕。 凸面：縄叩き。 粘土紐桶巻造り。
56	51	平瓦	厚さ2.1~2.9			DJ	B	凹面：浅黄色 凸面：にぶい赤褐色	側端部破片	凹面：布目痕7×□/cm ² 。 凸面：ナデ。 粘土紐桶巻造りか。
57	52	羽口	残存長6.3 残存幅4.6 孔径(1.9)						後部付近破片	表面縦方向のナデ。 口部発泡化、ガラス化。
57	53	土錘	最大長4.0	最大幅0.9	孔径0.25	重量2.4	にぶい黄色、暗灰黄色		100%	
57	54	土錘	最大長4.9	最大幅2.2	孔径0.4	重量21.0	明赤褐色		100%	
57	55	土錘	最大長5.5	最大幅1.9	孔径0.4	重量18.6	明赤褐色		100%	
57	56	土錘	最大長3.8	最大幅1.6	孔径(0.4)	重量5.3	明赤褐色		破片	
57	57	土製品	厚さ0.9~1.1			EHJK	B	にぶい黄橙色	破片	手づくね。用途不明。
57	58	鉄釘	残存長7.7 最大幅0.8						頭部欠損	断面ほぼ正方形の角釘。

V 調査のまとめ

(1) はじめに

西別府遺跡群は、西別府遺跡のほか西別府祭祀遺跡、西別府廃寺の2遺跡で構成される。これらの遺跡は、隣接する深谷市幡羅遺跡と一体をなし、古代の幡羅郡家を支える要素であったと考えられる。西別府祭祀遺跡は、湧泉に対する祭祀跡であり、水の恵みに感謝し、郡家の経済基盤ともなる水田から享受される利益を期待する祈りを奉げる場所であったと考えられ、西別府廃寺は、郡家の政治的安寧を仏に祈り、なお且つ寺院が所有する水田等から得られる郡家を経済的に支えるであろう利益を提供する場所であったと考えられる。そして、西別府遺跡は、郡家の政治的機能の一部を担った場所であり、本来なら幡羅遺跡と一連の遺跡として捉えていかなければならない遺跡であると認識される。これら3遺跡は、幡羅郡家にとって、一つとして欠くことのできない要素であり、この3要素が揃う郡家は全国的に見ても稀有な存在である。

本報告の調査は、前述のような認識が高まるにつれ、遺跡の実態を正確に把握し、その価値を遺跡保護に活用するための情報収集を目的とし、平成15年度から開始された。この保存を目的とする範囲内容確認調査は、西別府遺跡群のうち、今回報告する2遺跡のほか、西別府祭祀遺跡について、これまでに調査を実施してきた。西別府祭祀遺跡の確認調査では、この遺跡のメインである台地下の湧泉祭祀以外に、台地上での祭祀の実態を把握すべく調査を実施した。その調査では、幡羅郡家が消滅する平安時代末期の祭祀の実態、そして、その後の中世の様子を推定できる情報を得るという成果があがり、飛鳥時代に始まったここでの祭祀が、質を変え、中世、近世、近代、そして現代への受け継がれていったことが考察できるものであった。

そして、本報告の西別府遺跡・西別府廃寺の調査は、平成15年度のトレンチによる予備調査から始まり、本格的には平成16年度、平成20年度～平成22年度にわたって調査を実施してきた。調査の結果、幡羅郡家の一つの構成要素である、二重区画溝と土塁による方形区画（官衙ブロック）の発見、そして、方形区画内の様子を物語る建物群の状況の一部を把握することができたのである。しかし、調査はさまざまな制約の中実施するという性格上、本報告の調査のように必ずしも大きな成果があがるとは限らず、また、当初期待していた郡庁を掘り当てるという命題を容易くクリアできるものではないことを痛感した。なお、本報告の調査は2遺跡に該当するが、西別府廃寺の遺跡範囲はごく一部が該当するのみで、そのほとんどの範囲は西別府遺跡、つまり幡羅遺跡の一部であり、実際の寺院の機能をもった範囲からは大分西に離れていると判断される。

それでは、西別府遺跡の調査成果として、特筆すべき事項について述べることにしたい。

(2) A区の二重区画溝と土塁による方形区画について

A区調査地点で検出された主な遺構は、竪穴建物跡5軒、掘立柱建物跡7棟、土坑18基、溝跡11条、掘立柱列1列、土塁跡1か所等であるが、特筆すべきは、本項目の表題のとおり、掘立柱建物を擁する方形区画である。

方形区画は、調査区のほぼ全体を占める形で確認された。また、その状況は、北辺及び東辺の一部が分かる方形区画北東隅の状況が把握できるものであった。具体的な本方形区画を構成する遺構は、二重

に配された区画溝跡、その溝間に造られた掘立柱列及び土塁跡、そして、区画内にあった大型掘立柱建物跡と小型掘立柱建物跡である。

方形区画溝の2条は、外側に断面形が逆台形または箱形で、掘方が深くしっかりした第2号溝跡、内側に断面形が崩れた船底状で、掘方が浅く、平面プランが一定しない非連続溝の第3号溝跡である。また、双方の溝間幅約3.8～5.5mのほぼ中央（北辺では内溝寄り、東辺では外溝寄り）には、溝に並行して第1号掘立柱列が確認され、また、土層断面観察から、土塁跡と考えられる構造物も確認された。この土塁跡は、版築工法によるものではなく、しまりのあるソフトローム土ブロック・粒子を含む褐灰色土及びにぶい黄褐色土を積み重ねて造られていたことが観察できた。

そして、これら方形区画溝は、同時期に存在し、初源の詳細は不明であるが、その出土遺物から、11世紀前半には埋没していたことが推定された。

なお、掘立柱列と土塁跡については、先に掘立柱塼と考えられる掘立柱列が区画溝間に造られ、方形区画を囲繞していたが、その後、土塁を造り整備・改変していったことが推定される。

この方形区画内には、大小の掘立柱建物が存在し、区画溝とこれらの掘立柱建物とは有機的な関係にあったと判断され、掘立柱建物は時期により変遷していったことが判明した。

大型の掘立柱建物跡は、第3号掘立柱建物跡が梁行3間、桁行5間以上の側柱式掘立柱建物（面積88.5㎡以上）と推定される。そして、ほぼ同じ場所に所在する第1・2号掘立柱建物跡も、規模は判然としませんが、第3号掘立柱建物跡と同規模の可能性が考えられ、互いが建替えの関係にあると推定される。

一方、小型の掘立柱建物跡の第4～7号掘立柱建物跡は、大型の掘立柱建物跡の東約5～12mの位置にあり、やはり互いが建替えの関係にあると考えられる。第4～6号掘立柱建物跡は、梁行2間、桁行3間の側柱式掘立柱建物、第7号掘立柱建物跡は、梁行2間、桁行4間の側柱式掘立柱建物である。いずれの建物も30㎡前後の面積であり、また、第6号掘立柱建物跡と第7号掘立柱建物跡は、桁行の間数に相違はあるもののほぼ同じ面積であった。なお、いずれの建物も、出土遺物を検出できなかった。

それでは、次に、これら掘立柱建物跡の変遷の様子を、9世紀後半、9世紀末～10世紀初頭、10世紀後半の3時期に区分し、辿ってみたい（第58～60図）。

なお、第1・2号竪穴建物跡は方形区画内に存在するが、掘立柱建物跡が造られる以前のものだと判断され、区画溝と有機的な関係にあったかどうかは不明であるため、本記述には含めない。また、第3・4号竪穴建物跡も、方形区画が機能を失った後の構造物であるため、本記述には含めない。

ア 9世紀後半

大型の第2号掘立柱建物跡と、小型の第4・5号掘立柱建物跡があった時期である。

第2号掘立柱建物跡は、柱穴から出土した遺物と第1号掘立柱建物跡との切り合い関係から、9世紀後半と判断される。また、第4・5号掘立柱建物跡との関係は、建物の主軸方位がほぼ一致することと、第6・7号掘立柱建物跡との新旧関係から、第1号掘立柱建物跡より古いと判断される第2号掘立柱建物跡と同時期の可能性が考えられる。そして、梁行の北側の面を見ても、第4・5号掘立柱建物跡が第2号掘立柱建物跡より南へ約1.5mズレるが、いずれの建物も十分に同時期の存在が考えられる。

なお、第2号掘立柱建物跡の桁行東側と第4・5号掘立柱建物跡の桁行西側間の距離は、12.1～12.2

mである。

第4・5号掘立柱建物跡とも、柱穴P2のみ掘り下げを行っただけで、他の柱穴は平面確認のみであったため、出土遺物が検出されなかった。また、第4号掘立柱建物跡と第5号掘立柱建物跡の新旧関係は、柱穴P2の土層断面観察から、前者が古く、後者が新しいということが分かったが、ほぼ同位置に建てられていることから、時期をあまり違えず建替えを行っただけの可能性があると考えている。

イ 9世紀末～10世紀初頭

大型の第1号掘立柱建物跡と、小型の第6号掘立柱建物跡があった時期である。

第1号掘立柱建物跡は、柱穴から出土した遺物と第2号掘立柱建物跡との切り合い関係から、9世紀末～10世紀初頭と判断される。また、第6号掘立柱建物跡との関係は、建物の主軸方位が一致することと、第4・5号掘立柱建物跡と第7号掘立柱建物跡との新旧関係から、第2号掘立柱建物跡より新しく、第3号掘立柱建物跡より古いと判断される第1号掘立柱建物跡と同時期に存在した可能性が高い。そして、梁行の北側の面を見てみると、第6号掘立柱建物跡が第1号掘立柱建物跡より南へ約1.5mズレるが、いずれの建物も十分に同時期の存在が考えられる。

なお、第1号掘立柱建物跡の桁行東側と第6号掘立柱建物跡の桁行西側間の距離は、12.2mである。

ウ 10世紀後半

大型の第3号掘立柱建物跡と、小型の第7号掘立柱建物跡があった時期である。



第58図 A区方形区画変遷図(1) 9世紀後半

第3号掘立柱建物跡は、図示できなかつたが柱穴から出土した遺物から10世紀後半と判断される。また、第7号掘立柱建物跡との関係は、建物の主軸方位がほぼ一致することと、梁行の北側の面がほぼ東西に揃うことから、同時期に存在した可能性が考えられる。

なお、第3号掘立柱建物跡の桁行東側と第7号掘立柱建物跡の桁行西側間の距離は、5.4mである。

以上が、掘立柱建物の変遷である。ここで、方形区画の様子を簡単にまとめると、区画溝により圍繞された方形区画は、大小の掘立柱建物を擁し区画溝間に掘立柱塀があつた時期から、土塁が整備された時期へと変遷し、前述のとおり、機能を失う11世紀前半の区画溝の埋没時期まで、郡家の重要な施設として営繕されながら存在していたと推定される。つまり、第3号掘立柱建物跡及び第7号掘立柱建物跡が存在した後のおよそ半世紀後には、幡羅郡家の官衙ブロックとして機能したと考えられる方形区画が廃絶されていったと考えられる。そして、その後は、第3・4号竪穴建物跡のような竪穴建物が造られるようになることから、一般集落化が進んでいったと考えられる。

二重区画溝と土塁による方形区画は、隣接する幡羅遺跡において、実務官衙域として大規模なものが確認されている（C期建物ブロック：『幡羅遺跡Ⅲ』2008）。所在する位置は、本遺跡の方形区画のすぐ西隣で、その東辺は本遺跡の方形区画から30mの距離で、規模は一辺約120m四方である。

本遺跡の方形区画は、幡羅遺跡C期建物ブロックとは規模や性格に相異はあるが、本遺跡の方形区画も11世紀前半には機能を失つたと考えられ、幡羅遺跡C期建物ブロックの終焉時期と同じである。ちな



第59図 A区方形区画変遷図(2) 9世紀末～10世紀初頭



第60図 A区方形区画変遷図(3) 10世紀後半

みに、幡羅遺跡C期建物ブロックは、最も早くて9世紀前半～中葉の時期に成立したと考えられているが、本遺跡の方形区画については成立時期の詳細が不明であり、少なくとも9世紀後半には存在していたと推定されるに止まる。

もう一つの幡羅遺跡C期建物ブロックとの相似点は、本遺跡方形区画の北辺の主軸方位がほぼ同じ方位を示す点である。ただし、幡羅遺跡の実務官衙域の方形区画がほぼ方形の形状を呈するのに対し、本遺跡の方形区画は、東辺が北辺に対し 100° と、直角ではなく東へ開く主軸方位を採っている。これは、本遺跡の方形区画の東側に所在する何らかの施設の影響を受け意識されているのか、東辺の主軸方位のまっすぐ北には西別府祭祀遺跡が所在し、その祭祀の中心地点が延長上にあることから、このことが意識されているのかなど、いくつかの理由や制約が影響している可能性が推定されるが、具体的には不明である。今後の調査により、検討が加えられることに期待したい。

(3) B区の方形区画について

B区調査地点で検出された主な遺構は、竪穴建物跡12軒、掘立柱建物跡1棟、土坑4基、溝跡8条、等であるが、特筆すべきは、A区と同様に、区画溝に囲繞された方形区画が確認されたことである。また、この方形区画が造営された前後には、一般集落がこの場には存在していたことが分かった。

B区の方形区画は、一重の区画溝で囲繞された区画内に、鍛冶関連と考えられる竪穴建物跡を含む竪穴建物跡が3棟所在した。竪穴建物跡は、出土遺物から8世紀前半の2棟(第9・13号竪穴建物跡)と

9世紀後半～10世紀初頭の1棟（第10号竪穴建物跡）である。鍛冶関連と考えられる第9号竪穴建物跡は、平面プランがほぼ正方形で、規模が長軸5.58m、推定短軸5.50mを測る大型の建物である。中央部を溝跡が東西に横切り、9世紀後半～10世紀初頭の竪穴建物跡1棟、10世紀後半～11世紀前半の竪穴建物跡2棟に切られている。本建物では、平面確認で多量の炭化物や焼土が分布していたことを確認し、土層断面観察から床面直上に焼土塊・粒子を含む厚さ10cm程の炭化物層が確認された上に、鉄滓や羽口破片が検出された。さらに、出土遺物の中には、二次熱を受けてひしゃげ、一部がアメ状に発泡化、還元焰化した内面に放射状暗文を施した土師器片が見られた。このことから、本建物を鍛冶関連のものとして判断した。

なお、出土遺物には時期幅があり、7世紀後半から8世紀前半までのものが見られた。

第13号竪穴建物跡は、10世紀代の2棟の竪穴建物跡に切られている上に、プランの大部分が調査区域外になり、詳細は不明であったが、主軸方位が第9号竪穴建物跡とほぼ同じであると推定されることから、同時期と考えられた。なお、第9号竪穴建物跡との距離は、双方の建物掘方の隅隅間で2.7mを測った。

第10号竪穴建物跡は、8世紀前半の第9号竪穴建物跡を切っていて、出土遺物から9世紀後半～10世紀初頭には所在していた。本建物の特徴としては、土錘が15個体まとまって検出され、さらに、長さ3.5cm前後の小振りな土錘が13個体もあったことである。

区画溝である第13号溝跡は、第8号掘立柱建物跡や第14号溝跡と重複して検出され、調査区内でろうじて屈曲部が確認されたことから、前述の竪穴建物跡が所在する空間を区画する溝跡であると考えた。溝跡は、方形区画ができる以前の7世紀後半及び7世紀末～8世紀初頭の竪穴建物跡を切って造られており、検出された出土遺物の時期は8世紀前半～10世紀初頭とかなりの幅があるが、8世紀前半の2棟の竪穴建物跡及び9世紀後半～10世紀初頭の1棟の竪穴建物跡の時期とも符合し、これらのことから、この方形区画が主として8世紀前半～9世紀後半と、約2世紀の長期間に亘って存在したことが考えられた。

なお、第13号溝跡は、土層断面観察から、10世紀初頭に埋没するまでの間に、少なくとも1回掘り直され、整備されていた可能性が考えられた。また、第8号掘立柱建物跡によって切られていることから、埋没後には掘立柱建物が建てられたと考えられる。

なお、その北では、かつて方形区画内の竪穴建物が建てられていた場所に、10世紀以降11世紀前半まで立て続けに竪穴建物が建てられていき、一般集落化していったと考えられた。

（4） おわりに

西別府遺跡及び西別府廃寺遺跡範囲内は、今後の確認調査等の調査が進むことにより、本報告の調査区と西別府廃寺寺域との間の未調査エリアに、郡庁が発見される可能性が高いと考えられている。

平成24年3月、深谷市教育委員会による下郷遺跡（第8次）調査において、両側に側溝をもち路面幅約6mを測る古代の道路跡が発見された。この道路跡は、旧中山道とほぼ同じ位置を通っていたと考えられる幡羅郡と榛沢郡を結ぶ道路から分岐し、幡羅郡庁へ向かうための道との見解が出され、この道路跡の北への推定延長上には、正に前述した未調査エリアがある。このことから、未調査エリアに郡庁が所在する可能性がより一層高くなってきたのである。

今後の調査により、幡羅郡家の様相がより一層解明されることに期待をしてまとめに代えたいと思う。

主な引用・参考文献

- 赤熊浩一 1999 『末野遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 新井 端 1983 『姥ヶ沢遺跡Ⅰ』 江南町教育委員会
- 新井 端他 1988 『本田・東台・上前原』 江南町教育委員会
- 磯崎 一・山本 靖 2005 『北島遺跡Ⅻ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第305集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 小川良祐他 1986 『樋の上遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤隆則他 2003 『三ヶ尻遺跡Ⅲ』 熊谷市教育委員会
- 金子正之 1982 『三尻遺跡群上辻・下辻遺跡』 熊谷市教育委員会
- 金子正之 1984 『三尻遺跡群上辻・下辻遺跡』 熊谷市教育委員会
- 金子正之 1985 『三尻遺跡群黒沢館・樋ノ上遺跡』 熊谷市教育委員会
- 金子正之 1986 『三尻遺跡群 若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』 熊谷市教育委員会
- 金子正之 1986 『三尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』 熊谷市教育委員会
- 川口 潤 1989 『本郷前東遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第78集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 木戸春夫 1995 『根絡・横間栗・関下』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 熊谷市 1963 『熊谷市史』 前編
- 剣持和夫 1995 『森下・戸森松原・起会』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第148集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 江南町 1995 『江南町史』 資料編1 考古
- 埼玉県 1982 『新編 埼玉県史』 資料編2
- 埼玉県 1984 『新編 埼玉県史』 資料編3
- 埼玉県教育委員会 1988 『埼玉の中世城館跡』
- 寺社下博他 1979 『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』 熊谷市教育委員会
- 寺社下 博 1984 『中条遺跡群』 熊谷市教育委員会
- 寺社下 博 2000 『一本木前遺跡』 熊谷市教育委員会
- 寺社下 博 2003 『一本木前遺跡Ⅳ』 熊谷市教育委員会
- 寺社下 博 2004 『一本木前遺跡Ⅴ』 熊谷市教育委員会
- 鈴木敏昭 1999 『横間栗遺跡』 熊谷市教育委員会
- 高山清司 1976 『三ヶ尻上古遺跡』 『埼玉県土器集成』 4 埼玉考古学会
- 滝瀬芳之 1990 『東川端遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 滝瀬芳之他 1993 『上敷免遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 田部井功 1976 『弥藤吾新田遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告第29集 埼玉県遺跡調査会
- 田中広明 1992 『新屋敷東・本郷前東』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第111集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

団

- 知久裕昭 2007 『幡羅遺跡Ⅱ』 深谷市教育委員会
- 知久裕昭 2008 『幡羅遺跡Ⅲ』 深谷市教育委員会
- 知久裕昭 2009 『幡羅遺跡Ⅳ』 深谷市教育委員会
- 知久裕昭 2009 『幡羅遺跡Ⅴ』 深谷市教育委員会
- 知久裕昭 2010 『幡羅遺跡Ⅵ』 深谷市教育委員会
- 富田和夫 2000 『大寄遺跡Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第268集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 永井いずみ 2004 「埼玉県北部における10世紀以降の土師質土器」『研究紀要』第19号 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 中島 宏他 1984 『池守・池上』 埼玉県教育委員会
- 中村倉司 1987 『下辻遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 深谷市教育委員会 2008 『律令時代の郡役所』
- 増田逸朗他 1971 『横塚山古墳』 埼玉県遺跡調査会
- 松田 哲 2004 『籠原裏遺跡』 熊谷市教育委員会
- 松田 哲 2005 『籠原裏古墳群』 熊谷市教育委員会
- 松田 哲 2008 『藤之宮遺跡』 熊谷市教育委員会
- 森田安彦他 1998 『千代遺跡群一弥生・古墳時代編一』 江南町教育委員会・江南町千代遺跡群発掘調査会
- 山中敏史他 2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』 (独)奈良文化財研究所
- 山中敏史他 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ 遺物・遺跡編』 (独)奈良文化財研究所
- 吉田 稔他 1991 『小敷田遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 吉野 健 1989 『西方遺跡』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 1992 『西別府廃寺』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 1994 『西別府廃寺(第二次)』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健・松田 哲 2000 『西別府祭祀遺跡』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 2001 『諏訪木遺跡』 熊谷市遺跡調査会
- 吉野 健 2002 『前中西遺跡Ⅱ』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 2003 『前中西遺跡Ⅲ』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 2009 『西別府祭祀遺跡Ⅱ』 熊谷市教育委員会
- 吉野 健 2011 『西別府祭祀遺跡Ⅲ』 熊谷市教育委員会

写真図版



西から遺跡を望む



A区・B区全景（上が北）

図版2



第1・2号竪穴建物跡（西から）



第2号竪穴建物跡遺物出土状況



第3号竪穴建物跡（西から）



第5号竪穴建物跡（南から）



第1～3号掘立柱建物跡

图版4



第1·2号掘立柱建物跡柱穴 (P 4)



第1·2号掘立柱建物跡柱穴 (P 5)



第3号掘立柱建物跡柱穴 (P 1)



第3号掘立柱建物跡柱穴 (P 2)



第3号掘立柱建物跡柱穴 (P 4)



第4～7号掘立柱建物跡 (北から)

図版6



第4・5号掘立柱建物跡柱穴（P2）



第2・3号溝跡〔区画溝〕、第1号掘立柱列（北辺西部）（西から）



第2号溝跡〔区画溝〕(北東隅部)(西から)



第2・3・9・10号溝跡〔区画溝〕、第1号掘立柱列(東辺部)、第9～11・13・14号土坑(南から)

图版8



第2号沟迹〔区画沟〕土层断面（北边部）



第2号沟迹〔区画沟〕土层断面（北东隅部）



第2·9号沟迹〔区画沟〕土层断面（东边部）



第3号溝跡〔区画溝〕土層断面（東辺部）



第1号土塁跡土層断面（右が第2号溝跡、左が第3号溝跡）



第6号竪穴建物跡（東から）

図版10



第6号竖穴建物跡遺物出土状況



第9～17号竖穴建物跡、第20～22号土坑、第16～19号溝跡



第8号掘立柱建物跡（左がP1、右がP2）（北から）



第8号掘立柱建物跡柱穴（P1）、第14号溝跡土層断面



第7～11・16・17号竪穴建物跡、第13・14号溝跡（右から下が第13号溝跡〔区画溝〕）



第22号土坑（礫検出状況）（西から）

图版12



第2号竖穴建物跡 第8图1



第2号竖穴建物跡 第8图2



第3号竖穴建物跡 第12图1



第3号竖穴建物跡 第12图6



第5号竖穴建物跡 第12图1



第1号掘立柱建物跡 第15图1



第1号土坑 第18图5



第1号土坑 第18图4



第1号土坑 第18图7



第1号土坑 第18图6



第1号土坑 第18图11



第1号土坑 第18图13



第1号土坑 第18图17



第1号土坑 第18图18



第1号土坑 第18图20



第2号土坑 第24图9



第9号土坑 第24图1

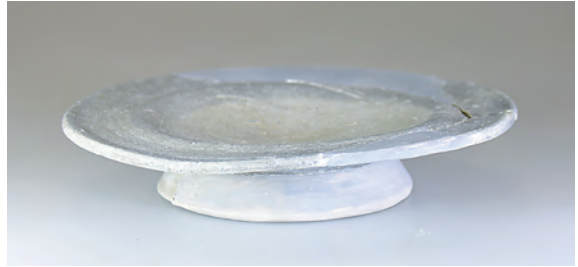


第2号土坑 第24图17

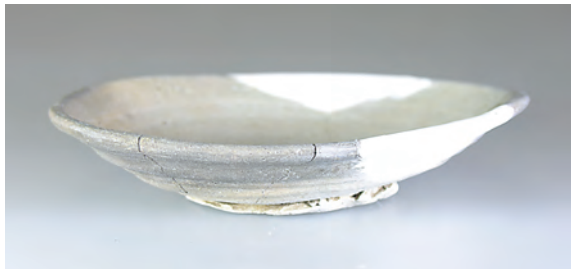
图版14



第10号土坑 第24图1



第2号沟迹 第28图6



第3号沟迹 第28图12



第3号沟迹 第28图13



第3号沟迹 第28图14



第3号沟迹 第28图16



第3号沟迹 第28图17



第3号沟迹 第28图19



第3号沟迹 第28图22



第3号沟迹 第28图23



第3号沟迹 第29图26



第3号沟迹 第29图28



第3号沟迹 第29图31



第10号沟迹 第29图1



A区遗构外 第30图21



A区遗构外 第30图23



A区遗构外 第30图24



A区遗构外 第30图25



A区遗构外 第30图35



A区遗构外 第30图42



A区遗构外 第32图64



A区遗构外 第31图49

图版16



A区遺構外 第32図66



A区遺構外 第32図68



A区遺構外 第32図69



A区遺構外 第32図72



A区遺構外 第32図79



A区遺構外 第32図80



A区遺構外 第32図81



A区遺構外 第32図82



A区遺構外 第32図85



A区遺構外 第32図86



A区遺構外 第32図91



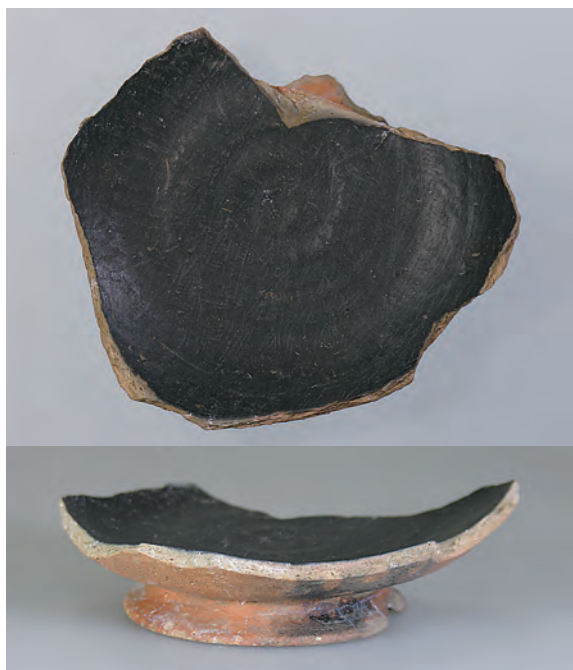
A区遺構外 第32図92



A区遺構外 第32図93



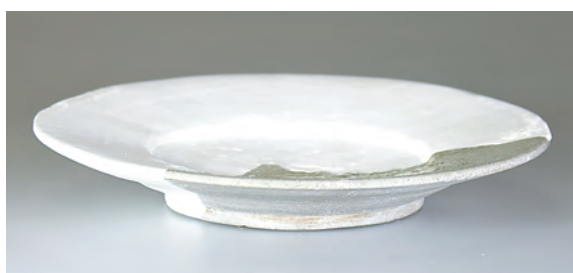
A区遺構外 第32図94



A区遺構外 第33図102



A区遺構外 第33図103



A区遺構外 第33図106



A区遺構外 第33図109



A区遺構外 第33図115



第6号豎穴建物跡 第37図2

图版18



第6号竖穴建物跡 第37图4



第6号竖穴建物跡 第37图5



第6号竖穴建物跡 第37图12



第6号竖穴建物跡 第37图13



第6号竖穴建物跡 第37图14



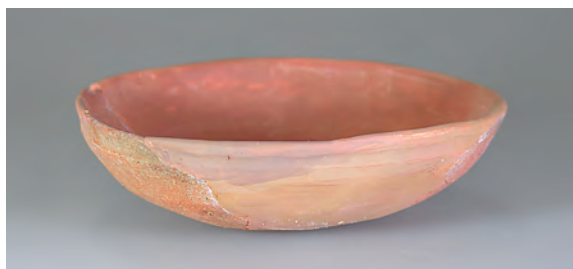
第6号竖穴建物跡 第37图15



第 6 号竖穴建物跡 第37图11



第 6 号竖穴建物跡 第37图16



第 6 号竖穴建物跡 第37图17



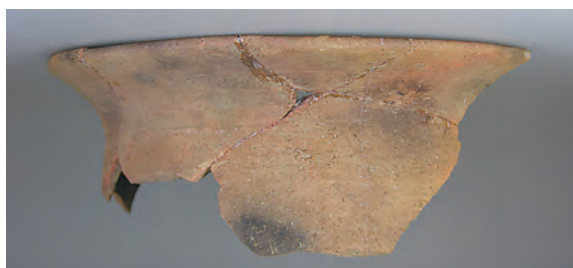
第 6 号竖穴建物跡 第37图19



第 6 号竖穴建物跡 第37图30



第 6 号竖穴建物跡 第37图31



第 6 号竖穴建物跡 第37图32



第 6 号竖穴建物跡 第38图35

图版20



第9号竖穴建物跡 第43图3



第9号竖穴建物跡 第43图4



第9号竖穴建物跡 第43图8



第9号竖穴建物跡 第43图17



第9号竖穴建物跡 第43图25



第10号竖穴建物跡 第44图7



第10号竖穴建物跡 第44图13



第10号竖穴建物跡 第44图14



第10号竖穴建物跡 第44图16



第21号土坑 第50图1



第10号竖穴建物跡 第44图20



第10号竖穴建物跡 第44图21



第12号竖穴建物跡 第46图3



第15号竖穴建物跡 第46图1



第15号竖穴建物跡 第46图2



第15号竖穴建物跡 第46图5



第16号竖穴建物跡 第46图1



第22号土坑 第50图6



第13号沟跡 第54图9



B区遺構外 第55图1



B区遺構外 第55図25



B区遺構外 第56図40



第1号竖穴建物跡 第8図1



A区遺構外 第30図39



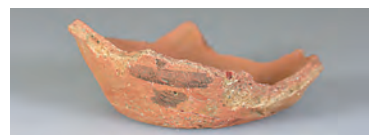
第3号溝跡 第28図6



A区遺構外 第30図44



A区遺構外 第32図75



A区遺構外 第30図3

第1号掘立柱建物跡 第15図2

第2号土坑 第24図3・14・15

第1号溝跡 第28図1

第3号溝跡 第28図1・2・7・10・11

A区遺構外 第30図5~17・19・24・43
第32図76



第1号土坑 第18图22·23 第19图26 第20图29·31



第1号土坑 第19图25



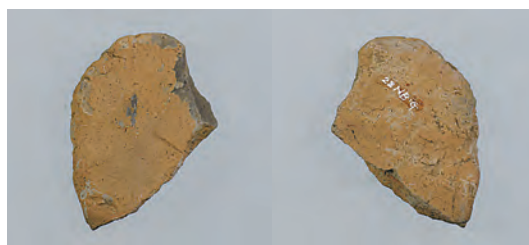
第1号土坑 第20图27·28·30



A区遺構外 第31图50·52·53



A区遺構外 第33图107·108·111~114



B区遺構外 第57图57

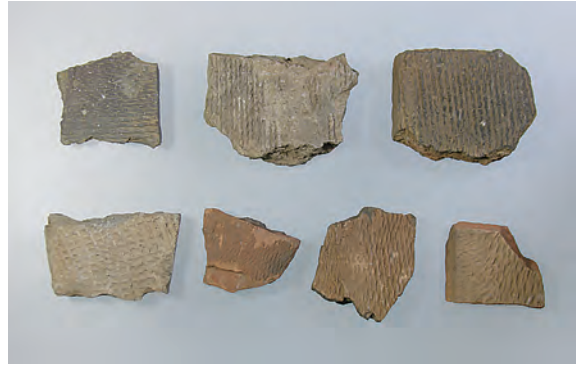


第3号掘立柱建物跡 第15图1、第10号竖穴建物跡 第45图27~41
第11号竖穴建物跡 第46图10、第13号溝跡 第54图14·15、B区遺構外 第57图53~56



A区遺構外 第33图116

図版24



第2号溝跡 第28図8、第4号溝跡 第29図1、A区遺構外 第33図121 第34図122~125
(左：凹面 右：凸面)



第10号竪穴建物跡 第44図26、第1号ピット 第51図2、第13号溝跡 第54図13、B区遺構外 第56図49~51
(左：凹面 右：凸面)



A区遺構外 第33図119



A区遺構外 第33図120



第2号竪穴建物跡 第8図3
第4号竪穴建物跡 第12図10
第3号溝跡 第29図35
第4号溝跡 第29図6・7
第9号竪穴建物跡 第43図34
第13号溝跡 第54図16~18
B区遺構外 第57図58

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしべっふいせき いち にしべっふはいじ さん							
書 名	西別府遺跡Ⅰ 西別府廃寺Ⅲ							
副 書 名	西別府遺跡群確認調査報告書Ⅱ							
シリーズ名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編集者名	吉野 健							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地 熊谷市立江南文化財センター TEL 048-536-5062							
発行年月日	西暦2012（平成24）年 3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°′″)	東緯 (°′″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしべっふいせき 西別府遺跡 (第1～4次)	くまがやしにしべっふあぎにしかた 熊谷市西別府字西方 ばんち 1578番地1	11202	59-110	36° 11′ 17″	139° 19′ 58″	20041206～ 20041222	300 (第1次)	保存目的 の範囲内 容確認調 査
						20090209～ 20090306	450 (第2次)	
にしべっふはいじ 西別府廃寺 (第3・4次)	くまがやしにしべっふあぎにしかた 熊谷市西別府字西方 ばんち 1578番地4	11202	59-002	17″ ～20″	58″ ～59″	20090527～ 20090630	540 (第3次)	
						20100609～ 20100713	255 (第4次)	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西別府遺跡 西別府廃寺 (第1～3次)	官衙跡 集落跡	奈良時代 平安時代	竪穴建物跡	1	土師器 須恵器	二重区画溝に囲まれた 方形区画が確認され、 区画内には少なくとも 3時期わたり建替えを した大小掘立柱建物跡 が確認された。		
			竪穴建物跡	4	土師器 須恵器			
西別府遺跡 西別府廃寺 (第4次)	寺院跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	掘立柱建物跡	7	須恵系土師質土	古墳後期の集落域から、 奈良時代には鍛冶関連 建物を伴う区画が形成 され、平安時代後期に は再び集落域へと変遷 がたどれた。		
			掘立柱列	1	器 ロクロ土師			
			土塁跡	1	器 黒色土器			
			土坑	18	灰釉陶器 緑釉			
			溝跡	11	陶器 瓦 土錘			
					羽口 鉄釘			
			竪穴建物跡	4	土師器 須恵器			
			竪穴建物跡	1	土師器 須恵器			
			竪穴建物跡	7	土師器 須恵器			
			溝跡	8	須恵系土師質土			
			土坑	4	器 ロクロ土師			
					器 黒色土器			
					灰釉陶器 瓦			
					土錘 羽口			

本報告書は、編集を担当課で行い、印刷は外注により300部作成し、
1部当たりの単価は1,858円です。

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第13集

西別府遺跡Ⅰ
西別府廃寺Ⅲ

—西別府遺跡群確認調査報告書Ⅱ—

平成24年3月30日 発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／巧和工芸印刷株式会社